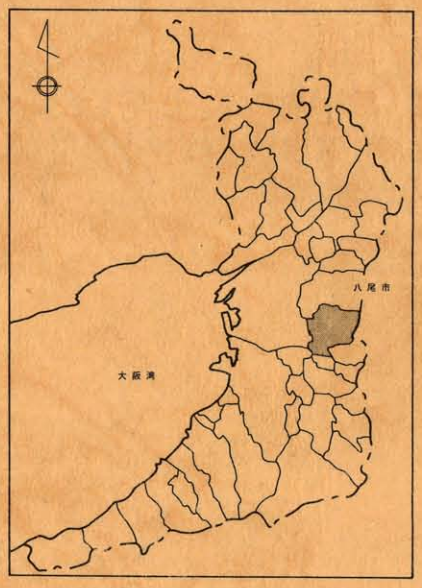
(財)八尾市文化財調査研究会報告23

八尾市埋蔵文化財発掘調査報告

Ⅰ 水越(みずこし)遺跡(第1次調査)
Ⅱ 竹渕(たこち)遺跡(第1次調査)
Ⅲ 恩智(おんぢ)遺跡(第1次調査)



1989年

(財)八尾市文化財調査研究会

財団法人八尾市文化財調査研究会

正　誤　表

報告 23

頁	誤	正
水越遺跡		
例言ー7行目	４５０㎡	４９１㎡
Ｐ４ー10～12行目	褐灰茶色シルト粘土（５～10cm） 茶褐色砂色混粘土（20～30cm） 淡灰茶色粘質シルト（20～40cm）	褐灰茶色シルト粘土（５～10cm） 茶褐色砂色混粘土（20～30cm） 淡灰茶色粘質シルト（20～40cm）
Ｐ５・６ー第４図	ＳＤ１	ＳＤ２
Ｐ５・６ー第４図	ＳＤ２	ＳＤ１
Ｐ11ー５行目	「第３節　検出遺構・出土遺物」	「第２節　検出遺構・出土遺物」
竹渕遺跡		
Ｐ19ー26行目	小穴５個（ＳＰ１～ＳＰ５）	小穴５個（ＳＰ11～ＳＰ15）
Ｐ22ー10行目	１cm程度厚さ	１cm程度の厚さ
Ｐ25ー13行目	II形式	II型式
恩智遺跡		
Ｐ58ー13行目	「第４節　出土遺物観察表」	「第３節　出土遺物観察表」
Ｐ59ー７行目	（第４図）。	（第５図）。
Ｐ59ー10行目	（第５図）。	（第６～８図）。
Ｐ64図面		第10図　ＳＤ１出土遺物実測図２
Ｐ64ー８行目	（第８～10図）。	（第８～12図）。
Ｐ67ー８行目	以下のようになる。	以下のようになる（第13～29図）。
Ｐ86ー１行目	第４節　出土遺物観察表	第３節　出土遺物観察表

八尾市埋蔵文化財発掘調査報告

Ⅰ 水越(みずこし)遺跡(第1次調査)
Ⅱ 竹渕(たこち)遺跡(第1次調査)
Ⅲ 恩智(おんぢ)遺跡(第1次調査)

1989年

(財)八尾市文化財調査研究会

はしがき

八尾市は、河内平野の中央部からやや南寄りに位置し、東に生駒山山地の景観をみる温暖で肥沃な土壌を有する地域であり、早くから人々が生活の場として住みはじめたところです。それらの先人が残した大切な遺構・遺物が多く存在しております。

今回の報告は、昭和57年度に実施しました水越遺跡（第１次調査）・竹渕遺跡（第１次調査）、昭和60年度に実施しました恩智遺跡（第１次調査）の調査が完了し、その成果は本市の政治、文化の歴史を研究する上で重要な資料になるものと確信して報告書をまとめました。この報告書が、学問の発展と文化財保護への啓発に広く活用されることを願うものであります。

ここに改めて、事業者をはじめとし関係各位の文化財保護の立場から充分ご理解賜わり、ご協力いただきましたことを、ここに深甚なる感謝を申し上げます。

今後、この書が広く文化財保護にご活用いただければ、この上もない幸せに存じます。

今後共、当調査研究会に対して尚一層のご指導とご協力を付してお願い申し上げます。

平成元年９月

財団法人八尾市文化財調査研究会
理事長　福　島　　孝

序

1、本書は財団法人八尾市文化財調査研究会が昭和57年度・昭和60年度に実施した発掘調査成果の報告を集録したもので、内業整理及び本書作成業務は各現地調査終了後に着手し、平成元年度をもって終了した。

1、本書に集録した報告は、下記の目次のとうりである。

1、本書の構成・編集は高萩千秋が行い、文責等は各例言に明示した。

1、本書掲載の地図は、大阪府八尾市役所発行の 2,500分の1（昭和57年11月1日発行）・八尾市教育委員会発行の『八尾市埋蔵文化財分布図』（昭和63年4月1日改訂）をもとに作成した。

1、本書で用いた高さの基準は東京湾の平均海水面である。

1、本書で用いた方位は、磁北を示している。

1、遺構は下記の略号で表わした。

竪穴式住居――ＳＩ　溝――ＳＤ　井戸――ＳＥ　土坑――ＳＫ

小穴――ＳＰ　自然河川――河川

1、実測図の縮尺は、遺構が20分の1・40分の1・50分の1・100 分の1を基調とし、遺物は大きいものは6分の1、小さいものは2分の1、他は4分の1に統一した。

1、遺物実測図は、断面の表示によって次のように分類した。

弥生式土器・土師器・瓦器・瓦・埴輪・石類―白、須恵器―黒、木製品―斜線。

1、各調査に際しては、写真・実測図の他にカラースライドも多数作成している。市民の方々が、広く利用されることを希望する。

目　　次

八尾市埋蔵文化財分布図

はしがき

序

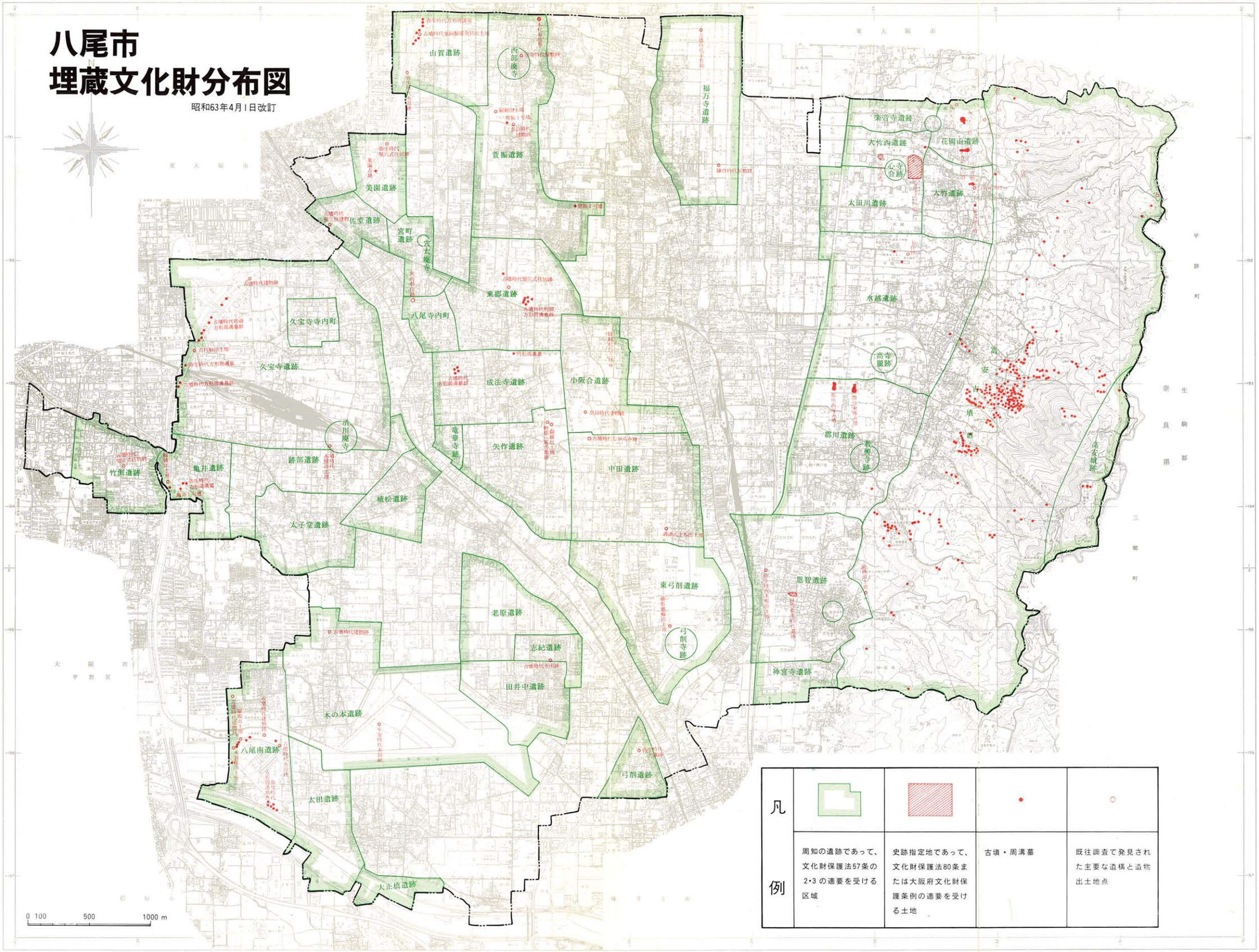
Ⅰ　水越遺跡（第1次調査）……1

Ⅱ　竹渕遺跡（第1次調査）……13

Ⅲ　恩智遺跡（第1次調査）……53

八尾市
埋蔵文化財分布図

昭和63年4月1日改訂



凡例				
	周知の遺跡であって、文化財保護法57条の2・3の適要を受ける区域	史跡指定地であって、文化財保護法80条または大阪府文化財保護条例の適要を受ける土地	古墳・周溝墓	既往調査で発見された主要な遺構と遺物出土地点

Ⅰ　水越（みずこし）遺跡（第１次調査）

例　　言

1、本書は、八尾市水越 181番地内で実施した市立高安中学校の校舎増築の建設に伴う発掘調査の報告である。

1、本書に報告する水越遺跡（第１次調査）の発掘調査業務は、財団法人八尾市文化財調査研究会が八尾市施設課から委託を受けて実施したものである。

1、現地調査は昭和57年７月16日～８月24日にかけて、高萩千秋を担当として実施した。調査面積は 450㎡を測る。なお、調査においては北尾耕三・山西嘉彦・西辻正信・徳谷貞正・中野健太郎が参加した。

1、内業整理は、現地調査終了後実施し平成元年に完了した。

1、本書に関わる業務は、遺物実測―中野・徳谷・池田まゆみ、図面レイアウト―乾（旧姓木曾）直美・村田英子、図面トレース―岩本多貴子、遺物写真撮影―高萩が行った。

1、本書の執筆は主に高萩が担当したが、「第４章　出土遺物観察表」については村田が担当した。また、胎土分析には八尾市立刑部小学校教諭　奥田尚氏の御協力をいただいた。

1、全体の編集は高萩が行った。

本　文　目　次

第１章　はじめに……1

第１節　調査に至る経過と目的……1

第２節　遺跡の地理・歴史的環境……2

第３節　調査の方法……3

第２章　調査の結果……4

第１節　基本層序……4

第２節　検出遺構・出土遺物……4

1)　弥生時代前期……7

2)　古墳時代前期……8

3)　近世……9

4)　遺構に伴わない出土遺物……9

第３節　出土遺物観察表……9

第４章　まとめ……11

挿　図　目　次

第１図　調査地位置図……1
第２図　調査区配置図及び区割図……3
第３図　基本層序柱状図（Ｓ＝1/40）……4
第４図　遺構平面図……5・6
第５図　ＳＤ２出土遺物実測図……7
第６図　ＳＫ１平断面図……8
第７図　ＳＫ１出土遺物実測図……8
第８図　遺構に伴わない出土遺物実測図……9

図　版　目　次

図版　一　　１　調査区全景（西から）
　　２　ＳＤ１（東から）
図版　二　　１　ＳＤ２（東から）
　　２　ＳＫ１（南から）
図版　三　　出土遺物　　ＳＤ２
図版　四　　出土遺物　　ＳＤ２　7
　　ＳＫ１　8・9・12・13

表　目　次

第１表　ＳＫ１の土器胎土分析観察表……11

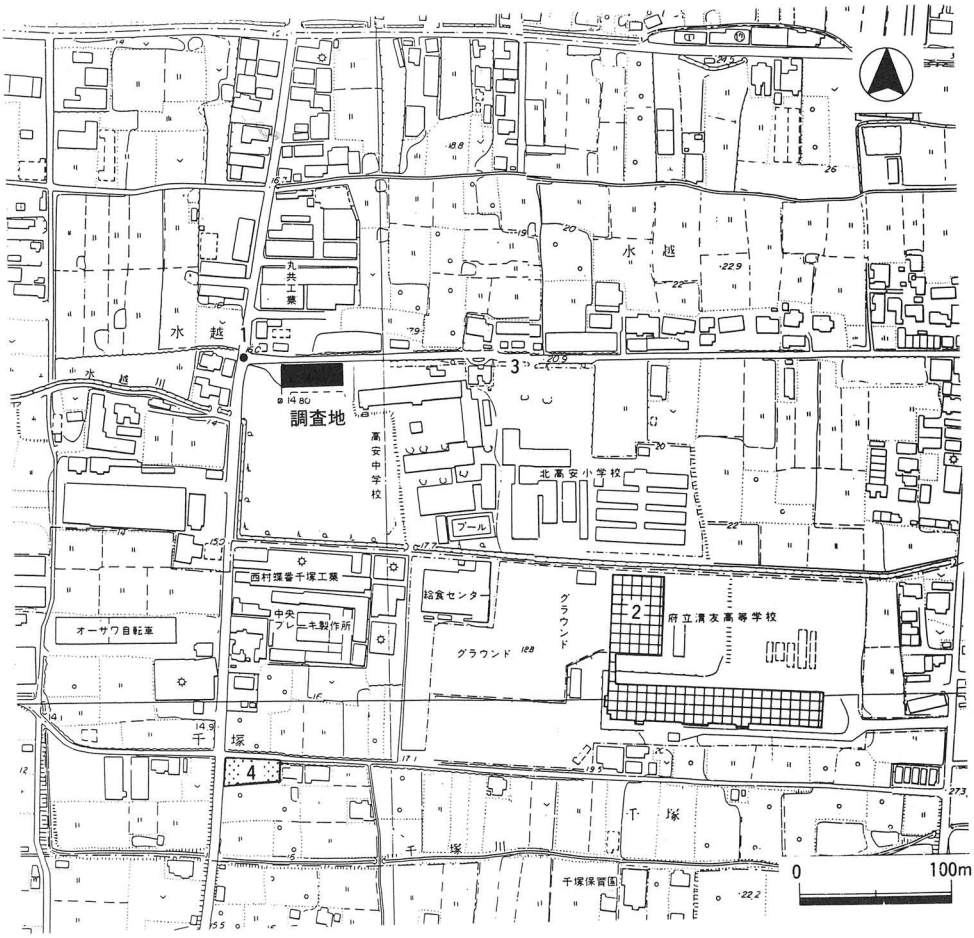
第１章　はじめに

第１節　調査に至る経過

水越遺跡は、大阪府八尾市の北東部の水越・千塚一帯に所在し、生駒山地の西麓に形成された扇状地の先端部（標高15～20ｍ）に位置する縄文時代から中世に至る複合遺跡である。

当調査地は、南北に通る旧東高野街道から東に入る式内社の玉祖神社への参道『松の馬場』の接点である鳥居の南部にあたり、八尾市水越181 番地内に所在する市立高安中学校内の校舎建設に伴う発掘調査で、当調査研究会が当遺跡内で実施した初めての調査（第１次調査）である（第１図）。

当遺跡の発見の契機は、大正９年に清原得巌氏がふとしたことで石鏃を採集したことがきっかけである。その後も昭和５年９月に当遺跡内で地元の子供によって採集されたという勾玉研



第１図　調査地位置図

磨用の筋砥石。さらにその後、当遺跡の南部にあたる千塚地区を中心に各種の石器類をはじめ、滑石製小玉及び同質製管玉の未製品等が採集された。これらを清原氏が所蔵していることが確認された。また昭和９年２月に当遺跡西方を南北に通る東高野街道の改修工事が行われたが、この時、現在の市立高安中学校の西側の字一里外にあたる地点で掘削された際、その現地表下約0.6 mを測る土層（黒褐色土）内から弥生時代後期に比定される土器（壺３個体分）が発見された(1)。本格的な調査は、昭和53年度に八尾市千塚内に於いて府立清友高等学校新築建設工事に伴う発掘調査が当遺跡内で初めて実施された(2)。その結果、弥生時代中期から鎌倉時代に至る遺構・遺物が検出され、当遺跡に遺構の存在が確認された。その後、新たな発掘調査も実施されなかったが、昭和57年３月、八尾市教育委員会が八尾市千塚 349－１他に所在する八尾市消防署北東部主張所新築工事に伴う発掘調査を実施し、弥生時代前期から古墳時代前期の遺物が出土された(4)。

当調査地は、昭和57年度八尾市施設課の計画事業として市立高安中学校校舎増設の計画が成された。八尾市教育委員会は予定地が水越遺跡推定範囲内であり、また東高野街道の改修工事で弥生時代後期の遺物包含層が確認された地点に隣接していることから事前発掘調査が必要であると判断した。八尾市教育委員会は財団法人八尾市文化財調査研究会に発掘調査の指示書を送付した。当調査研究会はこの旨を受け、八尾市施設課と八尾市教育委員会と当調査研究会の三者間で協議を行った。その結果、発掘調査による記録保存を実施することとなった。現地調査は昭和57年７月16日～８月24日までの期間である。調査面積は約 491㎡を測る。

出土遺物等の整理作業及び報文作成業務は、当調査研究会分室にて実施した。

第２節　遺跡の地理と歴史的環境

当遺跡の地形は、生駒山西麓から西に広がる標高15～20ｍを測る扇状地の末端部にあたり、北を上代川、南を千塚川の両谷川に挟まれ、小高い丘状の丘陵地が東西に幾筋か見られる。西側には旧大和川の沖積作用によって形成された低平地（狭義でいう河内平野）が広がっている。

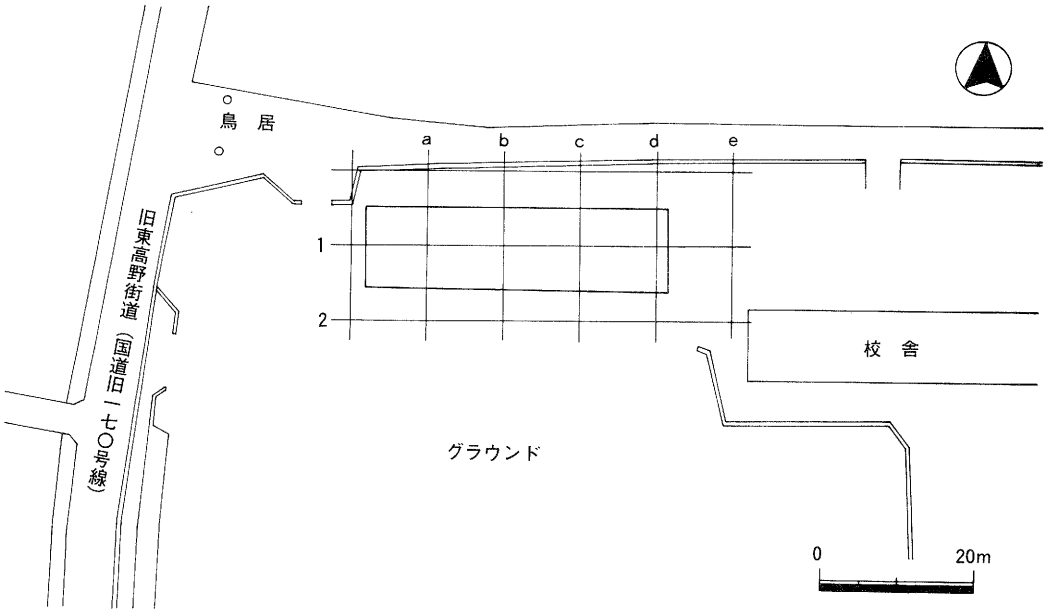
当遺跡と同一扇状地には、南に恩智遺跡・太田川遺跡・郡川遺跡、北に大竹遺跡・楽音寺遺跡・花崗山遺跡・六万寺遺跡等の縄文時代（一部で旧石器を出土しているが不明）から始まる遺跡が連接している。また、古墳時代に築造された墳墓が現在でも多数残存し、その景観が今尚見られる。例えば、前期は西の山古墳・向山古墳・花崗山古墳、中期には心合寺山古墳・鏡塚古墳・中谷山古墳、後期では郡川西塚古墳・郡川東塚古墳、さらに終末期に入ると群集墳で知られる高安古墳群・大県古墳群・平尾山古墳群などが存在する。

歴史時代には、当遺跡が河内国高安郡に属し、周辺では寺院・式内社の神社等が多数建てられている。寺院をあげると、心合寺跡・高麗寺跡。式内社の神社には当遺跡東部の山腹に玉作神社が鎮座している。

第３節　調査の方法

調査地は、東高野街道から東へ入り鳥居を潜って式内社玉祖神社へ行く参道である「松の馬場」の接点の南部に位置する市立高安中学校内の校庭と自転車置場に増築するものである。調査は計画予定地で掘削される部分に40×11ｍの調査区を設定した。掘削については八尾市教育委員会が試掘調査を行っていない為、機械掘削を実施する時点で土層の状況を摑むために調査区の北東部に試掘トレンチ（１×３ｍ）を実施した。その結果、現地表下約 0.8ｍに存在する土層の上面で削平された扇状地の地肌面を検出した。このため、機械掘削はこの地肌面のやや上まで行い、これより以下の土層については手掘りによる掘削・精査を実施した。

調査区の区割は、調査区の西部の中央に任意の点を設定し、この点から磁北に向けて南北線を設けた。そして調査区の東西70ｍ、南北20ｍの範囲に10ｍ方角で区画した。東西線は北から数字（１～３）、南北線は西からアルファベット（ａ～ｄ）を付称し、北西部から１ａ～３ｄ区と付した（第２図）。



第２図　調査区配置図及び区割図

第２章　調査の結果

第１節　基本層序

当調査区で、現地表面から約 1.7ｍまでの間に存在する土層内から普遍的にみられる７層を摘出して基本層序とした。現地表面は標高15ｍを測る（第３図）。

第１層：盛土（60～80㎝）当中学校の建設の際に整地された土層である。

第２層：暗茶灰色砂混粘土（10～20㎝）この土層は後世によって削平されており、東側にはなく、西側に薄く堆積する。標高は15.6ｍを測る。

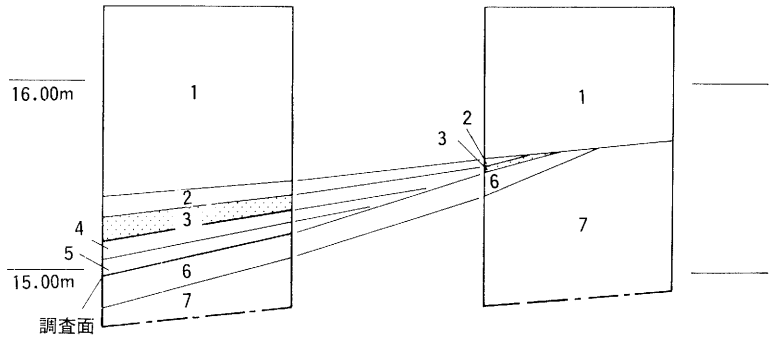
第３層：褐灰色シルト粘土（５～20㎝）この土層は古墳時代前期の遺物包含層と考えられる。東部は後世によって削平されている。

第４層：褐灰茶色シルト粘土（５～10㎝）　調査区は扇状地の先端部に位置し、西側に傾斜

第５層：茶褐色砂混粘土（20～30㎝）　している。この土層は調査地の中央部からの堆

第６層：淡灰茶色粘質シルト（20～40㎝）　積で、西へ行くに従い深く堆積している。

第７層：灰色礫砂混シルト粘土（30㎝以上）礫は径３～15㎝を測り、拳ぐらいの小石が最も多く混入している。この土層は生駒山西麓の扇状地の地肌面であると考えられる。

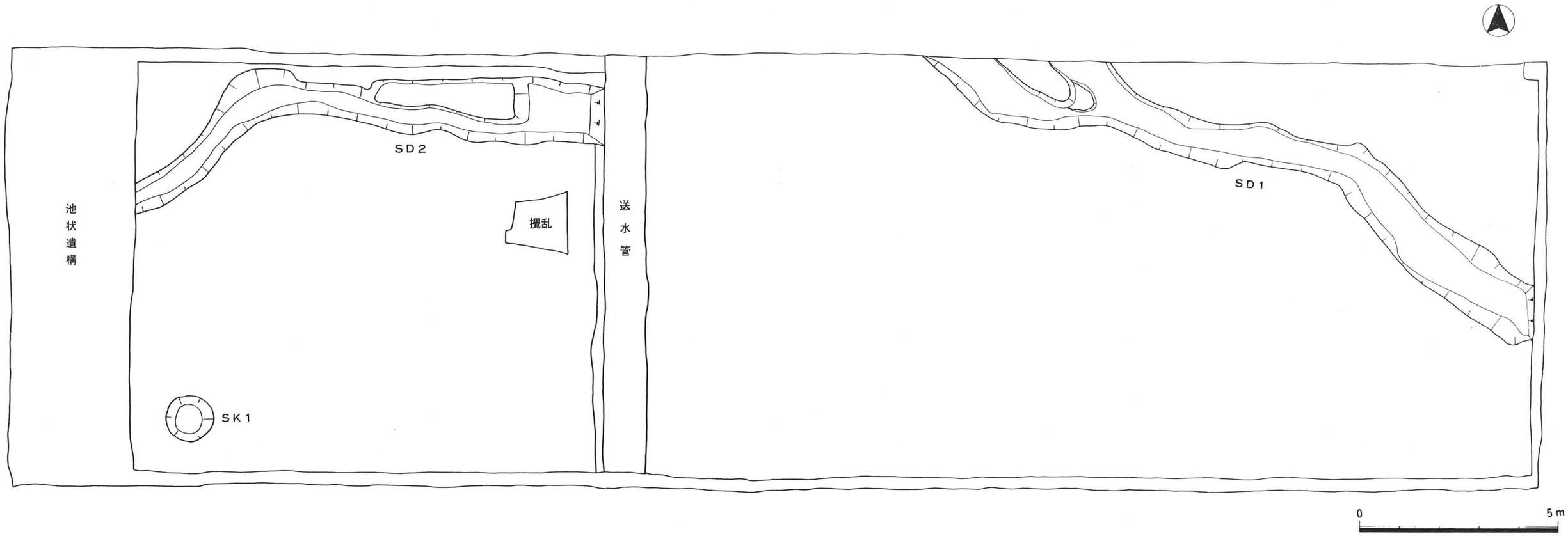


第３図　基本層序柱状図（S＝1/40）

第２節　検出遺構・出土遺物

第４層上面を調査対象面とした。しかし、調査区東側では削平されており、第５層～第７層上面で検出している。調査の結果、古墳時代前期に比定される土坑１基と、これより約20㎝下の第５層上面と約40㎝下の第６層上面で弥生時代前期の遺物を含む溝２条を検出した。また、調査区東部では第２層上面から切込まれている近世以降の池状遺構を検出した（第４図）。

以下、これらの検出した各遺構について概説する。なお、詳細な出土遺物については「第３節　出土遺物観察表」を参照されたい。



第４図　遺構平面図

1)　弥生時代前期

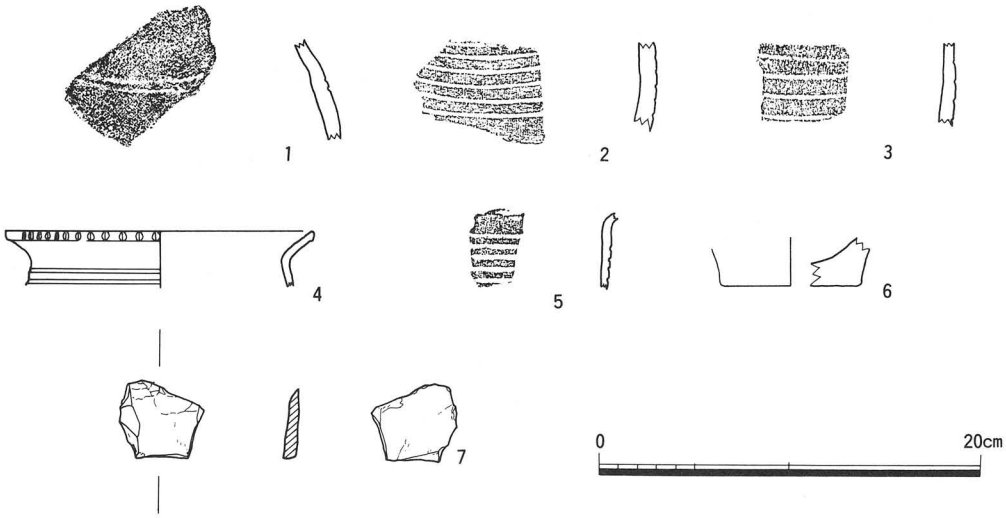
溝（ＳＤ）

ＳＤ１

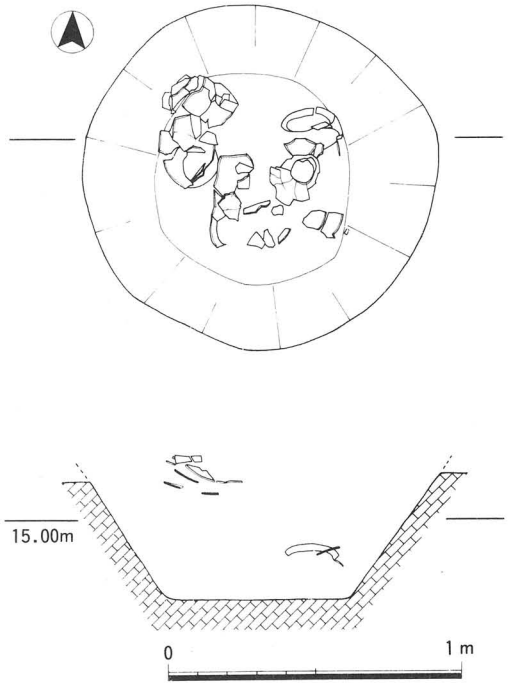
調査区の北西部で検出した溝で、西への流れと北への流れの２つに分流している。西への流れがある東側では途中で屈曲して南西方向へ流れ、近世以降の池状遺構に削平されている。規模は検出部で、西への流れがあるものが幅 0.8～1.6 m、深さ30㎝、北への流れがあるものが幅 1.6m、深さ30㎝を測る。断面は浅い半円形を呈し、内部には淡灰褐色細砂混粘土が堆積している。遺物は出土していないが、ＳＤ２より下層で検出していることから、これより以前の時期にできた自然小河川であろう。

ＳＤ２

調査区北東部で検出した溝で、緩やかなカーブを描きながら南東から北西への流れがみられる。北西部では北壁付近で２つに分流し、調査区外に至る。規模は検出部で、幅 0.8～1.2 m、深さ20～40㎝を測る。断面は浅い逆台形を呈し、内部には褐灰色細砂・灰色粗砂・褐灰色砂粘土・黄灰褐色微砂・茶灰色砂混粘土・黄灰褐色細砂が堆積している。北西（下流）部では拳大ぐらいの礫が多く含まれている。遺物は、堆積土内の上層から弥生時代前期（畿内第Ⅰ様式新段階）に比定される壺（１～３）・甕（４～６）の小片がごく少量出土している。その他にはサヌカイトの剝片（７）が１点出土した（第５図）。



第５図　SD2出土遺物実測図



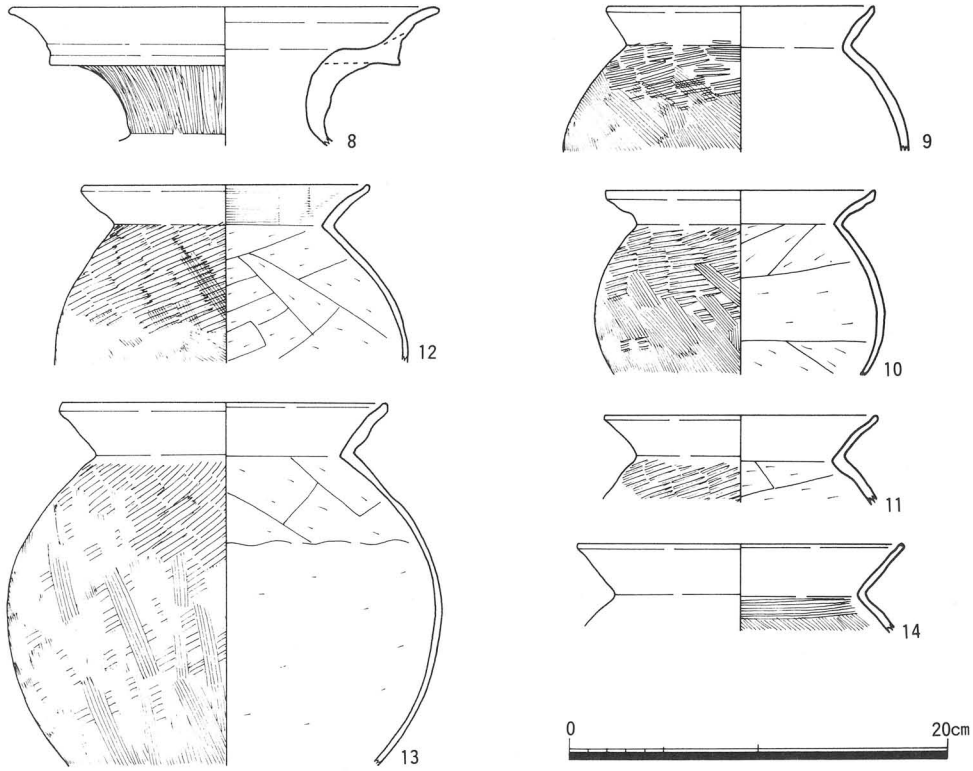
第６図　SK1平断面図

2)　古墳時代前期

土坑（ＳＫ）

ＳＫ１

調査区の南西部（２ａ区）で検出した。平面はほぼ円形を呈し、径1.2 m、深さ40 cmを測るが、上面は後世によって削平されている。断面は逆台形を呈し、内部には、上方から暗灰褐色砂混粘土・暗灰青色粘土の２層が堆積している（第６図）。遺物は、土器の破片でほとんどが上層に集積していた。時期は古墳時代前期（庄内式新相）に比定されるもので、出土量はコンテナ箱にして１箱分を数える。器種には二重口縁壺（８）・庄内式甕（８～14）がある（第７図）。



第７図　SK1出土遺物実測図

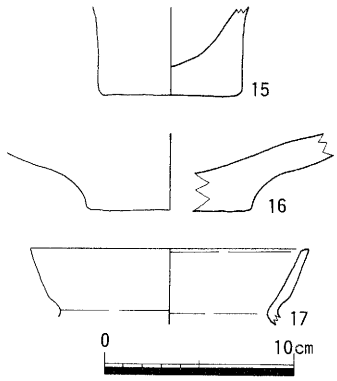
3)　近世

池状遺構

調査区の西部で検出した。西部及び南北部は調査区外に至り、平面の形状は不明である。規模は検出部で、東西３ｍ、南北11ｍを測る。底面は西部へ行くに従い深くなり、最深で約１ｍを測る。縁沿いには人頭大の石積みや杭列（径５～10㎝）が一部分残っており、これらは堤として築かれたものと考えられる。内部には、基本層序の第２層～第４層の土層が互層に堆積している。これは斜面を平坦にする為に高い部分を削平した土層で埋立てたものと考えられる。遺物は、内部から弥生時代前期・古墳時代前期に比定される土器片が出土している。

4)　遺構に伴わない遺物

第２層～第５層内で遺物が包含していた。時期は弥生時代前期から古墳時代前期に至る土器の小片で、出土量はコンテナ箱にして約半箱分程度である。図示できたものは３点である。器種には弥生時代前期（畿内第Ⅰ様式）に比定される底部片（15・16）と、古墳時代前期（布留式古相）に比定される甕（17）がある（第８図）。



第８図　遺物包含層出土遺物実測図

第３節　出土遺物観察表

ＳＤ１

遺物番号 図版番号	器種	法量（㎝） 口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
1 三	壺 （弥生式土器）		体部のみの破片で、外面には２条の沈線がみられる。 外面ヨコナデ、内面は摩耗の為調整不明。	外　暗茶色 色 内　暗灰茶 色	３㎜以下の角閃石・長石等の砂粒を少量含む。	やや不良	
2 三	同上		体部のみの破片で、外面には６条の沈線がみられる。 外面ヨコナデ、内面は摩耗の為調整不明。	淡茶灰色	石英・長石チャートを少量含む。	良好	
3 三	同上	底径　7.0	底部は突出する平底である。体部は欠損。 底部内外面ナデ。	暗茶灰色	５㎜以下の角閃石・長石等の砂粉を少量含む。	良好	
4 三	甕 （弥生式土器）	口径　16.2	上方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外に面をもつ。体部は欠損。頸部外面には２条の沈線がみられる。 口縁部内外面ヨコナデ、端部にヘラキザミ。	外　灰茶褐 色 内　淡灰褐 色	長石・チャート・母雲等の砂粒を少量含む。	良好	
5 三	同上		体部片のみ破片で、外面には５条の沈線がみられる。 内外面ヨコナデ。	暗茶色	角閃石・長石の細砂粒を少量含む。	良好	
6 三	同上		体部のみの破片で、外面には４条の沈線がみられる。 内外面ヨコナデ。	外　暗茶赤 色 内　暗茶色	角閃石・長石の細砂粒を少量含む。	良好	

ＳＫ１

遺物番号 図版番号	器　種	法量 (cm)	口径 器高	形態・調整等の特徴	色　調	胎　土	焼　成	備　考
8 四	壺 (土師器)	口　径	22.0	口縁部は上外方へ大きく外反して伸びた後屈曲し、上外方へ外反して伸びる。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部外面上位ヨコナデ、下位ヘラミガキ内面ヨコナデ。	淡茶色	石英・角閃石等の細砂粒を少量含む。	良好	
9 四	甕 (土師器)	口　径	14.0	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。体部の下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（５体）後ハケナデ、内面ナデ。	暗茶灰色	角閃石・長石・母雲等の細砂粒を少量含む。	良好	
10	同上	口　径	14.0	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、外上方へ伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。体部の下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（６本）後ハケナデ、内面ヘラ削り。	暗茶灰色	角閃石・長石・母雲等の細砂粒を少量含む。	良好	
11	同上	口　径	14.2	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は若干つまみ上げる。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（６本）、内面ヘラ削り。	暗茶灰色	角閃石・長石・母雲等の細砂粒を少量含む。	良好	
12 四	同上	口　径	15.0	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、外上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。体部の下位は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ、体部外面タタキ（６本）後ハケナデ、内面ヘラ削り。	暗茶灰色	角閃石・長石・母雲等の細砂粒を少量含む。	良好	
13 四	甕 (土師器)	口　径	17.0	球形と思われる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（５本）後ハケナデ、内面ヘラ削り。	暗茶灰色	角閃石・長石・母雲等細砂粒を少量含む。	良好	煤付着。
14	同上	口　径	17.0	体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は若干内方に肥厚する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内面ヘラ削り。	暗茶灰色	角閃石・長石・母雲等細砂粒を少量含む。	良好	

遺物に伴わない遺物

遺物番号 図版番号	器　種	法量 (cm)	口径 器高	形態・調整等の特徴	色　調	胎　土	焼　成	備　考
15	壺 (弥生式土器)	底部径	7.0	突出する平底。口縁部・体部は欠損。 内外面ナデ。	暗茶褐色	角閃石・長石・母雲等細砂粒を少量含む。	良好	
16	同上	底部径	8.5	突出気味の平底。口縁部・体部は欠損。 内外面ナデ。	暗茶褐色	角閃石・長石・母雲等細砂粒を少量含む。	良好	
17	甕 (土師器)	口　径	14.4	口縁部は上外方へ内湾して伸びる。端部は内方に肥厚し、内側に面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	淡茶灰色	細砂粒を少量含む。	良好	

第４章　まとめ

今回の調査地は生駒山西麓の扇状地の先端部に位置し、古くは東高野街道の交通ルートと式内社玉祖神社への参道で賑した所である鳥居のすぐ南側に位置する。

調査の結果、高安中学校建設工事の際の造成によって遺構面が削平を受けており、遺跡の詳細は不明である。しかし、一部で遺構が遺存していた。「第３節　検出遺構・検出遺物」で前述したように、弥生時代前期の自然河川２条と古墳時代前期の土坑１基である。弥生時代前期の自然河川は、一時的な氾濫によってできたものであると考えられる。しかし、自然河川の堆積土内から若干ではあるが、畿内第Ⅰ様式の土器片が少量包含しており、上流（東部）には弥生時代前期の遺構が存在することが想定できる。また、古墳時代前期の土坑内から出土した土器は、胎土分析の結果からほとんどのものは生駒山西麓産の庄内式期新相のものであったが、紀ノ川流域が製作地であると考えられる壺（８）１点が含まれており、当遺跡が他地域との交流があったことがうかがえよう。また、当該地の東側に近接する既往調査である清友高校の建設工事に伴う発掘調査では、弥生時代中期から江戸時代に至る遺構・遺物を検出しており、当調査区との有義的な相互関係が考えられる。

第1表　ＳＫ１の土器胎土分析観察表

類型	試料番号	岩石破片 花崗岩 裸眼	30倍	閃緑岩 裸眼	30倍	斑糖岩 裸眼	30倍	流紋岩 裸眼	30倍	チャート 裸眼	30倍	泥岩 裸眼	30倍	砂岩 裸眼	30倍	変輝緑岩 裸眼	30倍	結晶片岩 裸眼	30倍	ホルンフェルス 裸眼	30倍	火山ガラス 裸眼	30倍	鉱物破片 石英 裸眼	30倍	長石 裸眼	30倍	雲母 裸眼	30倍	角閃石 裸眼	30倍	実測図番号・器種	備考
Ⅰ	6									•L×								•L△	L×						•S△				SS×	M□E		8 壺	
Ⅱ	2																								S×	•L×	S□			•L◎	L◎	9 庄内甕	
	3																								•L○	•L○	•L□		S△	•L◎	•L◎	10 庄内甕	
	5																								•S△	•M○	•L△		S△	•L◎	•L◎	11 庄内甕	
Ⅲ	1																							•M△	S□	M△	S△	SS□	S△	•M◎	•M◎	12 庄内甕	
	4																							•L×	•S×	•L×	•S□	•L×	M×	•M○	•S◎	13 Ⅴ様式	
Ⅳ	7																								•L○	•M×	L×	•M△	M×		M×	14 甕	□縁部のみ

参考文献

○　財団法人　大阪文化財センター「高安の遺跡と遺物」『大阪文化誌』季刊第２巻・第２号・通巻第６号　1976．３

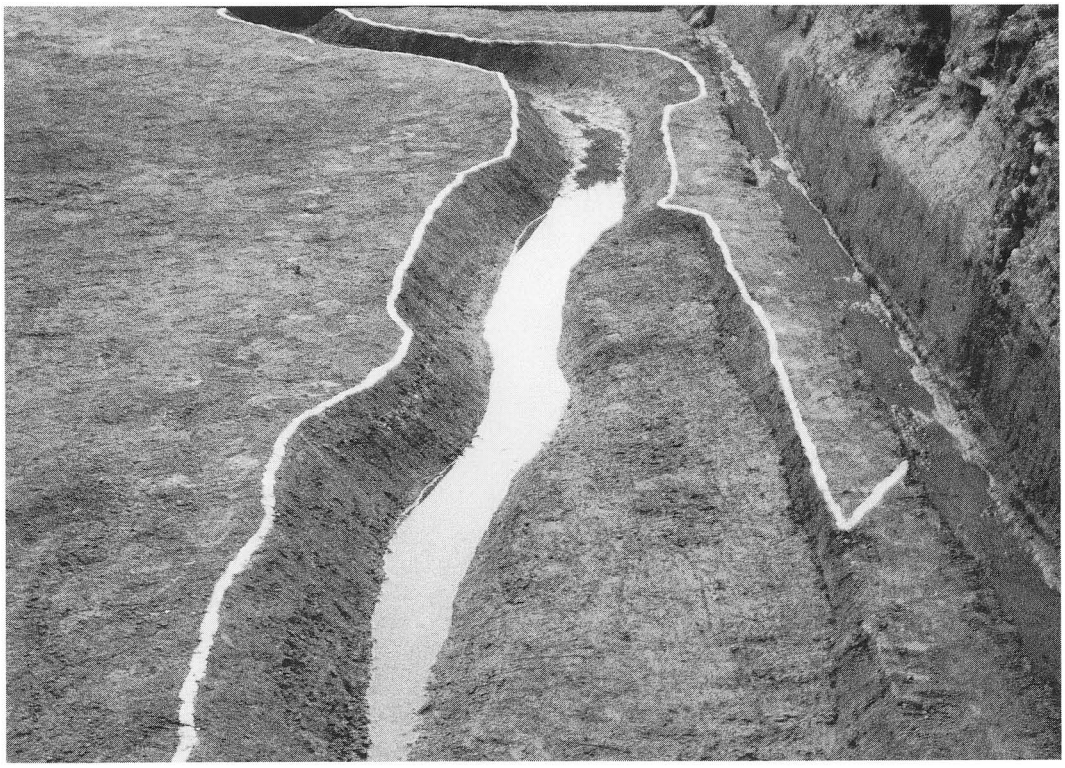
○　大阪府教育委員会「府立清友高等学校新築工事に伴う発掘調査の現地説明資料」昭和53年

○　（財）八尾市文化財調査研究会「水越遺跡発掘調査概要報告」『八尾市埋蔵文化財発掘調査概要昭和56・57年度』（財）八尾市文化財調査研究会報告３　1983年

○　八尾市役所「考古編」『八尾市史（前近代）本文編』増補版　昭和63年

図　　版

1．調査区全景（西から）



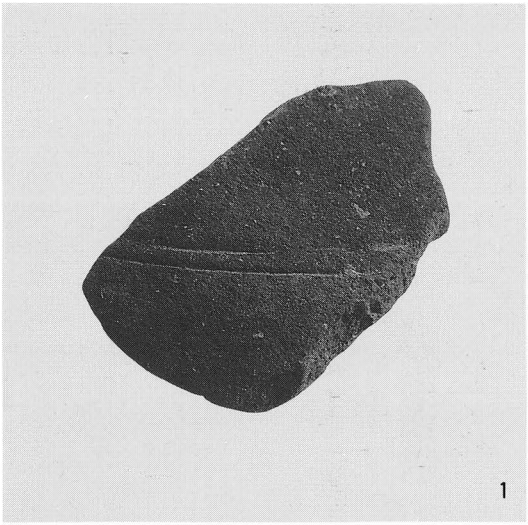
2．SDI（東から）

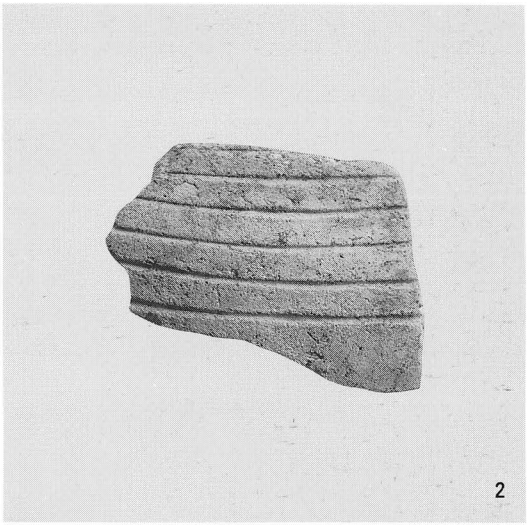
図版二

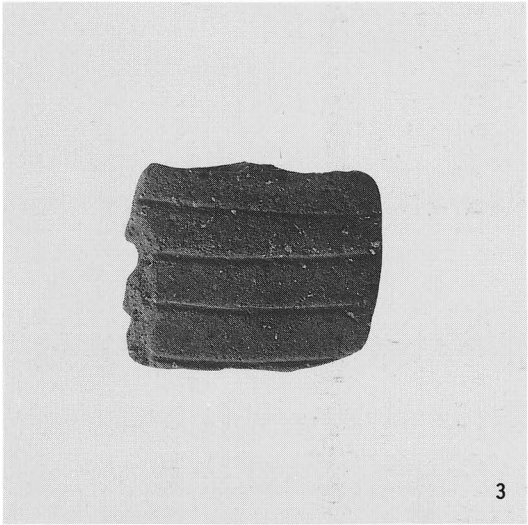
1．SD2（東から）

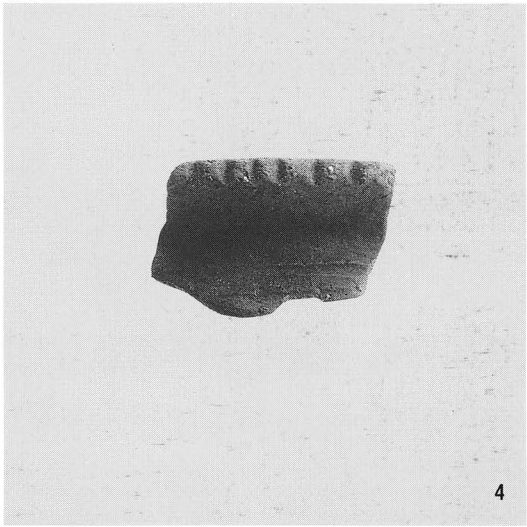
2．SK1（南から）

図版三　出土遺物


1


2

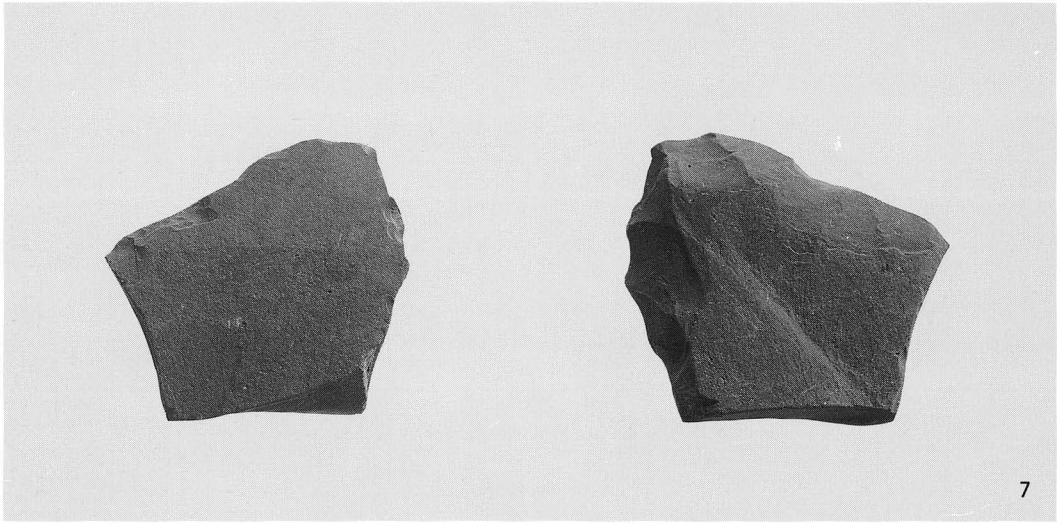

3

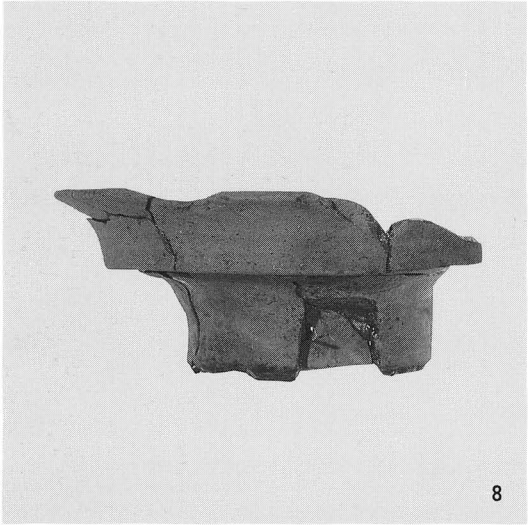

4

5

6

SD2





SD2　7
SK1　8・9・12・13

Ⅱ　竹渕（たこち）遺跡（第１次調査）

例　　言

1、本書は、八尾市竹渕115 番地他で実施した校舎立替え建設工事に伴う発掘調査の報告である。

1、本書に報告する竹渕遺跡（第１次調査）の発掘調査業務は、財団法人八尾市文化財調査研究会が八尾市施設課から委託を受けて実施したものである。

1、現地調査は昭和57年10月25日から昭和57年11月20日にかけて、高萩千秋を担当として実施した。調査面積は832.3 ㎡を測る。なお、調査においては駒沢敦・中野慶太・上村義浩・中野健太郎・津田孝二が参加した。

1、内業整理は、現地調査終了後実施し平成元年３月25日に完了した。

1、本書に関わる業務は、遺物実測―池田まゆみ・乾（旧姓木曾）直美・野田雅彦、図面レイアウト―岩本多貴子・徳谷久美子、遺物写真撮影―高萩が行った。

1、本書の執筆は主に高萩が担当したが、第４節出土遺物観察表については村田英子が担当した。

1、全体の編集は高萩が行った。

本　文　目　次

第１章　はじめに……13

第１節　調査に至る経過と目的……13

第２節　地理・歴史的環境……14

第２章　調査の概要……16

第１節　調査の方法……16

第２節　基本層序……16

第３節　検出遺構・出土遺物……19

1)　古墳時代後期……20

2)　遺構に伴わない出土遺物……34

第３節　出土遺物観察表……36

第３章　まとめ……52

挿　図　目　次

第１図　調査地周辺図……13
第２図　調査区設定図及び区割図……16
第３図　遺構平面図……17･18
第４図　基本層序柱状図（Ｓ＝1/40）……19
第５図　ＳＩ１平断面図……20
第６図　ＳＩ１出土遺物実測図……21
第７図　ＳＫ１平断面図……21
第８図　ＳＫ１出土遺物実測図……22
第９図　ＳＫ５平断面図……23
第10図　ＳＫ５出土遺物実測図……23
第11図　ＳＫ７平断面図……23
第12図　ＳＫ７・ＳＫ８出土遺物実測図……24
第13図　ＳＤ１平断面図……27
第14図　ＳＤ１出土遺物実測図１……28
第15図　ＳＤ１出土遺物実測図２……29
第16図　ＳＤ１出土遺物実測図３……30
第17図　ＳＤ１出土遺物実測図４……31
第18図　ＳＤ１出土遺物実測図５……32
第19図　ＳＤ２出土遺物実測図……33
第20図　遺構に伴わない出土遺物実測図……35

表　目　次

第１表　小穴（ＳＰ）一覧表……25

図　版　目　次

図版　一　1．調査区全景（南から）

　　2．ＳＩ１（南東から）

図版　二　1．ＳＫ１遺物検出状況（東から）

　　2．ＳＫ１完掘（東から）

図版　三　1．ＳＫ８遺物検出状況（南東から）

　　2．ＳＤ１遺物検出状況（南東から）

図版　四　1．ＳＤ１南部遺物検出状況（南から）

　　2．ＳＤ１中央よりやや南部遺物検出状況（東から）

図版　五　1．ＳＤ１中央部遺物検出状況（東から）

　　2．ＳＤ１中央部遺物検出状況（東から）

図版　六　1．ＳＤ１完掘（南東から）

　　2．ＳＤ２中央部遺物検出状況（東から）

図版　七　1．ＳＩ１　３・８

　　2．ＳＫ１　13～18

図版　八　1．ＳＫ１　19～25

　　2．ＳＫ８　30・33

図版　九　　ＳＤ１

図版一〇　　ＳＤ１

図版一一　　ＳＤ１

図版一二　　ＳＤ１

図版一三　　ＳＤ１

図版一四　　ＳＤ１

図版一五　　ＳＤ２

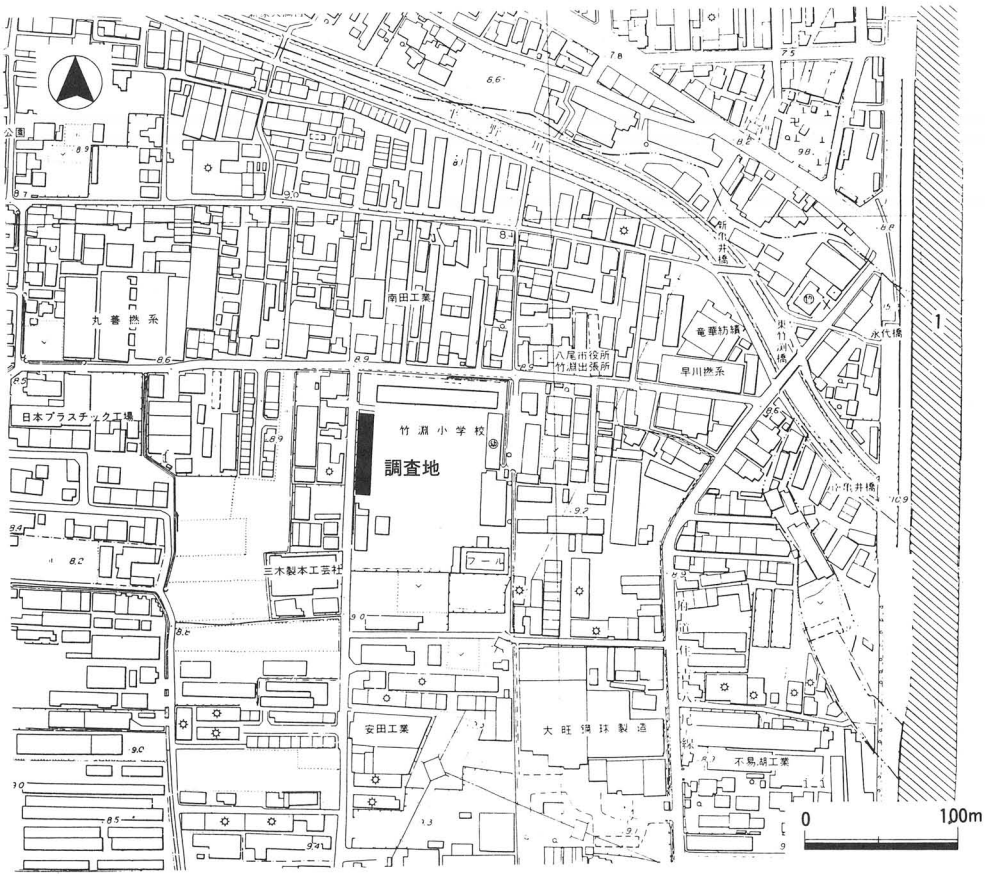
図版一六　　出土遺物　遺構に伴わない遺物

第１章　はじめに

第１節　調査に至る経過と目的

今回の調査地は、八尾市竹渕115 に所在する市立竹渕小学校の敷地内に位置し、亀井遺跡推定範囲内の西端部に近接している。

昭和57年度、八尾市施設課が校舎・体育館の建て替え工事を行う事業計画が成される旨の計画書が八尾市教育委員会に提出された。これを受けた八尾市教育委員会は、当該地が亀井遺跡の推定範囲内の西端部に近接することや工事による掘削深度が深いこと等から、昭和57年６月５日、遺構・遺物の有無を確認する目的で試掘調査が実施された。その結果、体育館予定地内では遺構・遺物が検出されなかったため建設工事の認可を認めたが、校舎予定地内では現地表



第１図　調査地位置図

下 1.8m前後から古墳時代後期の須恵器・土師器等の土器片を含む遺物包含層と、その直下の土層上面から遺構が存在することが認められた。八尾市教育委員会はただちに遺跡発見届書を文化庁に送付した。遺跡名は行政区画した地名を付して竹渕遺跡と名称した。この旨を八尾市施設課に通知し、遺跡の現状保存が出来るよう要請したが建築の変更が不可能であるとの回答を得たため、校舎の建設予定地で遺構が破壊される部分を対象に、記録保存に必要な資料を作成する目的で発掘調査を実施することが二者間で可決された。

発掘調査にあたっては、八尾市施設課・八尾市教育委員会・（財）八尾市文化財調査研究会の三者間で協議を重ね、当調査研究会の協定書を締結し、当調査研究会が主体となって発掘調査を実施した。現地での発掘調査は、昭和57年10月１日から同年11月25日までの期間で終了した。調査面積は約 832.3㎡である。

出土遺物の整理作業及び報文作成業務は、当調査研究会分室にて実施し、平成元年３月25日に刊行した。

第２節　遺跡の地理・歴史的環境

当遺跡は、現在の行政区画では大阪府八尾市の西端部に位置する竹渕一帯に所在する。当地区の西側では南北に通る大阪中央環状線で分断され、北・西・南の三方を行政区画した大阪市平野区に囲まれる孤立した陸の孤島になっている地区である。

当遺跡の地形は、旧大和川の主流である長瀬川と玉串川で形成された沖積地（狭義でいう河内平野）の西側にあたり、当遺跡の北部には長瀬川から分流した平野川が東から西へ流下している。同一沖積地上には、弥生時代から近世に至る遺跡が多く存在している。東部に近接する亀井遺跡をはじめとし、南には長原遺跡・瓜破遺跡、北には加美遺跡・久宝寺遺跡等の遺跡が存在している。

さて、当遺跡が位置する河内平野に人々が営まれるようになったのは弥生時代からである。最近の発掘調査で縄文時代晩期の土器が出土されているが、まだ、河内平野は河内湾から河内潟へと移行する時代であり、河内平野の東側に位置する生駒山西麓や南側に位置する羽曳野丘陵に住居を構えていたものと考えられ、この平野部には狩猟・漁撈・採集等の生活空間の場であったと考えられる。その後、稲作農耕の技術等の伝幡により、この河内平野にも稲作が作られるようになった。この平野部には恵まれた土壌と豊富な水源等の環境が稲作に最も適した条件であったようで、最近の発掘調査の成果では水田遺構が続々と検出されている。当遺跡の東部に位置する瓜生堂遺跡をはじめとし、西岩田遺跡・山賀遺跡・美園遺跡・久宝寺遺跡等があげられる。

弥生時代中期から古墳時代にかけては、河内潟から河内湾に移行して陸地化し、平野部の全般に渡って集落が広がり、人々が営まれるようになる。この時期、各遺跡で多数発見されて

いる。当遺跡を始めとして、前述した遺跡と東郷遺跡・小阪合遺跡・中田遺跡・成法寺遺跡・萱振遺跡等が出現する。また、古墳時代には生駒山西麓の尾根や扇状地上に多数の古墳が築造しているのが、今尚その姿を背景している。最近の発掘調査では河内平野上にも古墳が発見されている。例えば、美園遺跡（４世紀末）・亀井遺跡（５世紀初頭）・萱振遺跡（６世紀末）・長原遺跡（６世紀）等があげられる。

歴史時代に入ると、大化の改新以降、律令国家体制のもとで条里制による土地区画が行われ、国郡郷（里）を置かれた。当遺跡は、河内国渋川郡竹渕郷に入る。また、神社の建築が数多く行われた地域の一つである。当遺跡には、竹渕神社が鎮座する。

そして、最近（明治時代）までは、農地として耕され、長年の間、田園風景を一色としていたが、近年（昭和30年以降）の高度経済成長により、近郊地域に於ける工場・住宅の進出が進み、農地が激減しつつある状況である。

参考文献

○　（財）大阪文化財センター『亀井遺跡』寝屋川南部流域下水道事業長居ポンプ場築造工事関連埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ　昭和57年

○　（財）大阪文化財センター『亀井』―近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告―　1985

第３章　調査の概要

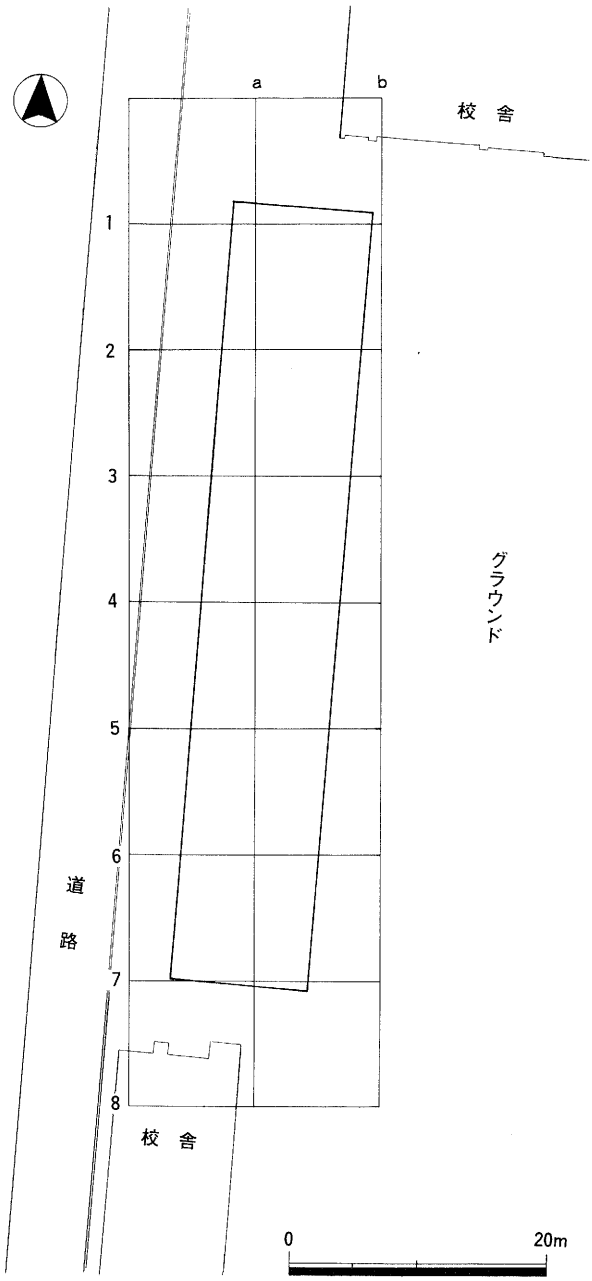
第１節　調査の方法

調査は八尾市教育委員会の試掘調査の結果をもとに、現地表下から約1.8 mまでを機械掘削した。以下、40cmは人力による掘削を実施した。

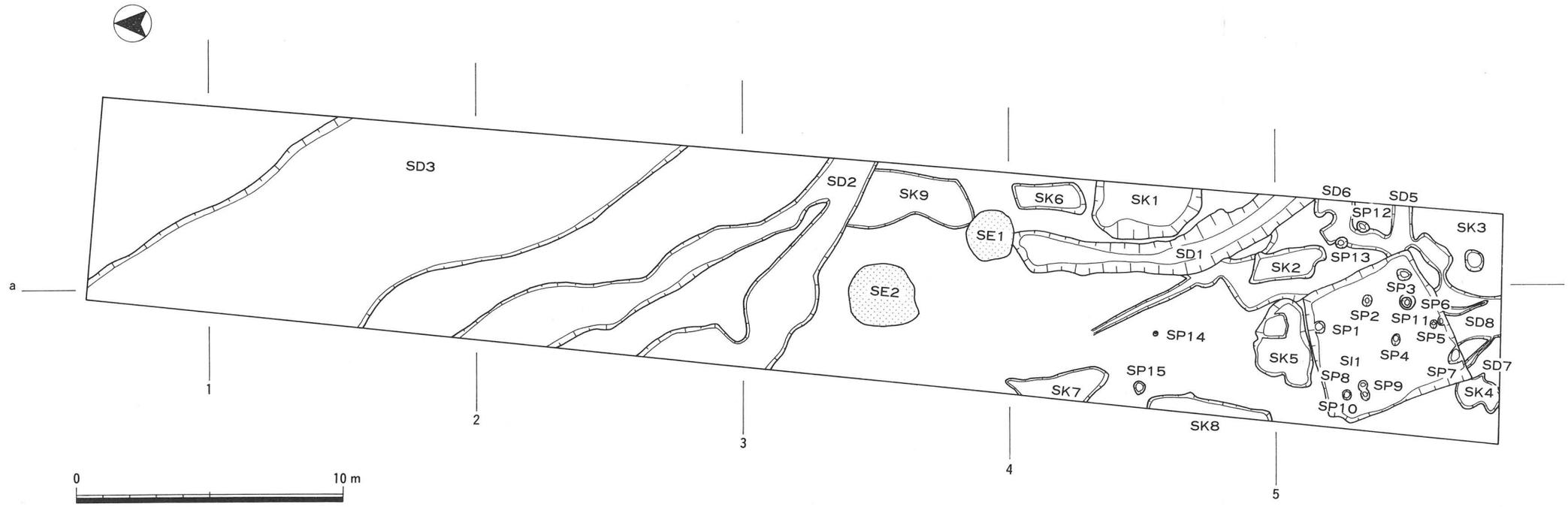
地区割は、機械掘削後、調査区中央部付近で任意に基準点（基準杭）を設け、磁北の方向に合せて東西20m、南北50mの調査区範囲に設定した。設定した一区画を10m四方で、北西隅の交点を基準とし、東西線は数字（１～８）、南北線はアルファベット（ａ～ｂ）を付称した。なお、地区名は一区画の南東部に交差する東西線・南北線から１ａ～８ｂ区を付称した。また、標高は（財）大阪文化財センターが実施されていた近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う亀井遺跡の発掘調査で使用した仮ベンチ（ＴＰ＋8.974 m）を使った。

第２節　基本層序

調査区は、旧校舎の解体した箇所である為、地表下約１m前後に存在する土層は建物の基礎によって破壊されていた。しかし、検出した古墳時代後期の遺構面には支障がなく調査を実施することができた。ここでは、調査区内で現地表面から約３mの間に存在する土層内から普遍的にみられる10層を摘出して基本層序と



第２図　調査地位置図及び地区割図


SD3
SD2
SK9
SK6
SK1
SE1
SD1
SK2
SE2
SD6
SD5
SP12
SK3
SP13
SP3
SP6
SP2
SP11
SD8
SP1
SP5
SP14
SK5
SI1
SP4
SP7
SD7
SP15
SP8
SP9
SK4
SK7
SP10
SK8
a
1
2
3
4
5
0
10 m

第３図　遺構平面図

した。現地表面は標高8.00ｍを測る（第４図）。

第１層：盛土（層厚60㎝）。学校の建設の際に造成されて埋めた土層である。

第２層：旧耕土（層厚10～20㎝）。学校創立前までは、農作地としていた土層で、調査区内の大部分は既設校舎の基礎によって攪乱されている。

第３層：褐灰色粘質シルト（層厚 0.8～１ｍ）。この土層は中世の時期の氾濫によって推積したものと考えられる。

第４層：褐灰色シルト（層厚５～15㎝）。酸化鉄を多量に含む土層である。

第５層：暗褐灰色シルト～褐灰色粘質土（層厚５～20㎝）。炭を含む土層で、調査区の北東隅から奈良時代の土器が出土している。

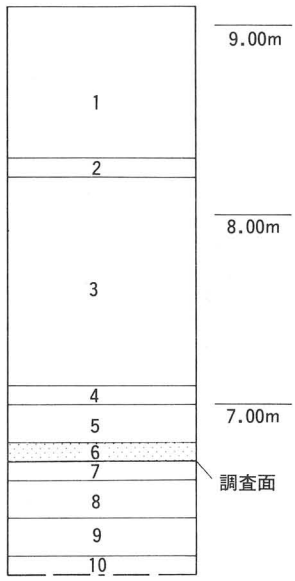
第６層：茶灰色～灰茶色粘質土（層厚10～20㎝）。北方へ行くに従い色調が濃くなり、粘質土も強くなっている。南方では古墳時代後期の土器片がごく少量含まれている。

第７層：褐灰色～淡黄褐色粘土（層厚10～20㎝）。この上面で古墳時代後期に比定される遺構を検出した。上面は標高4.5 ｍを測る。

第８層：灰茶色粘土（層厚20～30㎝）。この土層は自然木の小枝片がわずかに混入していた。

第９層：青灰色砂混粘質土（層厚20㎝）以上。この土層は古墳時代後期以前に埋没した自然河川の堆積土であると考えられる。

第10層：茶褐色粗砂（層厚10㎝以上）。第９層同様に自然河川の堆積土であると考えられる。



第４図　基本層序柱状図(S=1/40)

第３節　　検出遺構・出土遺物

第７層上面を調査対象面とした。その結果、古墳時代後期に比定される竪穴式住居１棟（ＳＩ１）・土坑９基（ＳＫ１～ＳＫ９）・小穴５個（ＳＰ１～ＳＰ５）・溝８条（ＳＤ１～ＳＤ８）を検出した。また、第３層上面からの切り込みと思われる江戸時代の井戸２基（ＳＥ１・ＳＥ２）を検出した。遺物は、第６層及び検出遺構内（特にＳＤ１）から多量の須恵器・土師器等の土器が出土している。出土量はコンテナ箱にして約20箱分を数える。

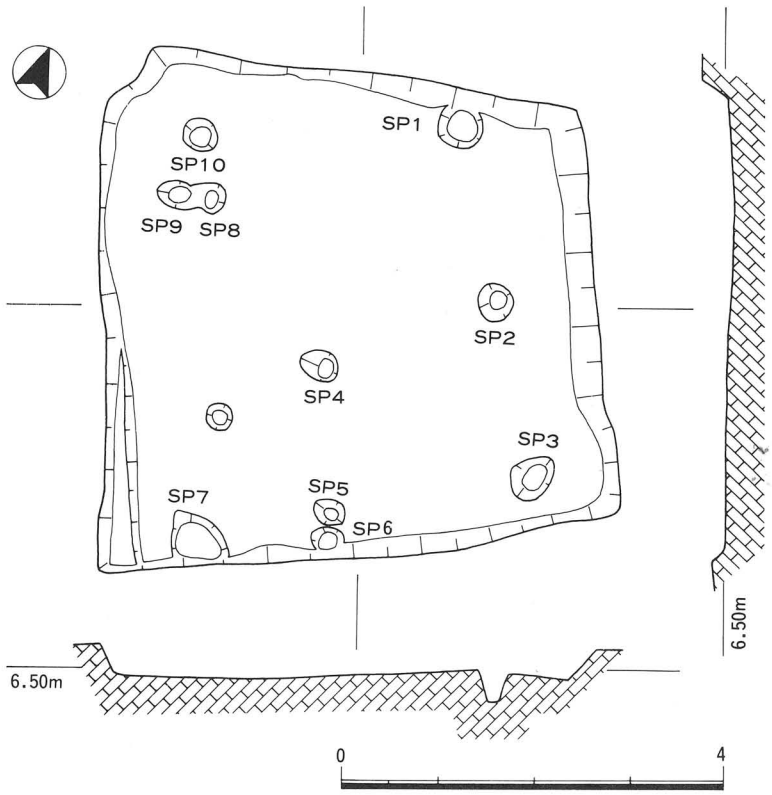
以下、各遺構について概説する。なお、個々の遺物の形態・調整・法量等については、「第４節　出土遺物観察表」に一括してまとめた。

1） 古墳時代後期

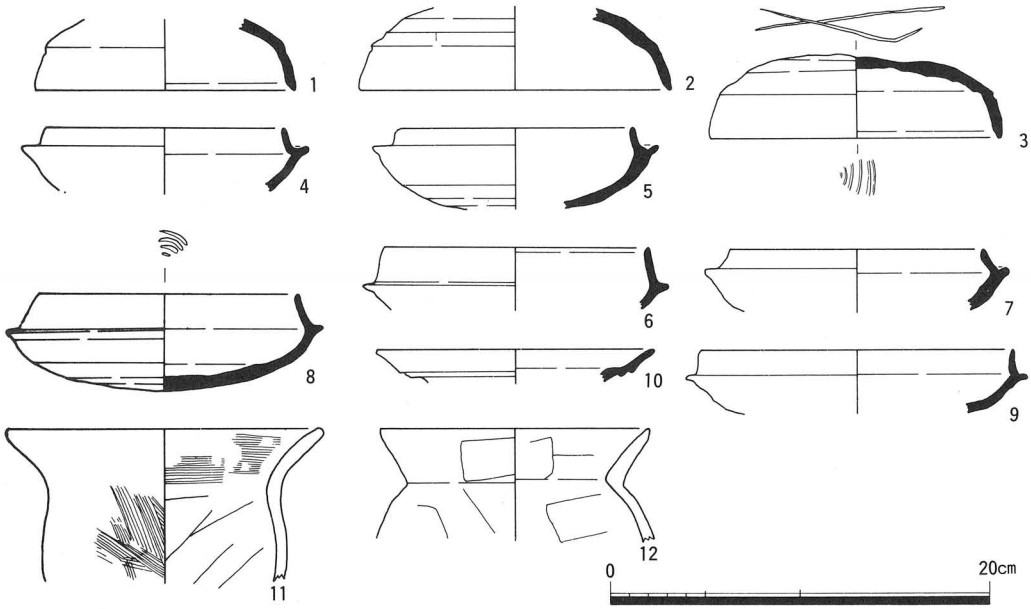
竪穴式住居（ＳＩ）

ＳＩ１

調査区南部（７ａ・ｂ区）で検出した。平面は方形を呈する竪穴式住居で、ＳＫ４・ＳＤ６～ＳＤ８を切っている。規模は検出部で、南北辺 5.2ｍ・東西辺5.16ｍを測る。床面は検出面から床面まで約20㎝を測り、床面は平坦である。この床面上から小穴10個を検出した。平面の形状には円形のもの（５個）、楕円形のもの（５個）がある。小穴の規模は、ＳＰ１が径44～50㎝、深さ70㎝、ＳＰ２が径38～39㎝、深さ33㎝、ＳＰ３が径42～52㎝、深さ45㎝、ＳＰ４が径31～41㎝、深さ29㎝、ＳＰ５が径28～36㎝、深さ21㎝、ＳＰ６が径20～33㎝、深さ23㎝、ＳＰ７が径27～32㎝、深さ10㎝、ＳＰ８が径30～35㎝、深さ26㎝、ＳＰ９が径28～43㎝、深さ27㎝、ＳＰ10が径35～37㎝、深さ20㎝をそれぞれ測る。炉跡は検出しなかった。住居の床面上には暗灰褐色粘質土・暗灰青色粘質シルトの２層が堆積している（第５図）。遺物は、内部から陶邑編年によるⅡ型式１～３段階に相当する須恵器の杯蓋（１～３）・杯身（４～９）・（10）と土師器の甕（11～12）等の小片が少量出土している（第６図）。



第５図　SI1平断面図

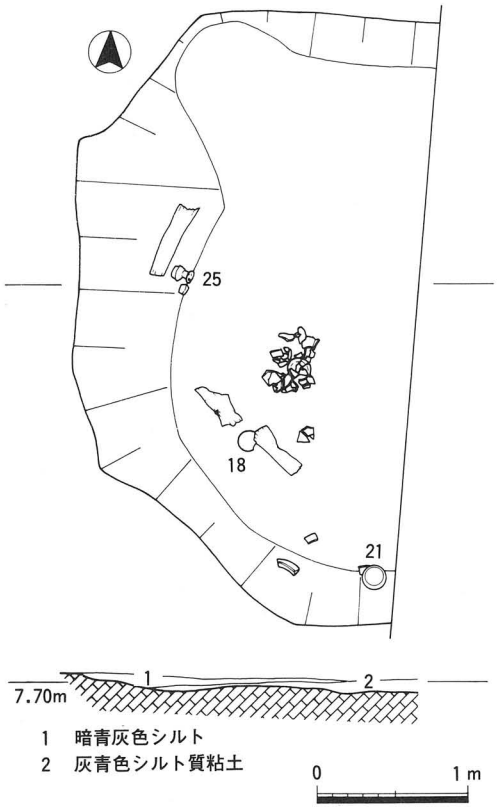


第６図　S11出土遺物実測図

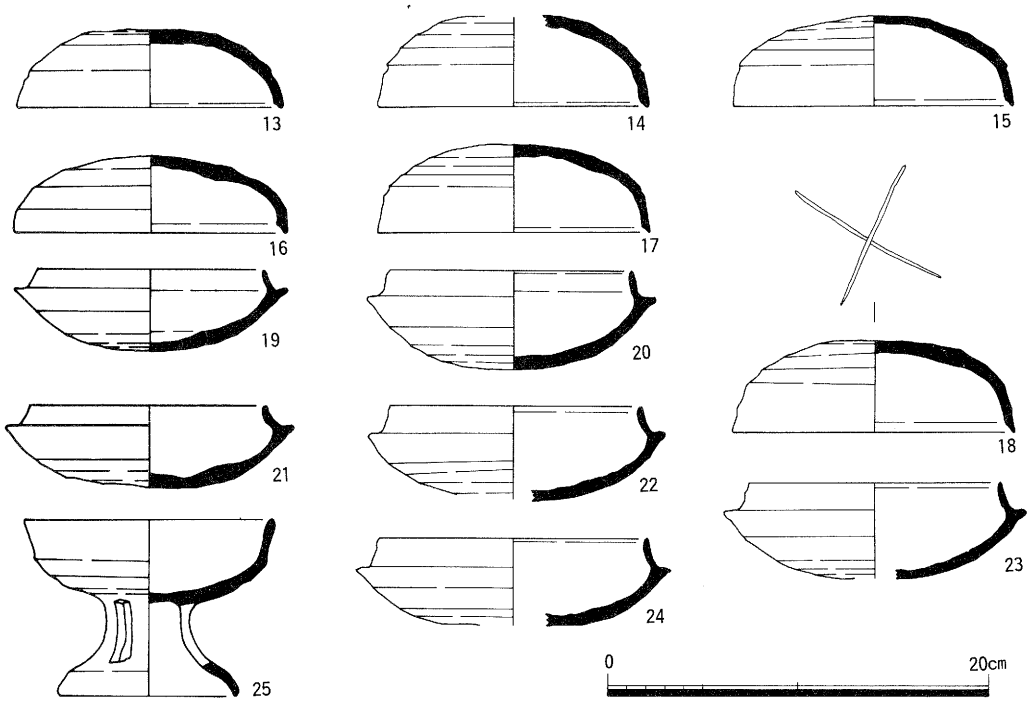
土坑（ＳＫ）

ＳＫ１

６ｂ区の東壁付近で検出した土坑である。西部はＳＤ１に一部切られ、東側は調査区外に至る。平面の形状は検出部で半円形を呈し、南北 4.2ｍ、東西 3.3ｍ以上、深さ40㎝を測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は暗青灰色シルト・灰青色シルト質粘土・青灰色シルト・暗灰青色シルト・暗灰色シルトに分かれる（第６図）。遺物は、土坑内の南側半分に集中して出土している。腐敗した板状の木製品３枚（全長50㎝、幅12㎝、厚み１㎝と全長38㎝、幅12㎝、厚さ１㎝と全長35㎝、幅14㎝、１㎝をそれぞれ測る）が「Ｌ」字形で検出した。これに囲まれたように西側で高杯（25）１点と東側で須恵器の杯蓋（13～17）・杯身（19・22・23）が８個体分集積して出土して



第７図　SK1平断面図



第８図　SK１出土遺物実測図

いる。また、須恵器の杯蓋が南側の木製品上部で杯蓋（18）、南東側へ約１ｍ離れた所から杯身（21）が出土している。この２点は一対になった。出土した須恵器はⅡ型式の１～３段階に相当するものである。その他には、土師器の羽釜の小片が少量出土している（第８図）。

ＳＫ２

ＳＩ１の北東側で検出した土坑である。平面の形状は長方形を呈し、東西１ｍ、南北 2.6ｍ、深さ９㎝を測る。断面は逆台形を呈し、内部には淡灰青色粘土混細砂が堆積している。遺物は、堆積土内から須恵器・土師器の小片が少量出土している。

ＳＫ３

調査区の南東部で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し、径74～82㎝、深さ18㎝を測る。断面は浅い半円形を呈する。堆積土は上方から暗灰褐色粘質シルト・灰黒褐色シルト（炭・灰を含む）で、底面には１㎝程度厚さの炭層がみられる。遺物は、内部から須恵器の杯蓋・杯身と土師器などの小片がごく少量出土している。

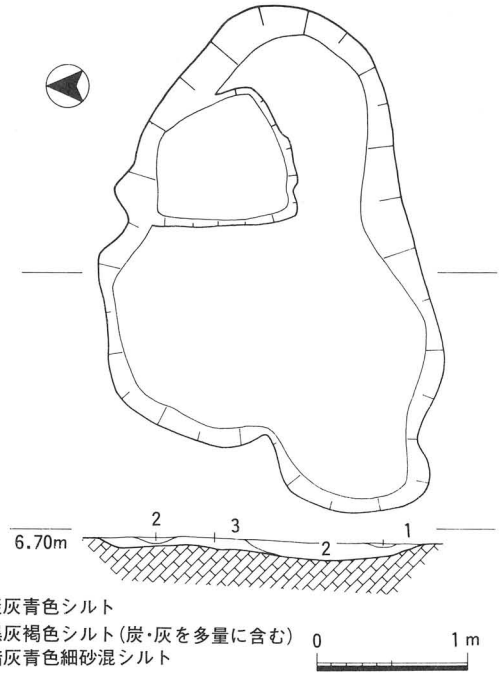
ＳＫ４

７ａ区で検出した土坑で、ＳＩ１に切られる。平面の形状は不定形を呈し、最大幅 1.3㎝、

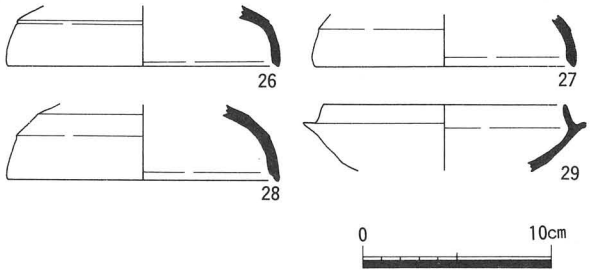
最小幅１ｍ、深さ20㎝を測る。断面は浅い逆台形を呈し、内部には灰青色シルト粘土が堆積している。遺物は、堆積土内から須恵器蓋杯の小片が少量出土している。

ＳＫ５

ＳＩ１の北部で検出した土坑である。平面は不定形を呈し、最大幅3.5㎝、最小幅２ｍ、深さ13㎝を測る。断面は浅い半円形を呈し、東部底面には平断面ともに方形を呈する窪みがある。規模は一辺96㎝、深さ34㎝を測る。堆積土は淡灰黄色シルト・黒灰褐色シルト（炭・灰を多量に含む）・暗灰青色細砂混シルトである。



第９図　SK5平断面図

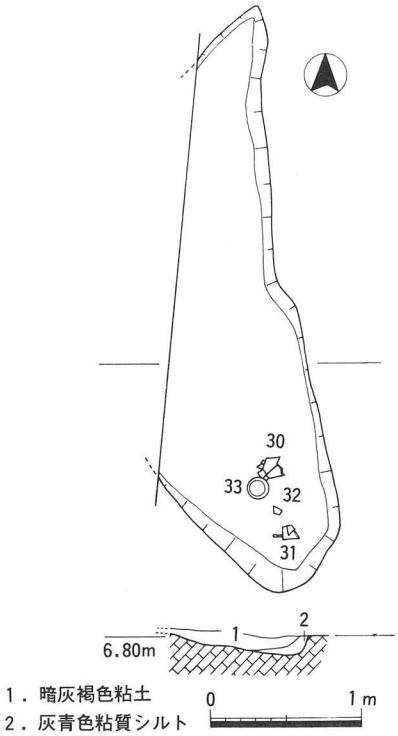


第10図　SK5出土遺物実測図

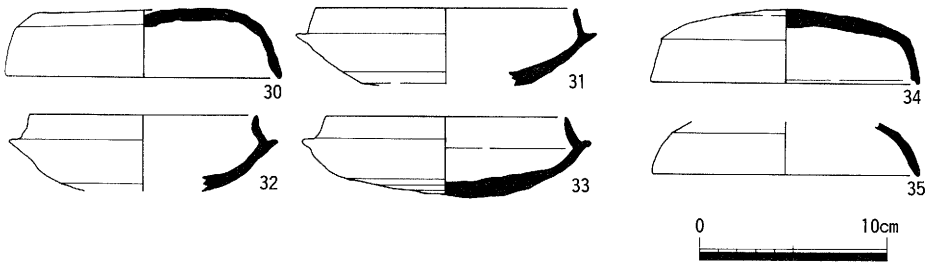
遺物は、内部から須恵器の杯蓋（26～28）、杯身（29）と土師器などの小片が少量出土している。また、窪み部分の底面付近から腐敗した自然木の小片２点が出土した（第９・10図）。

ＳＫ６

ＳＫ１の北部で検出した土坑である。平面の形状は長方形を呈し、東西１ｍ、南北 2.6ｍ、深さ９㎝を測る。断面は逆台形を呈し、内部には淡灰青色粘土混細砂が



第11図　SK7平断面図



第12図 SK7 (30～33)・SK8 (34～35)出土遺物実測図

堆積している。遺物は、堆積土内から須恵器・土師器の小片が少量出土している。

ＳＫ７

６ａ区の西壁付近で検出した。西部は調査区外に至り、平面の形状は不明である。規模は検出部で、最大幅4.6 m、最小幅70cm、深さ20cmを測る。堆積土は暗灰褐色粘土である。遺物は、土坑内から須恵器の杯蓋（30）・杯身（31～33）と、土師器の壺の小片が少量出土している（第11・12図）。

ＳＫ８

ＳＫ７の南部で検出した土坑である。西部は調査区外に至り、平面の形状は不明である。規模は検出部で、最大幅4.5 m、最小幅60cm、深さ20cmを測る。堆積土は暗灰褐色粘土である。遺物は、土坑内から須恵器の杯蓋（34・35）・杯身の小片が少量出土している（第12図）。

ＳＫ９

５ｂ区で検出した土坑である。南部は近世のＳＥ１で切られ、北部はＳＤ２によって切られる。規模は検出部で、東西約２m、南北約４m、深さ20cmを測る。断面は逆台形を呈し、内部には青灰色細砂粘土が堆積している。遺物は、土坑内から土師器の小片が少量出土している。

小穴（ＳＰ）

ＳＰ11～ＳＰ15

調査区の南部で５個を検出した。平面の形状は円形を呈する。規模は径15～40cm、深さ10～30cmを測る。断面は逆台形を呈し、内部には暗灰褐色粘質シルトが堆積している。遺物はほとんど出土していない。これらの小穴は調査区内で規則的な配列はなかった。以下、個々の小穴のついては第１表にまとめた。

第１表　小穴（ＳＰ）一覧表　　＊　単位：cm

遺構番号	地　区	平面形	断面形	径	深さ	堆　積　土	備　考
ＳＰ11	７ａ区	円　形	逆台形	63～72	9	灰褐色粘質シルト	
ＳＰ12	７ｂ区	楕円形	逆台形	32～48	18	灰褐色粘質シルト	
ＳＰ13	７ｂ区	円　形	逆台形	43～46	13	灰褐色粘質シルト	須恵器の小片
ＳＰ14	６ａ区	円　形	逆台形	14～17	6	灰褐色粘質シルト	
ＳＰ15	６ａ区	円　形	逆台形	38～44	20	灰褐色粘質シルト	

溝（ＳＤ）

ＳＤ１

６・７ｂ区で検出した溝である。北部は近世のＳＥ１によって切られ、南部は東部の調査区外に至る。平面の形状では、ＳＥ１から湾曲しながら南部の東壁に至る。規模は検出部で、幅0.8 ～1.2 ｍ、深さ20～50cmを測る。断面は南部が深い半円形、北部が浅い逆台形を呈し、南へ深くなっている。堆積土は青灰色シルト・灰色シルト粘土・黒灰褐色シルト粘土（炭を多量に含む）・褐色シルト粘土（植物遺体を含む）・青灰褐色シルトで構成している（第13図）。遺物は、溝全体に堆積する中層から下層の基底部に混入した状態で出土した。出土量はコンテナ箱にして５箱分を数え、調査区内で検出した遺構の中で最も多量に出土している。遺物には須恵器・土師器・木製品・自然木等がある。須恵器は蓋杯（杯蓋・杯身）・高杯・壺・甕の器種である。土師器は壺・鉢・甑・羽釜・甕の器種である。木製品には曲物の底板や用途不明の木製品が出土している。これらの遺物の中でも圧倒的に多く出土したのが須恵器の蓋杯である。須恵器は陶邑編年によるⅡ形式２～４段階に相当するものと思われる（第14図～第18図）。

須恵器

杯蓋は個体数40点で、実測できたものは35点を数える。形態的な特徴は下記に示すように４分類に大別できる。

杯蓋Ａ類：（やや高く）丸みをもつ天井部から下外方へ緩やかに下る口縁部で、端部は内傾する凹面をもつ。外面には体部と口縁部の境に稜がみられる（36～53）が、この中には、稜の下方に浅い沈線が巡るもの杯蓋Ａ1 類（36～45）。稜の下方に沈線が巡らないもの杯蓋Ａ2 類（46～53）に細別できる。

杯蓋Ｂ類：丸みをもつ天井部から下外方へ緩やかに下る口縁部で、端部は内傾する（浅い）凹面を呈する。外面には体部と口縁部の境に稜の痕跡が認められない（54～61）。

杯蓋Ｃ類：低く丸みをもつ天井部から下外方へ下る口縁部で、端部は丸い（又は鈍く尖る）。外面には体部と口縁部の境に稜が認められない（62～65）。

杯蓋Ｄ類：平らな（やや凹むもの）天井部から垂直気味に下る口縁部で、端部は内傾する凹面をもつ。外面には口縁部と体部の境に稜の痕跡が僅かに認められる（66～70）。

杯身は個体数53点で、実測できたものは49点である。形態的な特徴は下記の３分類に大別できる。

杯身Ａ類：杯体部は（やや深く）丸みのある底部から上外方へ伸びる。受部は斜上方へ伸び丸く終わる。立ち上がりは上内方へ外反気味に伸び、端部は丸く終わる（71～78）。この中には、受部が断面三角形で鈍く尖るもの杯身Ａ1 類（79～84）と立ち上がりの端部が内傾する（凹）面をもつもの杯身Ａ2 類（85・86）がある。

杯身Ｂ類：杯体部は（やや深く）丸い底部から外上方へ伸びる。受部は外上方へ鈍く尖る。立ち上がりは上内方へ直線的に伸び、端部は丸い（87～91）。

杯身Ｃ類：杯体部は（低く）平らに近い底部から上外方へ伸びる。受部は外上方へ伸びて丸い。立ち上がりは上内方へ直線的に伸びる。端部は内傾する凹面をもつもの杯身Ｃ1 類（94・95）と丸く終わるもの杯身Ｃ2 類（96～102）とがある。

杯身Ｄ類：杯体部は（やや低く）平坦な（凹面をもつ）底部から上内方へ伸びる。受部は水平で、鈍く尖る。立ち上がりは上内方へ直線的に伸び、端部は丸く終わる（103～109）。

なお、杯蓋・杯身には天井部（又は底部）外面にヘラ記号を施したもの（36・47・74）、また、内面には円弧タタキ（同心円タタキ）を施したもの（49・69・85・104 ）がある。

高杯は個体数５点で、実測できたものは３点である。

110 は杯部のみで杯身Ｂ類の形態に類以する。111 は脚部片で、下外方に短く下り、端部は平坦な面をもつ。脚部には二方に長方形のスカシがある。112 も脚部のみ破片である。脚部は下外方へ下ったのち二段屈曲して下外方する。端部は丸く終わる。

大型器台は個体数１点で、実測できたものは脚部のみの１点（113 ）である。

壺は個体数５点で、実測できたものは３点を数える。114 はほぼ完形で、中位からやや上に最大径をもつ球形に近い体部、緩やかに屈曲外反する口縁部で、端部は外傾し面をもつ。調整はは、体部外面に格子タタキ、内面円孤タタキ。他は回転ナデである。

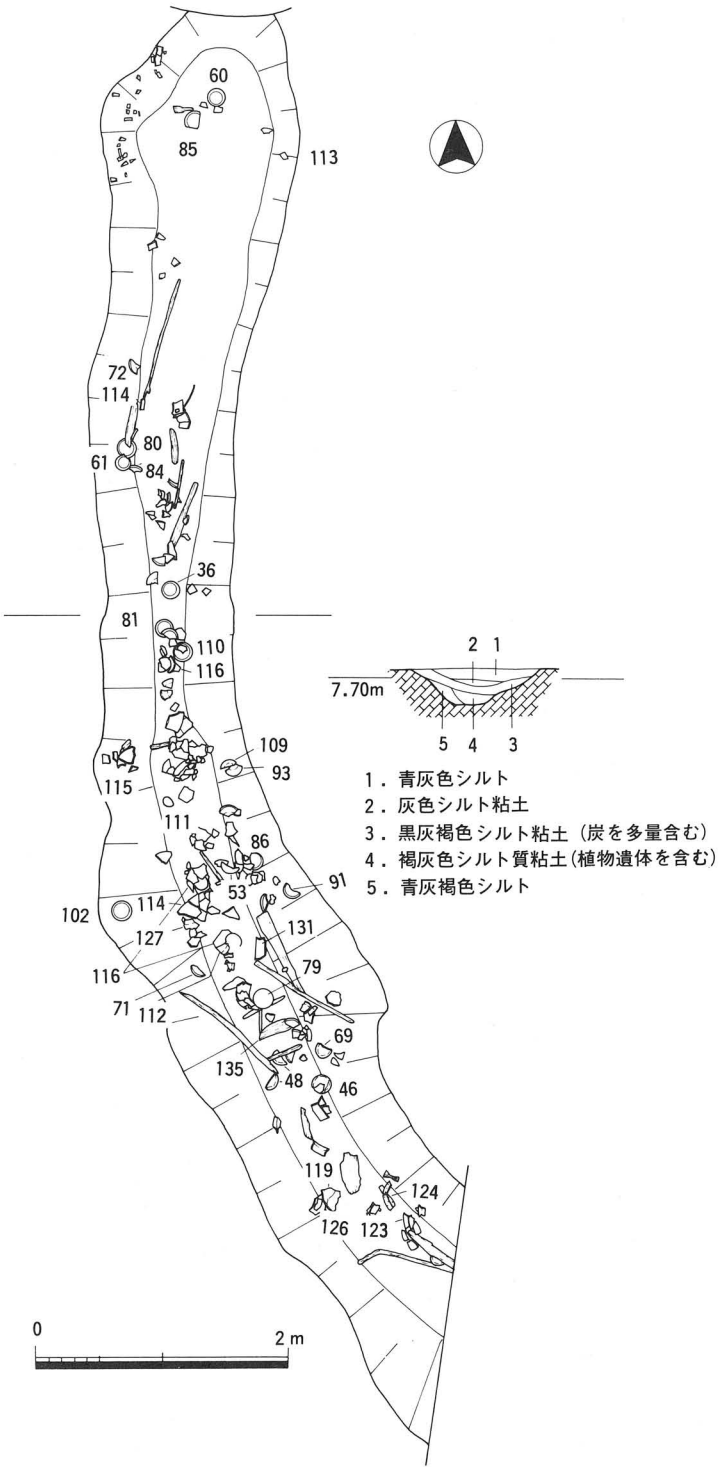
土師器

土師器は須恵器の出土量の約３分の１である。器種は鉢・甑・羽釜・甕等である。

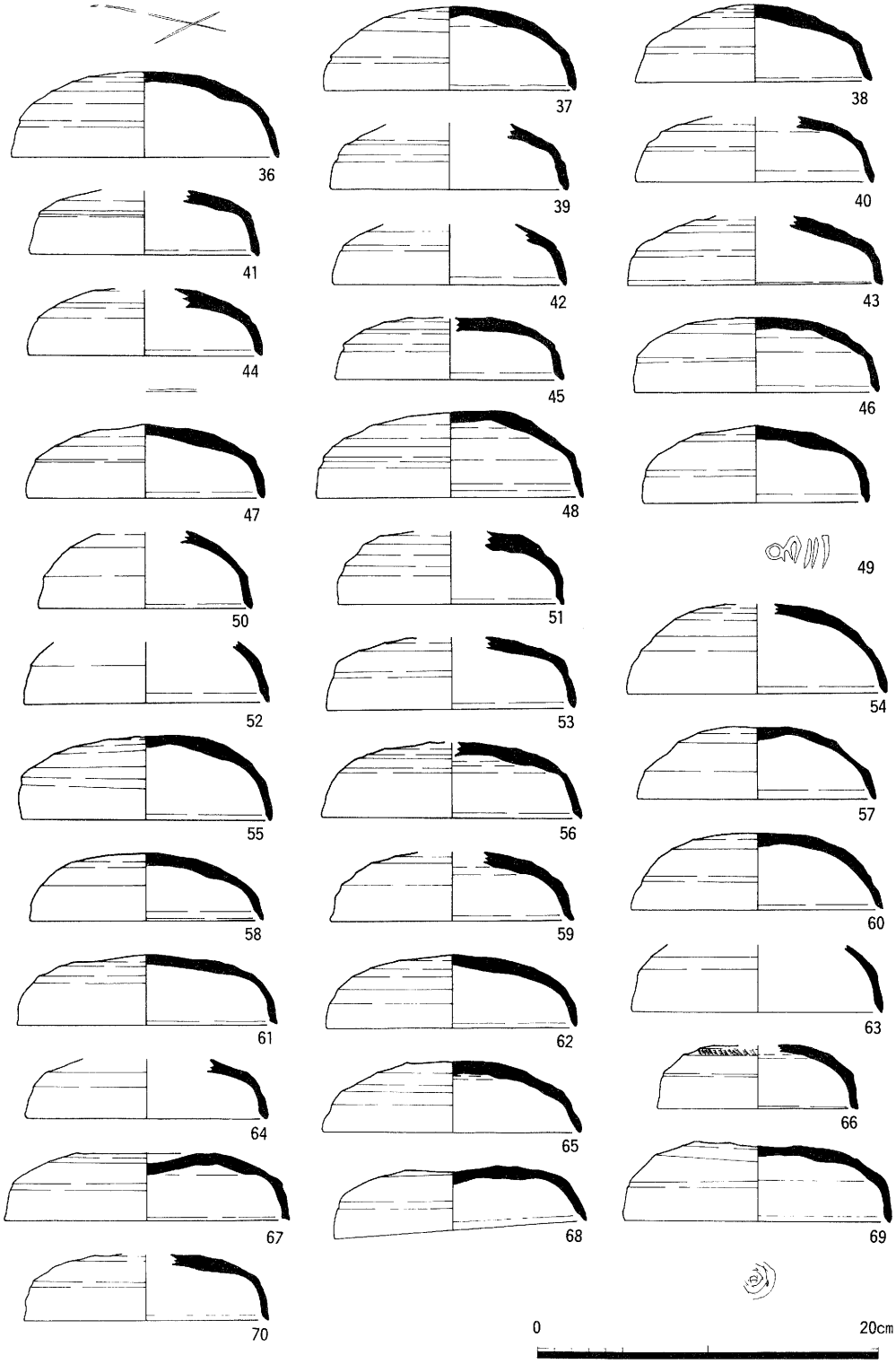
鉢は個体数３点で、実測できたものは２点を数える。117 は布留式新相の鉢の形態に酷似している。118 は突出しない平底で弥生時代中期から後期の時期の形態に類以する。

甑は個体数５点で、実測できたものは３点を数える。形態は平底より屈曲し直線的に伸びる。底部の蒸気孔は中央部に円形１個、その周囲に隅丸の三ヶ月形が３個を配置している。120 の体部には螺旋状に円形で小さい穿孔を施してある。

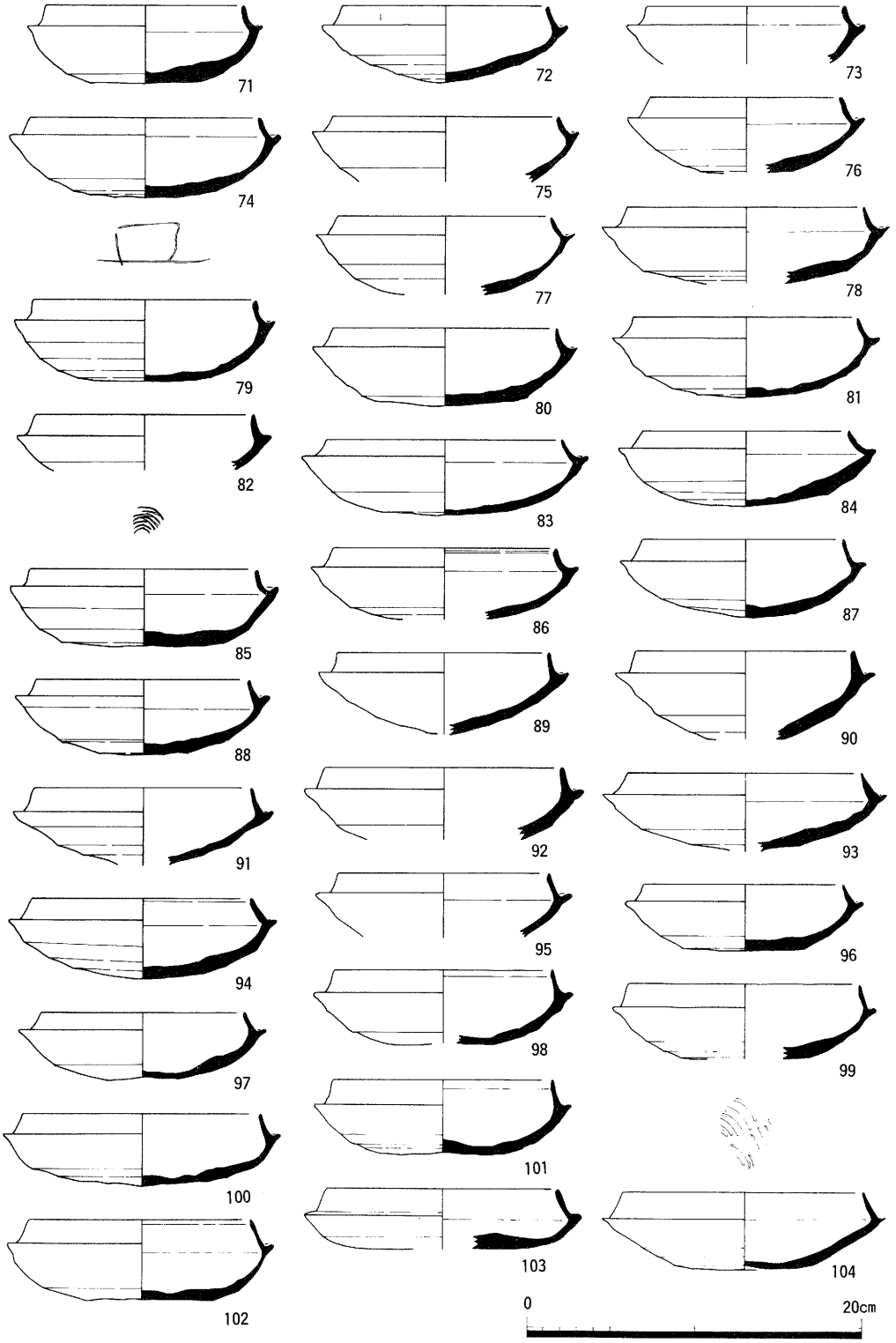
羽釜は個体数５点で、実測できたものは４点を数える。形態は長胴形の体部の上位に水平（又はやや上外方）に伸びる鍔から屈曲して上外方する。



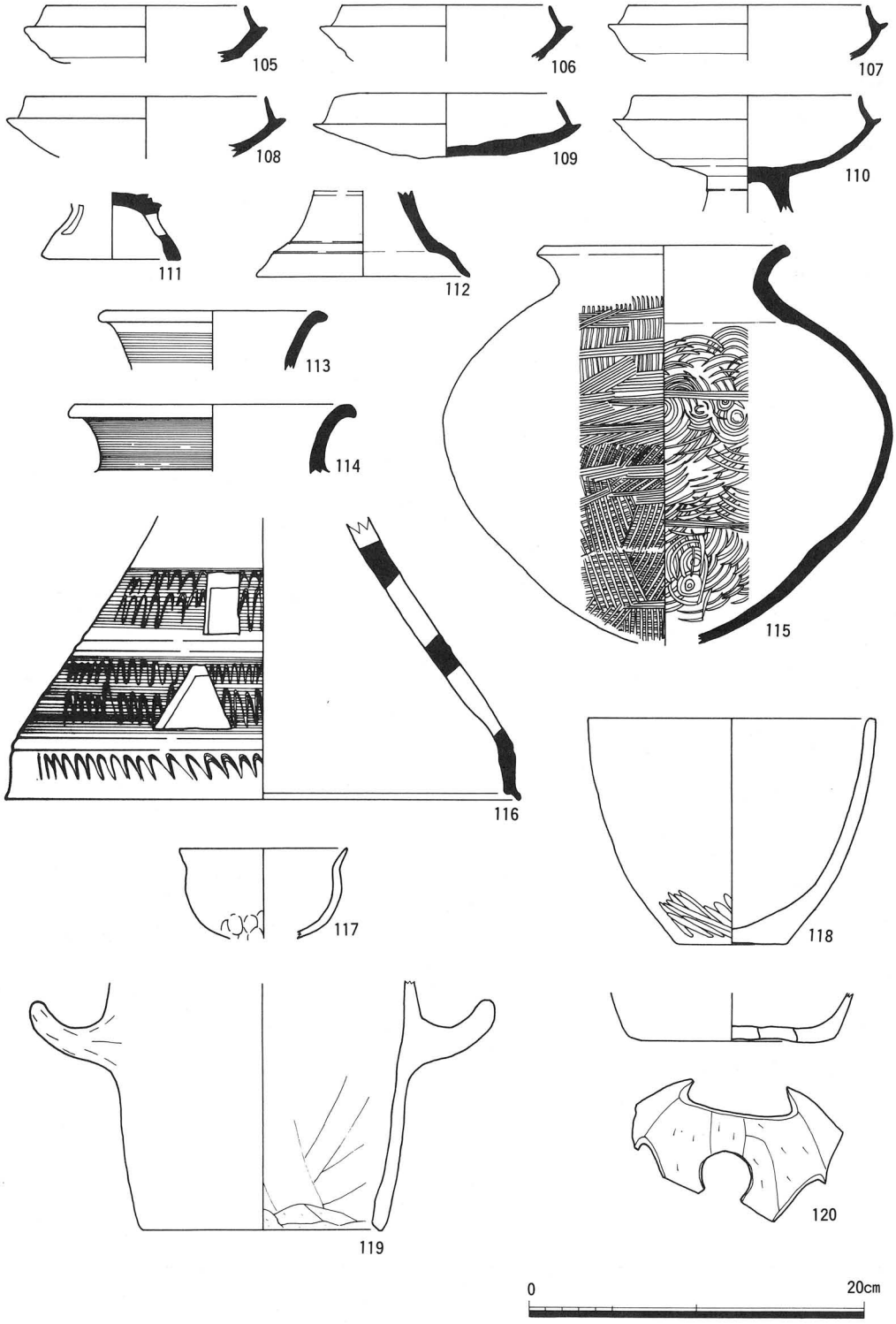
第13図　SD1平断面図



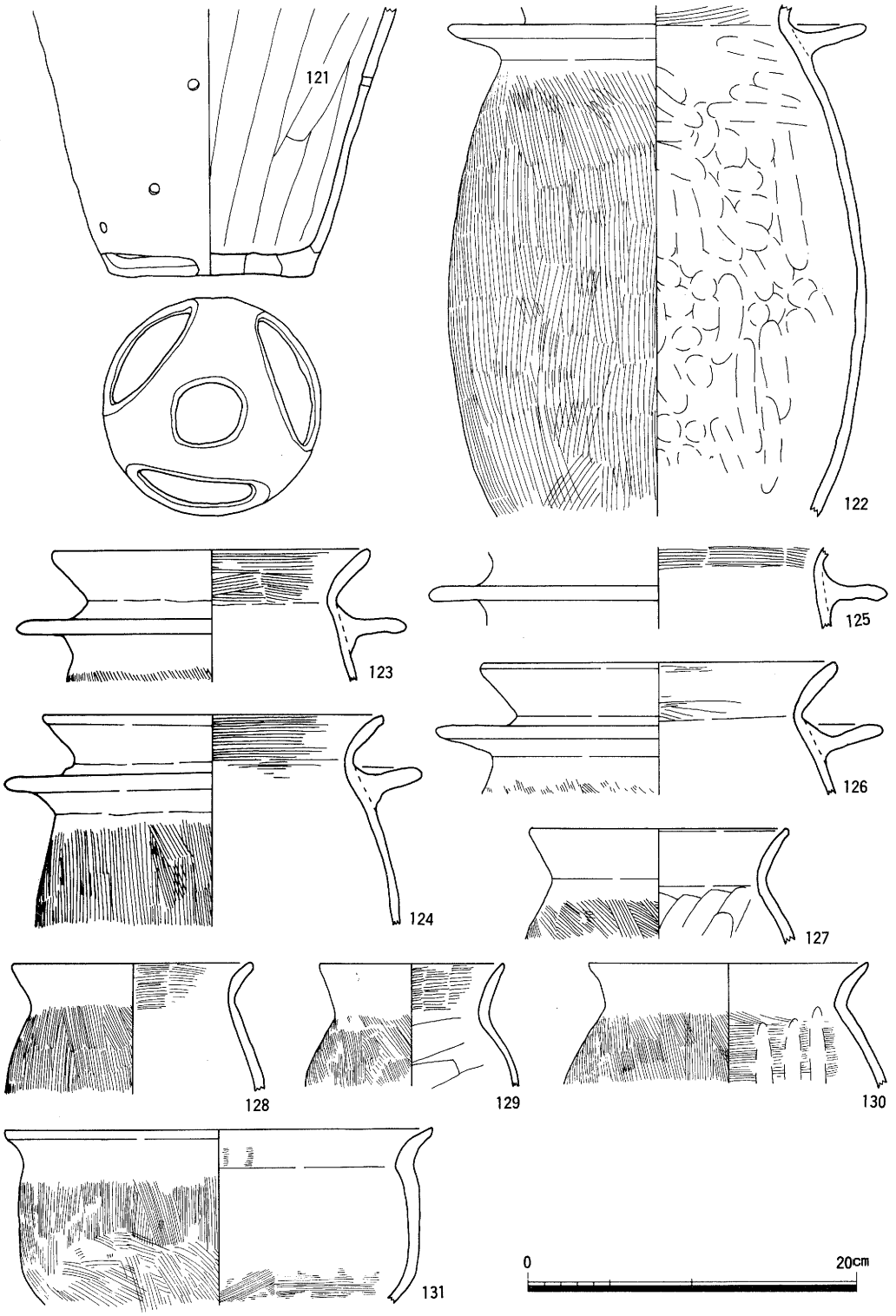
第14図　SD1出土遺物実測図1



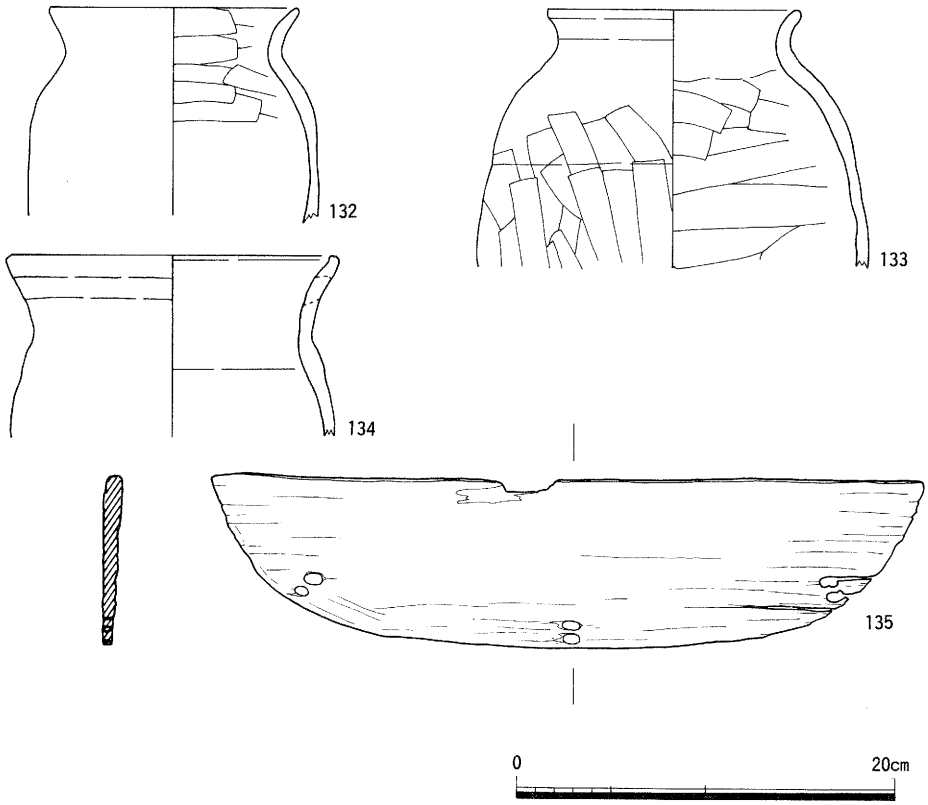
第15図　SD1出土遺物実測図２



第16図　SD1出土遺物実測図3



第17図　SD1出土遺物実測図４



第18図　SD1出土遺物実測図5

甕は個体数10点で、実測できたものは８点を数える。形態は３分類に大別できる。

甕Ａ類：張りのない体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部である。調整は内外面にハケナデを施す。129は体部内面にヘラ削りである（128～130）。

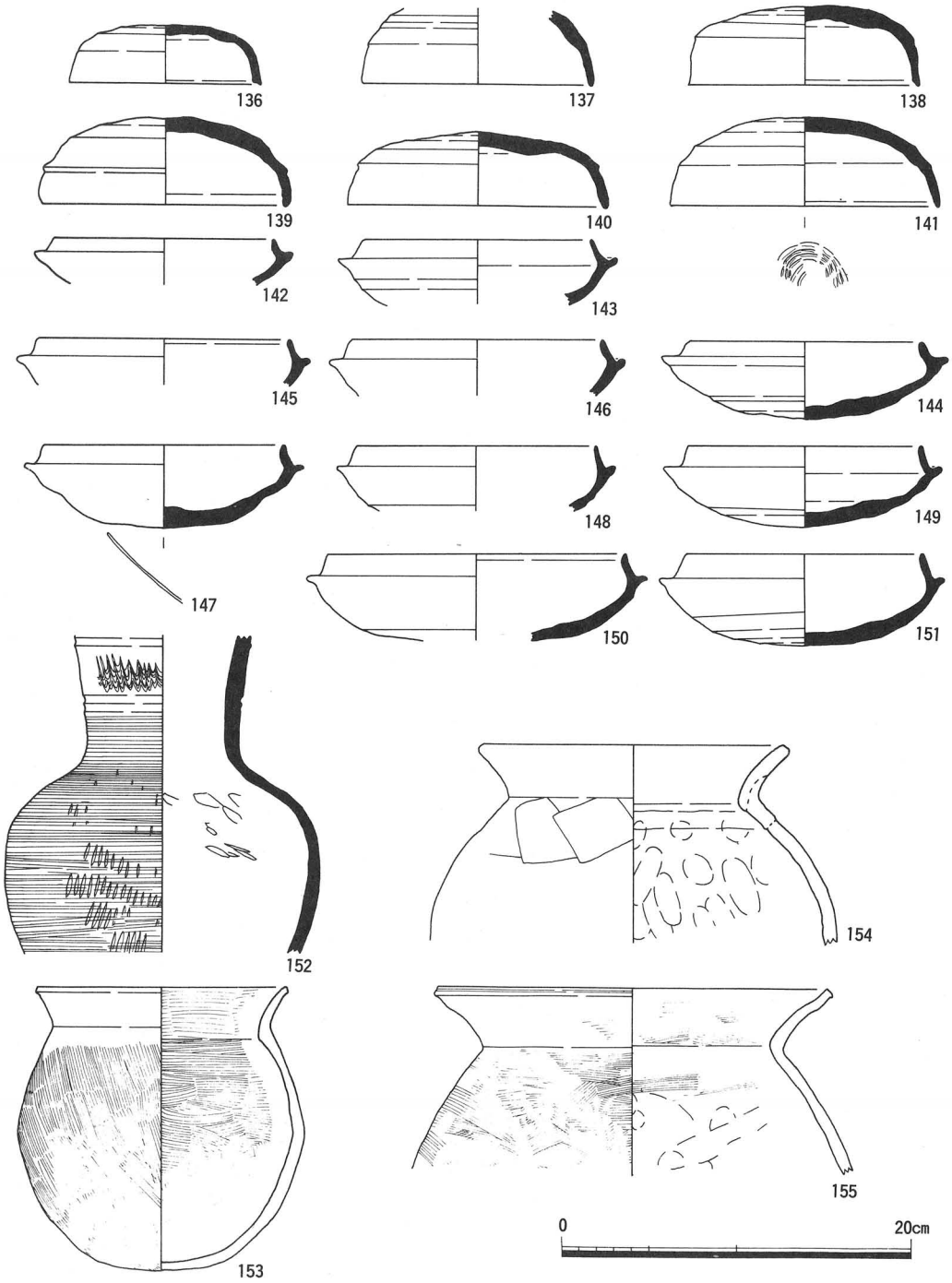
甕Ｂ類：張りのない体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部である。調整は体部外面ヘラナデ、内面ヘラ削りを施す（132～133）。

甕Ｃ類：張りのない体部から僅かに屈曲し、上外方へ伸びる口縁部である（134）。

その他には、軽石２点が出土している。形状はほぼ楕円形を呈する。大きさは径３～６㎝、重さ20～30ｇを測る。

ＳＤ２

調査区の中央部で検出した溝である。方向は南東―北西方向で調査区の東部から二つに分れて西へ広がる。東部の南側はＳＫ９を切り、東西はともに調査区外に至る。規模は検出部で、幅0.6～2.5ｍ、深さ20～40㎝を測る。断面は浅い逆台形を呈する。推積土は灰褐色シルト・暗灰褐色粘土・灰褐色砂混シルト・暗灰褐色粗砂混シルトである。



第19図　SD2出土遺物実測図

遺物は、南側の溝内の中央部で１箇所に集積した須恵器片が出土している。また他にも僅かに須恵器・土師器が少量出土している。器種に陶邑編年によるⅡ型式１～４段階に相当する須恵器の杯蓋(136～141)・杯身(142～151)・壺(152) と土師器の甕(153～155)である（第19図)。

ＳＤ３

調査区の北部で検出した溝である。方向は南東―北西方向を示し、東西はともに調査区外に至る。規模は検出部で、幅6.5 m、深さ40～58cmを測る。断面は浅い逆台形を呈し、内部には灰褐色粘土・灰青色砂混粘土が堆積している。遺物は、溝内から須恵器・土師器の小片がごく少量出土している。

ＳＤ４

調査区のＳＤ１西側で検出した溝である。方向は南東－北西方向を示す。南東はＳＤ１と交わり、南西部は途中で切れる。規模は検出部で、幅20～30cm、深さ10cmを測る。断面は逆台形を呈し、内部には灰褐色粘質シルトが堆積している。遺物は出土していない。

ＳＤ５

７ｂ区で検出した溝である。方向は東―西方向を示す。西部はＳＩ１に切られ、ＳＤ６と交差する関係にある。東部は調査区外に至る。規模は検出部で、幅80cm、深さ10cmを測る。断面は浅い逆台形を呈し、内部には灰褐色粘質シルトが堆積している。遺物は出土していない。

ＳＤ６

ＳＩ１の南東部で検出した溝である。方向は南西―北東方向を示す。ＳＤ５と交差し、ＳＤ７が合流する。ＳＩ１・ＳＰ１・ＳＰ４は切る関係にある。東部・南部は調査区外に至る。規模は検出部で、幅17～24cm、深さ５cmを測る。断面は浅い逆台形を呈し、底面でＳＤ８を検出する。堆積土は褐灰色シルトである。遺物は出土していない。

ＳＤ７

７ａ区で検出した溝である。方向は南東―北西方向を示す。南東部はＳＤ６に合流し、北西部はＳＩ１によって切られている。規模は検出部で、幅10～24cm、深さ８cmを測る。断面は浅い逆台形を呈し、内部には褐灰色シルトが堆積している。遺物は出土していない。

ＳＤ８

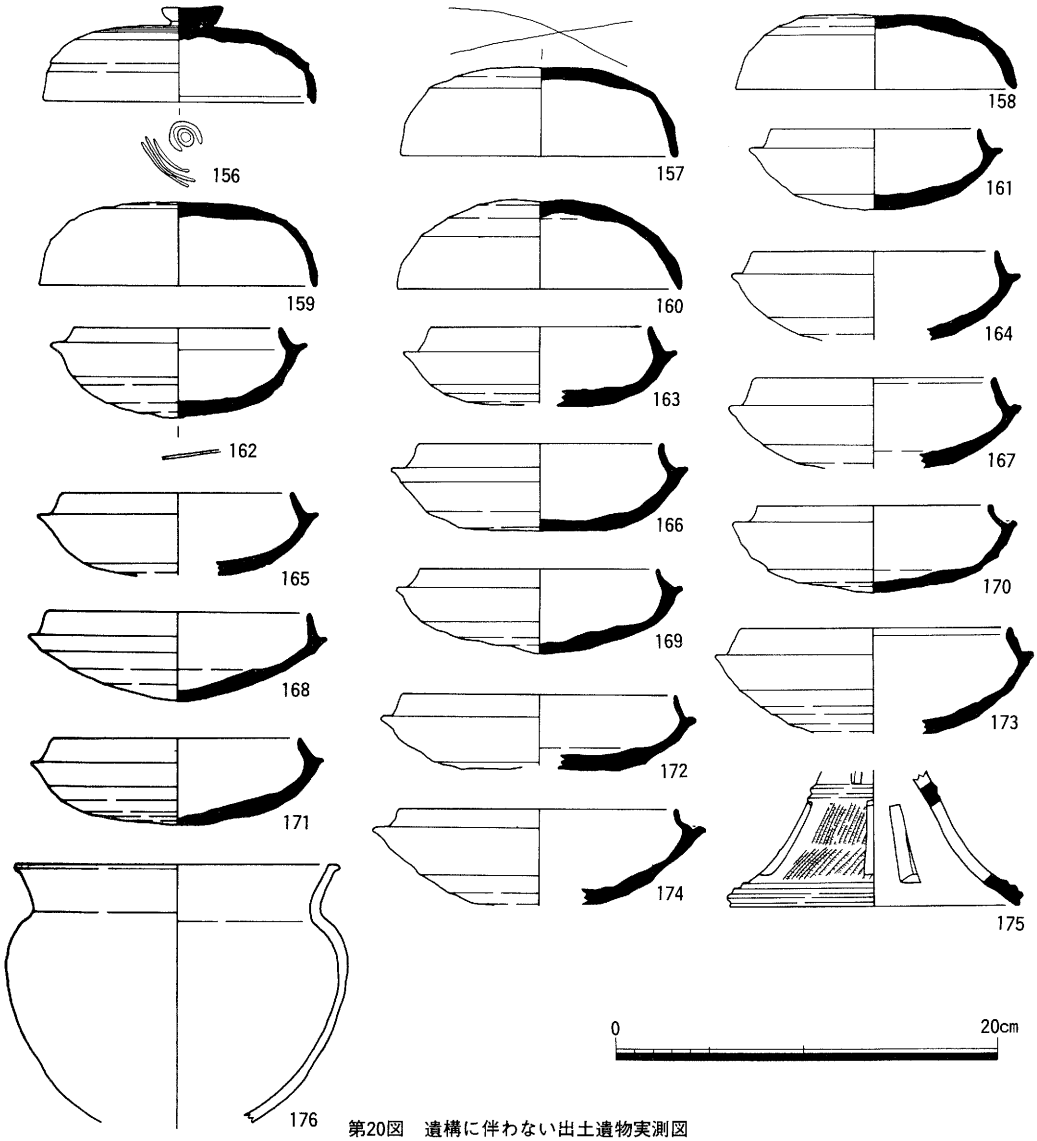
ＳＤ６の底面で検出した溝である。北部はＳＩ１に切られ、南部は途中で切れている。規模は検出部で、検出長1.8 m、幅20～30cm、深さ10cmを測る。断面は逆台形を呈し、内部には灰褐色粘質シルトが堆積している。遺物は出土していない。

2) 遺構に伴わない遺物

第５層と第６層内からコンテナ箱にして約２箱分が出土した。第５層からは奈良時代に比定され甕が１点出土しただけ、ほとんどの遺物は第６層内からの出土である。出土遺物には須恵

器・土師器がある。須恵器は陶邑編年によるⅡ型式１～４段階に相当するもので、土師器はこれに並行するものであろう。実測できたものは20点を数える。器種は須恵器杯蓋(156～160)・杯身(161～174)・高杯（175)・堤瓶・壺・土師器のミニチュア土器である。その他には、砥石片が１点出土している。大きさは縦5.3 ㎝、横3.5 ㎝、厚み1.5 ～2.5 ㎝を測る。色調は乳灰色である（第20図)。

また、調査区の北東隅での第５層内から奈良時代に比定される土師器の甕(176）である。



第20図　遺構に伴わない出土遺物実測図

第４節　出土遺物観察表

ＳＩ１

遺物番号 図版番号	器　種	法量（cm） 口径 器高	形態・調整等の特徴	色　調	胎　土	焼　成	備　考
1	杯蓋 （須恵器）	口　径　13.7 稜　径　12.7	天井部は欠損。口縁部は下外方へ下り、端部は内傾する面をもつ。稜は痕跡がある。 回転ナデ。	暗灰色	２㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
2	同上	口　径　16.4 口　径　15.2	天井部は欠損。口縁部は下外方へ下り、端部は丸い。稜は痕跡がある。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	青灰色	２㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
3 七	同上	口　径　15.2 器　高　4.5 稜　径　14.4 天井部高 1.9	やや低く丸みをもつ天井部から下外方へ下る口縁部に至る。端部は内傾する浅い凹面をもつ。稜は痕跡があり、下方に沈線が巡る。 天井部外面約1/5回転ヘラ削り、天井部内面円弧タタキ。他は回転ナデ。	外　灰色 内　青灰色	微砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。 ヘラ記号。
4	杯身 （須恵器）	口　径　12.6 立ち上がり高 1.1 受部径　15.2	底体部は欠損。受部は上外方へ伸び、端部は丸い。立ち上がりは上内方へ外反して伸び、端部は丸い。 回転ナデ。	暗灰色	４㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。 煤付着。
5	同上	口　径　12.3 立ち上がり高 1.2 受部径　15.2	底体部は欠損。受部は上外方へ伸び、端部は丸い。立ち上がりは内上方へ内湾気味に伸び、端部は丸い。 底体部外面1/4回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	青灰色	微砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
6	同上	口　径　14.0 立ち上がり高 1.8 受部径　16.2	底体部は欠損。受部は水平に伸び、端部は鈍く尖る。立ち上がりは上内方へ直線的に伸び、端部は内傾する面をもつ。 回転ナデ。	乳褐色	６㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ方向不明。
7	同上	口　径　13.4 立ち上がり高 1.1 受部径　16.0	底体部は欠損。受部は上外方へ伸び、端部は丸い。立ち上がりは内上方へ直線的に伸び、端部は内傾する面をもつ。 回転ナデ。	灰色	精良。	良好	ロクロ方向不明。
8 七	同上	口　径　13.7 器　高　5.1 立ち上がり高 1.6 受部径　16.8	やや深く丸みをもつ底体部から受部に至る。受部は外上方へ伸び、端部は丸い。立ち上がりは上内方へ外反気味に伸び、端部は丸い。 底体部外面1/5回転ヘラ削り、底体部内面中央部に円弧タタキ、他は回転ナデ。	乳灰褐色	3.5㎜以下の砂粒を多量に含む。	良好	ロクロ左方向。
9	同上	口　径　16.4 立ち上がり高 1.4 受部径　18.0	底体部は欠損。受部は上外方へ伸び、端部は丸い。立ち上がりは直立して伸び、端部は鈍く尖る。 回転ナデ。	白灰色	細砂粒を少量含む。	良好	ロクロ方向不明。
10	瓶 （須恵器）	口　径　14.6	口縁部は２段に屈曲して外上方へ伸びる。端部は丸い。屈曲部外面に２条の凸線が巡る。 回転ナデ。	灰色	微砂粒を少量含む。	良好	ロクロ方向不明。 自然釉。
11	甕 （土師器）	口　径　16.6	直立気味に内湾して伸びる体部から緩やかに屈曲し、斜上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、内面ハケナデ、体部外面ヘラナデ、内面ヘラ削り。	淡灰褐色	4.0㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
12	同上	口　径　14.2	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部はわずかにつまみ上げる。 内外面ヘラナデ。	外　茶灰褐色 内　暗茶褐色	1.0㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	煤付着。

ＳＫ１

遺物番号 図版番号	器　種	法量　口径 (cm)　器高	形態・調整等の特徴	色　調	胎　土	焼　成	備　考
13 七	杯蓋 (須恵器)	口　径　13.8 器　高　4.1 稜　径　12.8 天井部高 2.2	やや低く丸みをもつ天井部から下外方へ下る口縁部に至る。端部は内傾する浅い凹面をもつ。稜は痕跡があり、下方に浅い沈線が巡る。 天井部外面1/4回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	暗灰青褐色	3mm以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
14 七	同上	口　径　14.2 稜　径　13.4	やや高く丸みをもつ天井部から下外方へ下る口縁部に至る。端部は内傾する浅い凹面をもつ。稜は鈍く尖る。天井部の一部は欠損。 天井部外面1/3回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	乳灰色	3mm以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
15 七	同上	口　径　14.6 器　高　4.8 稜　径　14.2 天井部高 2.6	やや高く丸みをもつ天井部から下外方へ下る口縁部に至る。端部は内傾する浅い凹面をもつ。稜は痕跡がみられる。 天井部外面1/3回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	外　乳灰色 内　淡乳灰褐色	5mm以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
16 七	同上	口　径　14.4 器　高　4.1	やや低く丸みをもつ天井部から下外方へ内湾気味に下る口縁部に至る。端部は内傾する凹面をもつ。稜はない。 天井部外面3/4回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰色	3mm以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
17 七	同上	口　径　14.4 器　高　4.6 稜　径　13.2 天井部高 2.2	やや高く丸みをもつ天井部から下外方へ下る口縁部に至る。端部は内傾する凹面をもつ。稜は痕跡がある。 天井部外面1/3回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	乳灰色	4mm以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
18 七	同上	口　径　14.8 器　高　4.9	やや高い丸みをもつ天井部から下外方へ下る口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。稜は痕跡がみられる。 天井部外面1/3回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	外　乳灰褐色 内　乳灰色	2mm以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。 ヘラ記号。
19 八	杯身 (須恵器)	口　径　12.0 器　高　4.3 立ち上がり高 1.1 受部径　14.4	やや浅く丸い底体部から受部に至る。受部は外上方へ伸び、端部は鈍く尖る。立ち上がりは上内方へ直線的に伸び、端部は丸い。 底体部外面約1/2回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	外　乳灰褐色 内　乳灰色	3mm以下の長石・石英等の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
20 八	同上	口　径　12.0 器　径　4.3 立ち上がり高 1.1 受部径　14.4	やや深く丸い底体部か受部に至る。受部は水平に伸び、端部は鈍く尖る。立ち上がりは上内方へ直線的に伸び、端部は内傾する面をもつ。 底体部外面1/2回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡青灰色	2.5mm以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。 煤付着。
21 八	同上	口　径　12.7 器　高　5.2 立ち上がり高 1.4 受部径　7.5	やや浅く丸みをもつ底体部から受部に至る。受部は外上方へ伸び、端部は丸い。立ち上がりは内上方へ外反して伸び、端部は丸い。 底体部外面約2/5回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	外　乳灰色 内　乳灰褐色	3mm以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
22 八	同上	口　径　12.6 器　高　4.3 立ち上がり高 1.1 受部径　15.2	やや深く丸い底体部から受部に至る。受部はほぼ水平に伸び、端部は鈍く尖る。立ち上がり上内方へ外反気味に伸び、端部は内傾する面をもつ。底部の一部は欠損。 底体部外面1/2回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡青灰色	4mm以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。 灰かぶり。
23	同上	口　径　13.2 器　高　5.0 立ち上がり高 1.4 受部径　16.0	やや深く丸みをもつ底体部から受部に至る。受部はほぼ水平に伸び。端部は丸い。立ち上がりは上内方へ外反気味に伸び、端部は内傾する面をもつ。底部の一部は欠損。 底体部外面2/5回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	外　乳褐色 内　淡灰褐色	4mm以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。

遺物番号 図版番号	器　種	法量 (cm)　口径 器高	形態・調整等の特徴	色　調	胎　土	焼　成	備　考
24 八	杯良 (須恵器)	口　径　14.1 立ち上がり高 1.5 受部径　16.6	やや浅く丸みをもつ底体部から受部に至る。受部は上外方へ伸び、端部は尖る。立ち上がりは上内方へ外反気味に伸び、端部は内傾する浅い凹面をもつ。底部の一部は欠損。 底体部外面約1/5回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	白灰色	細砂粒を少量含む。	良好	ロクロ方向不明。
25 八	無蓋高杯 (須恵器)	口　径　13.0 器　高　9.3 底部径　9.1	やや深く丸みをもつ杯底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は下方へ外反した後、端部付近で内湾して下る。端部は丸い。脚部上位に長方形の2方スカシを有する。 杯底部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰青色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。

ＳＫ５

遺物番号 図版番号	器　種	法量 (cm)　口径 器高	形態・調整等の特徴	色　調	胎　土	焼　成	備　考
26	杯蓋 (須恵器)	口　径　14.4 稜　径　13.4	天井部は欠損。口縁部は下外方へ内湾気味に下り、端部は内傾する凹面をもつ。稜は痕跡がみられ、下方に沈線が巡る。 天井部外面約1/3回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	青灰色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
27	同上	口　径　13.6 稜　径　13.4	天井部は欠損。口縁部は下外方へ内湾気味に下り、端部は内傾する浅い凹面をもつ。稜は痕跡がみられる。 回転ナデ。	乳灰色	微砂粒を少量含む。	良好	ロクロ方向不明。
28	同上	口　径　12.8 稜　径　13.4	天井部は欠損。口縁部は下外方へ下り、端部は内傾する浅い段をもつ。稜は痕跡がみられる。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	乳灰色	微砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
29	杯身 (須恵器)	口　径　14.4 立ち上がり高 1.1 受部径　15.0	底部は欠損。受部は上外方へ伸び、端部は丸い。立ち上がりは上内方へ外反気味に伸び、端部は丸い。 回転ナデ。	灰色	2㎜以下の砂粒を多量含む。	良好	ロクロ左方向。

ＳＫ７

遺物番号 図版番号	器　種	法量 (cm)　口径 器高	形態・調整等の特徴	色　調	胎　土	焼　成	備　考
30 八	杯蓋 (須恵器)	口　径　14.4 器　高　3.7	低く上面凹状である天井部から下外方へ下る口縁部に至る。端部は丸い。稜はない。 天井部外面約1/4回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	外　暗灰色 内　灰色	微砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
31	杯身 (須恵器)	口　径　13.8 立ち上がり高 1.4 受部径　16.0	底部の一部は欠損。やや浅く平らな底体部から受部に至る。受部は水平に伸び、端部は尖る。立ち上がりは上内方へ直線的に伸び、端部は丸い。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。 灰かぶり。
32	同上	口　径　12.0 立ち上がり高 1.4 受部径　14.2	底体部は欠損。受部は上外方へ伸び、端部は丸い。立ち上がりは上内方へ外反して伸び、端部は丸い。 底体部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。 灰かぶり。
33 八	同上	口　径　12.6 器　高　4.3 立ち上がり高 1.3 受部径　15.4	やや浅く丸みがある底体部から受部に至る。受部は外上方へ伸び、端部は丸い。立ち上がりは上内方へ外反気味に伸び、端部は丸い。 底体部外面約1/5回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰色	微砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。

ＳＫ８

遺物番号 図版番号	器　種	法量（cm） 口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
34	杯蓋 （須恵器）	口　径　14.0 器　高　3.9 稜　径　13.2 天井部高 1.8	低くやや丸みをもつ天井部から下外方へ下る口縁部に至る。端部は内傾する凹面をもつ、稜は痕跡がみられる。 天井部外面約2/5回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	外　淡灰色 内　青灰色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
35	同上	口　径　14.0 稜　径　12.0	天井部は欠損。天井部から下外方へ内湾気味に下る口縁部に至る。端部は丸い。稜は痕跡がみられる。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。 灰かぶり。

ＳＤ１

遺物番号 図版番号	器　種	法量（cm） 口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
36 九	杯蓋 （須恵器）	口　径　15.6 器　高　5.0 稜　径　14.8 天井部高 2.9	やや高く丸みをもつ天井部から下外方へ下る口縁部に至る。端部は鈍く尖る。稜は痕跡がみられる。 天井部外面約1/3回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡青灰色	長石・チャート等の細砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。 ヘラ記号。 灰かぶり。
37 九	同上	口　径　14.7 器　高　4.9 稜　径　14.0 天井部径 2.9	高く丸い天井部から下外方へ下る口縁部に至る。端部は内傾する浅い凹面をもつ。稜は痕跡がみられる。下方に沈線が巡る。 天井部外面1/2回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	外　灰青色 内　淡青灰色	4㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。 灰かぶり。
38 九	同上	口　径　14.0 器　高　4.6 稜　径　12.8 天井部径 2.5	やや高く丸い天井部から下外方へ下る口縁部に至る。端部は内傾する浅い凹面をもつ。稜は痕跡がみられる。 天井部外面約1/5回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰白色	長石等の微砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
39	同上	口　径　14.0 稜　径　13.2	天井部は欠損。口縁部は下外方へ下り、端部は内傾する凹面をもつ。稜は痕跡がみられる。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰色	4㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ方向不明。
40	同上	口　径　14.0	やや低く丸みをもつと思われる天井部から下外方へ下る口縁部に至る。端部は丸い。稜はわずかに痕跡がみられる。天井部の一部は欠損。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	青灰色	長石等の細砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
41	同上	口　径　13.4 稜　径　12.5	低くやや丸みをもつと思われる天井部から下外方へ下る口縁部に至る。端部は内傾する凹面をもつ。稜は痕跡がみられる。天井部の一部は欠損。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰色	4㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
42	同上	口　径　13.8 稜　径　12.6	天井部は欠損。口縁部は下外方へ下り、端部は内傾する浅い凹面をもつ。稜は痕跡があり、下方に浅い沈線が巡る。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰色	2.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ方向不明。
43	同上	口　径　15.0	やや高く丸みをもつと思われる天井部から下外方へ内湾気味に下る口縁部に至る。端部は下方に浅い凹面をもつ。稜はわずかに痕跡がみられる。天井部の一部は欠損。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡青色	1㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。

遺物番号 図版番号	器　　種	法量　口径 (cm)　器高	形態・調整等の特徴	色　　調	胎　　土	焼　成	備　　考
44	杯蓋 (須恵器)	口　径　13.8 稜　径　12.6	やや低く丸いをもつと思われる天井部から内湾気味に下外方へ下る口縁部に至る。端部は内傾する浅い凹面をもつ。稜は痕跡がみられる。天井部の一部は欠損。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
45	同上	口　径　13.4 器　高　3.6 稜　径　12.6 天井部高 1.5	やや低く平らに近い天井部から下外方へ下る口縁部に至る。端部は内傾する凹面をもつ稜は痕跡がみられ、下方に沈線が巡る。天井部の一部は欠損。 天井部外面約1/2回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰色	4㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
46 九	同上	口　径　14.3 器　高　4.4 天井部高 2.4	やや高く丸みをもつ天井部から下外方へ下る口縁部に至る。端部は内傾する浅い凹面をもつ。稜はわずかに痕跡がみられる。 底体部外面約1/3回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰褐色	7㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
47	同上	口　径　14.0 器　高　4.4 稜　径　13.0 天井部　2.1	やや低く丸みをもつ天井部から下外方へ内湾気味に下る口縁部に至る。端部は内傾する凹面をもつ。稜は痕跡がみられる。 底体部外面約4/7回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰色	2.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。 ヘラ記号。
48 九	同上	口　径　15.6 器　高　5.0 天井部高 2.7	高く丸い天井部から下外方へ下る口縁部に至る。端部は内傾する浅い凹面をもつ。稜はわずかに痕跡がみられる。 天井部外面約2/3回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	青灰色	長石等の細砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
49	同上	口　径　13.2 器　高　4.4 天井部高 2.7	やや高く丸い天井部から下外方へ内湾気味に下る口縁部に至る。端部は内傾する浅い凹面をもつ。稜はわずかに痕跡がみられる。 天井部外面約1/3回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰褐色	2.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。 煤付着。
50	同上	口　径　12.2	高く丸みをもつ天井部から下外方へ下る口縁部に至る。端部は内傾する浅い凹面をもつ。稜はわずかに痕跡がみられる。天井部の一部は欠損。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	乳灰色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
51	同上	口　径　13.4	やや高く丸みをもつと思われる天井部から下外方へ垂直に下る口縁部に至る。端部は内傾する浅い凹面をもつ。稜はわずかに痕跡がみられる。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰色	長石・チャート等の細砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
52	同上	口　径　14.4	天井部は欠損。口縁部は下外方へ下り、端部は内傾する浅い凹面をもつ。稜はない。 回転ナデ。	外　暗灰色 内　乳灰白色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
53 九	同上	口　径　14.6	やや高く丸みをもつと思われる天井部から下外方へ内湾気味に下る口縁部に至る。端部は内傾する段をもつ。稜はわずかに痕跡がみられる。天井部の一部は欠損。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰褐色	長石等の微砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
54 九	同上	口　径　15.3	高く丸い天井部から下外方へ下る口縁部に至る。端部は内傾する凹面をもつ。稜はない。天井部の一部は欠損。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	暗灰色	細砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
55 九	同上	口　径　14.7	やや高く丸みをもつ天井部から下外方へ垂直気味に下る口縁部に至る。端部は内傾する浅い凹面をもつ。稜はない。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰白色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。

遺物番号 図版番号	器　種	法量（cm）　口径 器高	形態・調整等の特徴	色　調	胎　土	焼　成	備　考
56	杯蓋 （須恵器）	口　径　15.3 器　高　4.4	低く丸みをもつ天井部から下外方へ下る口縁部に至る。端部は内傾する浅い凹面をもつ。稜はない。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰青色	１mm以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
57 —○	同上	口　径　13.8 器　高　4.2	やや高く丸い天井部から下外方へ下る口縁部に至る。端部は内傾する段をもつ。稜はない。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰白色	３mm以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
58 —○	同上	口　径　13.8 器　高　4.0	やや高く丸みをもつ天井部から下外方へ下る口縁部に至る。端部は内傾する段をもつ。稜はない。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰色	精良。	良好	ロクロ方向不明。
59	同上	口　径　14.2	やや高く丸みをもつ天井部から下外方へ下る口縁部に至る。端部は内傾する段をもつ。稜はない。天井部の一部は欠損。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	乳灰白色	１mm以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
60 —○	同上	口　径　14.8 器　高　4.4	高く丸い天井部から下外方へ下る口縁部に至る。端部は内傾する浅い凹面をもつ。稜は、ない。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰青色	長石・チャート等の細砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
61 —○	同上	口　径　15.2 器　高　4.1	低く丸い天井部から下外方へ下る口縁部に至る。端部は内傾する浅い凹面をもつ。稜はない。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	乳灰色	長石・チャート等の細砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
62 —○	同上	口　径　14.9 器　高　4.3	やや高く丸みをもつ天井部から下外方へ内湾気味に下る口縁部に至る。端部は内傾する浅い凹面をもつ。稜はない。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰色	精良。	良好	ロクロ右方向。
63	同上	口　径　14.6	天井部は欠損。口縁部は下外方へ下り、端部は丸い。稜はない。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	外　淡黒灰色 内　淡灰色	１mm以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
64	同上	口　径　14.1	天井部は欠損。口縁部は下外方へ下り、端部付近で肥厚し、端部は鈍く尖る。稜はない。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	青灰色	３mm以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
65 —○	同上	口　径　15.2 器　高　4.1	やや高く丸みをもつ天井部から下外方へ下る口縁部に至る。端部は丸い。稜はない。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰色	長石等の細砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。 灰かぶり。
66	同上	口　径　11.8 器　高　3.7 稜　径　11.2 天井部高　1.7	やや低く平らと思われる天井部から下外方へ垂直気味に下る口縁部に至る。端部は内傾する凹面をもつ。稜は痕跡がみられる。天井部の一部は欠損。 天井部外面1/3回転ヘラ削り・刺突文。他は回転ナデ。	淡青灰色	2.5mm以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
67	同上	口　径　16.8 器　高　4.0 稜　径　15.9 天井部高　1.1	凹面で低い天井部から下外方へ内湾気味に下る口縁部に至る。端部は内傾する凹面をもつ。稜は痕跡がみられ、下方に沈線がある。 天井部外面約1/6回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	青灰色	長石等の細砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
68 —○	同上	口　径　15.8 器　高　3.9 稜　径　13.8 天井部高　1.8	やや低く凹面をもつ天井部から下外方へ下る口縁部に至る。端部は鈍く尖る。稜は痕跡がみられ、下方に浅い沈線がある。 天井部外面1/6回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰色	長石等の細砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。 自然釉。

遺物番号 図版番号	器　種	法量 (cm)　口径 器高	形態・調整等の特徴	色　調	胎　土	焼成	備　考
69 —○	杯蓋 (須恵器)	口　径　15.6 器　高　4.4	低く凹面をもつ天井部から下外方へ垂直気味に下る口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。稜はわずかに痕跡がみられる。 天井部外面約1/2回転ヘラ削り、内面中央に同心円タタキ、他は回転ナデ。	淡青灰色	長石・チャート等の細砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
70	同上	口　径　14.2 器　高　3.9 天井部高 1.6	やや低く、平らと思われる天井部から下外方へ垂直気味に下る口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。稜はわずかに痕跡がみられる。天井部の一部は欠損。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰色	長石等の細粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
71 ——	杯身 (形恵器)	口　径　11.8 器　高　4.7 立ち上がり高 1.2 受部径　14.0 底体部高 3.5	やや深く平らな底体部から受部に至る。受部は外上方へ伸び、端部は丸い。立ち上がりは上内方へ外反気味に伸び、端部は丸い。 底体部外面約1/7回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰褐色	2㎜以下の細砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。 灰かぶり。
72 ——	同上	口　径　12.4 器　高　4.6 立ち上がり高 1.2 受部径　14.0 底体部高 3.4	やや深く丸みをもつ底体部から受部に至る。受部は外上方へ伸び、端部は丸い。立ち上がりは上内方へ直線的に伸び、端部は丸い。 底体部外面約1/2回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰色	0.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
73	同上	口　径　12.0 立ち上がり高 1.1 受部径　14.4	底体部は欠損。受部は上外方へ伸び、端部は丸い。立ち上がりは上内方へ外反して伸び、端部は丸い。 回転ナデ。	外　灰青色 内　灰褐色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
74	同上	口　径　13.8 器　高　4.8 立ち上がり高 1.0 受部高　16.2 底体部高 3.8	やや深く丸みをもつ底体部から受部に至る。受部は上外方へ伸び、端部は丸い。立ち上がりは上内方へ伸び、端部は丸い。 底体部外面約2/7回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰色	長石等の細砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。 ヘラ記号。
75	同上	口　径　13.5 立ち上がり高 1.0 受部径　16.0	受部は欠損。受部は外上方へ伸び、端部は丸い。立ち上がりは上内方へ外反気味に伸び、端部は丸い。 底体部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰青色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
76	同上	口　径　11.4 立ち上がり高 1.2 受部径　14.2	やや深く丸みをもつ底体部から受部に至る。受部は外上方へ伸び、端部は丸い。立ち上がりは上内方へ外反気味に伸び、端部は丸い。底部の一部は欠損。 底体部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	青灰色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。 煤付着。
77 ——	同上	口　径　12.8 立ち上がり高 1.1 受部径　15.6	深く丸いと思われる底体部から受部に至る。受部は外上方へ伸び、端部は鈍い。立ち上がりは上内方へ外反気味に伸び、端部は丸い。底部の一部は欠損。 底体部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	青灰色	5㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。 灰かぶり。
78	同上	口　径　14.2 立ち上がり高 1.2 受部径　17.2	やや深く丸みをもつと思われる底体部から受部に至る。受部は外上方へ伸び、端部は丸い。立ち上がりは上内方へ外反気味に伸び、端部は丸い。底部の一部は欠損。 底体部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰褐色	長石等の細砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。 煤付着。
79 ——	同上	口　径　13.4 器　高　4.9 立ち上がり高 1.3 受部径　15.6 底体部高 3.6	やや深く丸みをもつ底体部から受部に至る。受部は外上方へ伸び、端部は鈍い。立ち上がりは上内方へ外反して伸び、端部は丸い。 底体部外面約2/3回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	青灰色	長石等の細砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。

遺物番号 図版番号	器　種	法量（cm） 口径 器高	形態・調整等の特徴	色　調	胎　土	焼　成	備　考
80 ———	杯身 （須恵器）	口　径　13.4 器　高　4.7 立ち上がり高 1.5 受部径　15.8 底体部高 3.5	やや深く丸みをもつ底体部から受部に至る。受部は外上方へ伸び、端部は鈍い。立ち上がりは上内方へ外反して伸び、端部は丸い。 底体部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	乳灰色	長石・チャート等の細砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
81 ———	同上	口　径　13.6 器　高　4.8 立ち上がり高 1.2 受部径　16.0 底体部高 3.6	やや深く丸みをもつ底体部から受部に至る。受部は水平に伸び、端部は鈍い。立ち上がりは上内方へ外反気味に伸び、端部は鈍く尖る。 底体部1/3外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	青灰色	長石等・チャート等の細砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
82	同上	口　径　13.0 立ち上がり高 1.2 受部径　15.2	底体部は欠損。受部は断面三角形を呈し、端部は丸い。立ち上がりは上内方へ外反気味に伸び、端部は鈍い。 底体部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	乳灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
83 ———	同上	口　径　14.1 器　高　4.5 立ち上がり高 1.0 受部径　17.2 底体部高 3.5	やや深く丸みをもつ底体部から受部に至る。受部は水平に伸び、端部は鈍く尖る。立ち上がりは上内方へ外反気味に伸び、端部は丸い。 底体部外面約1/3回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	外　青灰色 内　淡灰青褐色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。 灰かぶり。
84 ———	同上	口　径　12.4 器　高　4.5 立ち上がり高 1.0 受部径　15.2 底体部高 3.4	やや深く丸みをもつ底体部から受部に至る。受部は水平に伸び、端部は鈍い。立ち上がりは上内方へ外反気味に伸び、端部は丸い。 底体部外面約1/3回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	青灰色	長石等の細砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。 煤付着。 灰かぶり。
85 —二	同上	口　径　13.6 器　高　4.7 立ち上がり高 1.1 受部径　16.0 底体部高 3.5	やや深く平らな底体部から受部に至る。受部は上外方へ伸び、端部は面をもつ。立ち上がりは上内方へ外反して伸び、端部は内傾する面をもつ。 底体部外面約1/3回転ヘラ削り、底体部内面円弧タタキ、他は回転ナデ。	淡灰色	長石等の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
86 —二	同上	口　径　13.4 立ち上がり高 1.2 受部径　16.0	やや深く丸みをもつと思われる底体部から受部に至る。受部は水平に伸び、端部は尖る立ち上がりは上内方へ外反気味に伸び、端部は内傾する浅い凹面をもつ。底部は欠損。 底体部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰色	3.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。 煤付着。
87 —二	同上	口　径　12.0 器　高　4.7 立ち上がり高 1.3 受部径　15.0 底体部高 3.4	やや深く丸みをもつ底体部から受部に至る。受部は外上方へ伸び、端部は鈍く尖る。立ち上がりは上内方へ外反気味に伸び、端部は丸い。 底体部外面約1/5回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	乳灰色	0.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
88	同上	口　径　12.8 器　高　4.5 立ち上がり高 1.0 受部径　15.2 底体部高 3.5	やや深く丸みをもつ底体部から受部に至る。受部は水平に伸び、端部は丸い。立ち上がりは上内方へ外反気味に伸び、端部は丸い。 底体部外面約1/4回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	青灰色	長石・チャート等の細砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。 灰かぶり。
89 —二	同上	口　径　12.6 器　高　4.9 立ち上がり高 1.2 受部径　15.0 底体部高 3.7	やや深く丸みをもつと思われる底体部から受部に至る。受部は水平に伸び、端部は鈍く尖る。立ち上がりは上内方へ外反して伸び、端部は丸い。 底体部外面約3/4回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰色	長石・チャート等の細砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
90 —二	同上	口　径　13.0 立ち上がり高 1.4 受部径　15.5	深く丸いと思われる底体部から受部に至る。受部は上外方へ伸び、端部は鈍い。立ち上がりは上内方へ外反気味に伸び、端部は丸い。底部の一部は欠損。 庭体部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。

遺物番号 図版番号	器　種	法量 (cm)　口径 器高	形態・調整等の特徴	色　調	胎　土	焼　成	備　考
91	杯身 (須恵器)	口　径　13.0 立ち上がり高 1.4 受部径　15.6	やや深く若干の丸みをもつ底体部から受部に至る。受部は水平に伸び、端部は鈍い。立ち上がりは上内方へ外反気味に伸び、端部は丸い。底部の一部は欠損。 底体部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰青色	長石等の細砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。 煤付着。
92	同上	口　径　14.2 立ち上がり高 1.3 受部径　16.8	底体部は欠損。受部は水平に伸び、端部は丸い。立ち上がりは上内方へ直線的に伸び、端部は丸い。 底体部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰褐色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。 煤付着。
93	同上	口　径　14.0 立ち上がり高 1.3 受部径　17.0	やや深く丸みをもつ底体部から受部に至る。受部は水平に伸び、端部は鈍い。立ち上がりは上内方へ外反気味に伸び、端部は鈍く尖る。底部の一部は欠損。 底体部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰色	長石等の細砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。 煤付着。
94 一二	同上	口　径　13.2 器　高　4.8 立ち上がり高 1.3 受部径　16.0 底体部高 3.4	浅く丸い底体部から受部に至る。受部は上外方へ伸び、端部は丸い。立ち上がりは上内方へ外反気味に伸び、端部は内傾する浅い凹面をもつ。 底体部外面3/5回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	青淡灰色	長石・チャート等の細砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
95	同上	口　径　12.6 立ち上がり高 1.2 受部径　15.4	底体部は欠損。受部は上外方へ伸び、端部は鈍い。立ち上がりは上内方へ伸び、端部は内傾する浅い凹面をもつ。 回転ナデ。	淡灰色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ方向不明。
96	同上	口　径　11.9 器　高　4.0 立ち上がり高 1.0 受部径　14.2 底体部高 3.0	やや深く平らな底体部から受部に至る。受部は外上方へ伸び、端部は丸い。立ち上がりは上内方へ直線的に伸び、端部は丸い。 底体部外面約1/3回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	外　暗灰褐色 内　暗灰色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。 自然釉。
97	同上	口　径　12.2 器　高　4.0 立ち上がり高 1.0 受部径　14.8 底体部高 3.0	やや深く平らな底体部から受部に至る。受部は外上方へ伸び、端部は丸い。立ち上がりは上内方へ外反気味に伸び、端部は丸い。 底体部外面約1/3回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	乳青灰色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。 煤付着。
98 一二	同上	口　径　13.0 器　高　4.4 立ち上がり高 1.3 受部径　15.6 底体部高 3.2	やや深く凹面をもつ底体部から受部に至る。受部は外上方へ伸び、端部は丸い。立ち上がりは上内方へ外反気味に伸び、端部は丸いゐ底部の一部は欠損。 底体部外面約1/4回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰色	2.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
99	同上	口　径　13.8 器　高　4.5 立ち上がり高 1.4 受部径　15.8 底体部高 3.1	浅く平らな底体部から受部に至る。受部は外上方へ伸び、端部は鈍く尖る。立ち上がりは上内方へ伸び、端部は鈍く尖る。底部の一部は欠損。 底体部外面約1/3回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	乳灰褐色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
100	同上	口　径　14.2 器　高　4.3 立ち上がり高 1.2 受部径　16.6 底体部高 3.1	やや深く平らに近い底体部から受部に至る。受部は外上方へ伸び、端部は丸い。立ち上がりは上内方へ直線的に伸び、端部は丸い。 底体部外面約1/3回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	外　淡灰青色 内　灰褐色	長石等の細砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。 煤付着。
101	同上	口　径　13.2 器　高　4.5 立ち上がり高 1.5 受部径　18.4 底体部高 3.0	やや深く平らな底体部から受部に至る。受部は水平に伸び、端部は丸い。立ち上がりは上内方へ外反気味に伸び、端部は丸い。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰色	長石・チャート等の細砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。

遺物番号 図版番号	器　種	法量（cm）　口径 器高	形態・調整等の特徴	色　調	胎　土	焼　成	備　考
102 一二	杯身 （須恵器）	口　径　13.2 器　高　4.8 立ち上がり高 1.4 受部径　16.0 底体部高 3.4	やや浅く平らな底体部から受部に至る。受部は外上方へ伸び、端部は鈍い。立ち上がりは上内方へ直線的に伸び、端部は内傾する面をもつ。 底体部外面約1/4回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	乳灰色	長石・チャート等の細砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
103	同上	口　径　3.8 器　高　3.6 立ち上がり高 1.4 受部径　16.6 底体部高 2.0	深く平らな底体部から受部に至る。受部は断面三角形を呈し、端部は鈍い。立ち上がりは上内方へ外反して伸び、端部は丸い。 底体部外面約1/3回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	外　緑灰色 内　青灰色	１㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
104 一三	同上	口　径　14.4 器　高　4.6 立ち上がり高 1.5 受部径　17.0 底体部高 3.0	やや深く凹面の底体部から受部に至る。受部は水平に伸び、端部は鋭い。立ち上がりは上内方へ直線的に伸び、端部は丸い。 底体部外面約1/3回転ヘラ削り、底体部内面円弧タタキ、他は回転ナデ。	淡灰褐色	微砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
105	同上	口　径　12.0 立ち上がり高 1.3 受部径　14.6	底体部は欠損。受部は水平に伸び、端部は丸い。立ち上がりは上内方へ外反気味に伸び端部は丸い。 底体部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰色	２㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。 煤付着。
106	同上	口　径　12.4 立ち上がり高 1.2 受部径　15.2	底体部は欠損。受部は水平に伸び、端部は丸い。立ち上がりは上内方へ外反気味に伸び端部は丸い。 回転ナデ。	灰青色	2.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。 灰かぶり。
107	同上	口　径　14.4 立ち上がり高 1.1 受部径　16.8	底体部は欠損。受部は水平に伸び、端部は丸い。立ち上がりは上内方へ直線的に伸び、端部は丸い。 底体部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰褐色	微砂粒を少量含む。	良好	ロクロ方向不明。
108	同上	口　径　14.4 立ち上がり高 1.3 受部径　16.8	底体部は欠損。受部は水平に伸び、端部は丸い。立ち上がりは上内方へ直線的に伸び、端部は丸い。 回転ナデ。	乳灰色	３㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
109 一三	同上	口　径　13.4 器　高　3.9 立ち上がり高 1.8 受部径　15.9 底体部高 2.1	やや浅い底体部から受部に至る。受部は水平に伸び、端部は鈍く尖る。立ち上がりは上内方へ伸び、端部は尖る。 底体部外面3/7回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰青色	長石・チャート等の細砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
110 一三	蓋付高杯 （須恵器）	口　径　13.6 立ち上がり高 1.4 杯部径　16.0 杯部高　5.3	丸みをもつ杯底部から受部に至る。受部は水平に伸び、端部は鈍く尖る。立ち上がりは上内方へ外反気味に伸び、端部は丸い。脚部は欠損。 杯底部外面約1/3回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	青灰色	長石等の細砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
111	高杯 （須恵器）	底　径　8.0	杯部は欠損。脚部は下外方へ下る。端部は下方に面をもつ。脚部には長方形の三方スカシが穿かれている。 回転ナデ。	青灰色	２㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
112	同上	底　径　12.7	口縁部は上外方へ外反して伸びる。端部は外に肥厚する。体部は欠損。 脚部は回転ナデ。	灰青色	２㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
113	壺 （須恵器）	口　径　12.4	口縁部は上外方へ外反して伸びる。端部は外に肥厚する。体部は欠損。 口縁部外面回転カキ目、他は回転ナデ。	灰色	0.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ方向不明。

遺物番号 図版番号	器　種	法量 (cm)　口径 器高	形態・調整等の特徴	色　調	胎　土	焼　成	備　考
114	壺 (須恵器)	口　径　16.6	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は若干下方へ肥厚する。体部は欠損。 口縁部外面タタキ後回転カキ目、内面回転ナデ。	灰色	4㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ方向不明。
115 一三	器台 (須恵器)	口　径　30.8	杯部は欠損。脚部は下外方へ伸びた後屈曲して直下する。端部は内傾する深い凹面をもつ。脚部には三段のスカシ（上は二段の長方形、下は一段の三角形）が施されている。また、三角形スカシとの間に2条、屈曲部に1条の鈍い稜がめぐる。中央のスカシに2条（3本）、下段のスカシに2条（3本・4本）端部付近に1条（4本）の波状文を施す。 外面回転カキ目・回転ナデ、内面回転ナデ。	外　淡灰青色 内　灰青色	精良。	良好	ロクロ方向不明。
116 一三	壺 (須恵器)	口　径　14.3 最大径　27.0	中位より上に最大径をもつ球形に近い体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は若干外方に肥厚し、丸い。底部の一部は欠損。 口縁部内外面回転ナデ、体部外面タタキ（上位は平行、下位は格子）後停止ハケナデ内面同心円タタキ後停止ナデ。	外　乳灰褐色 内　灰褐色	精良。	良	ロクロ方向不明。
117	鉢 (土師器)	口　径　10.0	偏平な半球形の体部から緩やかに屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。底部は欠損。 口縁部外面ナデ、内面ヨコナデ、体部外面上位～中位ナデ、下位ヘラミガキ、内面上位ヨコナデ、中位以下ナデ。	暗灰褐色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
118 一三	同上	口　径　17.2 器　高　13.5	半楕円形に近い体部からそのまま口縁部に至る。端部は丸い。底部は突出しない平底。 口縁部外面ナデ、内面ヨコナデ、体部外面上位～中位ナデ・下位ヘラミガキ、内面上位ヨコナデ、中位以下ナデ。	暗灰褐色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
119	甑 (土師器)	底　径　14.4	底部からほぼ直上へ伸びる体部で、口縁部は欠損。体部中位には左右一対の取手を付く。取手は上方に湾曲する舌形である。底部は平底で、穿孔をもつと思われるが欠損で不明。 体部外面ナデ・ヘラナデ、内面ヘラナデ後ナデ、底部ヘラ削り。	乳褐色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
120	同上	底　径　10.4	底部は平底で中央に円形の穿孔、三方に楕円形の穿孔を有する。体部・口縁部は欠損。 底部外面ヘラ削り、内面ヘラ削り・指頭痕。	淡灰褐色	細砂粒を少量含む。	良好	煤付着。
121 一四	同上	徒　径　10.3	体部は上外方へ直線的に伸び、3箇所円孔（7×7㎜）が認められる。口縁部は欠損。底部は半底で、中央に円形の穿孔、三方に楕円形の穿孔を有する。 体部外面ナデ、内面ヘラ削り。	淡灰褐色	0.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	煤付着。
122	羽釜 (土師器)	鍔　径　25.4	体部は長胴形である。鍔部はやや外上方へ伸び、端部は丸い。口縁部・底部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ、鍔部ヨコナデ、体部外面ハケナデ、内面指ナデ。	淡灰褐色	細砂粒を少量含む。	良好	
123 一四	同上	口　径　19.2 鍔　径　23.8	体部は欠損。鍔部は水平に伸び、端部は丸い。口縁部は斜上方へ伸び、端部は丸い。口縁部内外面に接合痕一条がみられる。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ、鍔部ヨコナデ、体部外面ハケナデ、内面ナデ。	灰褐色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器　種	法量（cm）　口径 器高	形態・調整等の特徴	色　調	胎　土	焼　成	備　考
124 一四	羽釜 （土師器）	口　径　20.5 鍔　径　25.4	体部下位は欠損。鍔部はやや外上方へ伸び端部は丸い。口縁部は斜上方へ伸び、端部は若干つまみ上げ、外に面をもつ。口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ、鍔部ヨコナデ、体部外面ハケナデ、内面ナデ。	淡灰茶褐色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
125	同上	口　径　27.8	鍔部は水平に伸び、端部は丸い。体部・口縁部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、内面ハケナデ、鍔部ヨコナデ、体部内面ナデ。	淡灰褐色	角閃石・長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	
126 一四	同上	口　径　21.4 鍔　径　26.1	体部は欠損。鍔部は上外方へ伸び、端部は丸い。口縁部は上外方へ伸び、端部は若干つまみ上げ、外に面をもつ。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ、鍔部ヨコナデ、体部外面ハケナデ、内面ナデ。	淡灰褐色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
127	甕 （土師器）	口　径　15.4	上内方へ内湾気味に伸びる体部から緩やかに屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は若干上につまむ。頸部外面ハケナデ、内面ヘラ削り。	淡灰褐色	1㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
128	同上	口　径　14.5	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ後ナデ体部外面ハケナデ、内面不明。	暗茶褐色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
129	同上	口　径　11.2	上外方へ内湾して伸びる体部から緩やかに屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。体部中位以下は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ。体部外面ハケナデ、内面ヘラ削り。	灰褐色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
130 一四	同上	口　径　17.0	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ、体部外面ハケナデ、内面ヘラ削り。	淡灰褐色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	変色。 煤付着。
131	同上	口　径　26.0	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げ、外に面をもつ。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、内面ヨコナデ後ハケナデ、体部外面上位細かいハケナデ、下位荒いハケナデ、内面上位ヨコナデ・下位ハケナデ。	乳灰褐色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
132	同上	口　径　13.0	上内方へ内湾して伸びる体部から緩やかに屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。体部中位以下は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ヘラナデ、体部外面ヘラナデ後ナデ、内面ヘラ削り。	暗灰褐色	4㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	煤付着。
133	同上	口　径　13.4	上内方へ内湾して伸びる体部から緩やかに屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部下位は欠損。体部外面上位には接合痕一条がみられる。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヘラナデ、内面ヘラ削り。	乳灰褐色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	煤付着。
134	同上	口　径　17.0	上内方へ内湾気味に伸びる体部から緩やかに屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は若干つまみ上げる。体部下位は欠損。体部内面の上位には接合痕一条がみられる。 体部外面摩滅の為不明。口縁部内面ヨコナデ、体部内面ナデ。	赤茶色	微砂粒を少量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種	法量(cm)	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
136 一四	杯蓋 (須恵器)	口径 11.0 器高 3.3 天井部高 1.7	低く丸みをもつ天井部から下外方へ下る口縁部に至る。端損は内傾する浅く凹面をもつ。稜は痕跡がみられる。 天井部外面約1/5回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
137	同上	口径 13.2 稜径 12.6	天井部は欠損。口縁部は下外方へ下り、端部は丸い。稜は痕跡がみられる。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	暗灰色	微砂粒を少量含む。	良好	灰かぶり。自然釉。
138 一五	同上	口径 13.7 器高 4.5 稜径 12.6 天井部高 1.8	低く丸みをもつ天井部から下外方へ下る口縁部に至る。端部は内傾する浅く凹面をもつ。稜は痕跡がみられる。 天井部外面2/9回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	青灰色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
139	同上	口径 14.0 器高 4.5 稜径 12.6 天井部高 1.8	やや高く丸みをもつ天井部から下外方へ内湾気味に下る口縁部に至る。端部は丸い。稜は痕跡がみられる。 天井部外面約1/5回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	青灰色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
140 一五	同上	口径 14.8 器高 4.3 稜径 13.8 天井部高 1.9	低く丸みをもつ天井部から下外方へ下る口縁部に至る。端部は丸い。稜は鈍く尖り、下方に浅い沈線が巡る。 天井部外面約1/4回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	青灰色	4㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
141 一五	同上	口径 15.3 器高 5.1	やや高く丸みをもつ天井部から外下方へ下る口縁部に至る。端部は内傾する浅く凹面をもつ。稜はない。 天井部外面約3/10回転ヘラ削り、内面円弧タタキ、他は回転ナデ。	青灰色	微砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
142	杯身 (須恵器)	口径 12.6 立ち上がり高 0.8 受部径 14.8	底体部は欠損。受部は外上方へ伸び、端部は丸い。立ち上がりは上内方へ外反して伸び、端部は丸い。 回転ナデ。	青灰色	3.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ方向不明。
143	同上	口径 13.0 立ち上がり高 1.1 受部径 16.0	底体部は欠損。受部は上外方へ伸び、端部は丸い。立ち上がりは上内方へ外反気味に伸び、端部は丸い。 回転ナデ。	淡灰白色	4㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
144 一五	同上	口径 13.2 器高 4.4 立ち上がり高 0.8 受部径 16.4 底体部高 3.4	やや深く丸みをもつ底体部から受部に至る受部はほぼ水平に伸び、端部は丸い。立ち上がりは上内方へ外反気味にのび、端部は丸い。 底体部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰白色	4㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
145	同上	口径 14.4 立ち上がり高 1.0 受部径 16.8	底体部は欠損。受部は若干外上方へ伸び、端部は丸い。立ち上がりは上内方へ伸び、端部は内傾する曲をもつ。 回転ナデ。	青灰色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ方向不明。
146	同上	口径 14.4 立ち上がり高 1.2 受部径 16.0	底体部は欠損。受部は外上方へ伸び、端部は丸い。立ち上がりは上内方へ伸び、端部は丸い。 回転ナデ。	青灰褐色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ方向不明。
147	同上	口径 13.8 器高 4.8 立ち上がり高 1.1 受部径 16.0 底体部高 3.5	やや深く丸みをもつ底体部から受部に至る。受部は水平に伸び、端部は丸い。立ち上がりは上内方へ外反して伸び、端部は丸い。 回転ナデ。	外 青灰色 内 暗灰褐色	4㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ヘラ記号。

遺物番号 図版番号	器　種	法量 (cm)	口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
148	杯身 (須恵器)	口径 立ち上がり高 受部径	13.8 1.2 16.0	底体部は欠損。受部は若干外上方へ伸び、端部は面をもつ。立ち上がりは上内方へ伸び、端部は丸い。 底体部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	乳灰褐色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。 煤付着。
149 一五	同上	口径 器高 立ち上がり高 受部径 底体部高	13.3 4.6 1.2 16.2 3.4	やや深く丸みをもつ底体部から受部に至る。受部は外上方へ伸び、端部は丸い。立ち上がりは上内方へ外反気味に伸び、端部は丸い。 底体部外面約1/4回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	外　灰色 内　黒灰色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。 煤付着。
150 一五	同上	口径 立ち上がり高 受部径	17.1 1.2 19.6	やや深く丸みをもつと思われる底体部から受部に至る。受部は若干外上方へ伸び、端部は丸い。立ち上がりは上内方へ伸び、端部は内傾する浅い凹面をもつ。 底体部外面約2/5回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	乳灰色	4.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。 自然釉
151 一五	同上	口径 器高 立ち上がり高 受部径 底体部高	13.6 5.2 1.3 16.3 3.8	やや深く丸みをもつ底体部から受部に至る。受部は外上方へ伸び、端部は丸い。立ち上がりは上内方へ伸び、端部は丸い。 天井部外面約2/5回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	乳灰色	4㎜以上の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。 ヘラ記号。
152 一五	壺 (須恵器)	最大径 頸部径	18.0 8.6	上位に張りをもつ体部から屈曲し、直立して伸びる口縁部に至る。端部は欠損。口縁部に波状文を有し、その上位に１条、下位に２条の凹帯を巡らす。体部中位以下は欠損。 口縁部外面カキ目、内面ヨコナデ、体部外面タタキ後回転ナデ、内面ナデ・指頭痕。	暗灰褐色	細砂粒を少量含む。	良好	
153 一六	甕 (土師器)	口径 器高	14.2 16.3	中位に最大径をもつ球形に近い体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げ、外に面をもつ。 口縁部外面ナデ、内面ハケナデ後ヨコナデ体部外面ハケナデ。	暗灰褐色	細砂粒を少量含む。	良好	煤付着。
154	同上	口径	17.2	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。体部中位以下は欠損。頸部内面上位には接合痕二条がみられる。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヘラナデ内面指ナデ。	暗灰褐色	4㎜以下の砂粒を多量含む。	良好	
155	同上	口径	22.2	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。端面には沈線一条が巡る。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ナデ、体部外面ハケナデ、内面上位ハケナデ、中位指ナデ。	淡灰褐色	3㎜以下の砂粒を多量含む。	良好	煤付着。

包含層

遺物番号 図版番号	器　種	法量 (cm)	口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
156 一六	杯蓋 (須恵器)	口径 器高 稜径 天井部高 つまみ径	14.4 5.0 13.6 1.9 3.3	やや高く丸みをもつ天井部から下外方へ下る口縁部に至る。端部は内傾する凹面をもつ天井部上面の中央部には偏平なつまみが付く。稜は鈍く尖り、下方に沈線が巡る。 天井部外面回転ヘラ削り後回転カキ目、内面円弧タタキ、他は回転ナデ。	灰青色	6㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。

遺物番号 図版番号	器　種	法量 (cm)　口径 器高	形態・調整等の特徴	色　調	胎　土	焼　成	備　考
157 一六	杯蓋 (須恵器)	口　径　14.6 器　高　4.7	低く丸みをもつ天井部から下外方へ下る口縁部に至る。端部は丸い。稜はない。 天井部外面約1/4回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰青色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。 ヘラ記号。
158 一六	同上	口　径　14.4 器　高　3.9	低く丸みをもつ天井部から下外方へ下る口縁部に至る。端部は丸い。稜はない。 天井部外面約1/4回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰青色	5㎜以下の砂粒の少量含む。	良好	ロクロ左方向。
159	同上	口　径　14.6 器　高　4.5	やや低く丸みをもつ天井部から下外方へ下る口縁部に至る。端部は丸い。稜はない。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	外　灰青色 内　灰色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。 酸化鉄付着
160	同上	口　径　14.8 器　高　4.6	やや高く丸みをもつ天井部から下外方へ下る口縁部に至る、端部は丸い。稜はない。 天井部外面2/5回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
161	杯身 (須恵器)	口　径　10.9 器　高　4.2 立ち上がり高 1.0 受部径　13.1 底体部高 3.1	やや深く丸みをもつ底体部から受部に至る。受部は水平に伸び、端部は丸い。立ち上がりは上内方へ外反気味に伸び、端部は丸い。 底体部外面約1/5回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	外　灰色 内　青灰色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
162 一六	同上	口　径　10.8 器　高　4.8 立ち上がり高 0.8 受部径　11.7 底体部高 4.0	深く丸みをもつ底体部から受部に至る。受部は外上方へ伸び、端部は丸い。立ち上がりは上内方へ外反して伸び、端部は丸い。 底体部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	外　灰色 内　淡灰色	5㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
163	同上	口　径　11.6 器　高　4.1 立ち上がり高 1.3 受部径　14.4	やや深く平らな底体部から受部に至る。受部は外上方へ伸び、端部は丸い。立ち上がりは上内方へ伸び、端部は丸い。 底体部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰色	0.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
164	同上	口　径　12.8 立ち上がり高 1.2 受部径　15.0	やや深く丸みをもつと思われる底体部から受部に至る。受部はほぼ水平に伸び、端部は丸い。立ち上がりは上内方へ外反気味に伸び、端部は丸い。 底体部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰青色	5㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
165	同上	口　径　12.4 立ち上がり高 1.1 受部径　14.8	やや深く丸みをもつ底体部から受部に至る。受部は外上方へ伸び、端部は丸い。立ち上がりは上内方へ伸び、端部は丸い。 底体部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰青色～暗灰色	0.5㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
166	同上	口　径　12.8 器　高　4.5 立ち上がり高 1.3 受部径　15.6 底体部高 3.2	やや深く平らな底体部から受部に至る。受部は外上方へ伸び、端部は丸い。立ち上がりは上内方へ外反して伸び、端部は丸い。 底体部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	外　灰色 内　暗灰色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
167	同上	口　径　12.6 立ち上がり高 1.4 受部径　15.2	やや深く丸みをもつ底体部から受部に至る。受部は外上方へ伸び、端部は丸い。立ち上がりは上内方へ直線的に伸び、端部は内傾する面をもつ。 底体部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	青灰色	2㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。 自然釉。

遺物番号 図版番号	器　種	法量　口径 (cm)　器高	形態・調整等の特徴	色　調	胎　土	焼　成	備　考
168	杯身 （須恵器）	口　径　13.8 器　高　4.7 立ち上がり高 1.2 受部径　15.8 底体部高 3.2	やや深く丸みをもつ底体部から受部に至る。受部は外上方へ伸び、端部は丸い。立ち上がりは上内方へ直線的に伸び、端部は丸い。 底体部外面約1/2回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰色	３㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
169	同上	口　径　12.6 器　高　4.5 立ち上がり高 1.0 受部径　15.0 底体部高 3.3	やや深く丸みをもつ底体部から受部に至る。受部は外上方へ伸び、端部は丸い。立ち上がりは上内方へ外反して伸び、端部は丸い。 底体部外面約1/3回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰青色	５㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。 煤付着。
170	同上	口　径　12.2 器　高　4.5 立ち上がり高 0.8 受部径　14.8 底体部高 3.6	やや深く丸みをもつ底体部から受部に至る。受部は外上方へ伸び、端部は丸い。立ち上がりは上内方へ外反して伸び、端部は丸い。 底体部外面約1/4回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰青色	３㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
171 一六	同上	口　径　13.2 器　高　4.4 立ち上がり高 1.3 受部径　15.4 底体部高 3.2	やや深く丸みをもつ底体部から受部に至る。受部は水平に伸び、端部は丸い。立ち上がりは上内方へ外反気味に伸び、端部は丸い。 底体部外面約1/2回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰青色	１㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
172	同上	口　径　14.4 器　高　3.9 立ち上がり高 1.2 受部径　16.6 底体部高 2.7	やや浅く平らに近い底体部から受部に至る。受部は水平に伸び、端部は丸い。立ち上がりは上内方へ直線的に伸び、端部は丸い。 底体部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	青灰色	１㎜以下の砂粒を多量含む。	良好	ロクロ方向不明。 自然釉。
173 一六	同上	口　径　14.0 立ち上がり高 1.4 受部径　16.6	深く丸いと思われる底体部から受部に至る。受部は断面三角形を呈し、端部は丸い。立ち上がりは上内方へ伸び、端部は内傾する面を 底体部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰色	２㎜以下の砂粒を多量含む。	良好	ロクロ右方向。
174	同上	口　径　14.4 立ち上がり高 1.0 受部径　17.2	深く丸みをもつ底体部から受部に至る。受部は水平に伸び、端部は丸い。立ち上がりは上内方へ外反して伸び、端部は丸い。 底体部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰青色	３㎜以下の砂粒を多量含む。	良好	ロクロ左方向。
175	高杯 （須恵器）	脚底径　15.0	杯部は欠損。脚部は下外方へ買反して下り、端部は外傾する凹面をもつ。脚部には２段の長方形スカシがあり、不規則に４方みられる。端部の外面付近には２条の凸線が巡る。また上下のスカシの間にも１条の凸線がみられる。 脚部外面に２段の刺突文、内面回転ナデ。	灰青色	２㎜以下の砂粒を多量含む。	良好	ロクロ方向不明。
176	甕 （土師器）	口　径　17.0	上位に最大径をもつ球形の体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は外に肥厚し、上に面をもつ。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ。	赤茶色	３㎜以下の砂粒を多量含む。	良好	煤付着。

第3章　まとめ

今回の調査は、八尾市竹渕に所在する市立竹渕小学校敷地内の校舎立替え工事に伴う発掘調査である。当該地は亀井遺跡の東部に隣接することから、八尾市教育委員会が試掘調査を実施したことによって遺跡の存在が明らかになった遺跡である。

発掘調査では、古墳時代後期の集落遺構の一部が検出された。遺構は竪穴式住居１棟・土坑・小穴・溝等で、これらの遺構内から遺物が多く出土している。

今回の調査で検出した古墳時代後期（６世紀初頭～中葉）の集落遺構は、西部に近接する亀井遺跡との関連が考えられる。

出土遺物では、特に須恵器が多量に出土している。時期は蓋杯の形態的特徴から、陶邑編年（中村浩氏）によるとⅡ型式１～３段階に比定されると考えられる。また、少量であるが土師器が出土している。この土師器の中では特に甑と羽釜があげられる。甑（121）は、形態的特徴は各地域で普遍的に出土されているが、体部の一部に若干ことにする。体部には、体底部付近より螺旋状を描きながら口縁部に至る径約８㎜を測る円孔が約５～７㎝の間隔で穿孔している。この円孔の調整は、八尾市内の発掘調査でははじめての出土例ではないかと考えられる。羽釜は、体部が胴長で、口縁部付近にやや下外方する鍔が廻らしている。口縁部は鍔のやや上で屈曲し、大きく外上方する。端部は丸く終わるの形態的特徴をもつ。この形態は、６世紀後半～７世紀初頭に出土している羽釜の形態に類以するが、検出した溝（ＳＤ１）の時期は多量に出土した須恵器から６世紀初頭～中葉に位置付けられるものであり、ここで出土した羽釜の時期が若干遡るのではないかと考えられる。例えば、６世紀後半～７世紀初頭で出土している遺跡は、大園遺跡・美園遺跡・発志院遺跡等があげられる。

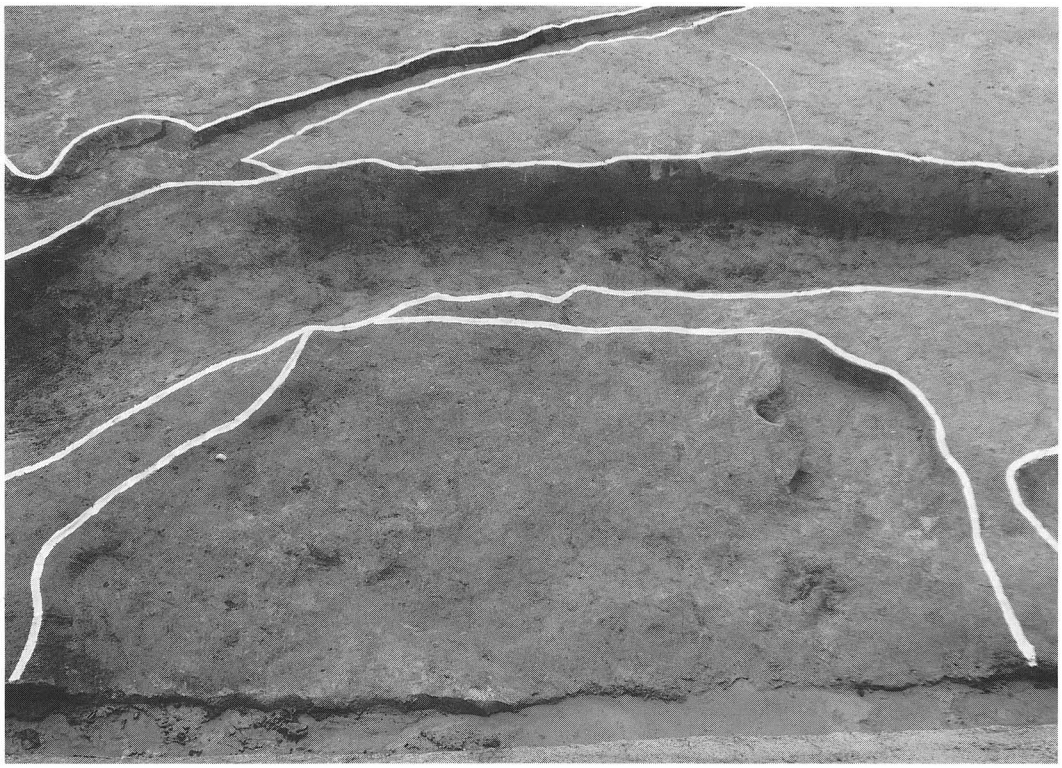
以上、調査の結果について述べてきたが、今回の調査が竹渕遺跡での最初の発掘調査であり当遺跡の全体像や性格等については今後の発掘調査の成果と研究に委ねたい。

図　　版

1．調査区全景（南から）

2．SK1（南東から）

1．SK1 遺物検出状況（東から）



2．SK1 完掘（東から）

1．SK8遺物検出状況（南東から）

2．SD1遺物検出状況（南東から）

図版四

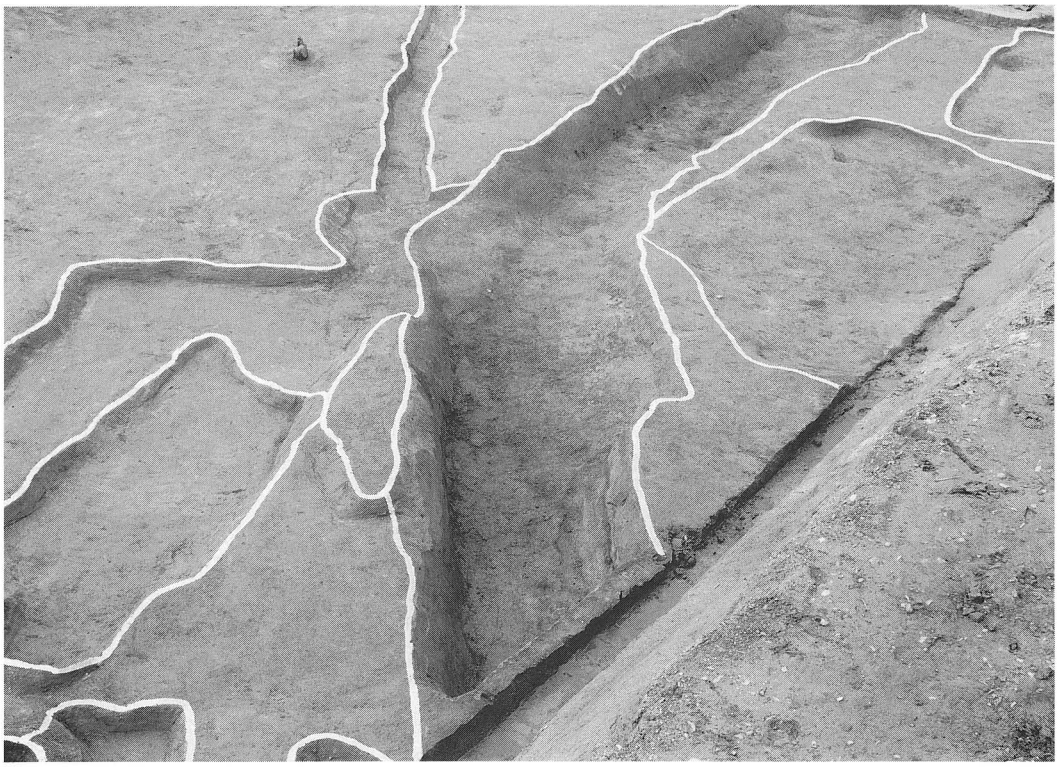
1．SD1南部遺物検出状況（南から）

2．SD1中央よりやや南部遺物検出状況（東から）

1．SD1中央部遺物検出状況（東から）

2．SD1中央部遺物検出状況（東から）

図版六

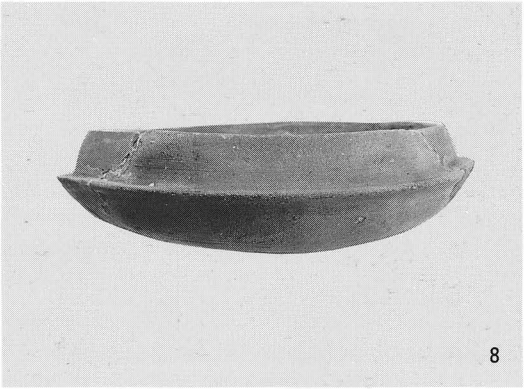


1．SD1完掘(南東から)

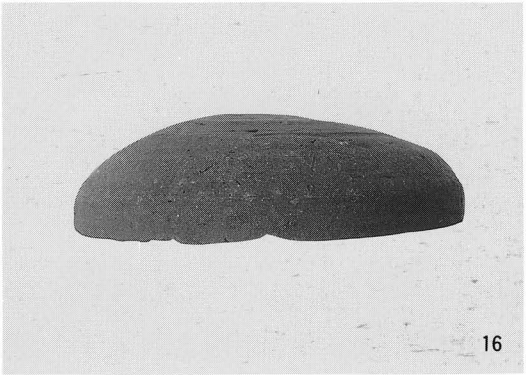
2．SD2中央部遺物検出状況（東から）

図版七　出土遺物

3


8

13


16

14

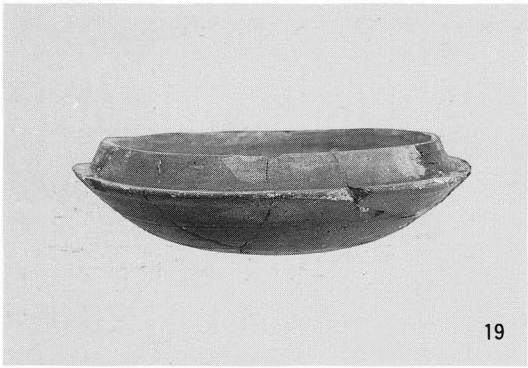
17

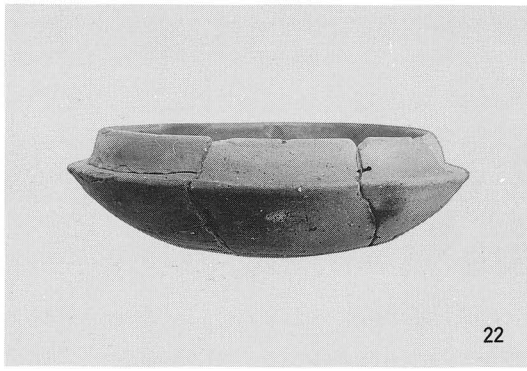
15

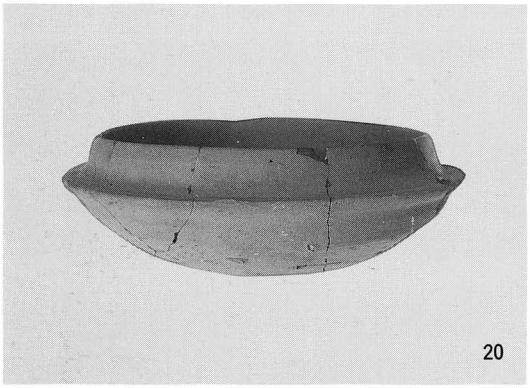
18

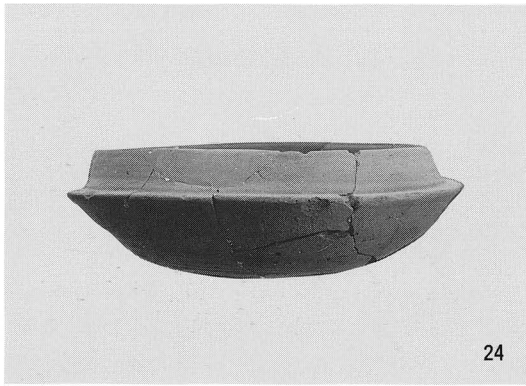
SI1　3・8
SK1　13～18

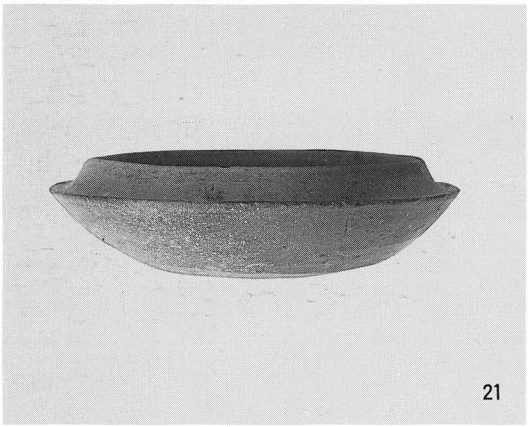
図版八　出土遺物


19


22

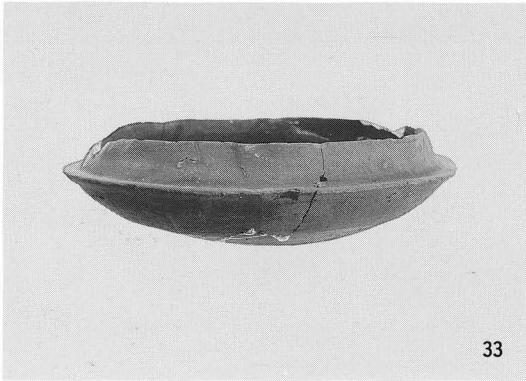

20


24

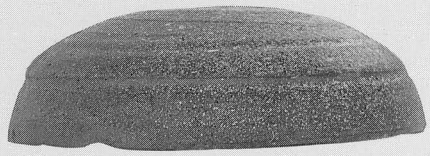

21

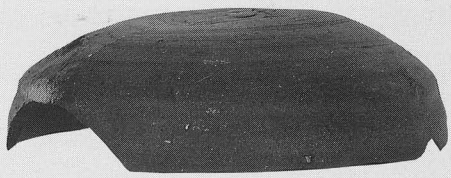
25

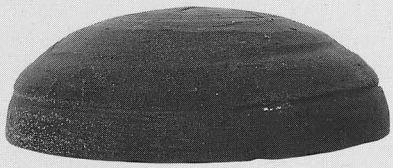
30

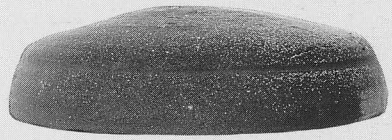

33

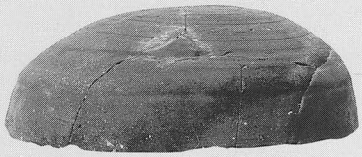
SK1　19～22・24・25
SK8　30・33

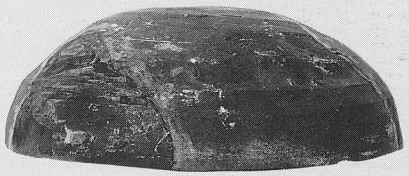

36

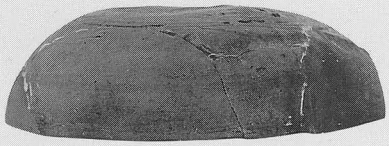

48

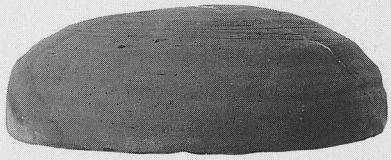

37


53


38

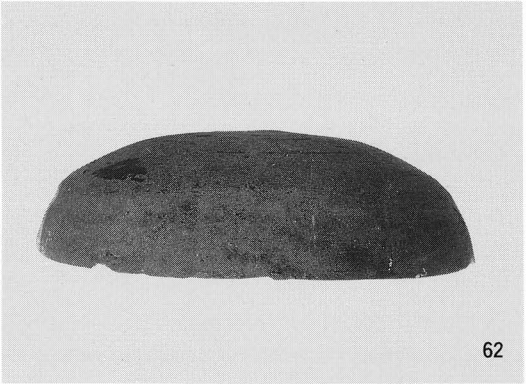

54


46


55

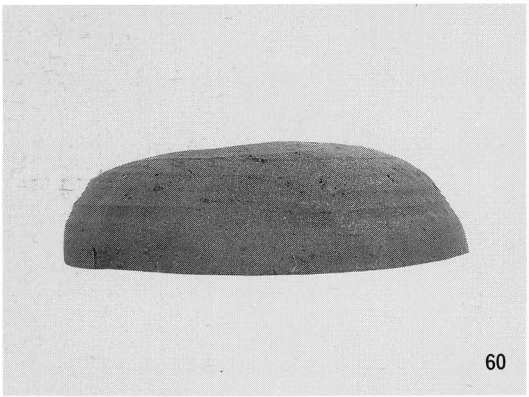
SD1

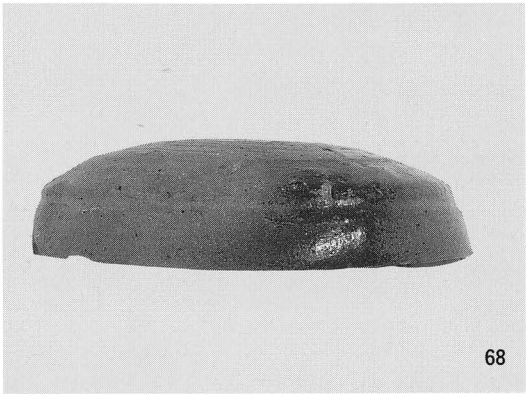
57

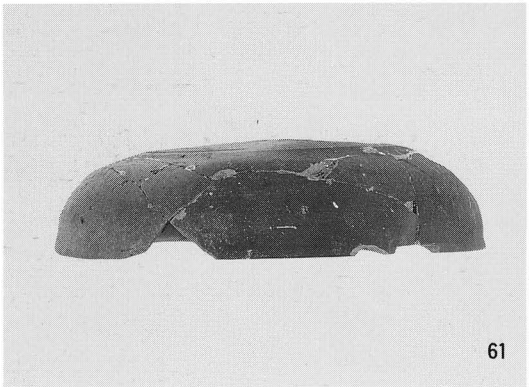

62

58

65


60

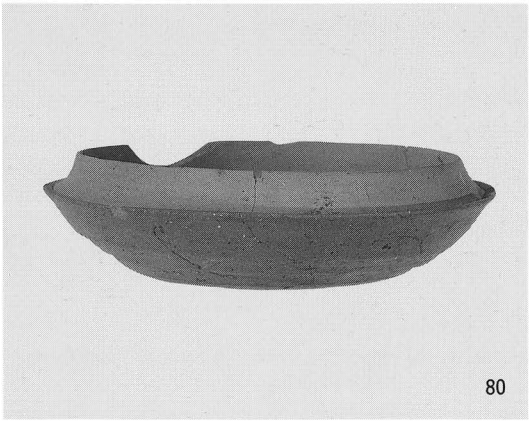

68

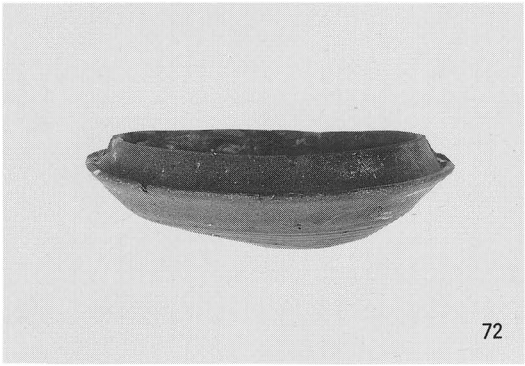

61

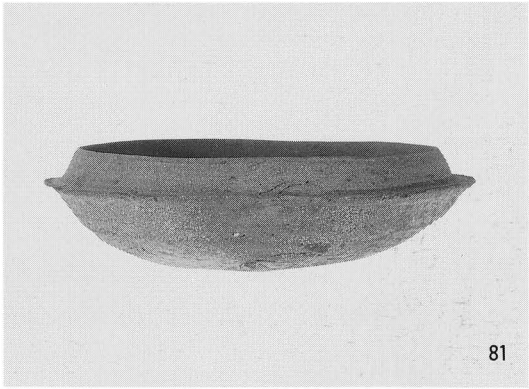
69

SD1

71


80


72


81

77

83

79

84

SD1

図版一二　出土遺物

85

90

86

94

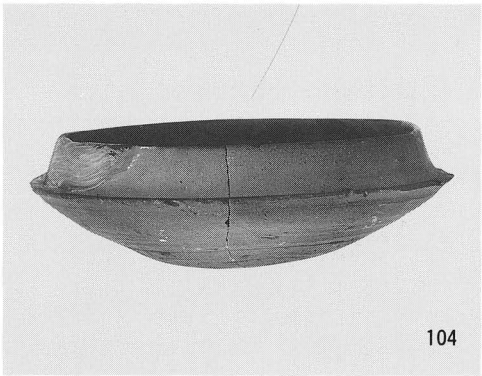
87

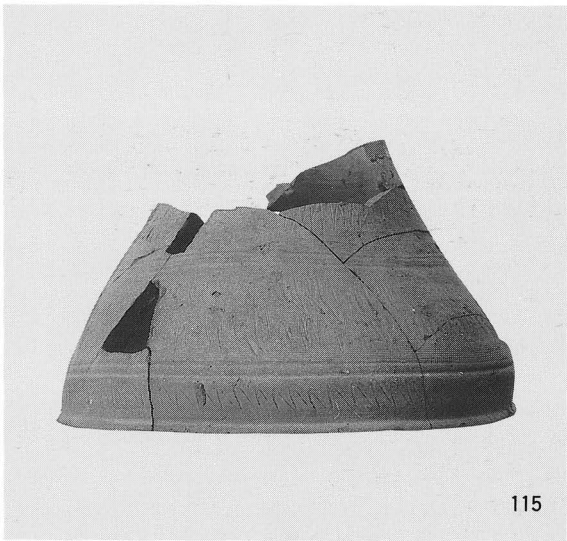
98

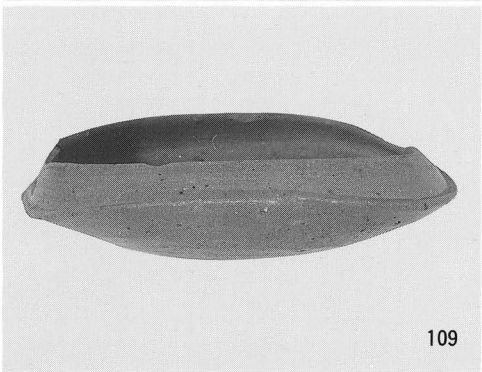
89

102

SD1

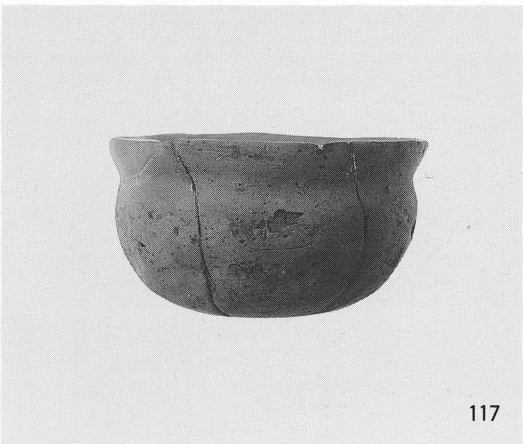

104


115


109

116

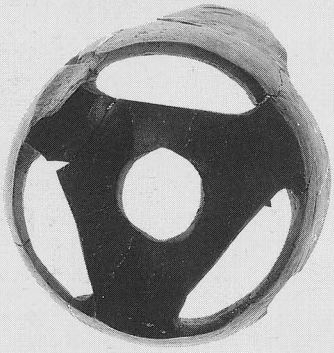
110


117

118

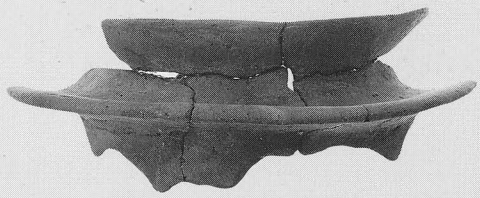
SD1

図版一四　出土遺物

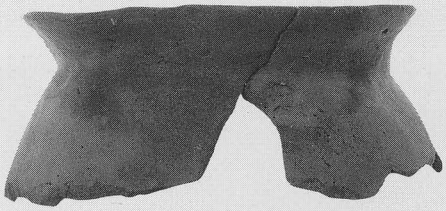


121

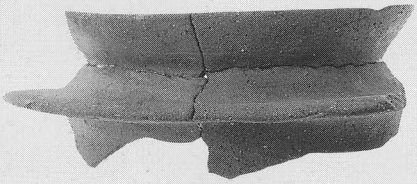
124



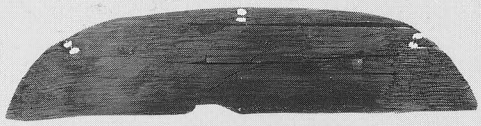
126



130

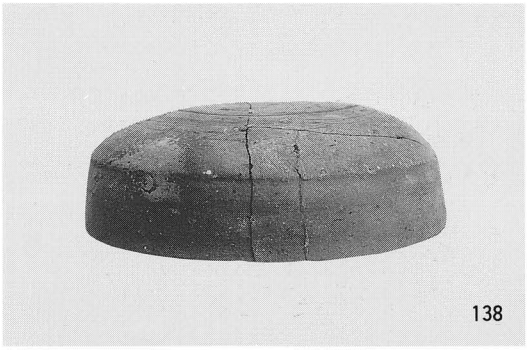


123



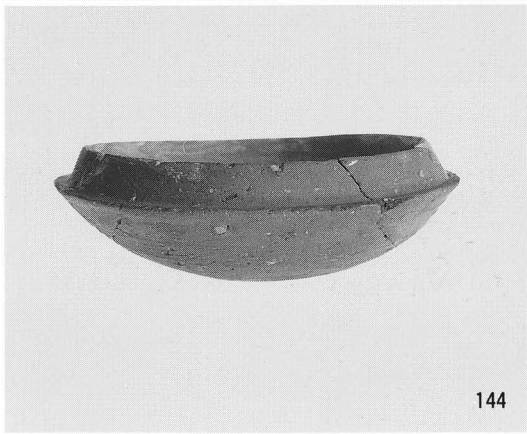
135

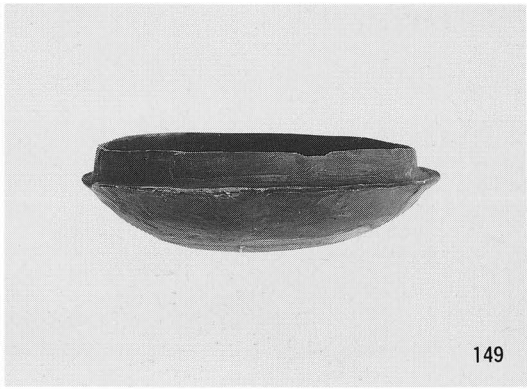
SD1

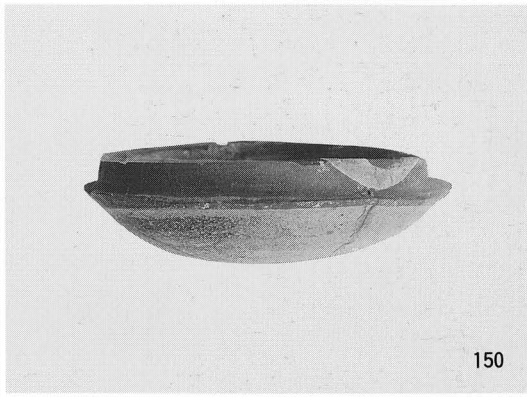

138

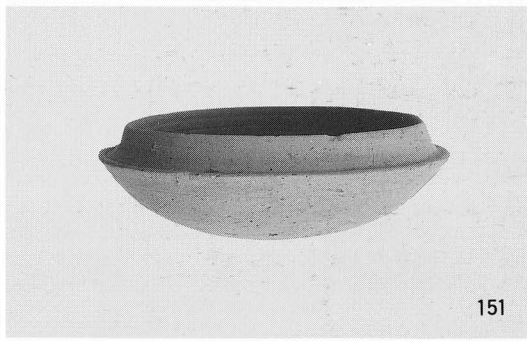
140

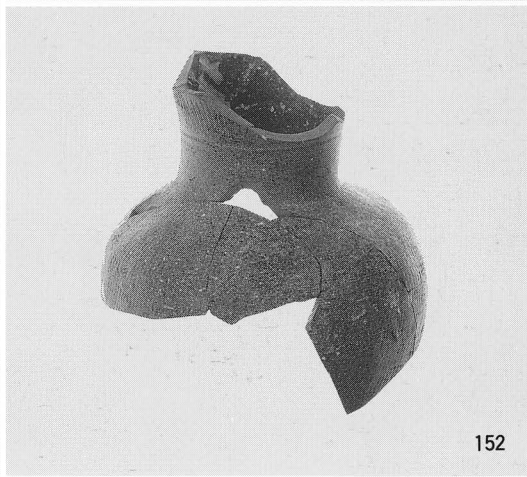
141


144


149


150


151


152

SD2

図版一六　出土遺物

153

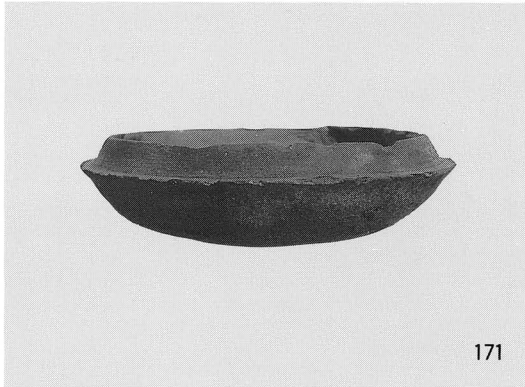
156

157

158

159

162


171

173

遺構に伴わない出土遺物

Ⅲ　恩智（おんぢ）遺跡（第１次調査）

例　　言

1、本書は、八尾市恩智北町１丁目51番地内で実施した共同住宅建設に伴う発掘調査の報告である。

1、本書に報告する恩智遺跡（第１次調査）の発掘調査業務は、財団法人八尾市文化財調査研究会が松岡亀雄氏から委託を受けて実施したものである。

1、現地調査は昭和60年５月９日から６月８日にかけて、高萩千秋を担当として実施した。調査面積は 380㎡を測る。なお、調査においては笹井伸彦・山西嘉彦・西森忠幸・徳谷光貞・中野健太郎が参加した。

1、内業整理は、現地調査終了後実施し、平成元年９月に刊行した。

1、本書に関わる業務は、遺物実測―笹井・徳谷・西森・高井裕之、図面レイアウト―乾（旧姓木曾）直美・村田英子・村田圭子、図面トレース―岩本多貴子・村田（英）、遺物写真撮影―高萩が行った。

1、本書の執筆は主に高萩が担当したが、第３節　出土遺物観察表については村田（英）が担当した。

1、全体の編集は高萩が行った。

本　文　目　次

第１章　はじめに……53

第１節　調査に至る経過……53

第２節　地理・歴史的環境……54

第３節　調査の方法と地区割……56

第２章　調査の結果……57

第１節　基本層序……57

第２節　検出遺構・出土遺物……58

１）古墳時代前期……59

２）古墳時代中期……64

３）遺構に伴わない遺物……67

第３節　出土遺物観察表……86

第３章　まとめ……111

挿　図　目　次

第１図　調査地位置図……53
第２図　調査区配置図及び区割図……56
第３図　基本層序柱状図……57
第４図　遺構平面図……58
第５図　ＳＫ１平断面図……59
第６図　ＳＫ１出土遺物実測図……60
第７図　ＳＫ１出土遺物（石器）実測図……61
第８図　ＳＤ１・ＳＤ２検出遺物平面図……62
第９図　ＳＤ１出土遺物実測図１……63
第10図　ＳＤ１出土遺物実測図２……64
第11図　ＳＤ２出土遺物実測図１……65
第12図　ＳＤ２出土遺物実測図２……66
第13図　遺構に伴わない出土遺物実測図１……69
第14図　遺構に伴わない出土遺物実測図２……70
第15図　遺構に伴わない出土遺物実測図３……71
第16図　遺構に伴わない出土遺物実測図４……72
第17図　遺構に伴わない出土遺物実測図５……73
第18図　遺構に伴わない出土遺物実測図６……74
第19図　遺構に伴わない出土遺物実測図７……75
第20図　遺構に伴わない出土遺物実測図８……76
第21図　遺構に伴わない出土遺物実測図９……77
第22図　遺構に伴わない出土遺物（石器）実測図10……78
第23図　遺構に伴わない出土遺物（石器）実測図11……79
第24図　遺構に伴わない出土遺物（石器）実測図12……80
第25図　遺構に伴わない出土遺物（石器）実測図13……81
第26図　遺構に伴わない出土遺物（石器）実測図14……82
第27図　遺構に伴わない出土遺物（石器）実測図15……83
第28図　遺構に伴わない出土遺物（石器）実測図16……84
第29図　遺構に伴わない出土遺物（石器）実測図17……85

表　目　次

第１表　既往調査一覧表……55
第２表　ＳＫ１サヌカイト剝片の法量一覧表……60
第３表　遺構に伴わない出土遺物（石器類）の法量一覧表……67

図　版　目　次

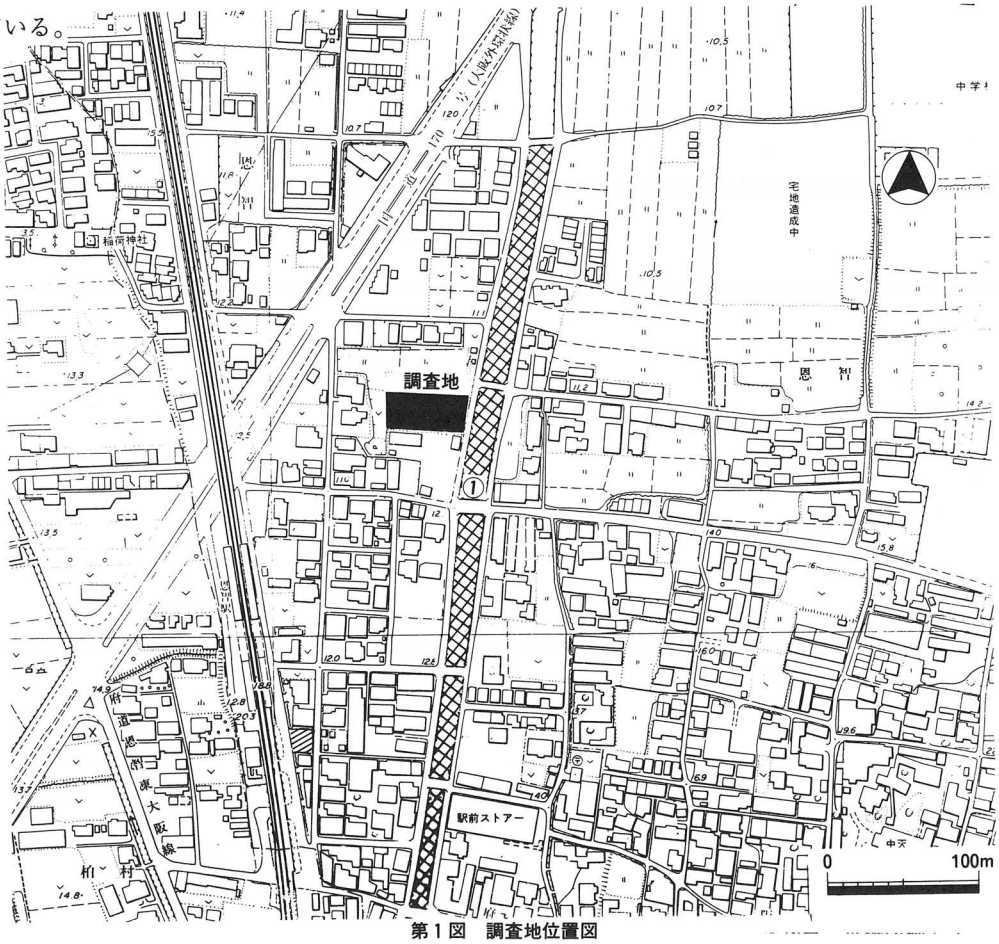
図版　一　調査区全景（東から）
ＳＫ１（東から）
図版　二　ＳＫ１検出遺物（西から）
ＳＤ１・ＳＤ２（南から）
図版　三　ＳＤ１（北東から）
ＳＤ１（東から）
図版　四　ＳＤ２（西から）
ＳＤ２（東から）
図版　五　ＳＤ２（西から）
ＳＤ２（南から）
図版　六　ＳＤ２（南から）
土器出土状況（東から）
図版　七　出土遺物　ＳＫ１
図版　八　出土遺物　ＳＤ１
図版　九　出土遺物　ＳＤ１　52・53・55
ＳＤ２　57・64～67
図版一〇　出土遺物　ＳＤ２
図版一一　出土遺物　遺構に伴わない出土遺物
図版一二　出土遺物　遺構に伴わない出土遺物
図版一三　出土遺物　遺構に伴わない出土遺物
図版一四　出土遺物　遺構に伴わない出土遺物
図版一五　出土遺物　遺構に伴わない出土遺物
図版一六　出土遺物　遺構に伴わない出土遺物
図版一七　出土遺物　遺構に伴わない出土遺物
図版一八　出土遺物　遺構に伴わない出土遺物
図版一九　出土遺物　遺構に伴わない出土遺物

第１章　はじめに

第１節　調査に至る経過

今回の調査は、八尾市恩智北町１丁目51番地内の共同住宅建設に伴う発掘調査である。当遺跡は、恩智中町３丁目に所在する「天王の杜」の周辺から遺物の散布地として知られ、梅原末治・島田貞彦の両氏が大正６年（1917）７月に初めて踏査して弥生時代の遺物を検出されている。そして同年８月に鳥居龍蔵氏の試掘調査（「天王の杜」の南西約200 mの字茶の木地区付近）が行われ、多数の弥生式土器を検出された。その後も戦前までにいくつかの調査が行われ、これらの成果に基づいて昭和18年（1943）に「天王の杜」の一角に『恩智石器時代遺蹟』の顕彰碑が建てられている。

その後、戦後も小規模ではあるがいくつかの調査が実施され、多量の遺物が出土している。この様な中、昭和53年恩智川河川改修工事に伴う大規模な発掘調査が実施される（①）。その結果、縄文式土器や弥生時代から古墳時代の遺構・遺物が多量に出土された。また、この調査地の東部に隣接する共同住宅建設に伴う発掘調査でも縄文式土器・弥生式土器が多量に出土されている。



第１図　調査地位置図

今回の調査地は、恩智川河川改修工事に伴う発掘調査報告に記載されている区割図のＮＷ46～ＮＷ48地区の道路を隔てた西側に近隣する箇所にあり、埋没した遺跡が予想された。八尾市教育委員会は、昭和60年２月22日に建築工事によって破壊される部分に対し、試掘調査を実施した。その結果、現地表下約1.5 ～1.8 ｍを測る土層内に古墳時代前期から後期の遺物包含層が確認された。この為、八尾市教育委員会は事業者と協議を行った結果、若干の設計変更を行い、出来る限り遺跡を保護する事になり、地下構造によって破壊される部分だけを発掘調査することになった。

当調査研究会は八尾市教育委員会の指示により、事業者を交えて発掘調査の実施と方法について三者協議を重ね、当調査研究会の協定書の契約を締結した。発掘調査の期間は昭和60年５月９日～６月10日まで実施した。調査面積は約284 ㎡である。

内業整理は、当調査研究会分室において、出土遺物の整理作業及び報告文作成業務などを実施した。

第２節　地理・歴史的環境

恩智遺跡は、現在の行政区画では八尾市恩智北町・恩智中町・恩智南町の一帯に所在する縄文時代から中世に至る複合遺跡で、古くから多量の遺物が出土される区域として有名である。

当遺跡の立地は、東に生駒山地の高安山・信貴山の西麓に広がる扇状地の末端部と沖積地（狭義でいう河内平野）の交わる標高10～15ｍの地点に位置している。この間を旧大和川の中小河川の一つである恩智川が縦断するように南から北へ流れている。

当遺跡と同一地形上には、南に八尾市の神宮寺遺跡・柏原市の大平寺遺跡・安堂遺跡、北に八尾市郡川遺跡・水越遺跡・大竹遺跡・楽音寺遺跡等と、古墳時代に築造された墳墓が数多く存在する。八尾市域では、前期が西の山古墳・花岡山古墳（現在はなく大阪経済法科大学の敷地となる）・向山古墳、中期が心合寺山古墳・鏡塚古墳・中谷山古墳、後期が愛后塚古墳・郡川東塚古墳・郡川西塚古墳、生駒山西麓の斜面には大阪府下最大の規模をもつ群集墳で知られる高安古墳群が存在している。

当遺跡に位置する扇状地上は、後期旧石器時代の石器が出土している東大阪市の山畑遺跡・正興寺山遺跡等が存在するが、人々が定住し始めたのは縄文時代からと考えられている。縄文時代早期では押型文土器が出土している八尾市の神宮寺遺跡・枚方市の穂谷遺跡・大東市の寺川堂山遺跡・中垣内遺跡等があげられる。前期は前記の他に当遺跡がこの時期からはじまる。中期になると、東大阪の縄手遺跡・馬場川遺跡が新たに出現し、晩期まで継続して存在する。縄文時代後期になると、急激に増え扇状地上の全体に広がるようになる。東大阪市の日下貝塚遺跡・鬼塚遺跡・芝ヶ丘遺跡、四条畷市の岡山再荒寺遺跡が追加される。八尾市では遺物包含層を確認している楽音寺遺跡・後期から晩期頃の石鏃・石刀等が採集されている水越遺跡があげられる。またこの時期は柏原市と藤井寺市に跨がる船橋遺跡が晩期の標識遺跡として知られている。

弥生時代には、水稲農耕の伝播により大きな変革が起り、河内地方の集落が生駒山西麓の扇状地から河内平野の低平地にも、農耕集団の集落が現れようになる。八尾市では亀井遺跡・山賀遺跡・美園遺跡等が前期から始まる。その後、急激に低平地に集落が営まれているようになり、弥生時代後期から古墳時代前期ではより活発になる。この時代の扇状地上でも古墳時代に入ると前述した古墳時代の墳墓が多く築造された。

歴史時代は、大化の改新以降、律令制国家体制のもとで、土地区画による条里制で国郡里の制が行われた。当該地は河内国高安郡坂本郷に属す。また、延喜式内社に入る恩智神社が鎮座する。奈良時代には交通の要衝として東高野街道（現在の旧国道170 号線）が縦断して南北に通る。

第１表　恩智遺跡の既住調査一覧表

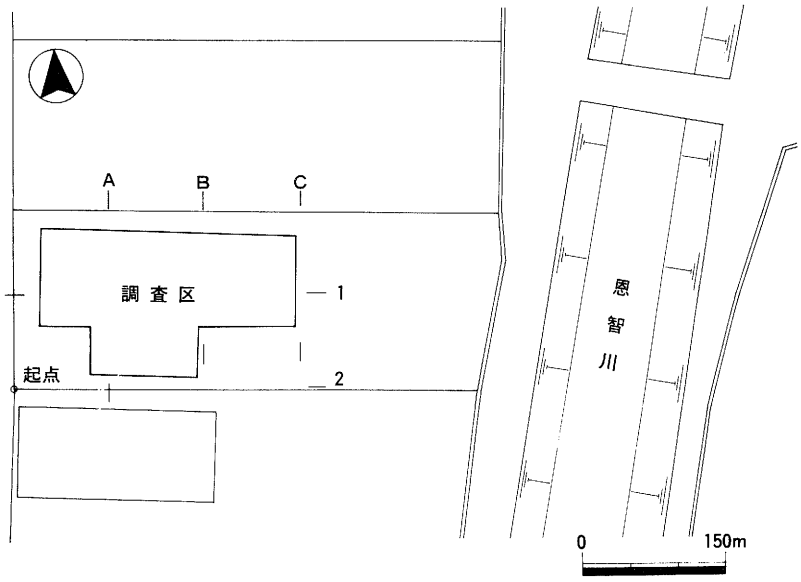
調査　年月	調　査　地	調　査　原　因	調　査　主　体	主な検出遺物・出土遺物	文献
大正６年７月（1917）	恩智中町３丁目	――――	京都大学（梅原末治・島田貞彦）	弥生時代前期～後期の土器・石器類の出土。	註１
大正６年８月（1917）	恩智中町３丁目（字茶の木）	――――	鳥　居　龍　蔵	弥生式土器・石器類出土。	註２
大正７年（1918）	安養寺山（通称都塚山）	耕作作業中	――――	流水銅鐸（外縁付式）出土	註３
昭和14年（1939）	恩智中町３丁目	史前遺跡調査事業	藤岡謙二郎	弥生時代前期～後期の出土・石器。古墳時代の須恵器	註４
昭和16年（1941）	「天王の杜」の北側（詳細不明）	井戸掘削作業中	――――	人骨・縄文式土器出土。	註５
昭和24年（1949）	安養寺裏山（通称都塚山）	耕作土作業中	――――	袈裟　文銅鐸（偏平　式）出土。	註３
昭和49年12月（1974）	恩智中町３丁目	八尾市消防署防水用貯水槽設置	八尾市教育委員会	縄文時代晩期の土器。弥生時代前期～後期の土器出土	註６
昭和50～53年（1975～77）	恩智中町～北側	恩智川河川改修工事	瓜生堂遺跡調査会	弥生時代前期～後期の土出と木棺墓・土坑・溝等。古墳時代前期の井戸・溝等。	註７
昭和51～53年（1976～78）	恩智中町３丁目240・245	マンション建設	八尾市教育委員会	弥生時代中期の遺構と土器が多量に出土。	――
昭和54年（1979）	恩智中町２丁目94	天理教会宿舎増築	八尾市教育委員会	弥生時代の遺構・土器。	――
昭和58年２月（1983）	恩智中町２丁目265	個人住宅建設	八尾市教育委員会	弥生時代前期の土坑。	註８
昭和59年６月（1984）	恩智中町３丁目214	個人住宅建設	八尾市教育委員会	弥生時代の遺構検出。	註９
昭和59年６月（1984）	恩智中町１丁目77－２	銀行建設	八尾市教育委員会	弥生時代中期の遺構検出。	註９

註
註１　梅原末治・島田貞彦「河内国石器時代遺跡発掘報告書」『京都大学文学部考古学研究報告』第２冊1923
註２　鳥居龍蔵・岩井武俊「石器時代遺跡調査（15）」大阪毎日新聞大正６年８月12日付（1917）
註３　梅原末治『銅鐸の研究』1926
註４　藤岡謙二郎「中河内郡南高安村恩智弥生式遺跡」『大阪府史跡名勝天然記念物調査報告』第12冊1941
註５　今里幾次「河内恩智の縄文土器」『日本考古学』１－３　1948
註６　山本昭・泉本知秀・福岡澄男「八尾市恩智遺跡の出土遺物について」『大阪文化誌』第２巻１号1976
註７　瓜生堂遺跡調査会「恩智遺跡Ⅰ・Ⅱ」1980と「恩智遺跡Ⅲ」1981
註８　八尾市教育委員会『八尾市内遺跡昭和57年度発掘調査報告書』1983
註９　八尾市教育委員会『八尾市内遺跡昭和59年度発掘調査報告書』1985

第３節　調査の方法と地区割

調査は、建設基礎工事によって破壊される部分に対し調査区を設定した。調査区の掘削はまず、現地表下0.4 ～0.5 ｍの厚みの土壌を機械による掘削で外部へ搬出した（これは、事業者の要望から耕土の土壌を再利用するためである）。そして、土壌の搬出終了後、再びその下の土層について再度機械による掘削を実施し、八尾市教育委員会の試掘結果による約１～1.2 ｍの土層（古墳時代後期の遺物包含層）の上面までを掘り下げた。これより以下の土層については人力による掘削・精査を実施した。

地区割は調査区の機械掘削後、当調査地の土地区画がされている南西部コーナー部の境界杭を起点にし、南北軸の方向はその北西部コーナー部の境界杭に合せて東西40ｍ、南北50ｍの調査区範囲に10ｍの方眼に割付た。調査区名は、南北線がアルファベット、東西線が数字を付称した。なお、区名の表示は、調査区内で割付けを行った一区画（10ｍ角）の中央線に交差する東部の南北線を用い、Ａ１～Ｃ３と付称した。



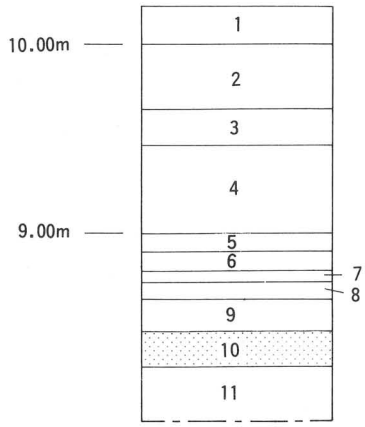
第２図　調査区配置図及び区割図

第２章　調査の結果

第１節　基本層序

当調査区では、発掘調査前まで農地として耕されていた土地であり、埋没土層が比較的に荒らされず、現在まで良好に遺存していた。

以下、今回の調査区内で現地表面から約2.5 ｍまでに存在する土層内から普遍的にみられる11層を摘出して基本土層とした。現地表面は標高10.2ｍを測る。



第１層　耕土：層厚20～30㎝。現在まで耕されていた土層である。

第２層　床土：層厚30～40㎝。耕土の床土である。内部には近世以前の摩滅した土器片がごく少量含まれている。

第３層　褐灰色粗砂混粘質土（7.5 ＧＹ5/1）：層厚10～20㎝。この上面から切込む土坑状の窪みがいくつか見られた。

第４層　暗青灰色～暗黄褐色細砂（10ＢＧ4/1 ～2.5 ＹＧ6/1）：層厚30～50㎝。この土層は中世の時期の氾濫によって堆積した土層である。この層内から中世の遺物に混じり、弥生時代中期（畿内第Ⅱ～Ⅲ様式）が多量に含まれていた。

第５層　青灰色粘土（10ＢＧ5/1）：層厚５～10㎝。粘性のある土層である。

第６層　暗青灰色粘土（５ＢＧ4/1）：層厚５～30㎝。第５層と同様である。

第７層　青灰色粘質土（５ＢＧ5/1）：層厚５～20㎝。第５層よりやや粘性が弱い。

第８層　暗青灰色細砂混粘土（10ＢＧ4/1）：層厚５～10㎝。第５層と同様で、少量の砂粒が含まれる。

第９層　暗青灰粘質土（10ＢＧ3/1）：層厚20～30㎝。この土層内から古墳時代中期の遺物が含まれている。

第10層　青黒色細砂混粘土（10ＢＧ2/1）：層厚30～50㎝。この土層は東へ行くに従い厚く堆積する。西部では検出していない。内部には古墳時代前期（布留式古相）の遺物が含まれている。

第11層　暗緑灰色シルト（５Ｇ4/1）：層厚30㎝以上。この上面から古墳時代前期の遺構が切込まれている。また、第10層上面からの切込みと考えられる後期の遺構をこの面で検出した。上面は標高8.2 ～8.6 ｍを測る。

＊　土層の（　）内の記号は、農林省農林水産技術会議事務局　監修　（財）日本色彩研究所色票監修　『新版　標準土色帳』1976の色調記号である。

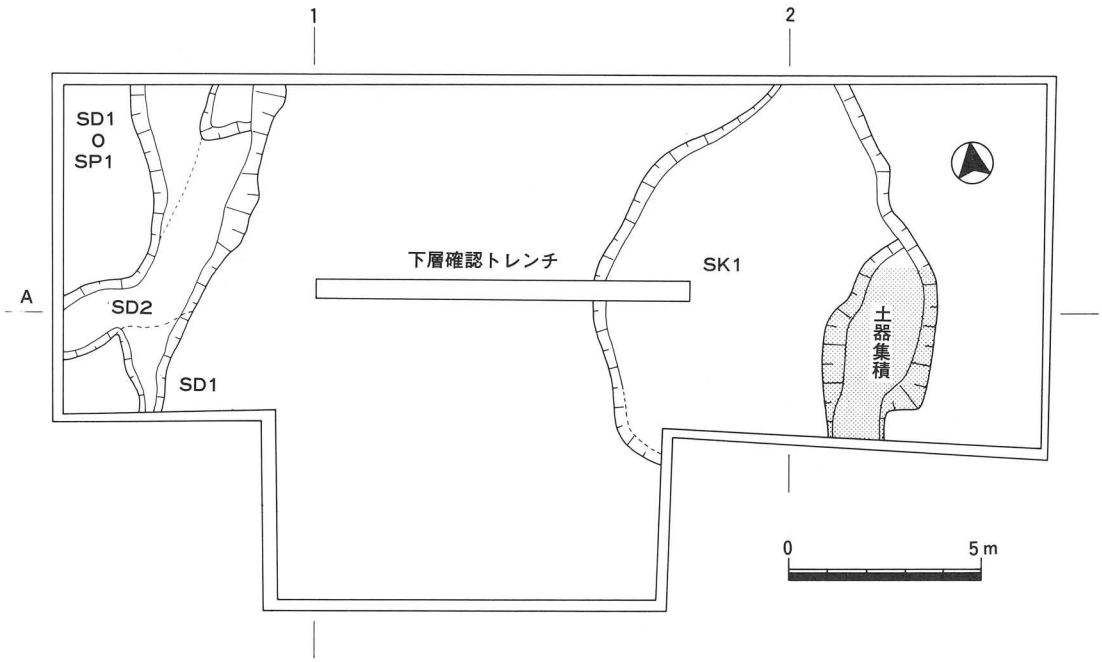
第２節　検出遺構と出土遺物

第11層の上面を調査面とした。その結果、この上面は調査区の中央部が微高地上の高まりがあり、東部・西部へなだらかに傾斜して低くなっている。この斜面で古墳時代前期に比定される溝（西側斜面のＳＤ１）・土坑（東側斜面のＳＫ１）と古墳時代中期に比定される（西側斜面のＳＤ２）・小穴（ＳＰ１）を検出した。微高地上では後世によって削平が受られたと考えられ、遺構や遺物包含層は検出しなかった。

第４層では、中世の時期の氾濫したと考えられる層厚0.3 ～0.5 m（標高8.8 ～9.2 m）の細砂の堆積層を確認した。この層内からは、中世の時期の土師質皿・瓦器椀などの遺物に混じり、弥生式土器（ほとんどの土器は畿内第Ⅱ～Ⅲ様式に比定される）が多量に出土している。

今回の調査で出土した遺物は、弥生式土器（畿内第Ⅱ様式～畿内第Ⅴ様式）・土師器・須恵器・瓦器などで、出土量はコンテナ箱にして約18箱分を数える。

以上、検出遺構と出土遺物について概説する。なお、個々の遺物の法量・形態的特徴などについては「第４節　出土遺物観察表」に詳細したので参照されたい。



第４図　調査区遺構平面図

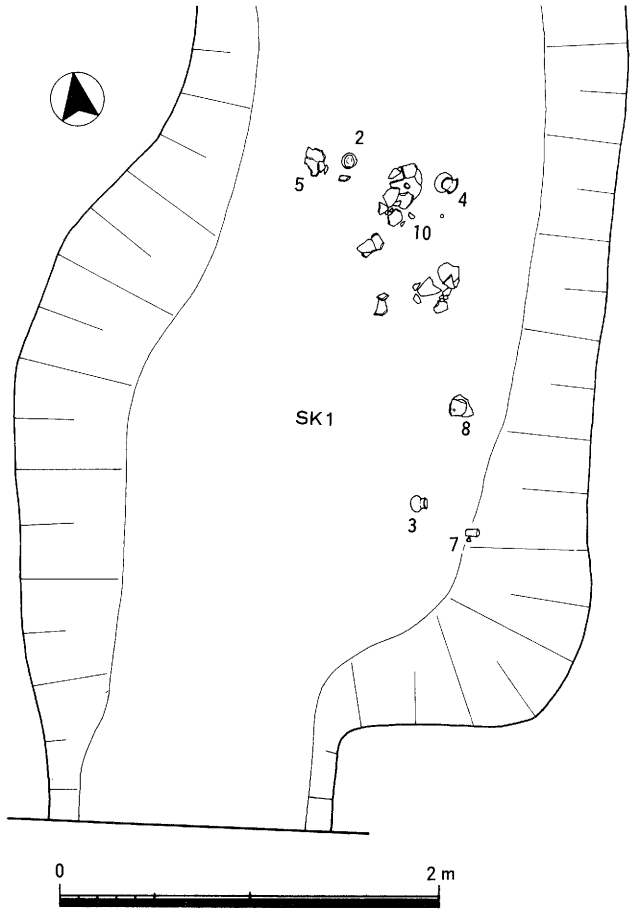
1)　古墳時代前期の遺構

土坑（ＳＫ）

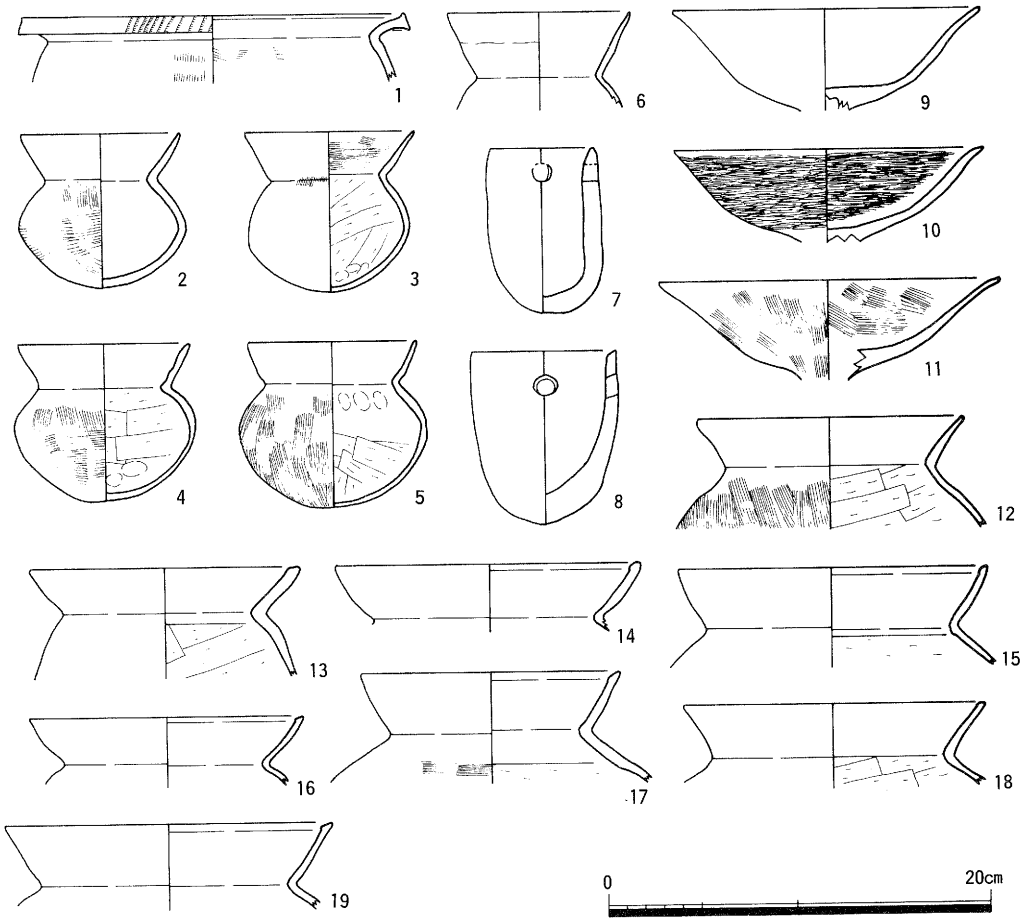
ＳＫ１

調査区の東部の第11層上面で検出した大きな土坑である。平面は不定形を呈し、東西９ｍ、南北 9.5ｍ、深さ50㎝を測る。断面は穏やかな逆台形を呈するが、東側の一部では急斜面で落ち込み深くなっている。内部には黒褐色砂混粘土が堆積し、底面には若干の植物遺体が薄く沈澱している（第４図）。

遺物は、布留式古相に比定される土器が東側の底面上で集積していた。器種には小型丸底壺（２～６）・蛸壺（７・８）・高杯（９～11）・布留式甕（12～19）がある。その他には畿内第Ⅳ様式に比定される甕（１）やサヌカイト製の剝片（20～26）が混入していた（第５図）。



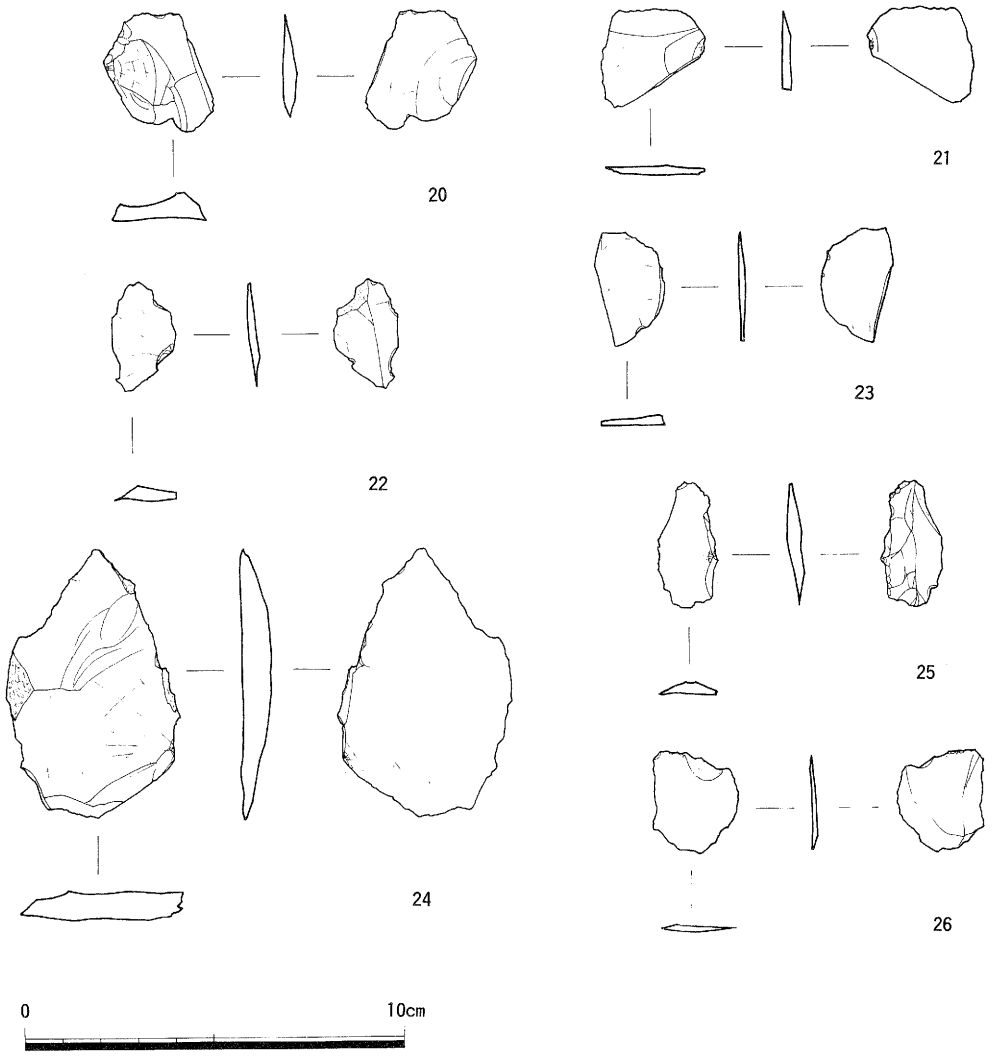
第５図　SK1検出遺物平面図



第６図　SK1出土遺物実測図

第２表　ＳＫ１サヌカイト剥片の法量一覧表

遺物番号	出土地区	縦(cm)	横(cm)	厚み(cm)	重さ(g)
２０	ｂ２	3.1	2.5	0.4	5
２１	ｂ２	2.5	2.7	0.2	4
２２	ｂ２	1.7	2.8	0.2	2
２３	ｂ２	3.0	1.7	0.2	1
２４	ｂ２	7.1	4.4	0.8	27
２５	ｂ２	1.5	3.3	0.3	2
２６	ｂ２	2.5	2.2	0.1	2

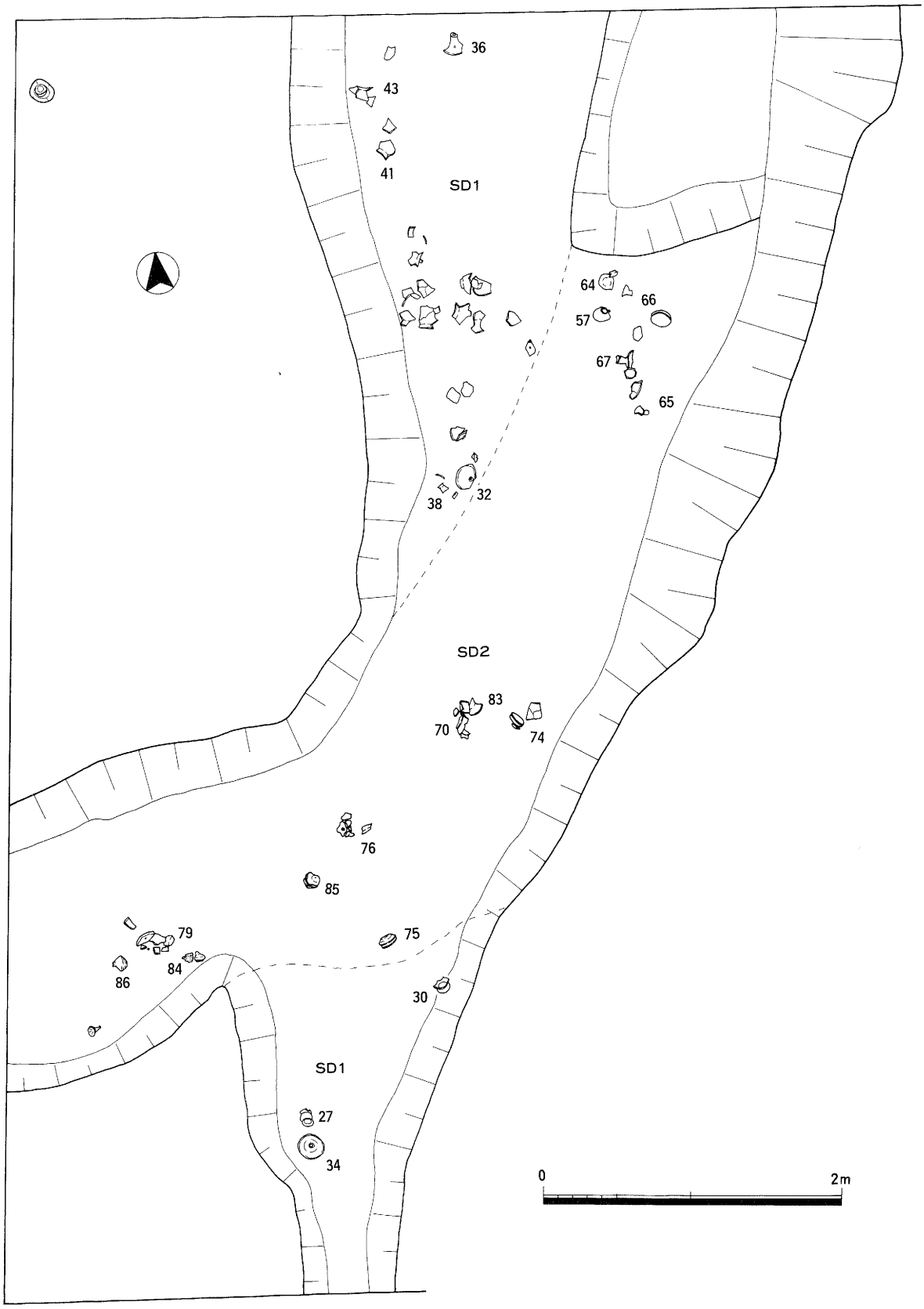


第７図　SK1出土遺物（石器）実測図

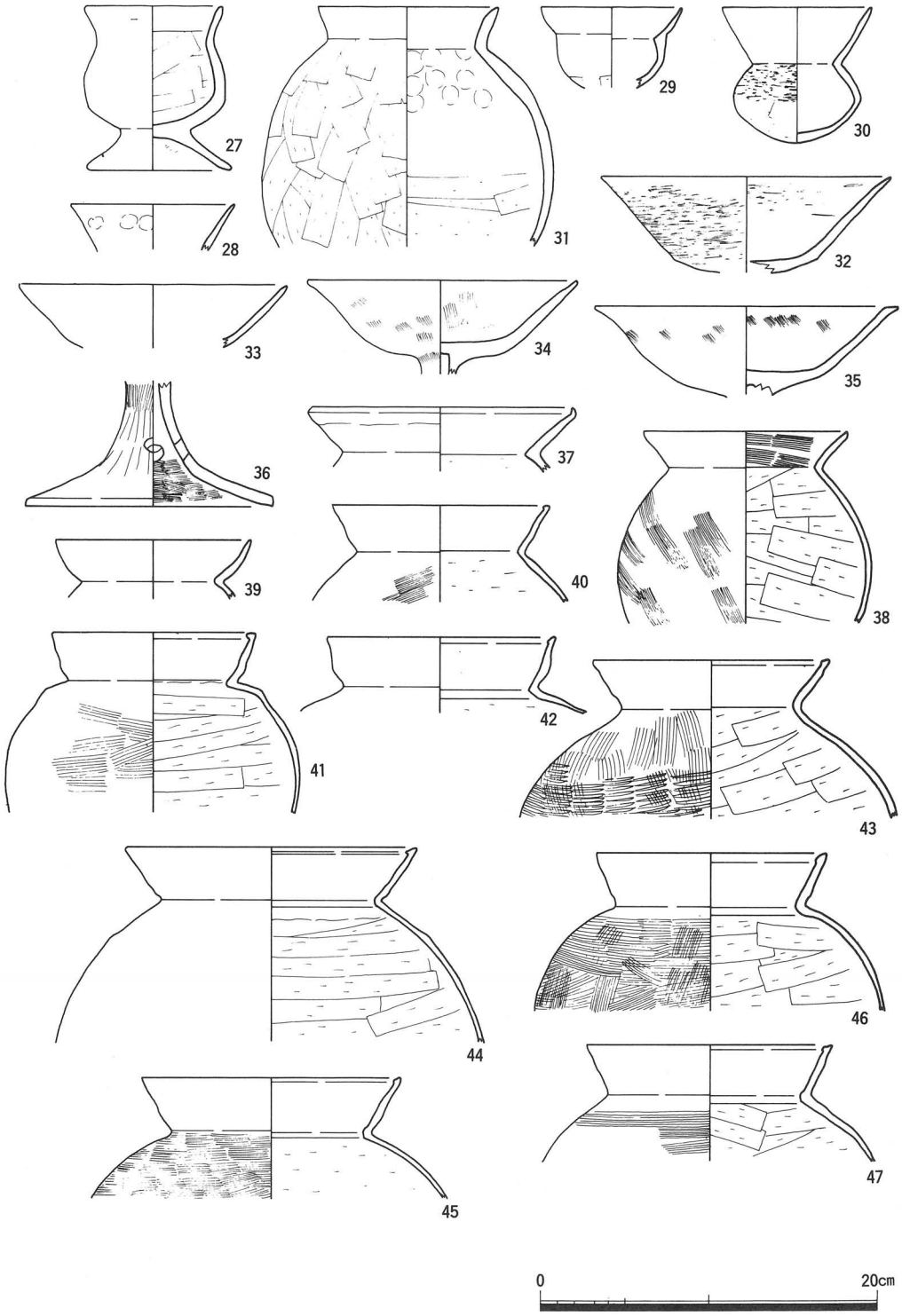
溝（ＳＤ）

ＳＤ１

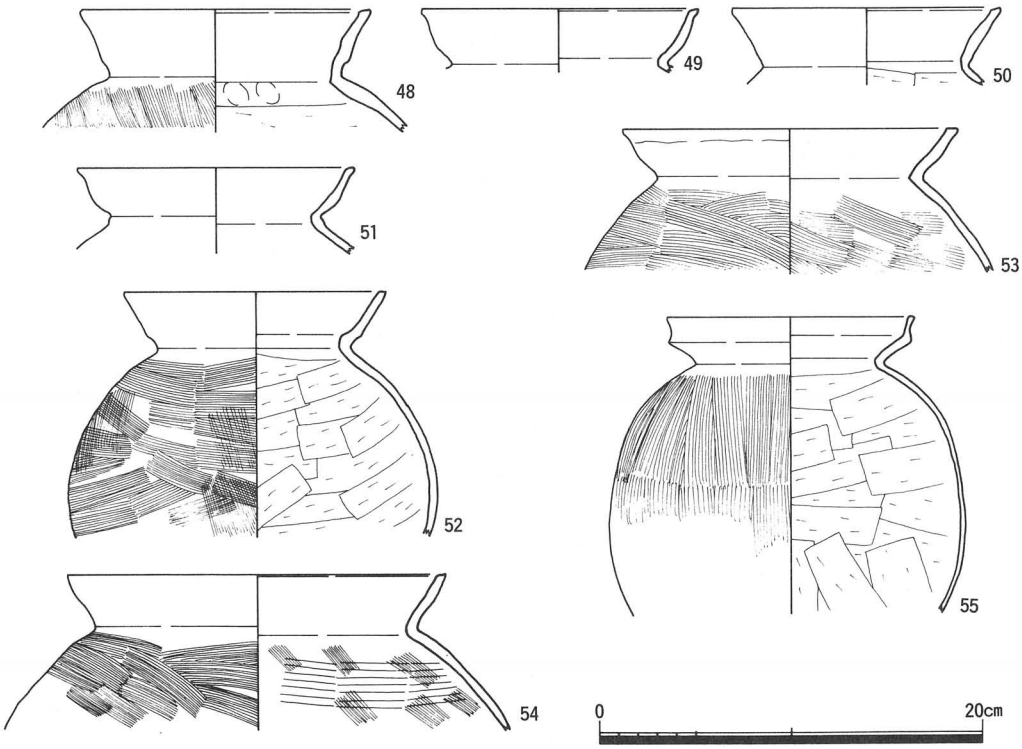
調査区の西部の第11層上面で検出した溝で、ＳＤ２によって切られている。方向は南北方向を示し、幅 0.6～1.2 m、深さ20～30cmを測る。断面は浅い逆台形を呈し、内部には暗灰黒色砂粘土が堆積している。遺物は、溝の側壁の斜面に沿うように土器片が出土している。器種には布留式古相に比定される小型台付壺（27）・小型丸底壺（28～30）・壺（31）・高杯（32～36）・庄内式甕（37）・布留式甕（38～54）・吉備系甕（55）がある（第６・７図）。



第8図　SD1・SD2検出遺物平面図



第９図　SD1出土遺物実測図１

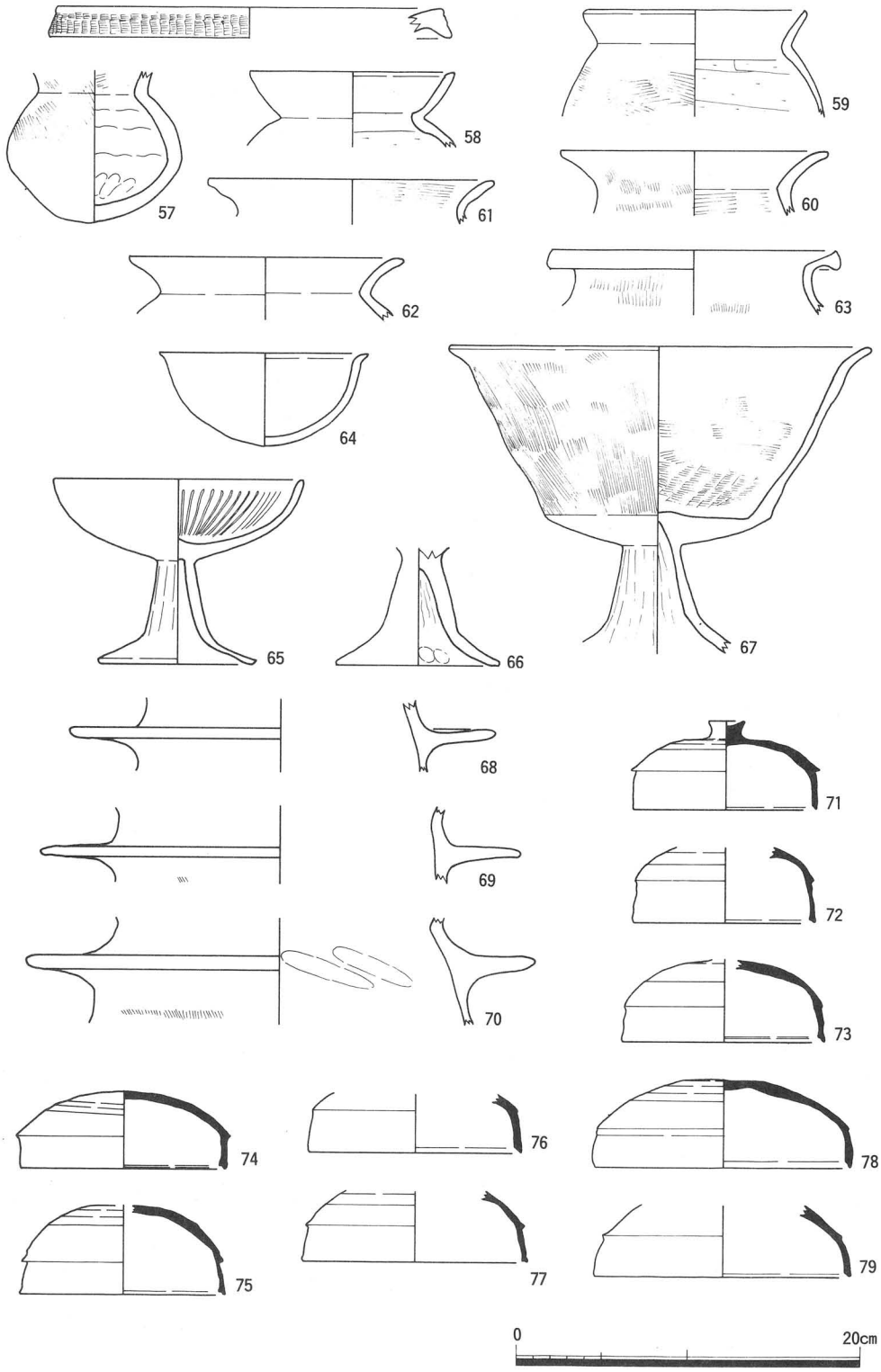


ＳＤ２

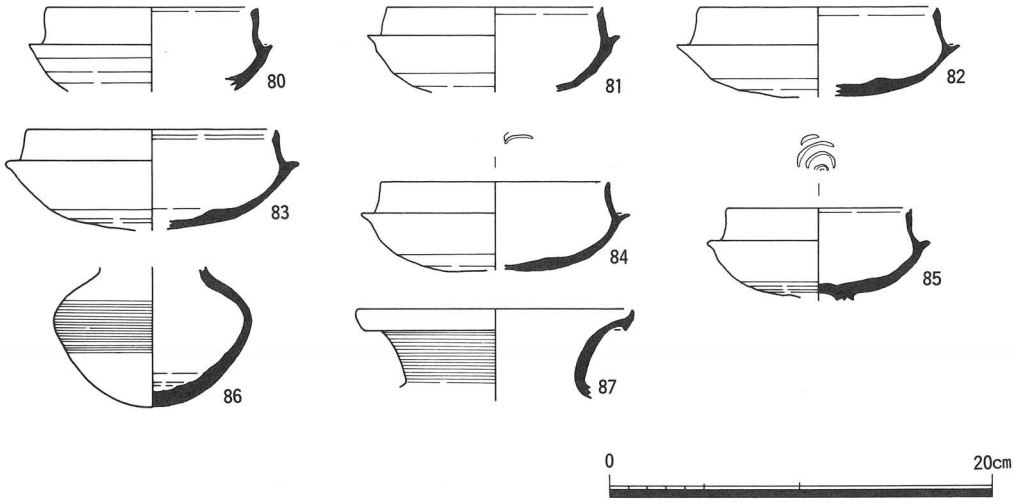
調査区の西部で検出した溝で、ＳＤ１を切っている。平面は北西部を主軸として円弧を描きながら西部及び北部の調査区外に至る。規模は検出部で、幅１～1.2 m、深さ30～40cmを測る。断面は逆台形を呈し、内部には黒灰色粘土・灰黒色粘土混細砂の２層が堆積している。遺物は、底面上付近から古墳時代中期に比定される土師器の小型壺（57）・杯（64）・高杯（65～67）。羽釜（68～70）、須恵器（陶邑編年によるⅠ型式２～４段階に相当する）の杯蓋（71～79）・杯身（80～84）・高杯（85）・甕（86）・壺（87）、製塩土器（88～94）。その他には畿内第Ⅳ様式の壺（56）、砥石（95）である（第８～10図）。

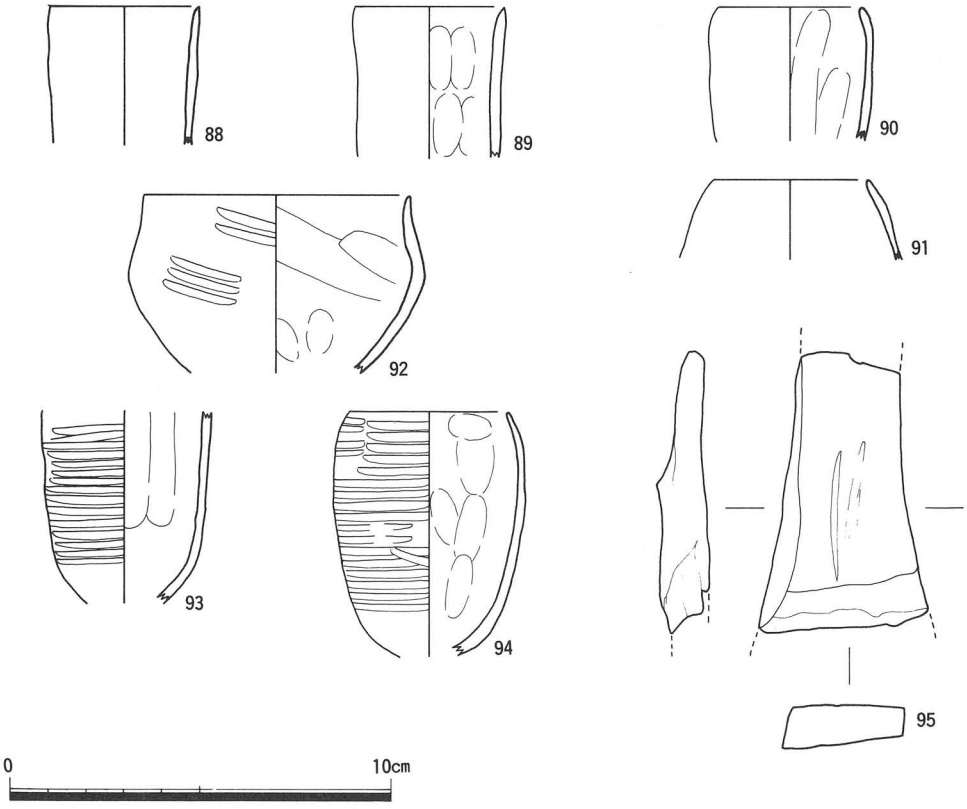
柱穴（ＳＰ１）

調査区の北西隅で検出した柱穴である。平面は円形を呈し、径30cm、深さ30cmを測る。この柱穴の中には柱根（径10cm、長さ40cm）が腐敗した状態で残存していた。掘形の埋土は黒灰色粘土である。遺物は出土していないがＳＤ２と同一土層であることから古墳時代中期後葉に位置づけられるものと考えられる。この柱穴は調査区内で１個だけの検出であり関連するものは検出しなかった。



第11図　SD2出土遺物実測図１





第12図　SD2出土遺物実測図 2

3)　遺構に伴わない出土遺物

第４層と第９・10層内から主に出土した。出土量はコンテナ箱にして約７箱分を数える。遺物は弥生時代中期～鎌倉時代に至るものである。第４層は河川の氾濫した堆積土で、内部からは主に弥生時代中期に比定される畿内第Ⅱ様式～畿内第Ⅲ様式の土器・石器類と、鎌倉時代に比定される瓦器などが出土している。第９層は古墳時代中期～後期に比定される包含層で、内部から土師器・須恵器・石器類が出土している。第10層は古墳時代前期（布留式古相）に比定される包含層で、調査区の東部だけ堆積する。内部からは土師器が出土している。

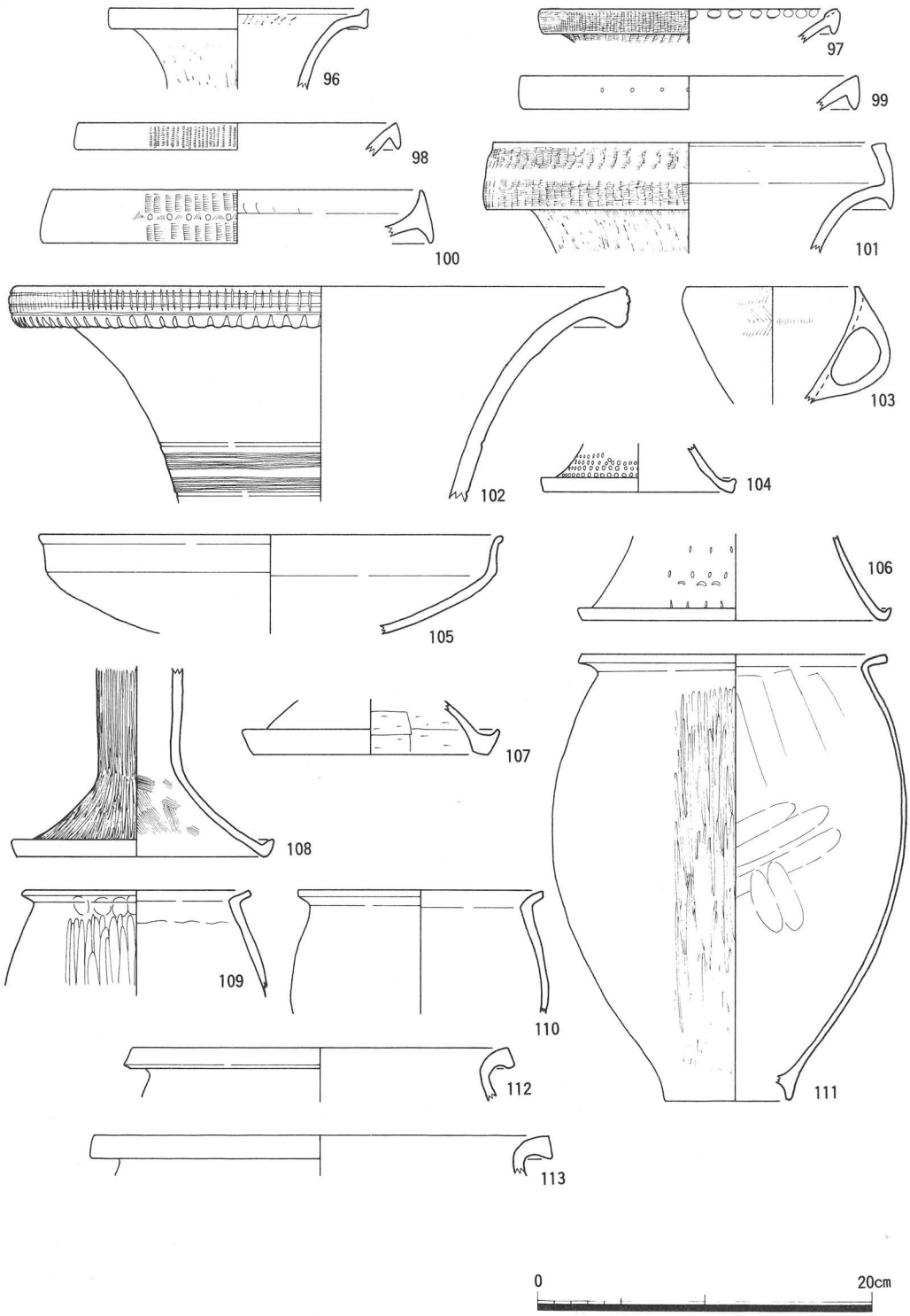
図示できたものを時期別に分けると、以下のようになる。

弥生時代に比定されるもの（第４層出土）として、畿内第Ⅱ様式の壺（96～102）・コップ形土器(103)、畿内第Ⅳ様式の器台(104・105)・高杯(106～108)・甕(109～118)である。古墳時代前期に比定されるもの（第11層出土）として、布留式古相の壺(119～128 ）・小型壺(129～135)・鉢(136～141)・高杯(142～164 ）・Ｖ様式系甕（165)・庄内式甕(166)・布留式甕(167～205)・甕(206～216)・複合口縁の甕(217～219)・高杯(220～225)である。古墳時代中期～後期に比定されるもの（第10層出土）として、土師器の甑(226～228)・羽釜(229～231)、製塩土器(232～244)、須恵器（陶邑編年によるⅠ型式２段階～Ⅱ型式３段階）の杯蓋(245～257)・杯身(258～278)・高杯(279～283)・壺(284～287)・甕(288～292)である。鎌倉時代に比定されるもの（第11層出土）として、瓦器椀(293) である（第13～21図)。その他には第４層内から出土した弥生時代中期に比定される石器類がある(第22～30図)。石器類は滑石製の双孔円盤(294)の１点だけで除けば、ほとんどがサヌカイト製である。295 ～297 は石槍、298～299 は石核、300 ～340 は剝片である。これらの石器類の法量などの詳細について第３表に掲載した。

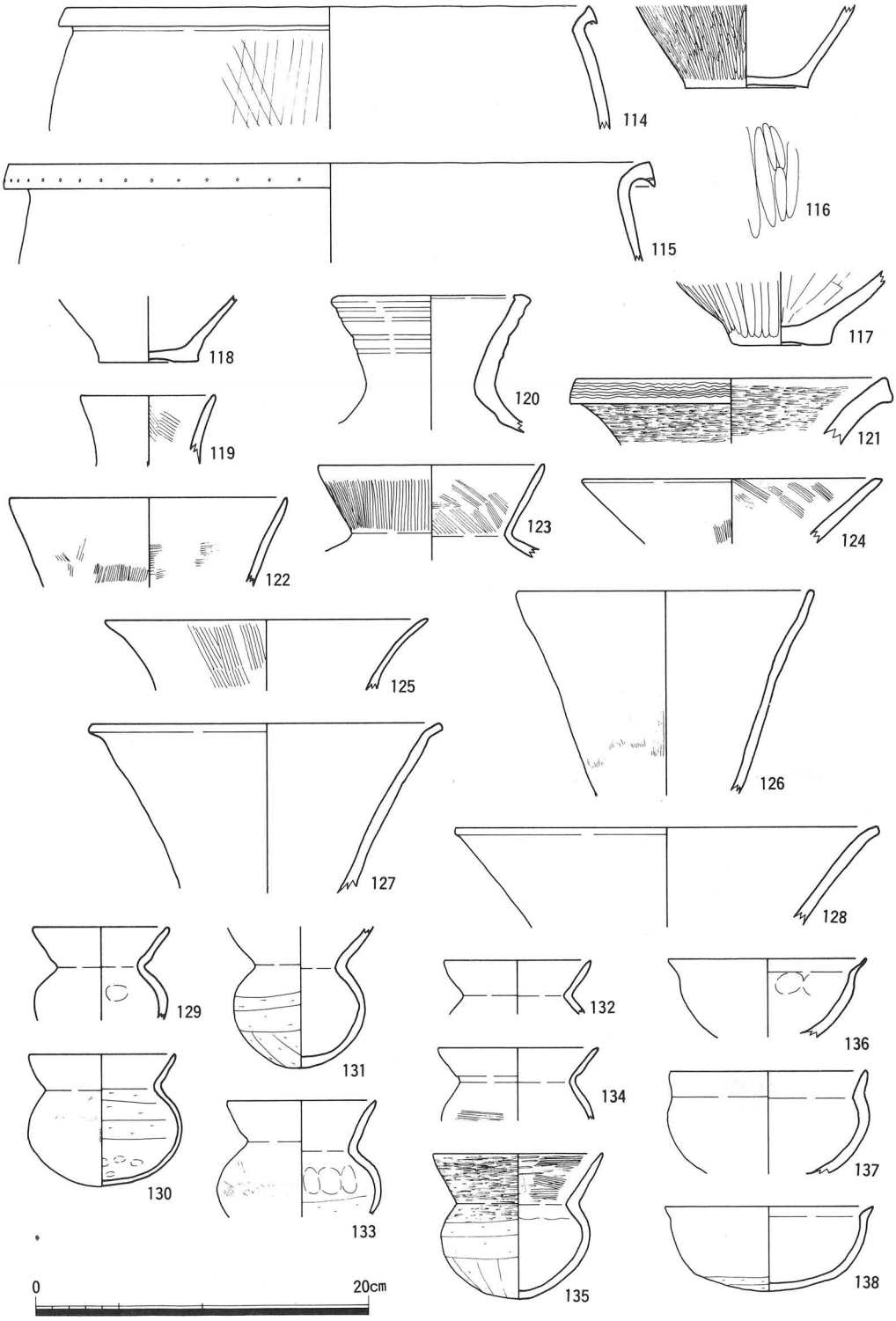
第３表　遺構に伴わない出土遺物（石器類）の法量一覧表

遺物番号	名　　称	出土地区	層　位	縦(cm)	横(cm)	厚み(cm)	重さ(g)
294	滑石製有孔盤	a 2	第４層	3.1	2.8	0.4	27
295	石　　槍	a 2	第４層	10.2	4.4	1.6	20
296	石　　槍	a 2	第４層	10.9	5.9	3.0	143
297	石槍未製品	a 2	第４層	8.9	4.0	1.1	65
298	石　　核	a 1	第４層	8.8	6.2	1.5	100
299	石　　核	a 2	第４層	6.3	5.7	0.6	30
300	剝　　片	a 2	第４層	6.3	5.7	0.6	30
301	剝　　片	a 2	第４層	4.6	6.0	1.4	30
303	剝　　片	a 2	第４層	7.5	4.4	1.3	32
304	剝　　片	a 1	第４層	4.1	2.9	0.4	6
305	剝　　片	a 1	第４層	3.9	3.1	0.6	8
306	剝　　片	a 1	第４層	4.9	3.0	1.0	26
306	剝　　片	a 1	第４層	5.0	2.3	1.5	31

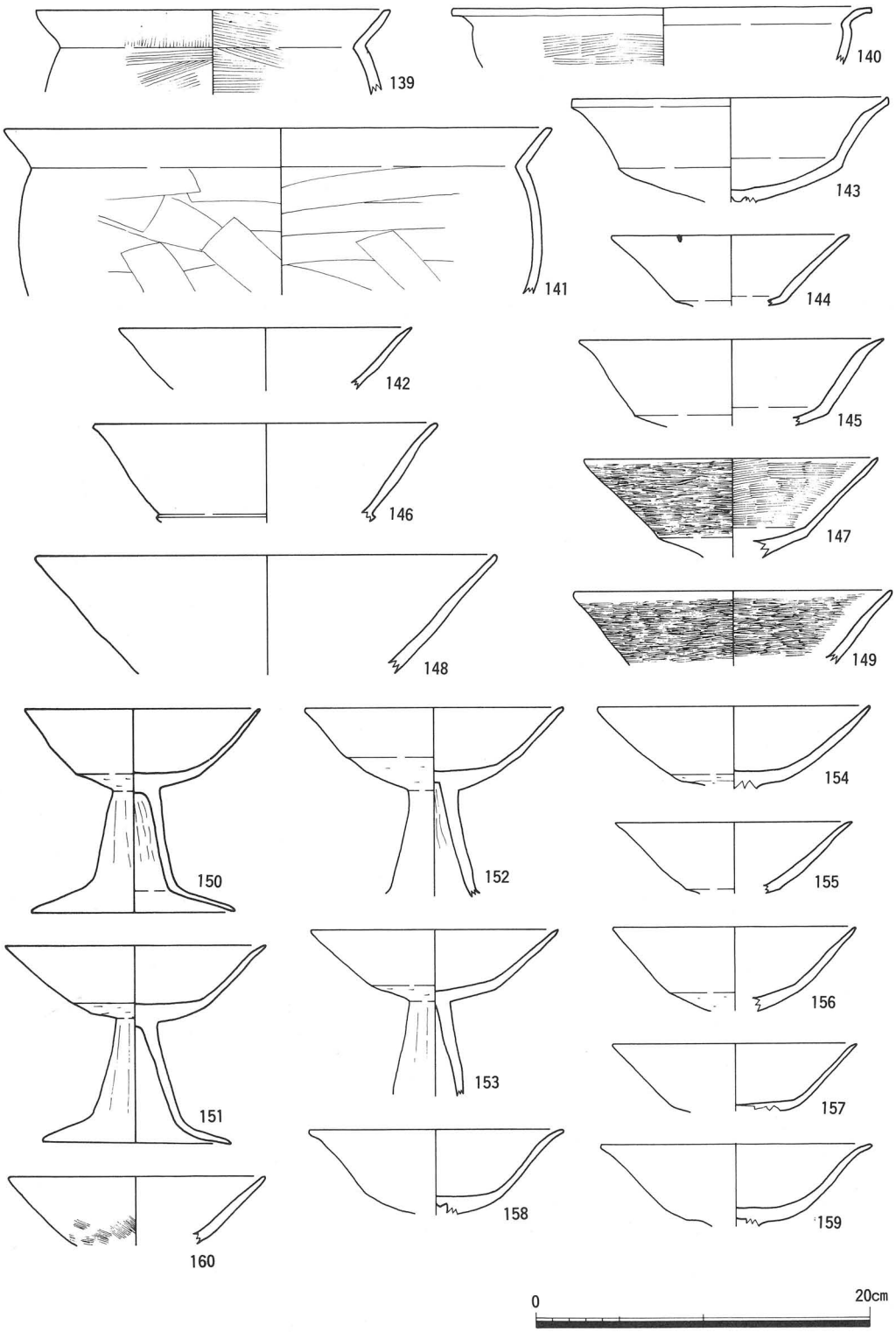
遺物番号	名　　称	出土地区	層　位	縦(cm)	横(cm)	厚み(cm)	重さ(g)
307	剝　片	a 1	第4層	5.0	3.0	1.5	31
308	剝　片	a 1	第4層	4.9	2.3	1.4	20
309	剝　片	a 1	第4層	6.2	3.9	1.9	48
310	剝　片	a 1	第4層	4.6	1.9	1.1	12
311	剝　片	a 1	第4層	6.4	3.8	1.4	31
312	剝　片	a 1	第4層	5.0	3.1	0.9	20
313	剝　片	a 1	第4層	5.7	2.8	0.7	11
314	剝　片	a 1	第4層	4.4	2.4	0.7	9
315	剝　片	a 1	第4層	3.9	2.7	0.5	8
316	剝　片	a 1	第4層	4.3	2.9	0.5	6
317	剝　片	b 2	第4層	2.3	1.3	0.4	1
318	剝　片	a 3	第4層	3.0	1.5	0.4	2
319	剝　片	b 2	第4層	2.7	1.7	0.9	3
320	剝　片	b 2	第4層	3.6	1.6	0.6	5
321	剝　片	a 1	第4層	2.6	1.4	0.3	1
322	剝　片	b 2	第4層	2.6	1.5	0.2	1
323	剝　片	b 2	第4層	3.0	2.1	0.5	4
324	剝　片	b 2	第4層	3.8	3.1	1.0	14
325	剝　片	b 2	第4層	3.3	2.3	0.4	5
326	剝　片	b 2	第4層	1.7	1.8	0.7	2
327	剝　片	b 2	第4層	3.6	3.3	1.0	12
328	剝　片	a 1	第4層	1.8	1.5	1.1	6
329	剝　片	a 1	第4層	5.2	3.1	1.0	10
330	剝　片	a 1	第4層	3.3	2.5	1.0	16
331	剝　片	a 1	第4層	4.6	4.0	1.4	22
332	剝　片	b 2	第4層	4.1	1.9	0.9	8
333	剝　片	a 1	第4層	4.4	2.0	0.5	5
334	剝　片	a 1	第4層	4.1	2.2	0.9	12
335	剝　片	a 1	第4層	3.6	2.0	0.7	6
336	剝　片	b 2	第4層	3.9	2.4	1.0	10
337	剝　片	b 2	第4層	4.6	2.6	0.3	5
338	剝　片	b 2	第4層	2.5	2.3	0.4	3
339	剝　片	b 2	第4層	2.6	2.2	0.4	3
340	剝　片	b 2	第4層	2.2	2.1	0.6	4
341	剝　片	b 2	第4層	2.9	2.4	0.7	7
342	剝　片	b 2	第4層	2.5	1.7	0.4	2
343	剝　片	b 2	第4層	3.3	2.3	0.4	4
344	剝　片	a 1	第4層	2.0	1.4	0.1	1
345	剝　片	b 2	第4層	4.0	2.6	0.5	7
346	剝　片	a 1	第4層	2.1	2.0	0.4	2
347	剝　片	a 1	第4層	2.2	2.1	0.3	4
348	剝　片	b 2	第4層	3.3	2.5	0.4	4
349	剝　片	b 2	第4層	2.1	2.0	0.6	4



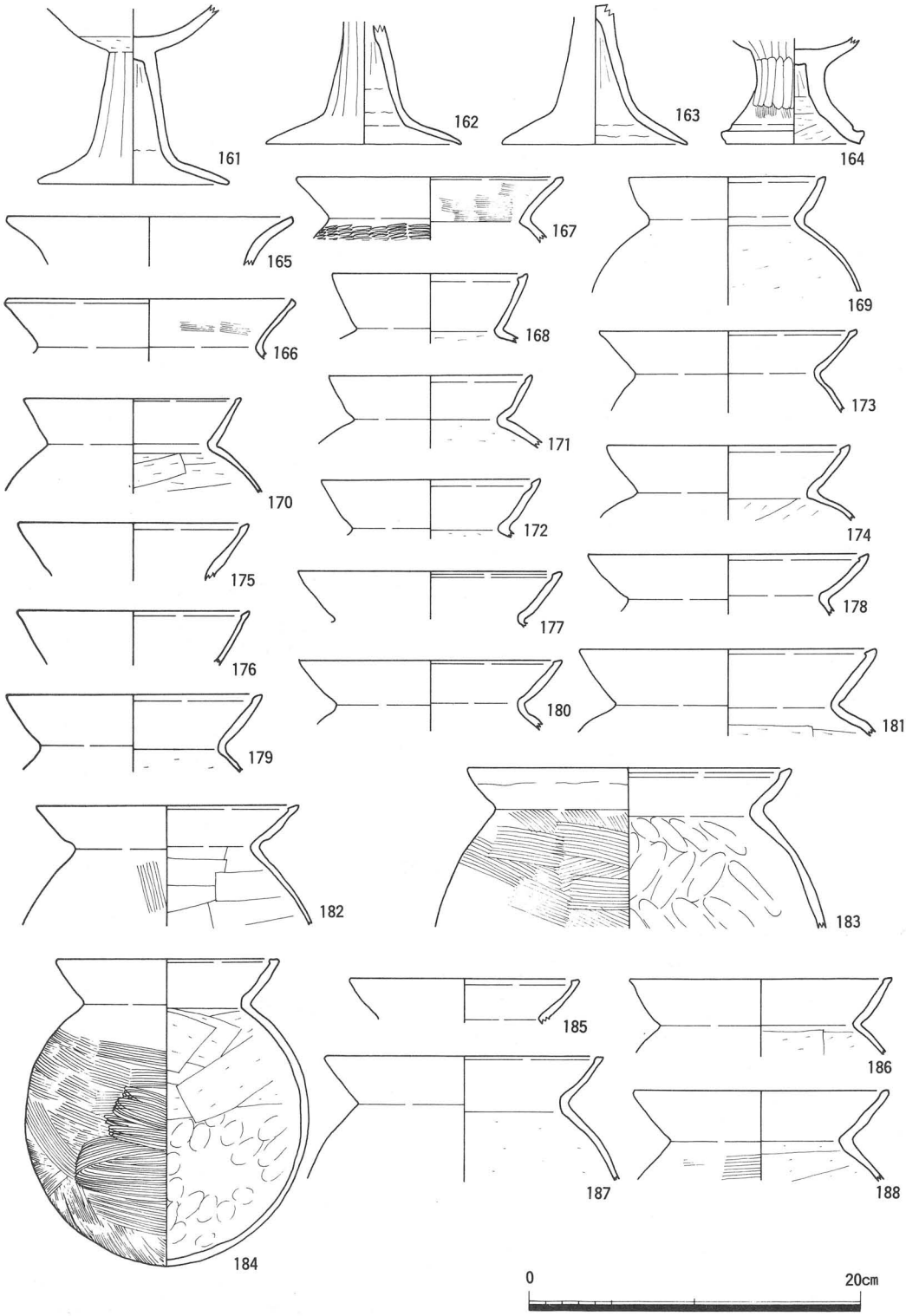
第13図　遺構に伴わない出土遺物実測図１



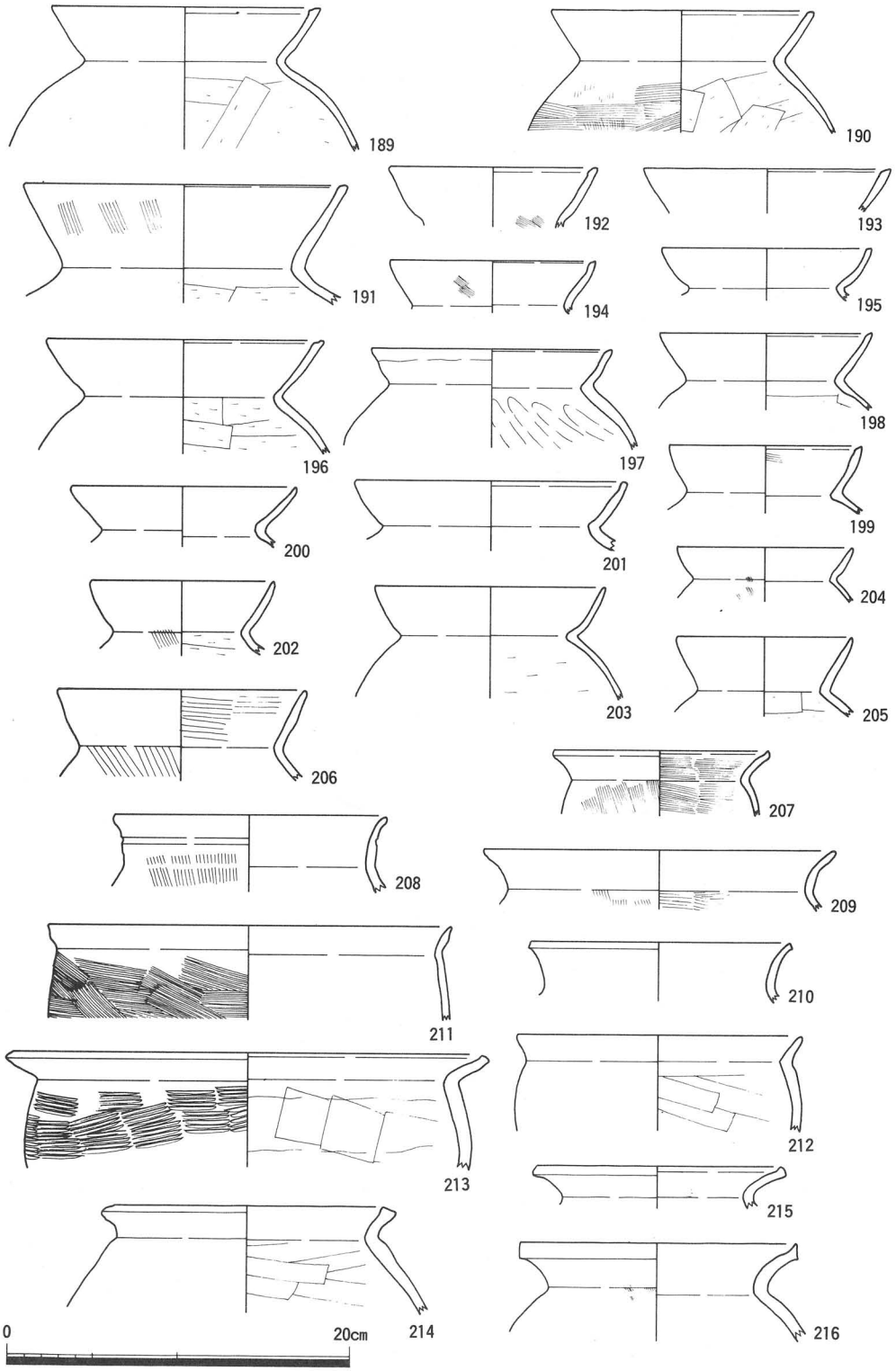
第14図　遺構に伴わない出土遺物実測図２



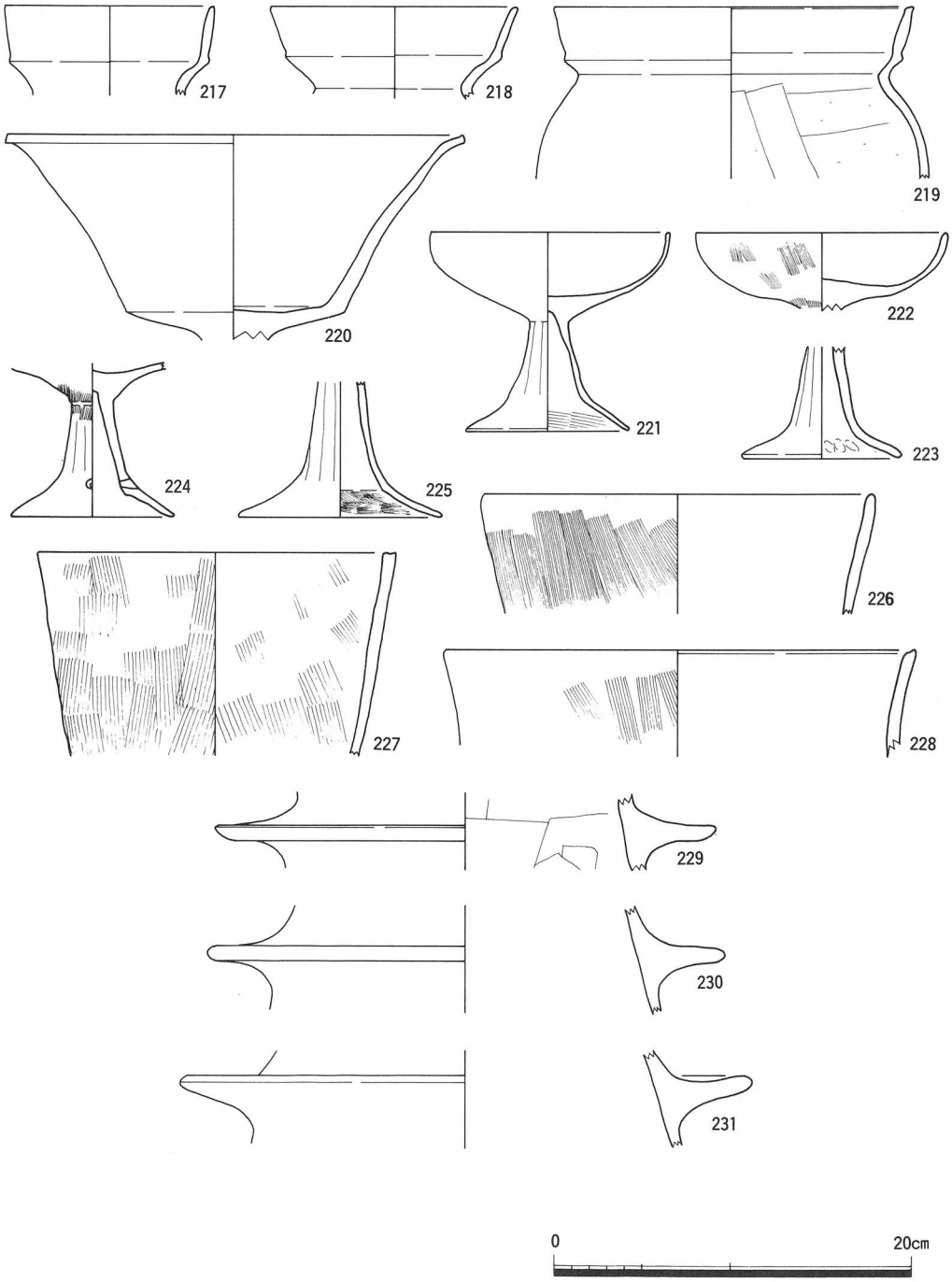
第15図　遺構に伴わない出土遺物実測図３



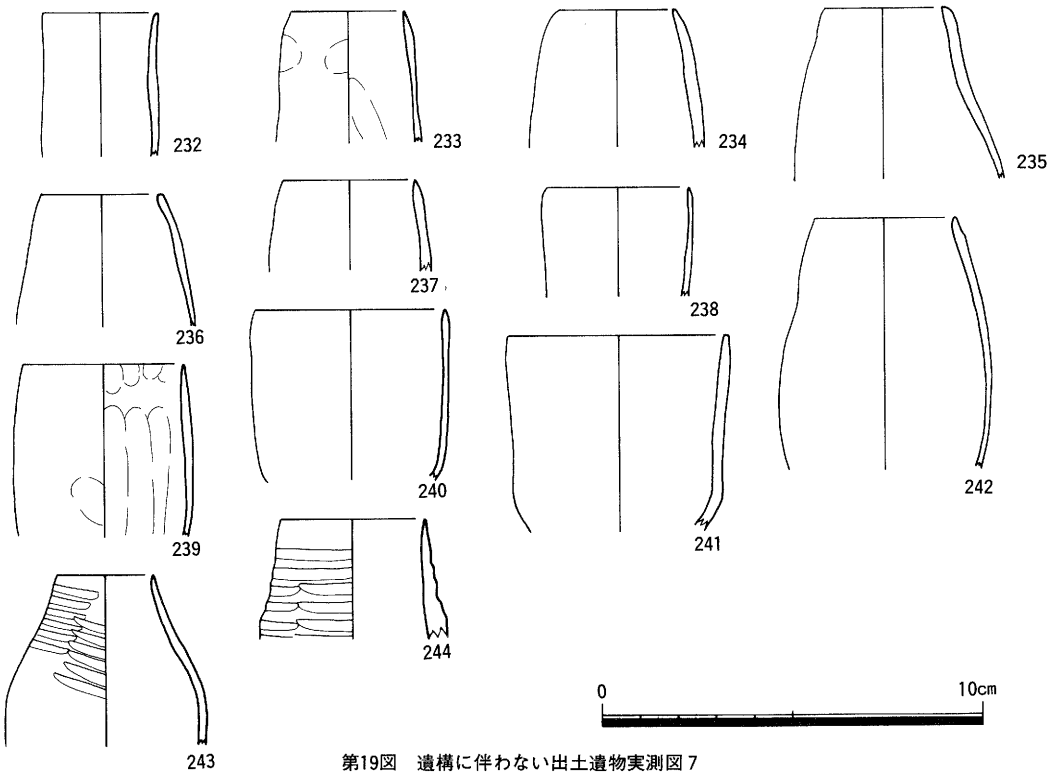
第16図　遺構に伴わない出土遺物実測図４



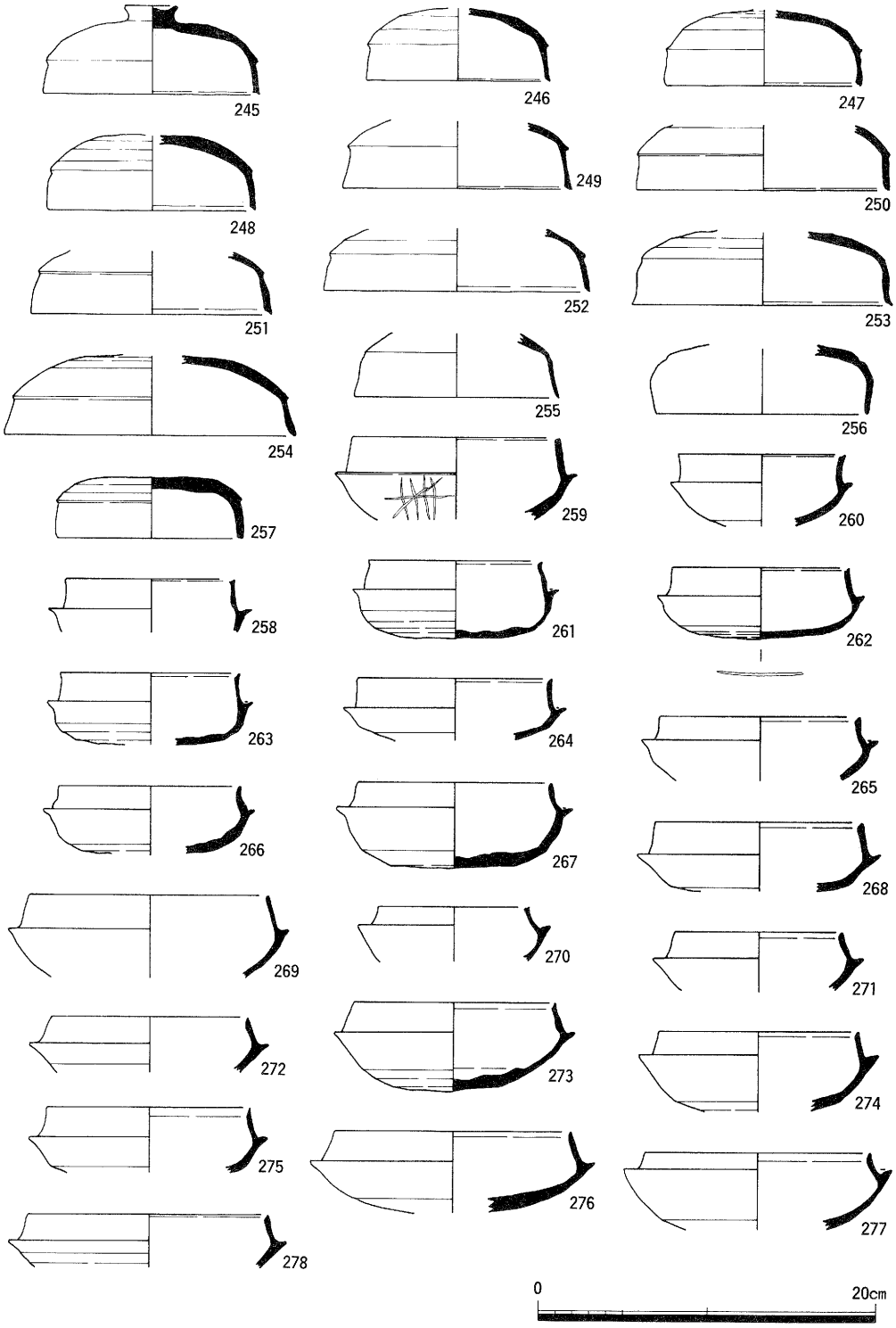
第17図　遺構に伴わない出土遺物実測図５



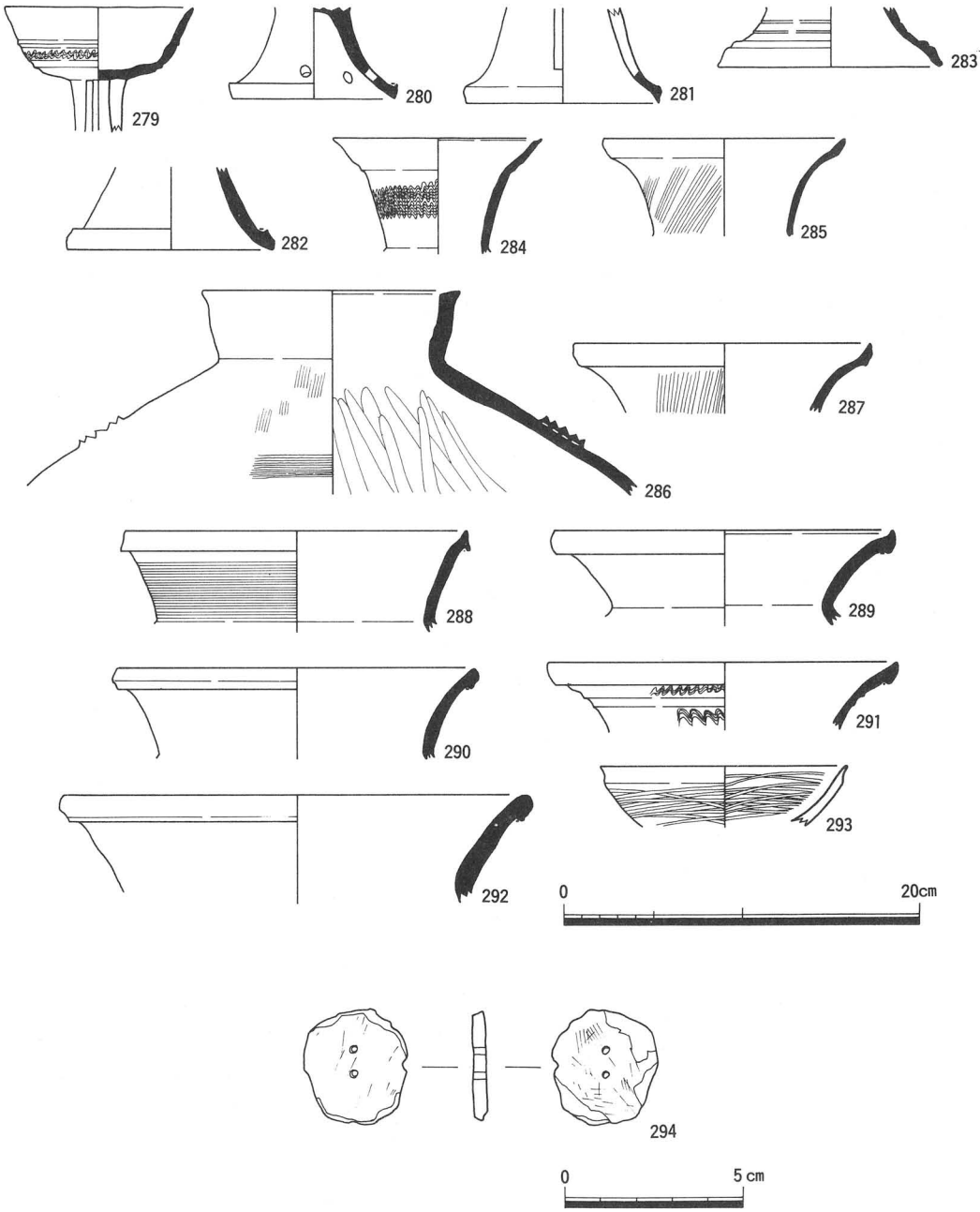
第18図　遺構に伴わない出土遺物実測図 6



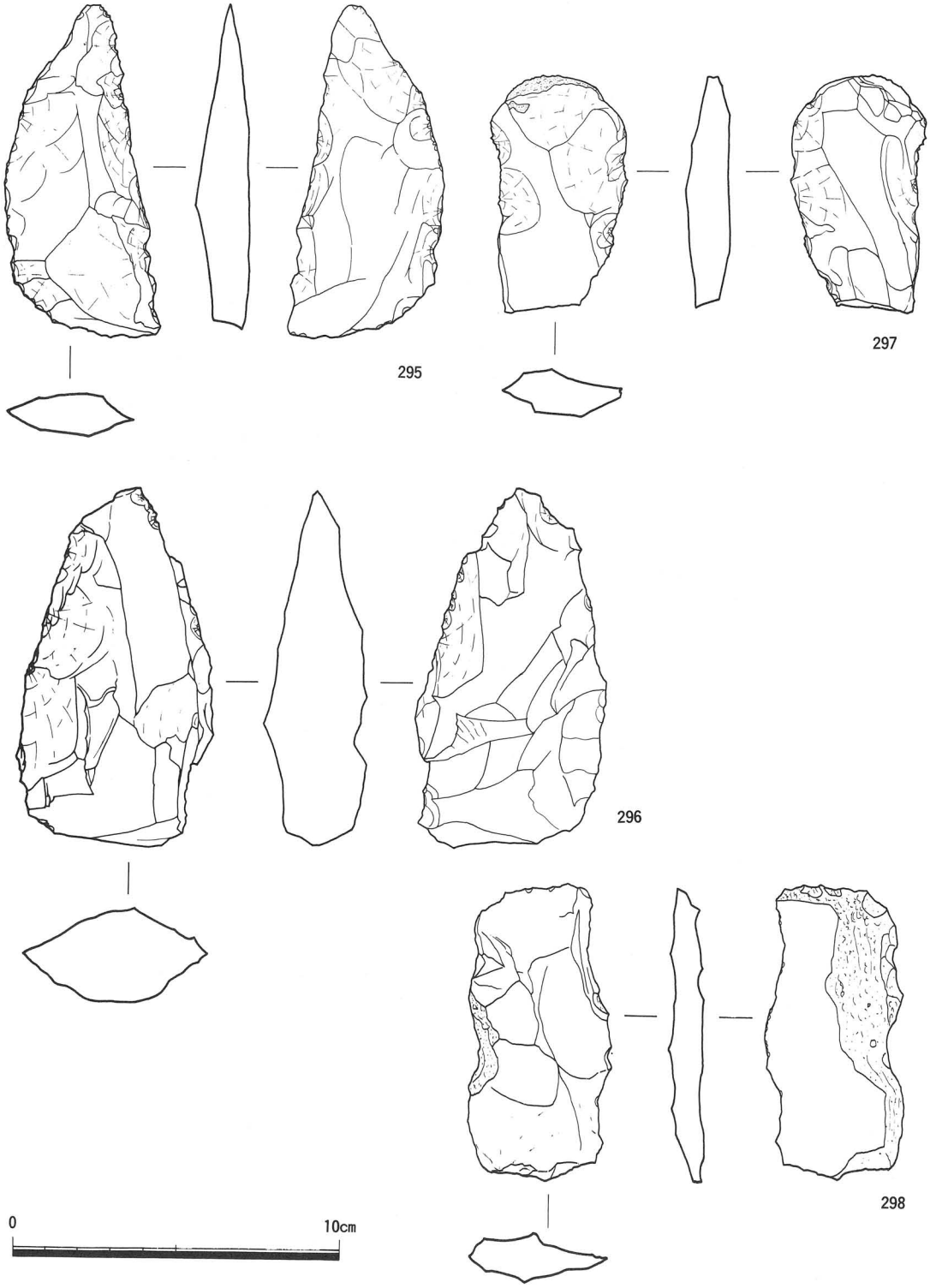
第19図　遺構に伴わない出土遺物実測図７



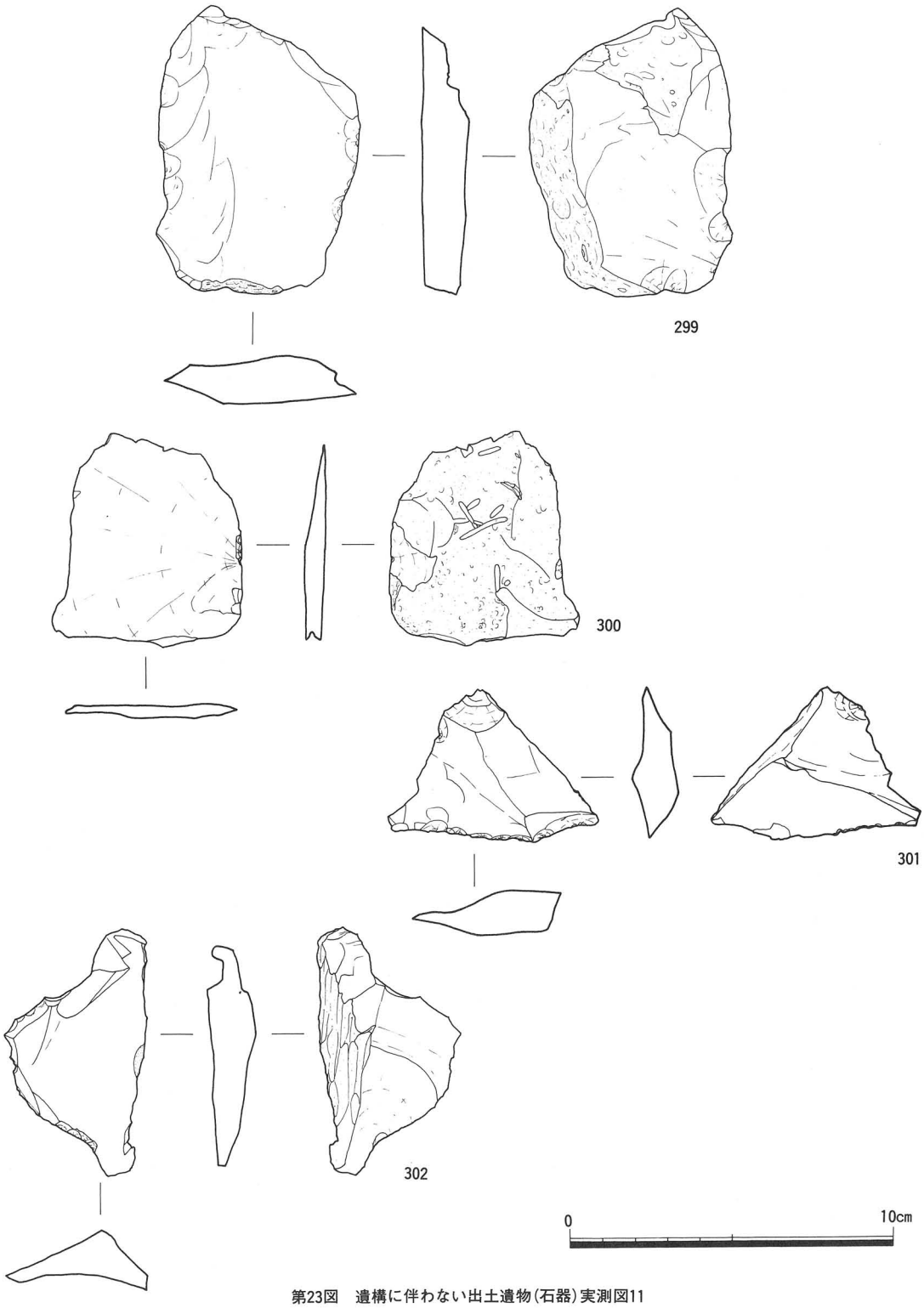
第20図　遺構に伴わない出土遺物実測図8



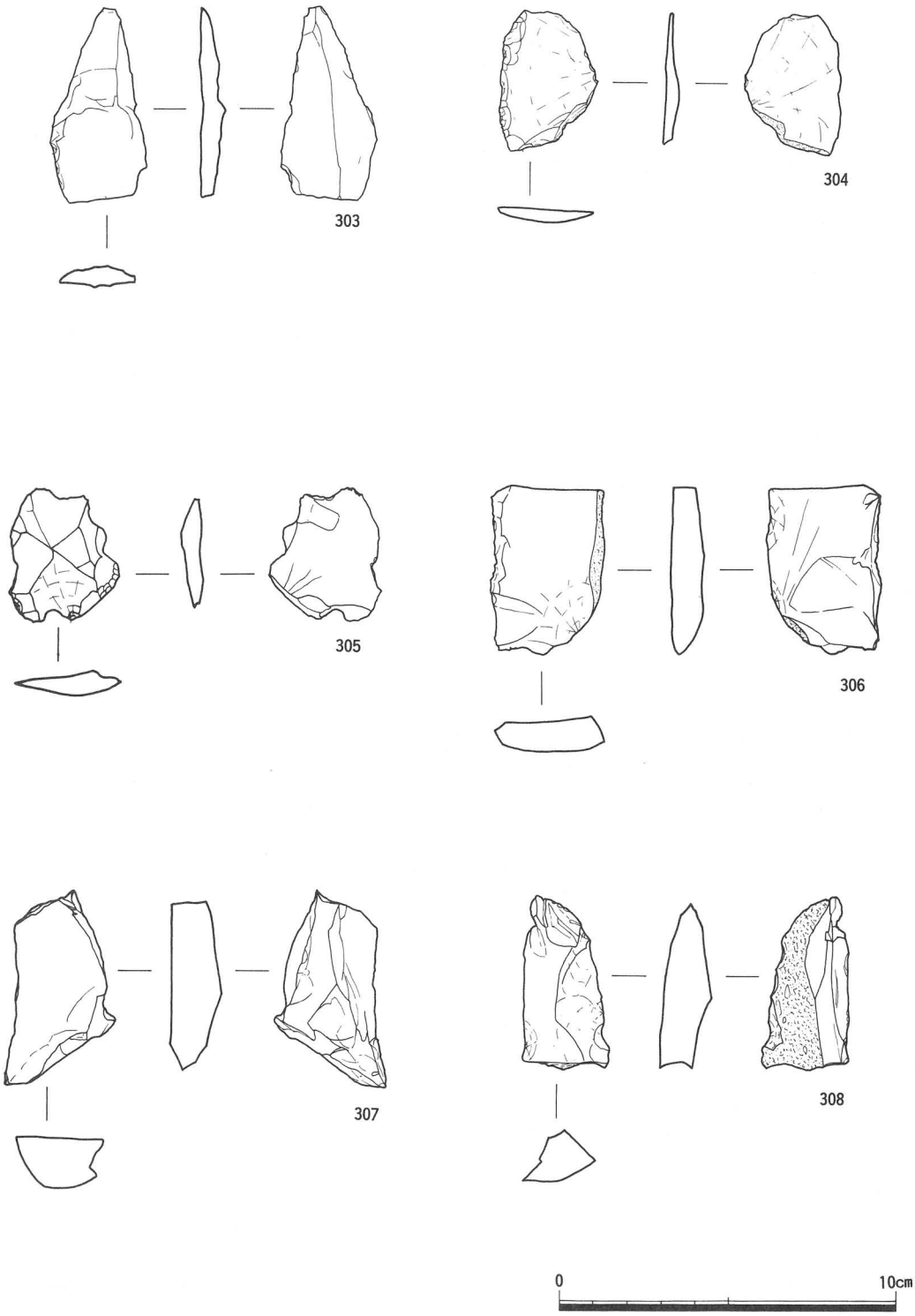
第21図　遺構に伴わない出土遺物実測図９



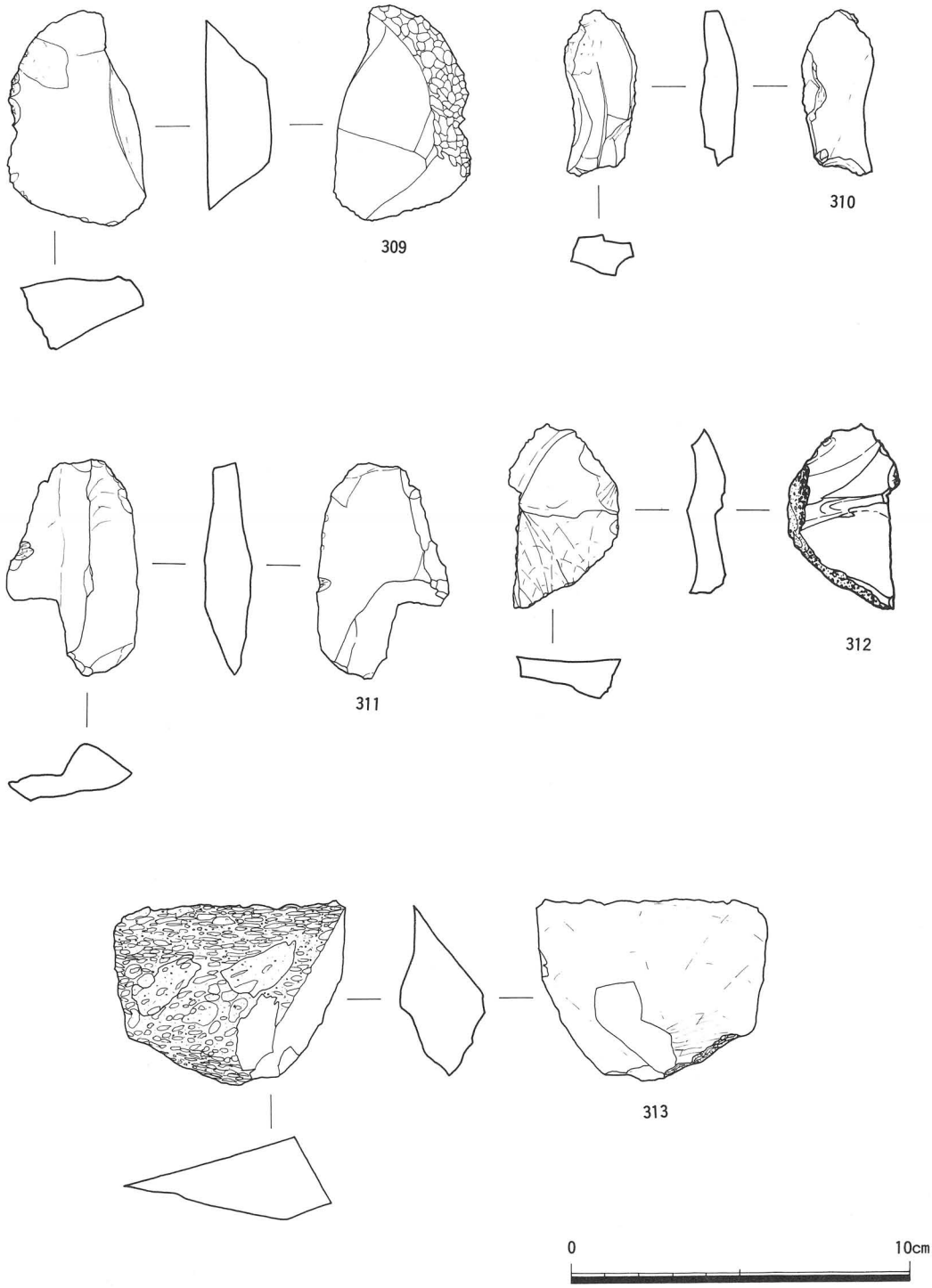
第22図　遺構に伴わない出土遺物(石器)実測図10



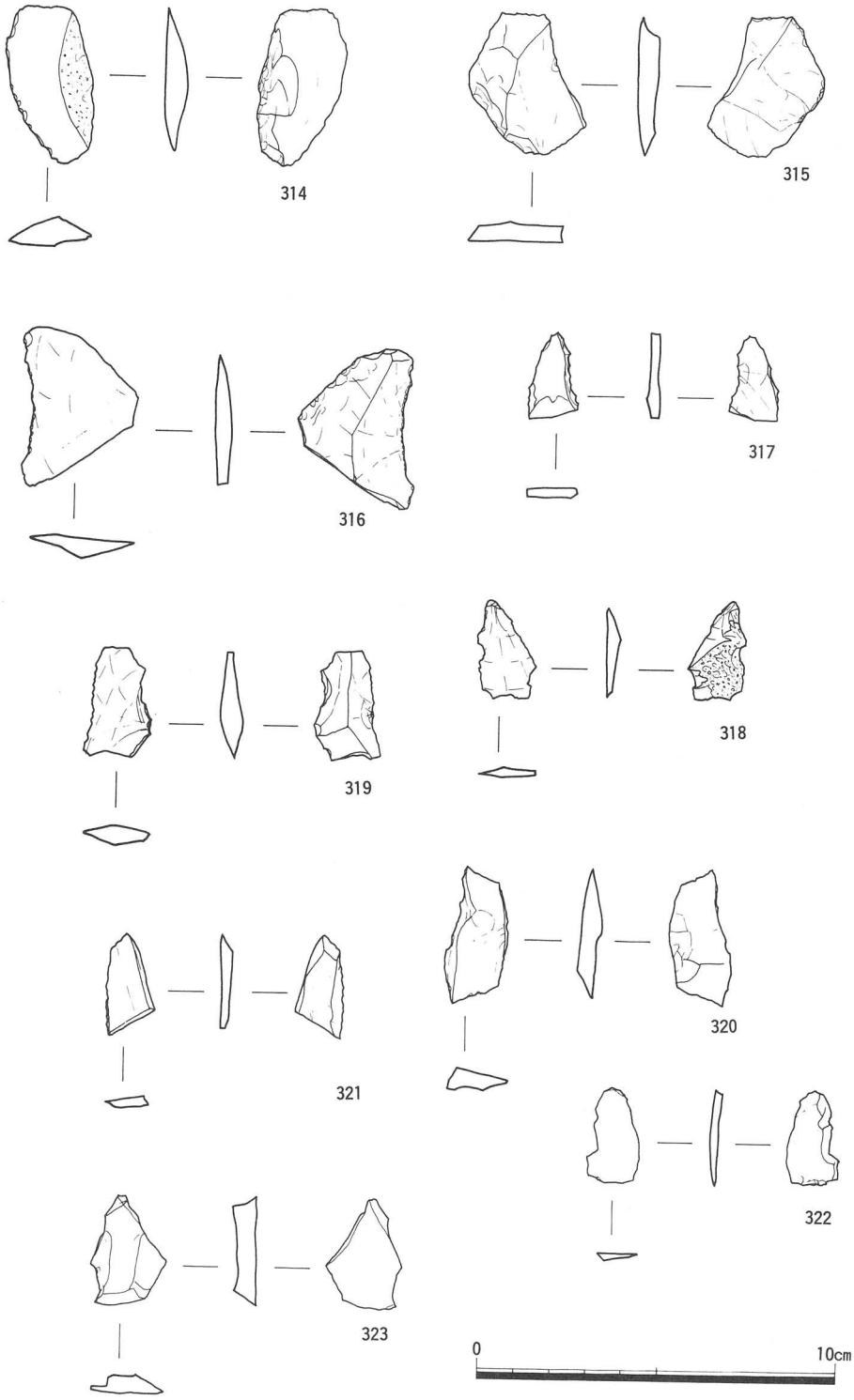
第23図　遺構に伴わない出土遺物（石器）実測図11



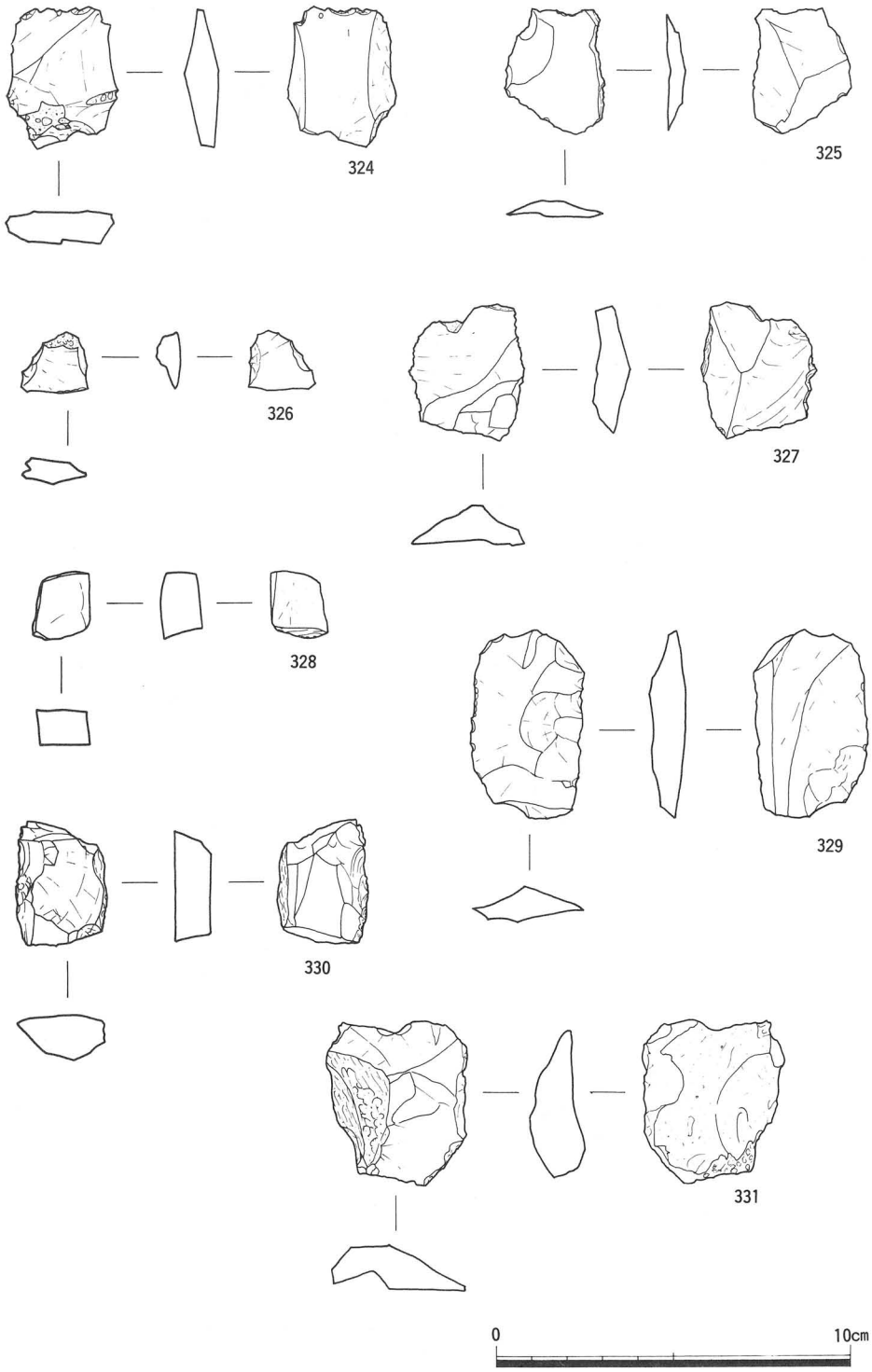
第24図　遺構に伴わない出土遺物(石器)実測図12



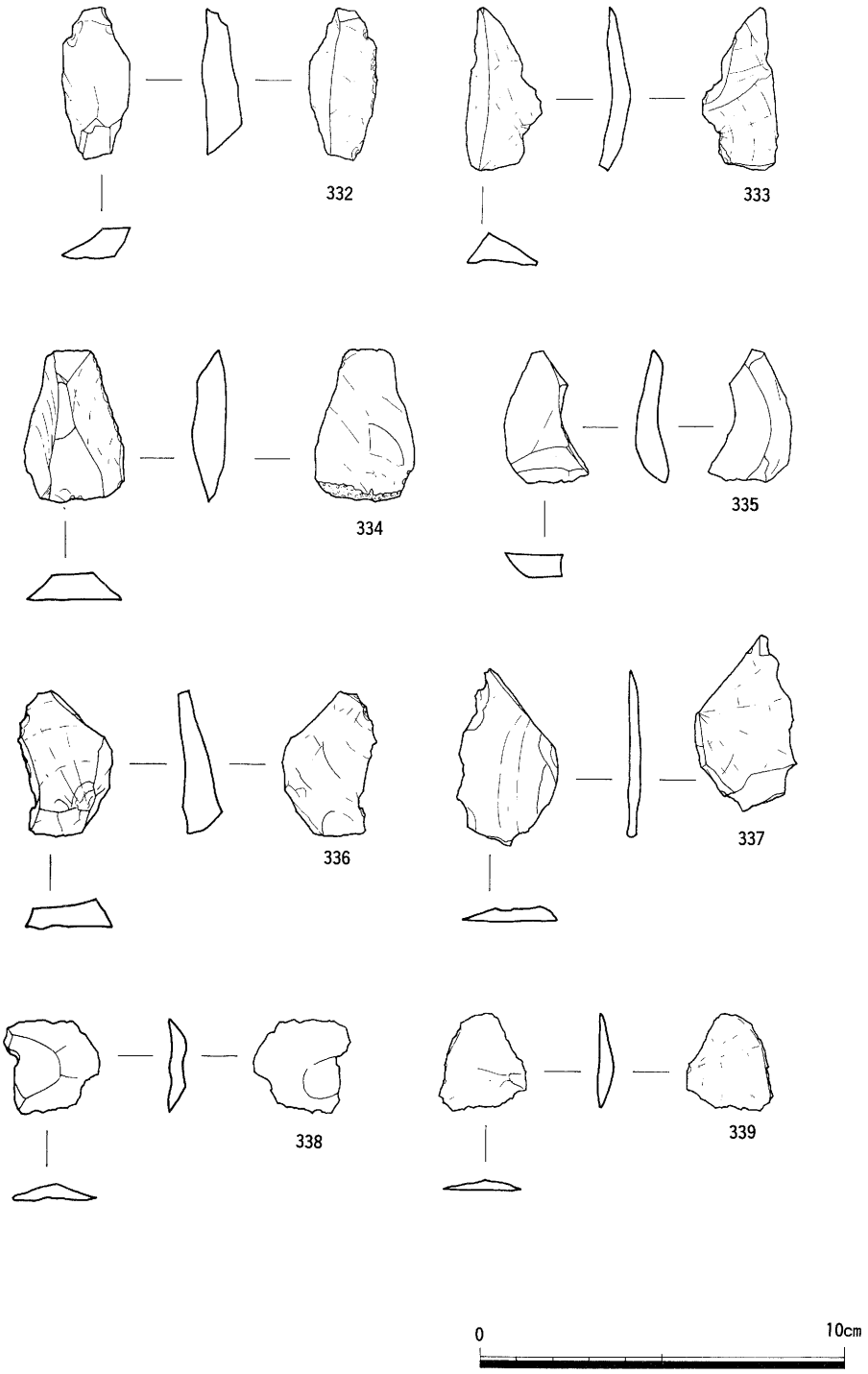
第25図　遺構に伴わない出土遺物（石器）実測図13



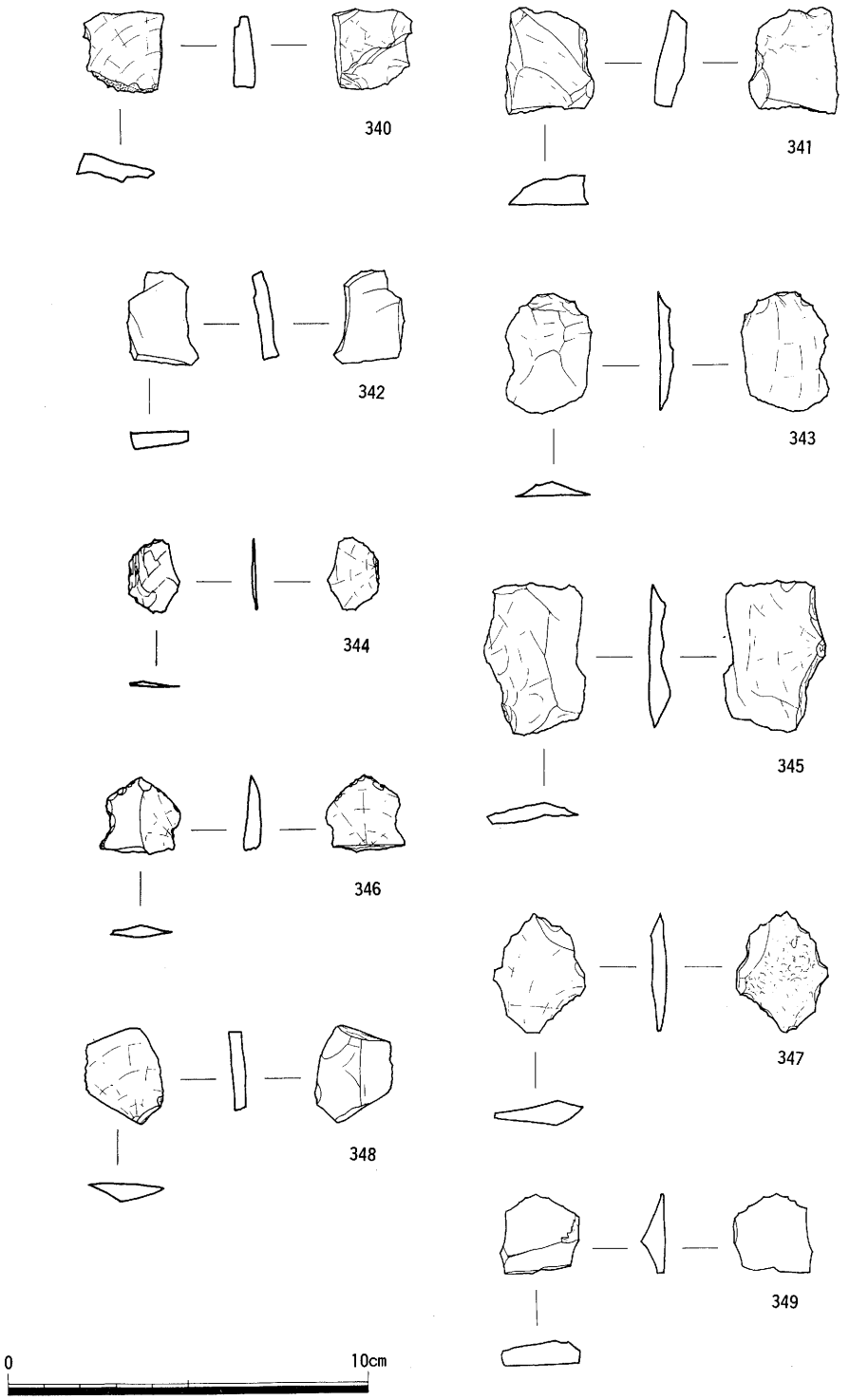
第26図　遺構に伴わない出土遺物(石器)実測図14



第27図　遺構に伴わない出土遺物（石器）実測図15



第28図　遺構に伴わない出土遺物(石器)実測図16



第29図　遺構に伴わない出土遺物（石器）実測図17

第４節　出土遺物観察表

ＳＫ１

遺物番号 図版番号	器　　種	法量（cm）　口径 器高	形態・調整等の特徴	色　　調	胎　　土	焼　成	備　　考
1	甕 （弥生式土器）	口　径　20.2	上内方へ内湾気味に体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は上下に肥厚し、外傾する面をもつ。 口縁部内外面列点文、内面ヨコナデ、体部外面ハケナデ（10本）後ナデ、内面ハケナデ（10本）。	茶灰色	３㎜以下の長石・石英雲母等の砂粒を多量含む。	良	
2	小型丸底壺 （土師器）	口　径　8.4 器　高　8.2	中位に張りをもつ体部から屈曲し、上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は丸底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ（10本）後ナデ、内面ナデ。	外　淡茶灰色 内　黒灰色	３㎜以下の長石・石英雲母等の砂粒を多量含む。	良	
3	同上	口　径　8.8 器　高　8.5	球形に近い体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は丸底。 口縁部外面ハケナデ後ヨコナデ、内面ハケナデ、体部外面不明、内面ヘラ削り、底部内面指頭痕。	淡灰茶色	長石・石英赤褐色酸化粒・雲母等の微砂粒を多量含む。	良好	完形。 黒斑有。
4	同上	口　径　9.2 器　高　8.3	中位に張りをもつ偏平な体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は丸底。 口縁部内外面ヨコナデ、体面外部ハケナデ（10本）・一部ナデ、内面ヘラ削り、底部内面指頭痕。	淡茶灰色	２㎜以下の石英・赤褐色酸化粒・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
6	同上	口　径　9.6	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外部へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は丸底。口縁部外面中位に一条の接合痕がみられる。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。	淡灰茶色	長石・石英等の微砂粒を少量含む。	良	
7	たこ壺 （土師器）	口　径　5.4 器　高　10.2	断面「U」字形の体部からそのまま口縁部に至る。端部は丸い。口縁部付近に円形の穿孔（径１㎝）を有する。底部は丸底。 内外面ナデ。	淡灰色～淡茶色	4.5 ㎜以下のチャート長石・石英赤褐色酸化粒の砂粒を多量含む。	良好	
8	同上	口　径　7.6	断面「U」字形の体部からそのまま口縁部に至る。端部は丸い。口縁部付近にほぼ円形の穿孔（1.1 ～1.3 ㎝）１個を有する。底部は丸底。 体底部内面ヘラナデ、他はナデ。	淡灰茶色	５㎜以下の長石・チャート・石英等の砂粒を少量含む。	良好	黒斑有。
9	高杯 （土師器）	口　径　16.0	平坦な杯底部から緩やかに屈曲し、上斜方へ外反気味に伸びる口縁部至る。端部は丸い。脚部は欠損。 杯部内外面ヨコナデ。	淡灰褐色	長石・石英雲母・赤褐色酸化粒の微砂粒を少量含む。	良好	
10	同上	口　径　16.2	やや平坦な杯底部から緩やかに屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は外に短くつまみ、鈍く尖る。脚部は欠損。 杯部外面ヘラミガキ、内面ハケナデ後ヘラミガキ。	淡茶灰色	長石・雲母等の微砂粒を少量含む。	良好	黒斑有。
11	同上	口　径　17.8	やや平坦な杯底部から緩やかに屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は欠損。 杯部内外面ハケナデ後ナデ。	淡灰茶色	長石・雲母石英・赤褐色酸化粒の微砂粒を少量含む。	良好	
12	甕 （土師器）	口　径　13.6	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚し、内傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ、内面ヘラ削り。	淡褐灰色	３㎜以下の石英・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	煤付着。

遺物番号 図版番号	器　種	法量（cm）　口径 器高	形態・調整等の特徴	色　調	胎　土	焼　成	備　考
13	甕 （土師器）	口　径　14.2	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上外部へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヨコナデ、内面ヘラ削り。	淡褐灰色	3㎜以下の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
14	同上	口　径　13.8	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる全縁部に至る。端部は内方へ若干肥厚する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ（11本）、内面ヘラ削り。	暗灰茶色	3㎜以下の角閃石・長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	煤付着。
15	同上	口　径　16.0	体部から屈曲し、上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	淡褐灰色	1.0 ㎜以下の長石・雲母・石英等の砂粒を多量含む。	良好	煤付着。
16	同上	口　径　14.6	体部から屈曲し、上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	淡茶灰色	長石・雲母等の微砂粒を少量含む。	良好	
17	同上	口　径　15.2	体部から屈曲し、上外方へ直線的に伸びる口縁部に至る。端部はわずかに内傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラ削り。	淡茶灰色	2.0 ㎜以下の石英・長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
18	同上	口　径　16.2	上内方へ直線的に伸びる体部から屈曲し、上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内面ヘラ削り。	淡茶灰色	長石・角閃石・雲母・石英・赤褐色酸化粒の微砂粒を少量含む。	良好	
19	同上	口　径　17.4	体部から屈曲し、上外方へ直線的に伸びる口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ナデ。	淡茶灰色	長石・石英雲母等の砂粒を少量含む。	良好	

ＳＤ１

遺物番号 図版番号	器　種	法量（cm）　口径 器高	形態・調整等の特徴	色　調	胎　土	焼　成	備　考
27	台付壺 （土師器）	口　径　8.2 器　高　9.9 底　径　9.4	最大径を中心より下にもつ球形の体部から丸く屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は外下方へ伸びる。裾端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内面ヘラ削り。脚部外面ヨコナデ、内面ハケナデ（５本）。	灰黄色	2.0 ㎜以下の長石・雲母・石英・赤褐色酸化粒の砂粒を少量含む。	良好	完形。
28	小型丸底壺 （土師器）	口　径　9.6	口縁部は上外方に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ・指頭痕、内面ヨコナデ。	淡灰茶色	微砂粒を少量含む。	良好	
29	同上	口　径　10.8	肩部の張らない球形と思われる体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。頸部内面には一条の接合痕がみられる。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヘラ削り、内面上位ナデ・指頭痕、下位ナデ、ヘラ削り。	淡茶灰色	5.5 ㎜以下の長石・雲母・石英等の砂粒を多量含む。	良好	黒斑有。

遺物番号 図版番号	器　種	法量（cm）　口径 器高	形態・調整等の特徴	色　調	胎　土	焼　成	備　考
30	同上	口　径　8.4	半球形の体部から屈曲し、上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ、底部外面ヘラ削り。	外　淡灰黒色 内　黒灰色	石英・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
31	小型丸底壺 （土師器）	口　径　9.0 器　高　8.1	最大径を中位にもつ偏平な体部から屈曲し、上外部へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面上位ヘラミガキ、下位ヘラ削り、内面ナデ。	茶褐色	長石・石英雲母・赤褐色酸化粒の砂粒を少量含む。	良好	
32	高杯 （土師器）	口　径　17.2	平坦な杯底部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は外傾する小さい面をもつ。脚部は欠損。 杯部外面ヘラミガキ、内面ヘラミガキ後ヨコナデ。	淡茶灰色	2.0 mm以下の赤褐色酸化粒・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	黒班有。 煤付着。
33	同上	口　径　15.8	杯底部・脚部は欠損。杯部の口縁部は斜上方へに至る。端部は丸い。 杯部内外面ハケナデ（19本）後ヨコナデ。	白灰色	長石・チャート・石英雲母・赤褐色酸化粒の細砂粒を少量含む。	良好	
34	同上	口　径　16.0	平坦な杯底部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は欠損。 杯部外面上位ヨコナデ、下位ハケナデ、内面ハケナデ（10本）、底部内面調整不明。	茶灰色	3.0 mm以下の長石・雲母・石英・赤褐色酸化粒等の砂粒を少量含む。	良好	
35	同上	口　径　16.8	半球形の杯部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は外につまみ、水平な面をもつ。脚部は欠損。 杯部内外面ハケナデ（10本）後ヨコナデ。	淡灰茶色	3.0 mm以下の長石・雲母・石英等の砂粒を多量含む。	良好	
36	同上	口　径　14.6	杯部は欠損。脚部は中空の柱状部から大きく外下方へ外反する。端部は外に面をもつ。中位には三方に円孔が穿かれている。 内面ハケナデ（10本）、底部内面は摩耗の為調整不明。	茶灰色	長石・石英雲母等の微砂粒を少量含む。	良好	
37	甕 （土師器）	口　径　15.6	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。 体部は欠損。口縁部外面には一条の接合痕が残る。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヘラ削り。	暗灰茶色	2.5 mm以下の角閃石・長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
38	同上	口　径　12.2	肩部に張らない球形と思わらる伸びる体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は若干つまみ上げる。脚部は欠損。 口縁部外面ナデ、内面ハケナデ（10本）後体部外面ハケナデ（10本）、内面ヘラ削り。	淡褐灰色	2.5 mm以下の長石・石英・雲母・赤褐色酸化粒の砂粒を多量含む。	良好	
39	同上	口　径　11.6	体部から屈曲し、上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ナデ。	暗灰色	1.5 mm以下の細砂粒を少量含む。	良好	煤付着。
40	同上	口　径　13.0	下内方へ直線的に伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ（10本）、内面ヘラ削り。	淡茶灰色	1.5 mm以下の長石・石英等の砂粒を多量含む。	良好	煤付着。

遺物番号 図版番号	器　種	法量（cm）　口径 器高	形態・調整等の特徴	色　調	胎　土	焼　成	備　考
41	甕 （土師器）	口　径　12.0	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚する。体部中位以下は欠損。頸部内面には二条の接合痕がみられる。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ（10本）、内面ヘラ削り。	淡茶灰色	1.5 mm以下の長石・石英等の砂粒を少量含む。	良好	煤付着。
42	同上	口　径　13.6	内上方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラ削り。	淡褐黄色	細砂粒の長石・石英等を小量含む。	良好	煤付着。
43	同上	口　径　14.2	内外方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（３本）ハケナデ（10本）、内面ヘラ削り。	灰茶色	2.5mm 以下の砂粒を少量含む。	良好	
44	同上	口　径　13.8	球形と思われる体部から屈曲し、上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は若干内方に肥厚し、上に面をもつ。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ（10本）、内面ヘラ削り。	淡灰茶色	2.5mm 以下の長石・石英・雲母・赤褐色酸化粒の砂粒を多量含む。	良好	
45	同上	口　径　13.8	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚し、内傾する面をもつ。体部下位は欠損。体部外面には一条の接合痕がみられる。 口縁部外面ナデ、内面ヨコナデ、体部外面ハケナデ（10本）、内面ヘラ削り。	灰褐色	3.0mm 以下の長石・石英・赤褐色酸化粒の砂粒を多量含む。	良好	
46	同上	口　径　14.2	体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラ削り。	淡灰褐色	2.0 mm以下の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
47	同上	口　径　14.8	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ（10本）、内面ヘラ削り。	茶褐色	長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	
48	同上	口　径　15.2	内上方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ（10本）、内面上位ナデ、以下ヘラ削り。	外　灰茶色 内　淡灰茶色	3.0 mm以下の長石・石英等の砂粒を少量含む。	良好	煤付着。
49	同上	口　径　14.6	体部から屈曲し、上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	淡褐灰色	長石・雲母石英等の細砂粒を少量含む。	良好	
50	同上	口　径　14.6	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は上に面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヨコナデ、内面ナデ。	淡褐色	長石・雲母石英等の細砂粒を少量含む。	良好	
51	同上	口　径　15.6	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚し、内傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ（10本）、内面ヘラ削り。	外　茶灰褐色 内　淡灰白色	長石・石英赤褐色酸化粒の細砂粒を少量含む。	良好	
52	同上	口　径　17.4	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚し、内傾する面をもつ。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内面ヘラ削り。	外　灰茶色 内　淡灰茶色	角閃石・長石・雲母・石英等の細砂粒を少量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器　種	法量 (cm)	口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
53	甕 (土師器)	口径	17.6	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は上に面をもつ。体部は欠損。口縁部外面には一条の接合痕がみられる。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ハケナデ（10本）。	褐灰色	1.5mm以下の角閃石・長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
54	同上	口径	19.8	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚し、内傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ハケナデ（10本）。	暗褐色	角閃石・長石・雲母等の微砂粒を少量含む。	良好	煤付着。
55	同上	口径	12.6	最大径を中位にもつ体部から屈曲し、外上方へ伸びる後、上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面上位ハケナデ（10本）、下位は不明、内面ヘラ削り。	灰茶色	2.5mm以下の長石・雲母・石英等の砂粒を少量含む。	良好	

ＳＤ２

遺物番号 図版番号	器　種	法量 (cm)	口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
56	壺 (弥生式土器)	口径	22.7	端部は垂下し、外傾する面をもつ。口縁部体部は欠損。 口縁端部外面ヨコナデ、端面簾状文、内面ヨコナデ。	褐灰色	3.0mm以下の角閃石・長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
57	壺 (土師器)	最大径	13.4	最大径を中位にもつやや偏平な球形の体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は欠損。体部内面上位には三条の接合痕がみられる。 口縁部内外面ハケナデ（10本）、体部外面上位ハケナデ（10本）、下位ナデ、内面上位ナデ・指頭痕。	乳灰褐色	3.5 mm以下の長石・雲母等の砂粒を多量含む。	良好	
58	甕 (土師器)	口径	11.0	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部外面ハケナデ（10本）後ヨコナデ、内面ヨコナデ、体部外面ヘラ削り。	外　乳灰茶色 内　淡灰褐色	長石・石英等の微砂粒を少量含む。	良好	
59	同上	口径	12.7	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ（10本）、内面ヘラ削り。	乳灰茶色	2.0 mm以下の長石・雲母等の砂粒を多量含む。	良好	黒斑有。
60	同上	口径	15.6	体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ハケナデ（10本）。	赤褐色	長石・雲母石英等の微砂粒を多量含む。	良好	
61	同上	口径	16.6	口縁部は上外方へ伸び、端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、内面ヨコナデ後ハケナデ（10本）。	乳褐色	2.0mm以下の長石・雲母・石英等の砂粒を多量含む。	良好	
62	同上	口径	16.6	体部から屈曲し、口縁部は上外方へ伸びる端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ（10本）、内面ナデ。	乳灰茶色	長石・雲母石英等の細砂粒を多量含む。	良好	
63	同上	口径	16.6	体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる端部は上下に肥厚する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ（10本）、内面ナデ・ハケナデ（10本）。	淡茶色	石英・赤褐色酸化粒等の微砂粒を多量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器　種	法量（cm） 口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
64	鉢 （土師器）	口　径　12.3 器　高　5.4	半球形の体部から屈曲し、上外方へ短く伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。底部は丸底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ、底部外面ヘラ削り。	淡茶灰色	3.5 ㎜以下の石英・長石・雲母・赤褐色酸化粒の砂粒を多量含む。	良好	黒班有。
65	高杯 （土師器）	口　径　14.7 器　高　11.5 底　径　9.0	半球形の杯底部からそのまま口縁部に至る。端部は丸い。下外方へ下だる中空の柱状部から緩やかに屈曲し、外下方へ開く裾部に至る。端部は外傾する面をもつ。 口縁部内外面ヨコナデ、杯部外面ナデ、内面ナデ後放射状暗文、柱状部体部外面ヘラ削り、内面ヘラによるくりぬき、裾部内外面ナデ・指頭痕。	淡茶色	2.5 ㎜以下の長石・石英等の砂粒を多量含む。	良好	
66	同上	底　径　9.5	杯部は欠損。脚部は下外方へ伸びる中空の柱状部から緩やかに屈曲し、外下方へ伸びる裾部に至る。端部は丸い。 脚部外面ナデ、内面しぼり目、指押え。	淡灰茶色	石英・長石雲母等の微砂粒を少量含む。	良好	
67	同上	口　径　24.6	平担な杯底部から屈曲し、上外方へ伸びる杯部から外上方へ屈曲して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は下外方へ伸びる中空の柱状部から裾部に至る。裾部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、杯部外面ハケナデ（10本）、内面上位ハケナデ（10本）、下位ハケナデ後放射状暗文、柱状部外面ヘラ削り後ナデ、内面ナデ。	淡茶褐色	2.5 ㎜以下の長石・石英等の砂粒を多量含む。	良好	黒班有。
68	羽釜 （土師器）	鍔　径　25.2	鍔はやや上に向きで巡る。端部は丸い。他は欠損。 外面ヨコナデ、内面ナデ。	暗茶褐色	3.0㎜ 以下の角閃石・長石・雲母等の砂粒を多量含。	良好	
69	同上	鍔　径　28.4	鍔は水平に巡る。端部は丸い。他は欠損。 外面ヨオナデ、内面ナデ。	暗茶褐色	3.0㎜ 以下の角閃石・長石・雲母節の砂粒を多量含む。	良好	
70	同上	鍔　径　30.2	鍔は水平に巡る。端部は丸い。 外面ヨコナデ、下位ハケナデ、内面指ナデ。	暗茶褐色	2.5㎜ 以下角閃石・石英・雲母等の砂粒を多量含む。	良好	
71	杯蓋 （須恵器）	口　径　10.7 器　高　5.2 天井部高 1.9 つまみ径 2.0 つまみ高 1.1	丸味をもつ天井部から外下方し、稜に至る天井部の中央上面に凹状つまみが付く。稜は鈍く尖る。口縁部は内湾気味に下方へ下り、端部は内傾する面をもつ。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰青色	細砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。 灰かぶり。
72	同上	口　径　10.6 稜　径　10.5	天井部は欠損。稜は鈍く尖り、下方に凹線が巡る。口縁部は下方へ内湾気味に下り、端部は内傾する凹面をもつ。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	青灰色	細砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
73	同上	口　径　11.8 稜　径　11.6	天井部の一部は欠損。高く丸い天井部から外下方へ至る。稜は鈍く尖る。口縁部は内湾気味に下り、端部は内傾して段をもつ。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰青色	2.0 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	灰かぶり。
74	同上	口　径　12.1 器　高　4.6 天井部高 2.7 稜　径　12.1	高く丸い天井部から外下方へ内湾して稜に至る稜は鈍く尖る。口縁部は直下し、端部は内傾する凹面をもつ。 底体部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	暗灰青色	4.0 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	完形。 ロクロ左方向。 自然釉。

遺物番号 図版番号	器　種	法量（cm）　口径 器高	形態・調整等の特徴	色　調	胎　土	焼　成	備　考
75	杯蓋 （須恵器）	口　径　12.2 器　高　5.3 天井部高 3.5	高く丸い天井部から下外方へ内湾して稜に至る。稜は鈍く尖る。口縁部は内湾気味に下方へ至り、端部は内傾する浅い段をもつ。天井部の一部は欠損。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰青色	4.0mm 以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
76	同上	口　径　12.6	天井部は欠損。稜はわずかに鈍く尖る。口縁部は下方へ至り、端部は内傾する凹面をもつ。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰色	3.0mm 以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
77	同上	口　径　13.3	天井部は欠損。天井部から斜下方へ内湾して稜に至る。稜は断面三角形を成し、鈍く尖る。口縁部は下方へ至り、端部は水平な凹面をもつ。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰色	細砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
78	同上	口　径　14.9 器　高　5.2	やや平坦な天井部から下外方へ内湾気味に稜に至る。稜は痕跡を有す。口縁部は下方へ内湾気味に至り、端部は内傾に段をもつ。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰色	1.2cm の砂粒を1個と微砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
79	同上	口　径　15.0	天井部は欠損。天井部から下外方へ伸びて稜に至る。稜はやや上向きで鈍く尖る。口縁部は下外方へ至り、端部は内傾する面をもつ。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰色	微砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
80	杯身 （須恵器）	口　径　11.2 受部径　13.0	底部は欠損。底部から内湾して上外方へ伸び受部に至る。受部は上外方へ伸び、鈍く尖る。立ち上がりは上方へ内傾後直立して伸び端部は内傾する面をもつ。 底体部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰青色	微砂粒を少量含む。		ロクロ右方向。
81	同上	口　径　11.4	底部は欠損。底部から内湾して上外方に伸び受部に至る。受部は水平に伸び、端部は尖る。立ち上がりは上内方へ伸び、端部は内傾する浅い凹面をもつ。 底体部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰色	密	良好	ロクロ左方向。
82	同上	口　径　12.5 立ち上がり高 1.9	丸い底部から斜上方へ内湾して伸び受部に至る。受部は水平に伸び、鈍く尖る。立ち上がり高は上内方へ伸び、端部は内傾する浅い凹面をもつ。底部の一部は欠損。 底体部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰色	2.5mm 以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
83	同上	口　径　13.2 立ち上がり高 1.6	深くて丸い底部から斜上方へに内湾して受部に至る。受部は水平に伸び、端部は丸い。立ち上がりは上内方へ伸び、端部は内傾する面をもつ。底部の一部は欠損。 底体部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰色	3.5mm 以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
84	同上	口　径　2.1 立ち上がり高 1.6	丸味のある底部から斜上方へ内湾して受部に至る。受部は外上方に伸び、端部は鈍く尖る。立ち上がりは上内方へ外反気味に伸び、端部は丸い。底部の一部は欠損。 底体部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰青色	3.0mm 以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
85	同上	口　径　9.7	丸味のある底部から上内方へ内湾して伸びる受部に至る。受部は水平に伸び、端部は丸い。立ち上がりは上内方へ外反して直立し、端部は内傾する面をもつ。脚部は欠損。 底体部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	青灰色	1.2cm 大の小石1個と4.5mm 以下の砂粒を少量含む。	良好	
86	瓦器 （須恵器）		最大径を中位より上にもつ球形に近い体部で、口縁部は欠損する。底部は丸底。 体部外面上位回転ヘラ削り、中位回転カキ目、下位不定方向ナデ、内面回転ナデ。	灰色	3.5mm 以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。

遺物番号 図版番号	器　種	法量（cm）　口径 器高	形態・調整等の特徴	色　調	胎　土	焼　成	備　考
87	壺 （須恵器）	口　径　14.5	体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は上につまみ出し、外に面をもつ。底部は欠損。 口縁端部外面回転ナデ、外面回転カキ目、内面回転ナデ。	青灰色	3.0㎜以下の砂粒を多量含む。	良好	ロクロ右方向。
88	製塩土器	口　径　4.0	体部から直上して伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。底部は欠損。 口縁部外面回転ナデ。	乳灰褐色	1、0㎜以下の砂粒を多量含む。	良好	ロクロ右方向。
89	同上	口　径　3.9	体部から外反気味に直上して伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。底部は欠損。 口縁部外面ナデ、内面指ナデ。	淡灰色	1.0㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
90	同上	口　径　3.8	体部から上内方する内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部内外面ナデ。	淡黄褐色	1.0㎜以下の長石・雲母・石英等の砂粒を少量含む。	良好	
91	同上	口　径　4.0	体部から上内方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部内外面ナデ。	外　淡黄褐色 内　淡灰赤色	1.0㎜以下の長石・石英・赤褐色酸化粒等の砂粒を少量含む。	良好	
92	同上	口　径　7.0	上外方へ内湾する体部から上内方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。底部は欠損。 口縁部外面タタキ後ナデ、内面ヘラナデ・指頭痕。	淡茶褐色	1.0㎜以下の赤褐色酸化粒・長石等の砂粒を少量含む。	良好	煤付着。 二次焼成。
93	同上		体部から上外方へ伸びる口縁部に至る。端部・底部は欠損。 口縁部外面タタキ後ナデ、内面指ナデ。	外　淡赤茶～淡褐色 内　淡黄褐色	2.0 ㎜以下の長石・石英等の砂粒を少量含む。	良好	煤付着。 二次焼成。
94	同上	口　径　4.2	体部から直上へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は欠損。 口縁部外面タタキ、内面指ナデ、底部外面ナデ。	淡褐色	2.0 ㎜以下の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	

包含層

遺物番号 図版番号	器　種	法量（cm）　口径 器高	形態・調整等の特徴	色　調	胎　土	焼　成	備　考
96	壺 （弥生式土器）	口　径　15.6	口縁部は上外方へ外反し、端部は上につまみ、外に面をもつ。体部は欠損。 口縁部外面ヘラミガキ、内面ナデ、口縁端部内面刺突文。	淡茶灰色	角閃石・長石・雲母等の微砂粒を少量含む。	良好	
97	同上	口　径　17.9	口縁部は外上方へ伸び、端部は垂下し、外に面をもつ。内面には円形浮文が巡る。体部は欠損。 口縁部外面・端面簾状文、内面ヨコナデ。	灰褐色	角閃石・長石・雲母等の微砂粒を少量含む。	良好	
98	同上	口　径　19.2	口縁部は外上方へ伸び、端部は垂下し、外に面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、端面簾状文。	暗茶灰色	3.0 ㎜以下の角閃石・石英の砂粒を少量含む。	良好	
99	同上	口　径　20.2	口縁部は上外方へ伸び、端部は上下に拡張し、外に面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、端面簾状文。	暗茶灰色	3.0㎜以下の角閃石・石英・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器　種	法量 (cm)　口径 器高	形態・調整等の特徴	色　調	胎　土	焼　成	備　考
100	壺 (弥生式土器)	口　径　22.2	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は上下に拡張し、外に面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、内面一部に爪状の痕跡、端面２段の簾状文・刺突文。	淡灰茶色	3.0 mm以下の角閃石・石英・雲母長石等の砂粒を少量含む。	良好	
101	同上	口　径　23.5	口縁部は上外方へ外反して伸びる。端部は上方へ大きく拡張し、外に面をもつ。体部は欠損。 口縁部外面ヘラミガキ、内面ヨコナデ、端面２段の簾状文。	暗灰黄色	2.0 mm以下の角閃石・長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
102	同上	口　径　36.8	口縁部は上外方へ外反して伸びる。端部は垂下し、外に面をもつ。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、下位に２条の沈線とその間に５本の凹線２段を有す。内外面摩滅の為不明。	外　黄灰褐色 内　黄茶褐色	3.0 mm以下の角閃石・長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
103	カップ型土器 (弥生式土器)	口　径　10.4	体部から上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至り、端部付近で大きく内湾する。端部は上に面をもつ。体部外面に取手が付く。底部は欠損。 口縁部外面ハケナデ、内面ハケナデ後ヨコナデ、取手ナデ。	淡茶灰色	4.0 mm以下の角閃石・長石・石英等の砂粒を少量含む。	良好	
104	器台 (弥生式土器)	底　径　11.4	受部は欠損。脚部は下外方へ外反して伸び端部は上方へつまみ上げ、外に面をもつ。 脚部外面７段以上の円形竹管文を巡る。内面ナデ、端面ヨコナデ。	暗茶灰色	3.0 mm以下の角閃石・長石・石英等の砂粒を少量含む。	良好	
105	同上	底　径　18.4	受部は欠損。脚部は下外方へ外反して伸びる。端部は上外方へつまみ上げ、外に面をもつ。 脚部外面ナデ・４段の刺突文が巡る。内面ナデ。	茶灰色	3.0 mm以下の角閃石・長石・雲母石英等の砂粒を多量含む。	良好	
106	高杯 (弥生式土器)	口　径　27.8	外上方へ内湾気味に伸びる杯体部から屈曲し、上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 内外面摩滅の為不明。	淡黄灰色	3.0 mm以下の長石・石英等の砂粒を少量含む。	良好	
107	同上	底　径　14.2	杯部は欠損。脚部は下外方へ内湾して伸びる。端部は上外方へつまみ上げ、外に面をもつ。 脚部外面ナデ、内面ヘラ削り、端部ヨコナデ。	灰茶褐色	角閃石・長石・雲母等の微砂粒を少量含む。	良好	
108	同上	底　径　14.2	杯部は欠損。脚部は中空の柱状部から屈曲し、下外方へ外反気味に伸びる。端部は上外方へつまみ上げ、外に面をもつ。 脚部外面ヘラミガキ、内面上位ナデ、下位ハケナデ、端部ヨコナデ。	灰茶褐色	角閃石・長石・雲母・石英等の細砂粒を少量含む。	良好	
109	甕 (弥生式土器)	口　径　15.1	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ短く伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。体部中位以下は欠損。体部上位内面には一条の接合痕がみられる。 口縁部内外面ヨコナデ、頸部外面に指頭痕体部外面ヘラミガキ、内外面摩滅の為不明。	褐灰色	3.0 mm以下の角閃石・長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
110	同上	口　径　14.8	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ短く外反して伸びる口縁部に至る。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面摩滅の為不明。内面ナデ。	暗茶灰色	3.5 mm以下の角閃石・長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器　種	法量（cm）　口径 器高	形態・調整等の特徴	色　調	胎　土	焼　成	備　考
111	甕 （弥生式土器）	口　径　18.4 器　高　26.8 底　径　7.4	最大径を中位よりやや上にもつ体部から屈曲し、外上方へ短く伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。底部は突出気味の上げ底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヘラミガキ、内面ヘラナデ・中位指ナデ、底部ナデ。	暗灰褐色	3.0mm以下の角閃石・長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
112	同上	口　径　22.6	口縁部は上外方へ短く伸びる。端部は下外方へ垂下し、外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	暗茶灰色	3.0mm以下の角閃石・長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
113	同上	口　径　27.5	口縁部は上外方へ外反して短く伸びる。端部は外に面をもつ。	暗茶灰色	4.5mm以下の角閃石・長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
114	同上	口　径　31.6	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ短く伸びる口縁部に至る。端部は外に面をもつ。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面櫛状ナデ、内面ナデ。	淡灰茶色	角閃石・長石・雲母・赤褐色酸化粒の微砂粒を少量含む。	良好	
115	同上	口　径　38.8	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して短く伸びる口縁部に至る。端部は外は面をもつ。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、端面刺突文、体部外面ナデ。	茶灰色	角閃石・長石・石英等の細砂粒を少量含む。	良好	
116	同上	底　径　7.4	口縁部・体部は欠損。底部は突出気味の平底。 体部外面ヘラミガキ、内面摩滅の為不明、底部外面ナデ、内面指ナデ。	暗褐灰色	4.0mm以下の角閃石・雲母赤褐色酸化粒等の砂粒を少量含む。	良好	
117	同上	底　径　5.8	口縁部・体部は欠損。底部は突出する平底。 体部外面ヘラミガキ、内面ヘラナデ。	淡茶灰色	3.5mm以下の角閃石・長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
118	同上	底　径　6.0	口縁部・体部は欠損。底部は突出する浅いくぼみ底。 体部外面摩滅の為不明。内面ナデ。	暗灰茶色	3.0mm以下の角閃石・長石・雲母等の砂粒を少量含る。	良好	
119	壺 （土師器）	口　径　8.0	口縁部は上外方へ外反気味に伸びる。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ後ヨコナデ。	淡茶灰色	微砂粒を少量含む。	良好	
120	同上	口　径　11.0	上内方する体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は若干内方に肥厚する。口縁部外面には凹線４条が巡る。頸部内面に１本の接合痕を有す。体部は欠損。 口縁部内外面ハケナデ後ヨコナデ、内面ヨコナデ。	外　茶色 内　淡茶色	長石・雲母等の微砂粒を少量含む。	良好	
121	同上	口　往　18.6	口縁部は上外方へ伸び、端部は下外方へ若干垂下し、外に面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヘラミガキ、端面波状文（６本）。	茶灰色	3.0mm以下の角閃石・長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
122	同上	口　径　16.8	口縁部は上外方へ伸び、端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ハケナデ後ヨコナデ。	外　淡茶色 内　暗茶色	長石・雲母等の粗砂粒を少量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種	法量 (cm)	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
123	壺 (土師器)	口径 13.6	上内方する体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ後ハケナデ、体部内外面ナデ。	外 暗茶灰色 内 淡茶灰色	石英・長石雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	煤付着。
124	同上	口径 18.0	口縁部は上外方へ伸び、端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ後ハケナデ。	淡茶灰色	2.0 mm以下の角閃石・長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
125	同上	口径 19.6	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ハケナデ（6本）後ヨコナデ、内面ナデ。	外 茶灰褐色 内 淡茶灰色	長石・雲母石英等の微砂粒を少量含む。	良好	
126	同上	口径 17.6	口縁部は上外方へ長く伸び、端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ハケナデ後ヨコナデ、内面ヨコナデ。	淡茶色	微砂粒を少量含む。	良好	
127	同上	口径 21.0	口縁部は上外方へ長く伸び後端部付近で、外上方へ短く屈曲する。端部は外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁端部内外面ヨコナデ、他は内外面剝離の為不明。	淡茶色	チャート・石英・赤褐色酸化粒の微砂粒を少量含む。	良好	
128	同上	口径 25.4	口縁部は上外方へ伸び、端部は外につまみ、外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	淡茶灰色	2.0 mm以下の長石・石英・赤褐色酸化粒等の砂粒を少量含む。	良好	
129	小型丸底壺 (土師器)	口径 8.2	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内面ナデ・指頭痕。	淡灰褐穀	2.0 mm以下の長石・雲母・石英・赤褐色酸化粒の砂粒を多量含む。	良好	
130	同上	口径 8.8 器高 8.0	最大径を中位にもつ偏平な球形の体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は丸底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面上位ハケナデ、下位ナデ、内面上位ヘラ削り、下位指頭痕。	淡茶灰色	2.0 mm以下の長石・雲母・石英等の砂粒を多量含む。	良好	完形。
131	同上		最大径を中位よりやや上にもつ球形の体部から屈曲し、上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は欠損。底部は丸底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	乳灰褐色	赤褐色酸化粒等の微砂粒を少量含む。	良好	黒斑有。
132	同上	口径 8.8	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 内外面摩滅の為不明。	淡茶色	1.5 mm以下の長石・石英等の砂粒を多量含む。	良好	
133	同上	口径 9.0	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ内面上位指頭痕、中位ヘラ削り。	茶色	2.0 mm以下の長石・石英等の砂粒を多量含む。	良好	
134	同上	口径 9.6	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面上位ナデ、中位ハケナデ、内面ナデ。	茶灰色	石英・長石雲母等の微砂粒を少量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器　種	法量（cm） 口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
135	小型丸底壺 （土師器）	口　径　10.2 器　高　8.7	最大径を中位よりやや上にもつ偏平な球形の体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は丸底。頸部内面には一条の接合痕がみられる。 口縁部外面ヘラミガキ、内面ハケナデ後ヘラミガキ、体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	淡茶灰色	2.0 ㎜以下の長石・雲母・チャート・石英等の砂粒を少量含む。	良好	
136	鉢 （土師器）	口　径　12.0	半球形の体部から屈曲し、斜上方へ短く伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内面指頭痕・ナデ。	淡褐灰色	1.0 ㎜以下の長石・雲母・赤褐色酸化粒等の砂粒を少量含む。	良好	
137	同上	口　径　11.8	肩部に張りのある半球形の体部から屈曲し、上外方へ短く伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内面指頭痕・ナデ。	淡茶灰色	2.5 ㎜以下の長石・石英等の砂粒を少量含む。	良好	煤付着。
138	杯 （土師器）	口　径　12.6	偏平な半球形の体部から屈曲し、上外方へ短く伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。底部は丸底。 口縁部・体部内外面ヨコナデ、底部体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	暗茶灰色	3.0 ㎜以下の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
139	甕 （土師器）	口　径　21.4	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下は欠損。 内外面ハケナデ（７本）。	淡茶灰色	長石・雲母等の微砂粒を少量含む。	良好	
140	同上	口　径　25.2	上外方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ（10本）、内面ナデ。	暗茶灰色	2.0 ㎜以下の角閃石・長石・雲母石英等の砂粒を少量含む。	良好	
141	同上	口　径　33.0	上方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ヘラナデ。	外　黒灰色 内　茶灰褐色	長石・雲母等の粗砂粒を少量含む。	良好	煤付着。
142	高杯 （土師器）	口　径　17.6	脚部は欠損。杯体部から斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 内外面剝離の為不明。	茶乳灰色	1.5 ㎜以下の長石・雲母・赤褐色酸化粒等の砂粒を少量含む。	良好	
143	同上	口　径　19.0	外上方へ伸びる杯底部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外に面をもつ。脚部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、杯部内外面ナデ。	淡褐灰色	2.5 ㎜以下の長石・雲母・赤褐色酸化粒・石英等の砂粒を少量含む。	良好	
144	同上	口　径　14.4	杯底部から屈曲し、斜上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は欠損。 杯部外面ヨコナデ、内面ナデ。	淡茶灰色	2.0 ㎜以下の雲母・赤褐色酸化粒の砂粒を多量含む。	良好	
145	同上	口　径　18.4	杯底部から屈曲し、上外方へ伸びた後端部付近で屈曲して外上方へ短く伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。脚部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、杯底部外面ナデ。	暗灰褐色	2.0 ㎜以下の長石・石英等の砂粒を多量含む。	良	

遺物番号 図版番号	器　種	法量 (cm)	口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
146	高杯 (土師器)	口径	20.6	杯底部・脚部は欠損。杯部は杯底部から上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。杯底部との屈曲部外面に稜をもつ。 口縁部外面ヨコナデ、内面ナデ。	外　暗茶灰色 内　淡茶灰色	石英・長石雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	
147	同上	口径	17.6	杯底部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は欠損。 口縁部内外面ヘラミガキ。	淡茶灰色	1.0 mm以下の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
148	同上	口径	26.6	口縁部は上外方へ伸び、端部は丸い。杯底部・脚部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	淡灰茶色	1.0 mm以下の長石・チャート・石英等の砂粒を少量含む。	良好	
149	同上	口径	19.4	口縁部は斜上方へ伸び、端部は丸い。杯底部・脚部は欠損。 口縁部内外面ヘラミガキ、口縁端部外面ヨコナデ。	淡茶灰色	2.0 mm以下の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
150	同上	口径 器高 底径	14.3 12.4 12.2	平坦な杯底部から緩やかに屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は下外方へ下る中空の柱状部から屈曲し、外下方へ開く裾部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、杯底部体部外面ヘラ削り、内面ナデ、住状部外面ヘラ削り後ナデ、内面しぼり目、裾部内外面ナデ。	淡茶灰色	4.0mm以下の長石・雲母・赤褐色酸化粒の砂粒を多量含む。	良好	
151	同上	口径 器高 底径	15.6 12.0 11.3	149とほぼ同形態で、杯部の口縁端部の内側が器壁を減じ、鈍く尖る。 口縁部内外面ヨコナデ、杯底部外面ヘラ削り、柱状部外面ヘラ削り後ナデ、内面しぼり目、裾部外面ヨコナデ、内面ナデ。	淡茶灰色	2.0 mm以下の石英・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
152	同上	口径	15.6	149とほぼ同形態で、裾部は欠損。 口縁部外面ナデ、内面ヨコナデ、杯底部外面ヘラ削り、内面ナデ、柱状部外面ナデ、内面しぼり目・ヘラ削り。	淡茶灰色	長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	
153	同上	口径	15.0	149とほぼ同形態で、裾部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、杯底部ヘラ削り、柱状部外面ヘラ削り後ナデ、内面しぼり目・ナデ。	淡茶灰色	4.0mm以下の長石・赤褐色酸化粒等の砂粒を多量含む。	良好	
154	同上	口径	16.4	149とほぼ同形態で、脚部は欠損。 杯部内外面ナデ、杯底部外面ヘラ削り。	淡茶灰色	2.0mm以下の赤褐色酸化粒・長石等の砂粒を少量含む。	良好	
155	同上	口径	14.4	杯底部・脚部は欠損。杯底部から斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。 内外面剝離の為不明。	暗褐茶色	1.5mm以下の赤褐色酸化粒・長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
156	同上	口径	14.6	外上方へ伸びる杯底部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、内面ナデ、杯底部外面ヘラ削り。	淡茶灰色	2.0mm以下の赤褐色酸化粒等の砂粒を少量含む。	良好	
157	同上	口径	14.8	平坦な杯底から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は欠損。 杯部内外面ナデ。	淡茶灰色	石英・長石・雲母・赤褐色酸化粒等の細砂粒を少量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器　種	法量（cm）　口径 器高	形態・調整等の特徴	色　調	胎　土	焼　成	備　考
158	高杯 （土師器）	口　径　15.5	平坦な杯底部から屈曲し、斜上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は欠損。 杯部内外面ヨコナデ、内面ナデ。	外　淡茶灰褐色 内　茶灰褐色	長石・雲母石英等の細砂粒を少量含む。	良好	
159	同上	口　径　14.6	平坦な杯底部から緩やかに屈曲し、斜上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は欠損。 杯部外面ヨコナデ、内面ヨコナデ後ハケナデ、杯底部外面ナデ。	淡茶灰色	2.0mm 以下の長石・雲母・石英等の砂粒を少量含む。	良好	
160	同上	口　径　15.4	杯底部・脚部は欠損。斜上方へ伸び、端部は丸い。 口縁部外面ハケナデ後ヨコナデ、内面ヨコナデ。	淡灰茶色	4.0mm 以下の長石・雲母・赤褐色酸化粒の砂粒を少量含む。	良好	
161	同上	底　径　11.6	杯部の口縁部は欠損。丸い杯底部で、脚部は下外方へ伸びる中空の柱状部から屈曲し、外下方へ開く裾部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、杯底部外面ヘラ削り、内面ナデ、柱状部外面ヘラ削り、内面しぼり目、裾部内外面ナデ。	淡灰褐色	2.0mm 以下の長石・雲母・赤褐色酸化粒の砂粒を少量含む。	良好	
162	同上	底　径　12.0	杯部は欠損。下外方へ伸びる中空の柱状部から屈曲し、外下方へ開く裾部に至る。端部は丸い。 柱状部外面ヘラ削り後ナデ、内面しぼり目、裾部内外面ナデ。	淡茶灰色	長石・赤褐色酸化粒等の微砂粒を少量含む。	良好	
163	同上	底　径　11.4	杯部は欠損。下外方へ伸びる中空の柱状部から屈曲し、外下方へ開く裾部に至る。端部は丸い。柱状部・裾部にはそれぞれ２条の接合痕がみられる。 柱状部内外面ナデ、裾部内外面ヨコナデ。	外　淡茶灰色 内　茶灰褐色	長石・石英等の細砂粒を少量含む。	良好	
164	同上	底　径　8.2	杯部は欠損。脚部は短く下方へ伸びる柱状部から緩やかに屈曲し、下外方へ開く裾部に至る。端部は外傾する面をもつ。	褐灰茶色	2.5mm 以下の角閃石・長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	煤付着。
165	甕 （土師器）	口　径　11.2	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚し、内傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ後ヨコナデ、体部外面ナデ、内面ヘラ削り。	淡茶灰色	長石・雲母赤褐色酸化粒の微砂粒を少量含む。	良好	
166	同上	口　径　12.0	内上方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚し、内傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラ削り。	淡茶灰色	2.0mm 以下の長石・雲母・石英等の砂粒を少量含む。	良好	
167	同上	口　径　12.0	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚する。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面摩滅の為不明。内面ヘラ削り。	淡茶灰色	長石・雲母赤褐色酸化粒の細砂粒を少量含む。	良好	
168	同上	口　径　12.2	口縁部は上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、頸部内面にハケナデ。	外　淡茶色 内　淡灰褐色	1.5mm 以下の長石・雲母・石英等の砂粒を少量含む。	良好	
169	同上	口　径　12.4	内上方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラ削り。	淡茶灰色	長石・雲母等の微砂粒を多量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器　種	法量 (cm)	口径 器高	形態・調整等の特徴	色　調	胎　土	焼成	備　考
170	甕 (土師器)	口　径	13.4	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラ削り。	淡灰茶色	長石・雲母チャート・石英等の微砂粒を少量含む。	良好	煤付着。
171	同上	口　径	15.4	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラ削り。	淡褐灰色	3.0mm以下の長石・雲母・赤褐色酸化粒の砂粒を少量含む。	良好	煤付着。
172	同上	口　径	13.2	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚し、内傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラ削り。	暗灰褐色	長石・雲母・赤褐色酸化粒の微砂粒を少量含む。	良好	
173	同上	口　径	14.0	口縁部は上外方へ内湾気味に伸び、端部は内方に肥厚する。端部は内方に肥厚する。体部は欠損。口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラ削り。	淡茶灰色	石英・長石雲母等の微砂粒を少量含む。	良好	黒斑有。
174	同上	口　径	14.0	口縁部は上外方へ内湾気味に伸び、端部は内方に肥厚する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラ削り。	淡茶灰色	雲母・赤褐色酸化粒等の微砂粒を少量含む。	良好	
175	同上	口　径	14.8	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内面ヘラ削り。	淡褐色	2.0mm以下の長石・雲母・石英等の砂粒を少量含む。	良好	
176	同上	口　径	14.2	口縁部は上外方へ内湾気味に伸び、端部は内方に肥厚する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	淡茶灰色	2.0mm以下の長石・雲母・赤褐色酸化粒の砂粒を少量含む。	良好	
177	同上	口　径	15.6	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ内面ヘラ削り。	淡茶灰色	2.0mm以下の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
178	同上	口　径	15.6	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラ削り。	淡茶灰色	長石・雲母石英等の微砂粒を少量含む。	良好	黒斑有。
179	同上	口　径	16.2	口縁部は上外方へ内湾気味に伸び、端部は内方に肥厚する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	暗茶灰色	2.0mm以下の長石・雲母・石英等の砂粒を少量含む。	良好	
180	同上	口　径 器　高	13.4 18.8	球形の体部から屈曲し、上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚する。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(10本)、内面上位ヘラ削り、下位指ナデ。	淡茶灰色	5.0mm以下の長石・雲母・石英等の砂粒を少量含む。	良好	煤付着。
181	同上	口　径	16.2	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚する。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ、体部外面タタキ後ハケナデ、内面ヘラ削り。	淡茶褐色	2.0mm以下の長石・石英・赤褐色酸化粒の砂粒を少量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器　種	法量（cm）　口径 器高	形態・調整等の特徴	色　調	胎　土	焼　成	備　考
182	甕 （土師器）	口　径　16.0	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内面ヘラ削り。	外　淡茶灰色 内　淡灰茶色	長石・雲母・赤褐色酸化粒の細砂粒を少量含む。	良好	
183	同上	口　径　16.0	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ、内面ヘラ削り。	淡赤灰色	1.0 ㎜以下の石英・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
184	同上	口　径　16.2	内上方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	淡茶灰色	2.5㎜以下の石英・長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
185	同上	口　径　18.0	内上方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヨコナデ、内面ヘラ削り。	淡褐灰色	1.5㎜以下の石英・長石・雲母等の砂粒を多量含む。	良好	
186	同上	口　径　16.8	内上方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面摩滅の為不明、内面ヘラ削り。	淡茶灰色	長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	
187	同上	口　径　19.6	内上方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚する。体部中位以下は欠損。口縁部外面に一条の接合痕を有す。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ（５本）、内面指ナデ。	外　淡茶灰褐色 内　淡茶灰色	石英・長石・雲母等の細砂粒を多量含む。	良好	
188	同上	口　径　15.8	内上方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ（10本）、内面ヘラ削り。	茶灰色	2.0㎜以下の長石・雲母・赤褐色酸化粒の砂粒を少量含む。	良好	
189	同上	口　径　12.2	口縁部は上外方へ伸び、端部は内方に肥厚する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	淡灰褐色	1.0㎜以下の長石・雲母・赤褐色酸化粒の砂粒を多量含む。	良好	
190	同上	口　径　12.2	口縁部は上外方へ伸び、端部は内方に肥厚する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラ削り。	淡灰茶色	2.0㎜以下の石英・長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	煤付着。
191	同上	口　径　12.4	内上方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面摩滅の為不明。内面ヘラ削り。	暗茶灰色	1.5㎜以下の長石・雲母・赤褐色酸化粒の砂粒を少量含む。	良好	
192	同上	口　径　13.2	口縁部は上外方へ内湾気味に伸び、端部は内立に肥厚する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	茶灰色	石英・長石雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器　種	法量（cm）　口径 器高	形態・調整等の特徴	色　調	胎　土	焼成	備　考
193	甕 （土師器）	口　径　13.2	口縁部は上外方へ内湾気味に伸び、端部は内方に肥厚する。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	黄茶灰色	長石・石英等の細砂粒を少量含む。	良好	
194	同上	口　径　14.2	内上方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ後ヨコナデ、内面指ナデ。	黄茶灰色	2.0mm 以下の石英・長石・雲母等の砂粒を多量含む。	良好	
195	同上	口　径　14.4	口縁部は上外方へ内湾気味に伸び、端部は内傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	淡茶灰色	2.0mm 以下の石英・長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
196	同上	口　径　16.0	口縁部は上外方へ内湾気味に伸び、端部は内方に肥厚する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	淡褐茶色	2.0mm 以下の石英・長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	煤付着。
197	同上	口　径　16.2	内上方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	淡茶灰色	2.0mm 以下の石英・長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	黒班有。
198	同上	口　径　15.2	内上方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ、内面ヘラ削り。	外　灰褐色 内　暗灰褐色	4.0mm 以下の石英・長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	煤付着。
199	同上	口　径　17.0	口縁部は上外方へ内湾気味に伸び、端部は内方に肥厚し、内傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	淡茶灰色	2.0mm 以下の石英・長石・雲母・赤褐色酸化粒の砂粒を少量含む。	良好	煤付着。
200	同上	口　径　17.4	口縁部は上外方へ伸び、端部は若干つまみ上げる。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ヨコナデ後ハケナデ。	外　茶褐色 内　灰茶褐色	石・雲母石英等の微砂粒を少量含む。	良好	
201	同上	口　径　10.2	内上方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヨコナデ、内面ヘラ削り。	暗灰茶色	2.0mm 以下の石英・長石・雲母・赤褐色酸化粒の砂粒を少量含む。	良好	煤付着。
202	同上	口　径　10.2	内上方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヨコナデ、内面ヘラ削り。	淡灰茶色	2.0mm 以下の長石・雲母・赤褐色酸化粒の砂粒を少量含む。	良好	
203	同上	口　径　10.8	内上方する体部から屈曲し、上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヨコナデ、内面ヘラ削り。	淡茶灰色	2.0mm 以下の石英・長石・雲母・赤褐色酸化粒の砂粒を少量含む。	良好	
204	同上	口　径　14.8	上内方する体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ、内面ナデ。	淡茶灰色	長石・雲母赤褐色酸化粒の微砂粒を少量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器　種	法量（cm）　口径 器高	形態・調整等の特徴	色　調	胎　土	焼　成	備　考
205	甕 （土師器）	口　径　19.0	内上方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は上に面をもつ。体部は欠損。 口縁部外面ハケナデ後ヨコナデ、内面ヨコナデ、体部内面ヘラ削り。	淡灰茶色	2.0㎜以下の角閃石・長石・雲母石英等の砂粒を少量含む。	良好	
206	同上	口　径　17.4	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は若干つまみ上げる。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ、体部外面丁ケナデ（10本）。	淡茶灰色	長石・雲母等の微砂粒を少量含む。	良好	煤付着。
207	同上	口　径　17.4	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	暗茶灰色	角閃石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	
208	同上	口　径　16.0	口縁部は上外方へ伸び、端部は丸い。口縁部外面の中位に凹線一条が巡る。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ。	暗茶灰色	2.0㎜以下の角閃石・長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
209	同上	口　徴　20.6	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ハケナデ後ヨコナデ。	淡茶灰色	3.0㎜以下の石英・長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
210	同上	口　径　15.2	口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部は外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	淡茶灰色	2.0㎜以下の石英・長石・雲母・赤褐色酸化粒の砂粒を少量含む。	良好	
211	同上	口　径　23.8	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ（12本）後ナデ、内面摩滅の為不明。	淡茶色	1.5㎜以下の石英・意石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
212	同上	口　径　16.6	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラナデ、外面摩滅の為不明。	灰茶色	石英・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	
213	同上	口　径　27.6	上内方へ外反して伸びる体部から屈曲し、上外方内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は若干つまみ上げ、外傾する面をもつ。体部中位以下は欠損。体部内面には２条の接合痕がみられる。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ、内面タタキ後ナデ。	淡褐茶色	2.0㎜以下の石英・長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
214	同上	口　径　15.8	内上方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げ、外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内面ヘラナデ。	淡茶灰色	石英・雲母長石等の細砂粒を少量含む。	良好	煤付着。
215	同上	口　径　14.4	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部はつまみ上げ、外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ヨコナデ後ハケナデ。	暗茶灰色	3.0㎜以下の角閃石・長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器　　種	法量 (cm)	口径 器高	形態・調整等の特徴	色　　調	胎　　土	焼　成	備　　考
216	甕 (土師器)	口　径	16.2	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げ、外に面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ後ナデ、内面ナデ。	淡茶灰色	2.0mm 以下の雲母・石英・赤褐色酸化粒の砂粒を含む。	良好	
217	壺 (土師器)	口　径	12.0	上外方へ外反して伸びた後屈曲し、上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	黄灰色	石英・長石雲母等の微砂粒を少量含む。	良好	
218	同上	口　径	13.8	上外方へ外反して伸びた後屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	乳灰茶色	4.0 mm以下の石英・長石等の砂粒を少量含む。	良好	
219	同上	口　径	20.2	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ短く伸びた後屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内面ヘラ削り。	黄灰色	石英・長石等の微砂粒を少量含む。	良好	
220	高杯 (土師器)	口　径	25.6	平坦な杯底部から屈曲し、上外方へ外反して伸びた後、端部付近で外上方へ屈曲して短く伸びる。端部は若干つまみ上げ、外に面をもつ。脚部は欠損。 杯部内外面ヨコナデ、杯底部外面ナデ。	淡茶灰色	赤褐色酸化粒・長石・等の微砂粒を少量含む。	良好	
221	同上	口　径 器　高 底　径	13.4 11.5 9.2	平らに近い杯底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は下外方へ伸びる中空の柱状部から屈曲し、外下方へ開く裾部に至る。 杯部内外面摩滅の為不明。柱状部ヘラ削り、内面ナデ、裾部外面摩滅の為不明、内面ハケナデ。	黄茶色	3.0mm以下の石英・長石等の砂粒を少量含む。	良好	
222	同上	口　径	13.8	平らに近い杯底部から内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は欠損。 杯部外面ハケナデ、内面ヨコナデ、杯底部内面ナデ。	黄茶色	3.0 mm以下の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
223	同上	口　径	8.6	杯部は欠損。下外方へ伸びる中空の柱状部から屈曲し、外下方へ伸びる裾部に至る。端部は丸い。 柱状部外面ヘラ削り、内面しぼり目、裾部体部外面ナデ、内面ナデ・指頭痕。	淡茶灰色	2.0 mm以下の石英・長石・雲母等の赤褐色酸化粒の砂粒を少量含む。	良好	煤付着。
224	同上	口　径	9.2	杯部は欠損。下外方へ伸びる中空の柱状部から屈曲し、外下方へ開く裾部に至る。端部は丸い。柱状部上位に１本の凹線が巡る。裾部に二方の穿孔を有す。 杯底部外面ハケナデ、内面ヘラミガキ・放射状の暗文、柱状部外面ヘラ削り後ハケナデ、内面ナデ、裾部外面摩滅の為不明、内面ナデ。	黄茶色	2.0mm 以下の石英・長石・等の砂粒を少量含む。	良好	
225	同上	底　径	11.4	杯部は欠損。下外方へ伸びる中空の柱状部から緩やかに屈曲し、外下方へ開く裾部に至る。端部は丸い。 柱状部外面ヘラ削り、内面ヘラ削りによるくりぬき、裾部外面ナデ、内面ハケナデ。	茶褐色	石英・長石等の細砂粒を少量含む。	良好	
226	甑 (土師器)	口　径	22.0	口縁部は上外方へ伸び、端部は丸い。体部は欠損。 口縁部外面ハケナデ後ヨコナデ、内面ヨコナデ。	淡褐色	微砂粒を少量含む。	良好	
227	同上	口　径	20.4	口縁部は上外方へ伸び、端部は上に凹面をもつ。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	淡褐色	2.0 mm以下の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器　種	法量（cm）　口径 器高	形態・調整等の特徴	色　調	胎　土	焼　成	備　考
228	甑 （土師器）	口　径　26.4	口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部は上に凹面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ハケナデ（７本）後ヨコナデ、内面ヨコナデ。	淡茶灰色	雲母等の微砂粒を少量含る。	良好	
229	羽釜 （土師器）	鍔　径　28.4	鍔は水平に伸び、端部はやや丸い。他は欠損。 外面ヨコナデ、内面ヘラナデ。	茶灰色	角閃石・長石・雲母等の微砂粒を少量含む。	良好	
230	同上	鍔　径　29.4	鍔は水平に伸び、端部は丸い。他は欠損。 外面ヨコナデ、内面摩滅の為不明。	外　褐灰色 内　茶褐色	角閃石・長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	
231	同上	鍔　径　32.4	鍔は水平に伸び、端部は丸い。他は欠損。 外面ヨコナデ、内面摩滅の為不明。	淡灰褐色	角閃石・長石・雲母等の細砂粒を少量含む。	良好	
232	製塩土器	口　径　3.0	体部から直上へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部内外面ナデ。	乳褐色	4.0mm以下の石英・長石等の砂粒を少量含む。	良好	
233	同上	口　径　3.0	体部から上内方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。底部は欠損。 口縁部内外面ナデ。	淡灰色	1.5mm以下の赤褐色酸化粒・チャート・石英長石等の砂粒を少量含む。	良好	
234	同上	口　径　3.0	体部から上内方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。底部は欠損。 口縁部内外面ナデ。	外　赤茶褐色 内　淡茶褐色	2.0mm以下の長石・チャート・石英等の赤褐色酸化粒の砂粒を少量含む。	良好	
235	同上	口　径　3.1	体部から上内方へ伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。底部は欠損。 口縁部内外面ナデ。	淡灰色	3.0mm以下の長石・チャート・石英・赤褐色酸化粒の砂粒を少量含む。	良好	
236	同上	口　径　3.2	体部から上内方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部内外面ナデ。	淡赤茶色	2.5mm以下の長石・チャート・石英・赤褐色酸化粒の砂粒を少量含む。	良好	
237	同上	口　径　3.5	体部から上内方へ伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。底部は欠損。 口縁部内外面ナデ。	乳褐色	2.0mm以下の赤褐色酸化粒・長石石英等の砂粒を少量含む。	良好	
238	同上	口　径　3.7	体部から直上へ伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。底部は欠損。 口縁部内外面ナデ。	外　淡褐色 内　淡赤茶～淡褐色	1.5 mm以下の長石・石英等の砂粒を少量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器　種	法量 (cm)　口径 器高	形態・調整等の特徴	色　調	胎　土	焼　成	備　考
239	製塩土器	口　径　3.8	体部から上内方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部内外面ナデ。	淡灰褐色	5.0mm 以下の長石・チャート・石英・赤褐色酸化粒の砂粒を少量含む。	良好	煤付着。 二次焼成
240	同上	口　径　4.2	体部から直上へ伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。底部は欠損。 口縁部内外面指ナデ。	淡茶黄色	1.0 mm以下の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
241	同上	口　径　5.0	体部から直上へ伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。底部は欠損。 口縁部内外面ナデ。	外　淡灰色 色 内　暗灰色	2.0mm 以下の石英・長石・赤褐色酸化粒の砂粒を少量含む。	良好	
242	同上	口　径　5.8	体部から直上へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部内外面ナデ。	外　淡黄茶 色 内　赤茶色	1.5 mm以下の長石・石英等の砂粒を少量含む。	良好	
243	同上	口　径　2.5	体部から直上へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。底部は欠損。 口縁部外面タタキ、内面ナデ、体部内外面ナデ。	外　淡褐色 内　乳褐色	3.5mm 以下の長石・チャート・石英・赤褐色酸化粒の砂粒を少量含む。	良好	
244	同上	口　径　3.8	体部から直上へ伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。底部は欠損。 口縁部外面タタキ、内面ナデ。	乳灰色	1、0mm 以下の砂粒を少量含む。	良好	
245	杯蓋 (須恵器)	口　径 12.8 器　高　5.2 天井部径 2.3 つまみ径 3.0 つまみ高 0.9	丸い天井部から斜上方へ内湾して稜に至る。天井部中央には凹状のつまみが付く、稜は鈍く尖る。口縁部は下外方へ下り、端部は内傾する凹面をもつ。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰青色	3.0mm 以下の砂粒を少量含る。	良好	完形。 ロクロ右方向。 灰かぶり。
246	同上	口　径 10.8	丸味をもつ天井部から外下方へ内湾して稜に至る。稜は鈍く尖る。口縁部はわずかに外傾して下り、端部は凹面をもつ。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転タデ。	淡青灰色	微砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
247	同上	口　径 11.6	丸味をもつ天井部から斜上方へ内湾して稜に至る。稜は水平に鈍く尖る。口縁部はわずかに外傾して下り、端部は凹面をもつ。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	青灰色	4.0mm 以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
248	同上	口　径 12.3 天井部高 2.2	やや平坦な天井部から外下方へ内湾気味に伸びる稜に至る。稜は鈍く尖る。口縁部は下方へ内湾気味に下り、端部は凹面をもつ。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	暗灰色	2.0mm 以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。 自然釉。
249	同上	口　径 13.6	天井部から外下方へ内湾して稜に至る。稜は鈍く尖る。口縁部は下外方へ伸び、端部は内傾する面をもつ。天井部の一部は欠損。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	暗灰色	2.0mm 以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。 自然釉。
250	同上	口　径 15.0	天井部から斜上方へ内湾気味に稜に至る。稜は鈍く尖る。端部は内傾する面をもつ。天井部の一部は欠損。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	外　灰褐色 内　灰青色	微砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。

遺物番号 図版番号	器　種	法量（cm）　口径 器高	形態・調整等の特徴	色　調	胎　土	焼　成	備　考
251	杯蓋 （須恵器）	口　径　14.4	天井部から外下方へ内湾気味に稜に至る。稜は鈍く尖る。口縁部は下外方へ下り、端部は内傾する面をもつ。天井部は欠損。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	暗褐色	2.0 mm以下の砂粒を少量含む。	良好	灰かぶり。
252	同上	口　径　15.8	天井部は欠損。外下方へ内湾気味に伸び、稜に至る。稜は鈍く尖る。口縁部は下外方へ下り、端部は内傾する面をもつ。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	青灰色	細砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
253	同上	口　径　15.4	天井部一部は欠損。天井部から外下方へ内湾気味に伸び稜に至る。稜は痕跡を有す。口縁部は下外方へ伸び、端部は浅い凹面をもつ。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡黒灰色	3.0 mm以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
254	同上	口　径　17.2	丸味のある天井部から外下方して稜に至る。稜は鈍く尖る。口縁部は下外方へ伸び、端部は丸い。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	青灰色	5.0 mm以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
255	同上	口　径　12.0	天井部は欠損。稜は痕跡を有す。口縁部は下外方へ伸び、端部は丸い。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰青色	微砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
256	同上	口　径　12.6	天井部から外下方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。稜は認められない。端部は丸い。天井部は欠損。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰色	3.0 mm以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
257	同上	口　径　11.0 器　高　3.7	平坦な天井部から外下方へ内湾気味に伸びる稜に至る。稜は鈍く尖る。口縁部は下外方へ伸び、内傾する面をもつ。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	外　暗灰色 内　青灰色	細砂粒を少量含む。	良好	完形。 ロクロ右方向。 自然釉。
258	杯身 （須恵器）	口　径　10.0 立ち上がり高 1.7	底部は欠損。受部は外上方へ伸び、端部は鈍く尖る。立ち上がりは外反気味に上内方へ伸び、端部は浅い凹面をもつ。 内外面回転ナデ。	暗灰色	1.0 mm以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
259	同上	口　径　12.2	杯底部から斜上方へ内湾して受部に至る。受部は水平に伸び、端部は丸い。立ち上がりは内方へ直上し、端部は内傾する面をもつ。底部は欠損。 内外面回転ナデ。	暗灰色	3.0 mm以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。 ヘラ記号を有す。
260	同上	口　径　8.1 立ち上がり高 1.2	杯底部から外上方へ内湾して受部に至る。受部は水平に伸び、端部は鈍く尖る。立ち上がりは外反して直上し、端部は内傾する凹面をもつ。底部は欠損。 内外面回転ナデ。	青灰色	細砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
261	同上	口　径　10.2 器　高　4.6 立ち上がり高 1.7	不坦で狭い杯底部から上外方へ内湾して受部に至る。受部は外上方へ伸び、端部は丸い。立ち上がりは内湾して直上へ伸びる。端部は内傾する面をもつ。 杯底部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	青灰色	5.0 mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
262	同上	口　径　10.6 器　高　4.3 立ち上がり高 1.7	平坦な杯底部から斜上方へ内湾して受部に至る。受部は外上方へ伸び、端部は鈍く尖る。立ち上がりは外反気味に直上し、端部は内傾する凹面をもつ。 杯底部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	外　淡灰色 ～灰色 内　灰青色	3.0 mm以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
263	同上	口　径　10.6 立ち上がり高 1.7	杯底部から上外方へ内湾して受部に至る。受部は外上方へ伸び、端部は丸い。口縁部は外反気味に上内方へ伸び、端部は浅い凹面をもつ。 杯底部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰青色	細砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。

遺物番号 図版番号	器　種	法量 (cm)　口径 器高	形態・調整等の特徴	色　調	胎　土	焼　成	備　考
264	杯身 (須恵器)	口　径　11.5 立ち上がり高 1.8	杯底部から外上方へ内湾して伸び、受部に至る。受部は外上方へ伸び、端部は鈍く尖る。立ち上がりは内傾後直立して伸び、端部は内傾する凹面をもつ。杯底部は欠損。 杯底部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰色	細砂粒を少量含む。	良好	ロクロ石方向。
265	同上	口　径　12.0 立ち上がり高 1.4	杯底部から斜上方へ内湾して伸び、受部に至る。受部は外上方へ伸び、端部は丸い。立ち上がりは内傾後直立して伸び、端部は内傾する凹面をもつ。 杯底部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰色	細砂粒を少量含む。	良好	ロクロ石方向。
266	同上	口　径　10.8 立ち上がり高 1.4	平坦な杯底部から斜上方へ内湾して伸び、受部に至る。受部は水平に伸び、端部は丸い。立ち上がりは内傾後直立して伸び、端部は鈍く尖る。杯底部は欠損。 杯底部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰色	細砂粒を少量含む。	良好	ロクロ石方向。
267	同上	口　径　11.4 器　高　5.0 立ち上がり高 1.5	平坦な杯底部から上外方へ内湾して伸び、受部に至るゐ受部は外上方へ伸び、端部は丸い。立ち上がりは内傾後直立気味に伸び、端部は丸い。 杯底部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰色	細砂粒を少量含む。	良好	ロクロ石方向。
268	同上	口　径　12.4 立ち上がり高 1.9	杯底部から斜上方へ伸び、受部に至る。受部は外上方へ伸び、端部は鈍く尖る。立ち上がりは内傾して直上する。端部は内傾する面をもつ。杯底部は欠損。 杯底部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰青色	3.0㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ石方向。
269	同上	口　径　14.2 立ち上がり高 2.0	杯底部から斜上方へ内湾して伸び、受部に至る。受部は水平に伸び、端部は丸い。立ち上がりは内傾して伸び、端部は丸い。杯底部は欠損。 杯底部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰色	2.0㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ石方向。
270	同上	口　径　9.0 立ち上がり高 1.1	杯底部から上外方へ伸び、受部に至る。受部は上外方へ伸び、端部は丸い。立ち上がりは上方へ外反して伸び、端部は内傾する面をもつ。杯底部は欠損。 杯底部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰色	3.0 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ石方向。
271	同上	口　径　10.0 立ち上がり高 1.5	杯底部から上外方へ伸び、受部に至る。受部は上外方へ伸び、端部は丸い。立ち上がりは内傾して伸び、端部は丸い。杯底部は欠損。 杯底部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰青色	3.0 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。 灰かぶり。
272	同上	口　径　11.6 立ち上がり高 1.6	杯底部から斜上方へ伸び、受部に至る。受部は水平に伸び、端部は鈍く尖る。立ち上がりは内傾して伸び、端部は鈍く尖る。杯底部は欠損。 杯底部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰色	2.0 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
273	同上	口　径　11.9 器　高　5.3 立ち上がり高 1.8	丸味のある杯底部から斜上方へ伸び、受部に至る。受部は外上方へ伸び、端部は丸い。立ち上がりは内傾して伸び、端部は内傾する面をもつ。杯底部は欠損。 杯底部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	青灰色	2.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	完形。 ロクロ左方向。
274	同上	口　径　12.0 立ち上がり高 1.4	杯底部から上外方へ伸び、受部に至る。受部は上外方へ伸び、端部は丸い。立ち上がりは内傾して伸び、端部は内傾する面をもつ。 杯底部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰色	細砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
275	同上	口　径　12.0 立ち上がり高 1.7	杯底部から上外方へ伸び、受部に至る。受部は水平に伸び、端部は丸い。立ち上がりは外反気味に直上へ伸び、端部は内傾する面をもつ。杯底部は欠損。 杯底部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰色	5.0 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。

遺物番号 図版番号	器　種	法量（cm）　口径 器高	形態・調整等の特徴	色　調	胎　土	焼　成	備　考
276	杯身 （須恵器）	口　径　14.0 立ち上がり高 1.8	丸い杯底部から外上方へ内湾気味に伸び、受部に至る。受部は水平に伸び、端部は鈍く尖る。立ち上がりは内傾して伸び、端部は内傾する面をもつ。杯底部は欠損。 杯底部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰色	2.0 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
277	同上	口　径　13.4 立ち上がり高 1.0	杯底部から上外方へ内湾気味に伸び、受部に至る。受部は上外方へ伸び、端部は丸い。立ち上がりは内傾して伸び、端部は鈍く尖る。杯底部は欠損。 杯底部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰色	3.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
278	同上	口　径　14.2	杯底部から斜上方へ伸び、受部に至る。受部は水平に伸び、端部は丸い。立ち上がりは内傾して伸び、端部はわずかに内傾する面をもつ。杯底部は欠損。 杯底部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰色	2.0 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
279	高杯 （須恵器）	口　径　10.6	やや平らに近い杯底部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は下方へ伸び、脚部下位は欠損する。脚部には４方にスカシがある。杯部外面に凸線２本が巡り、その間に波状文（４本）１条を施す。 内外面回転ナデ。	暗灰色	密	良好	ロクロ左方向。
280	同上	底　径　9.2	杯部は欠損。脚部は下外方へ外反して開き端部は上につまみ、外傾する面をもつ。脚部には３方に円形スカシがある。 内外面回転ナデ。	青灰色	3.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
281	同上	底　径　10.8	杯部は欠損。脚部は下外方へ外反気味に伸び、端部は下方へつまみ出す。脚部には４方に長方形のスカシがある。 内外面回転ナデ。	灰色	精良。	良好	ロクロ右方向。
282	同上	底　径　11.6	杯部は欠損。脚部は下外方へ伸び、端部は外方に肥厚する。 内外面回転ナデ。	外　灰色 内　白灰色	精良。	良好	ロクロ右方向。 自然釉。
283	同上	底　径　12.6	杯部は欠損。脚部は斜上方へ外反して伸び端部外面には凸線２条が巡り、端部は丸い。 内外面回転ナデ。	灰色	精良。	良好	ロクロ右方向。
284	壺 （須恵器）	口　径　11.8	口縁部は上外方へ伸びた後屈曲し、斜上方へ伸びる口縁端部に至る。端部は内傾する凹面をもつ。口縁部外面の中位に波状文（12本）１条を施す。体部は欠損。 内外面回転ナデ。	暗灰色	2.5 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。 自然釉。
285	同上	口　径　13.6	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は上外方へつまみ、外に面をもつ。体部は欠損。 口縁部外面ハケナデ後回転ナデ、内面回転ナデ。	淡灰色	3.0 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
286	同上	口　径　14.4	内上方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上方へ伸びる口縁部に至る。端部は上に面をもつ。底部は欠損。体部外面の上位には取手が付く。取手は欠損。 口縁部内外面回転ナデ、体部外面タタキ・回転ナデ、中位に回転カキ目、内面タタキ後ナデ。	灰青色	微砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。 自然釉。
287	同上	口　径　16.8	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は肥厚する。体部は欠損。 口縁部外面ハケナデ後回転ナデ、内面回転ナデ。	淡灰色	2.0 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
288	同上	口　径　19.4	口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部は上下に肥厚し、外に面をもつ。体部は欠損。 口縁部外面回転カキ目、内面回転ナデ。	青灰褐色	2.0 ㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。

遺物番号 図版番号	器　　種	法量　口径 (cm)　器高	形態・調整等の特徴	色　　調	胎　　土	焼　成	備　　考
289	壺 (須恵器)	口　径　19.2	体部から屈曲し、斜上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は上下に肥厚し、外に凸面をもつ。体部は欠損。 回転ナデ。	灰色	1.5 mm以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。 自然釉。
290	同上	口　径　20.2	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は上下に肥厚し、外に凸面をもつ。体部は欠損。 回転ナデ。	淡灰色	2.0 mm以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。 自然釉。
291	同上	口　径　19.6	口縁部は斜上方へ外反気味に伸び、端部は下方に肥厚し、外に凸面をもつ。外面に2条の凸線が巡り、その上下に波状文を施す。上は4本、下は6本で各一条。 回転ナデ。	淡灰色	微砂粒を少量含む。	良好	自然釉。
292	同上	口　径　26.0	口縁部は上外方へ伸び、端部は外方に丸く肥厚する。体部は欠損。 回転ナデ。	暗灰黒色	微砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。 自然釉。
293	椀 (瓦器)	口　径　14.0	口縁部は上外方へ内湾して伸び、端部は器壁を減じる。底部は欠損。 口縁端部内外面ヨコナデ、杯部ヘラミガキ。	暗灰色	精良。	良好	

第3章　まとめ

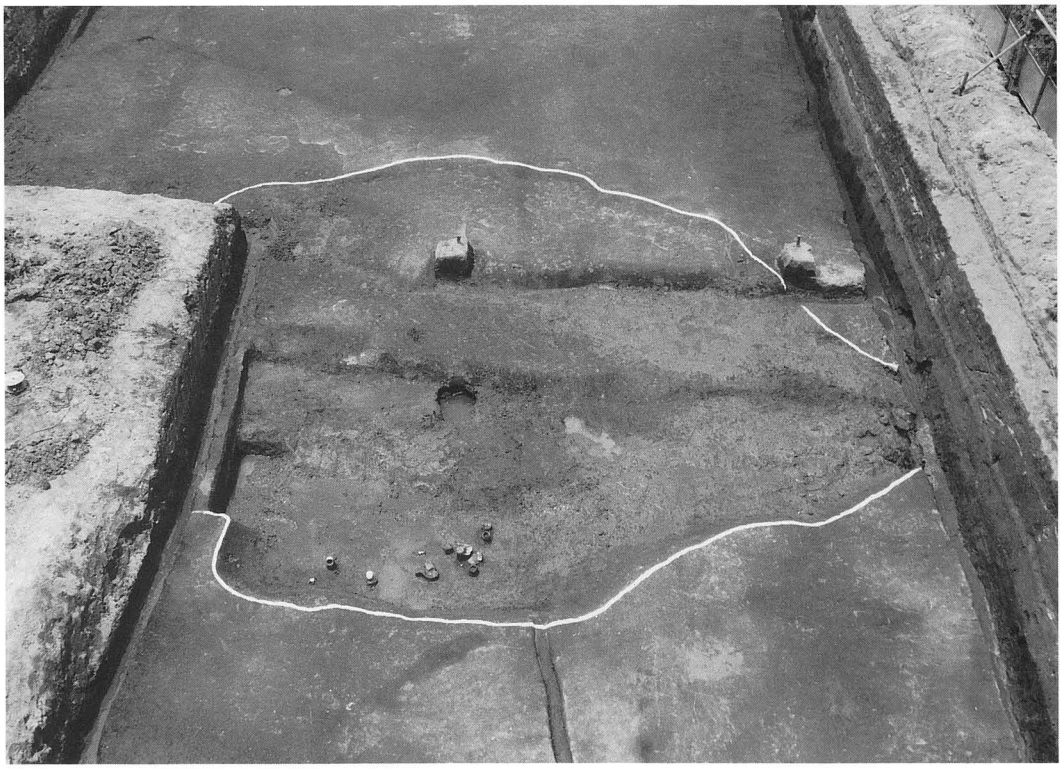
今回の調査は、恩智遺跡の北西部に位置し、既往調査である恩智川河川改修工事に伴う発掘調査の調査地（区割のＮＷ46～ＮＷ48地区）に近隣するが、この調査で検出した遺構と永続するものは検出しなかった。遺構面は標高8.2～8.4ｍを測る第11層上面で、古墳時代前期（布留式古相）と古墳時代中期の遺構が一部（東部）を除いては同一面で検出している。これは第10層（古墳時代前期の包含層）が第９層（古墳時代中期の包含層）に削平され、重複するような形で検出した。また北西隅で検出したＳＰ１には柱根が遺存しており、住居に伴うものと思われ、調査区の北西側に住居地域の存在が想定できよう。

今回の調査区で検出した古墳時代中期の遺構は、恩智遺跡内で実施されている既往調査では遺物の出土が若干みられるものの、遺構の検出例としてはなく、今回の調査がはじめてである。今後、周辺の調査が進に従い明らかにされるであろうと期待する。

さらに、第４層は中世の時期の氾濫で推積した細砂層であるが、この層内には弥生時代中期の遺物を中心としたものが多量に含まれていた。これらの遺物は、調査区南部にあたる既往調査では多量に出土しており、中世の時代の大きな氾濫により弥生時代中期の遺跡の一部が削平されたものであろう。

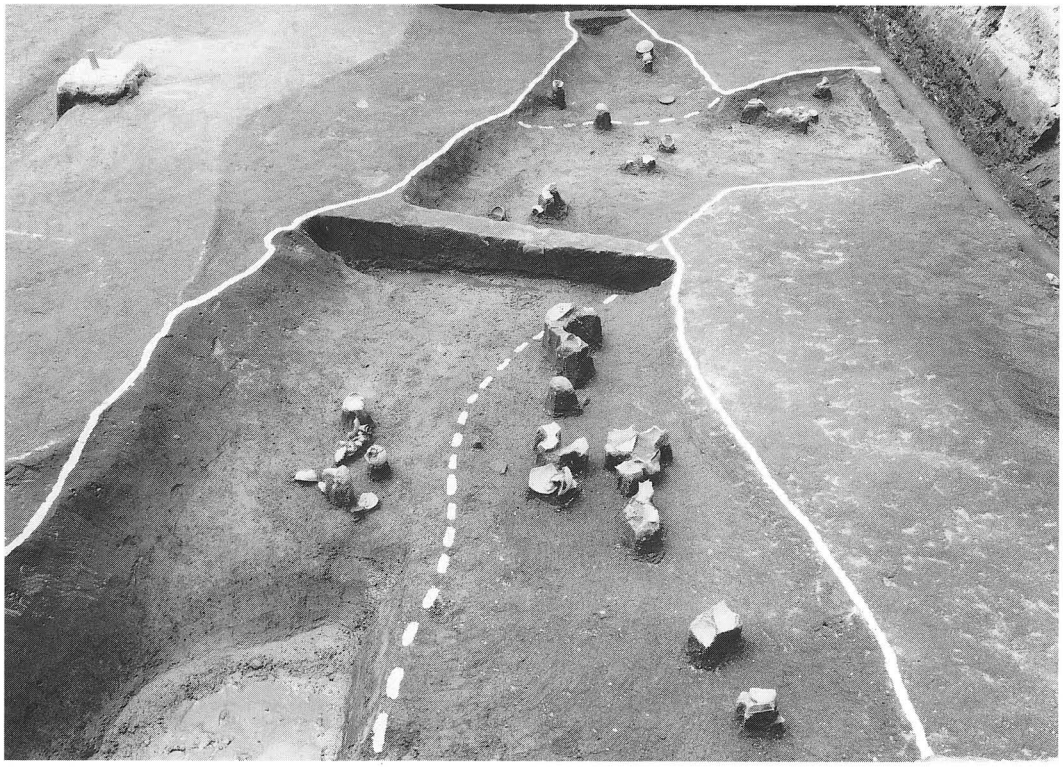
図　　版

調査区全景（東から）



SK1（東から）

SK1検出遺物



SD1・SD2（北から）

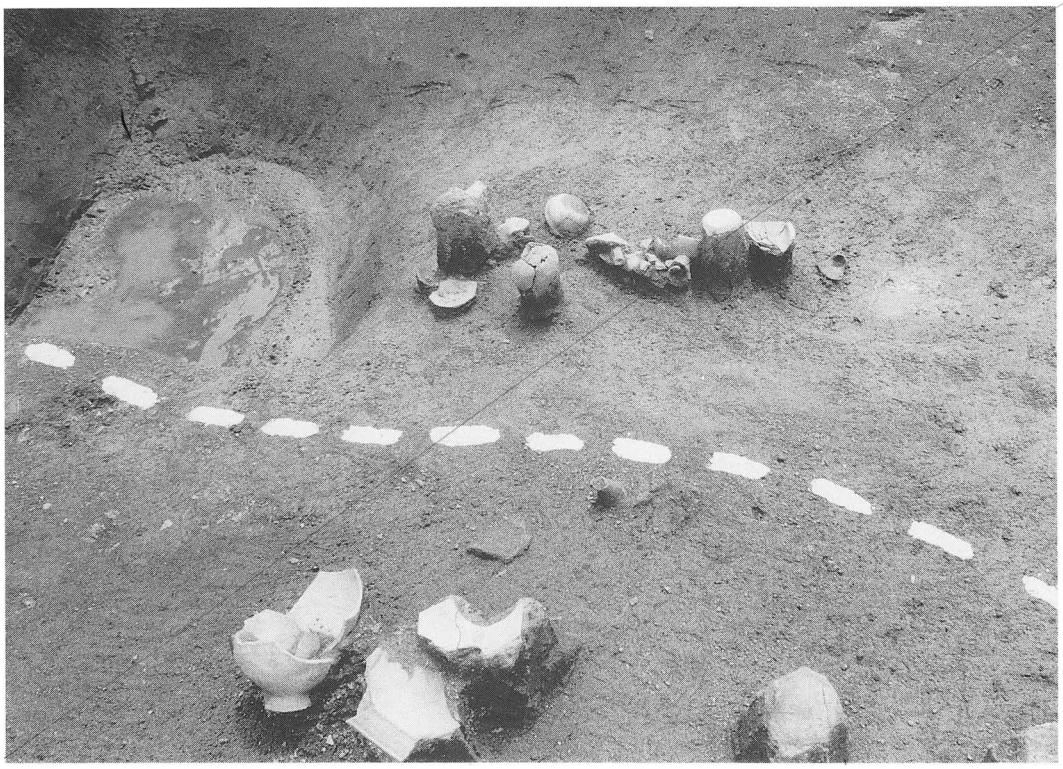
SD1（北東から）

SD1（東から）

図版四

SD1（西から）

SD2（東から）



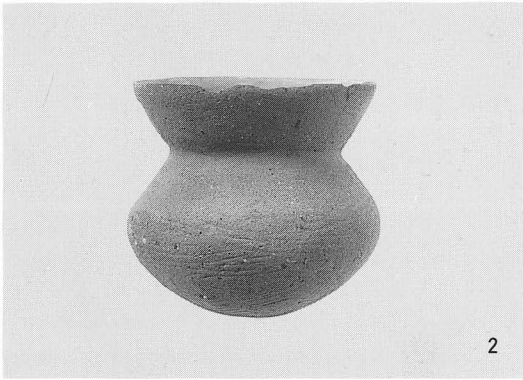
SD2（西から）

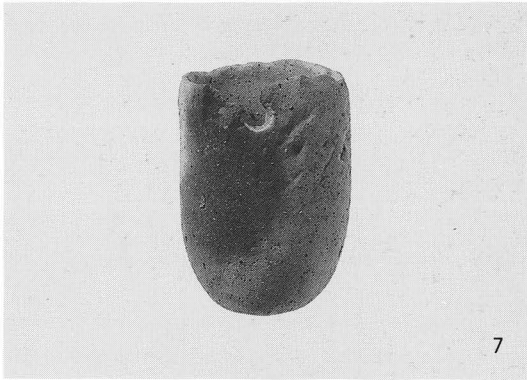
SD2（南より）

SD2（南から）

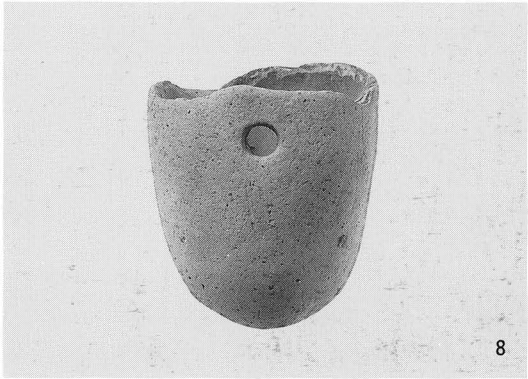
土器出土状況（東から）

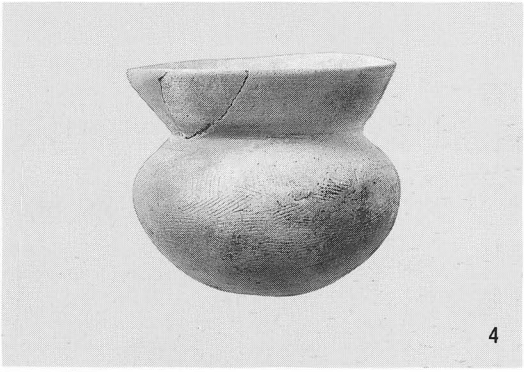
図版七　出土遺物

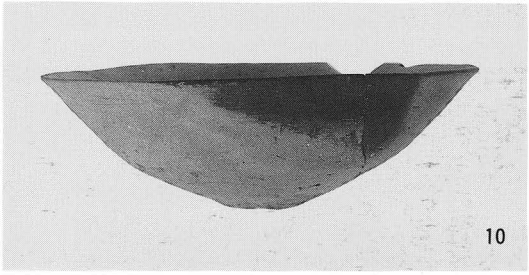

2

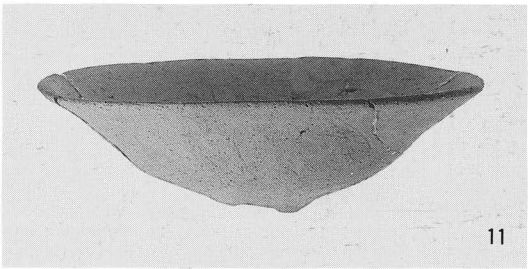

7

3

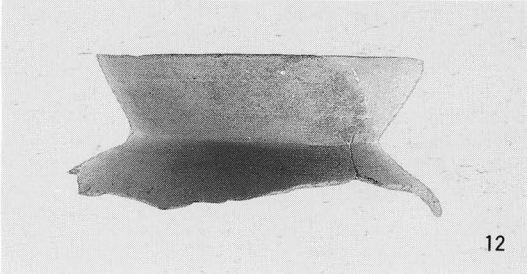

8


4


10

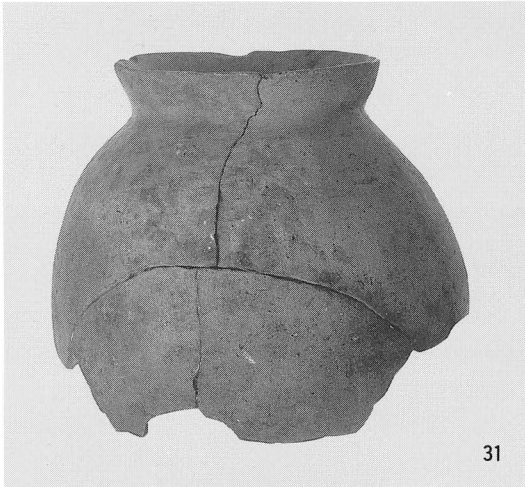

11

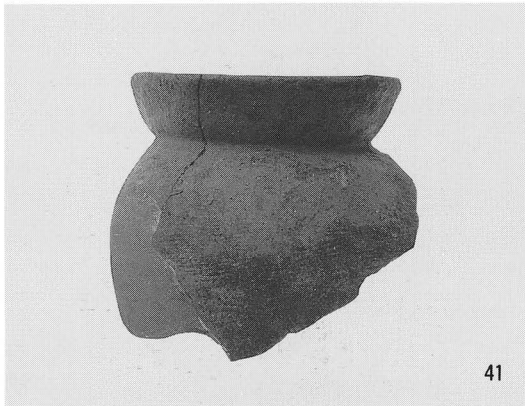
5

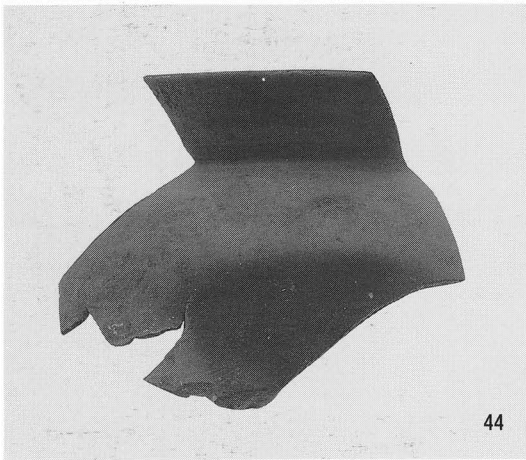

12

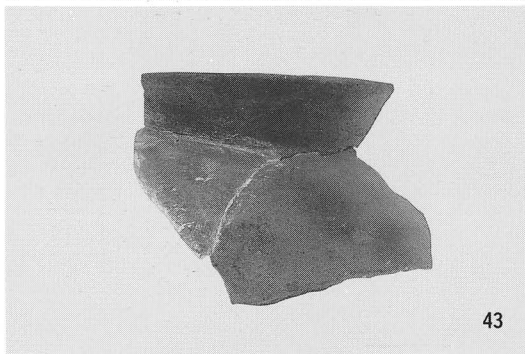
SK1

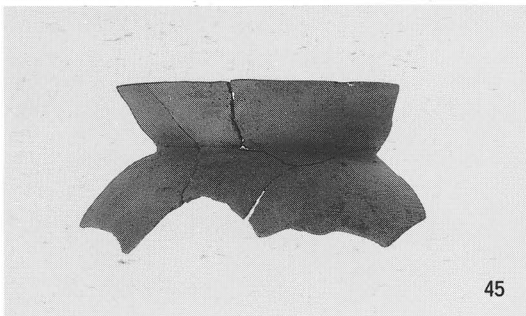
図版八　出土遺物

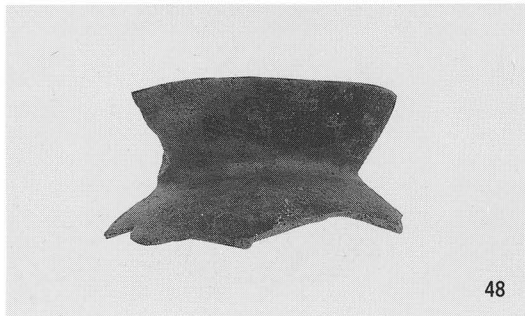






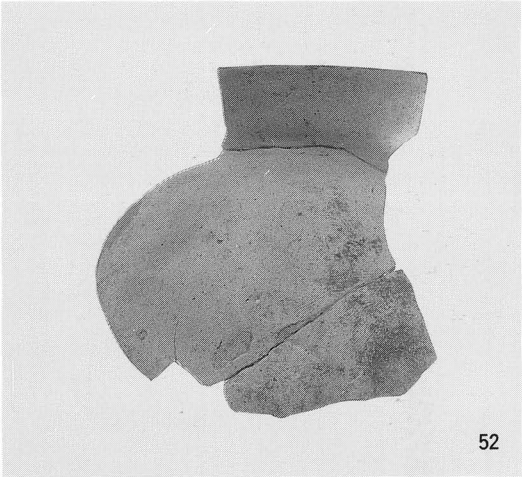


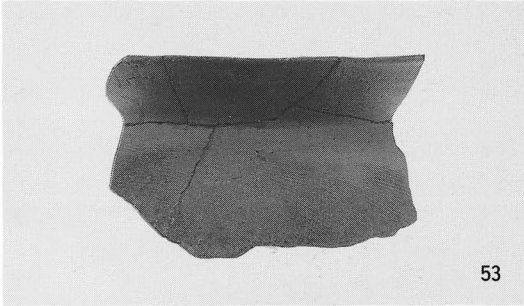




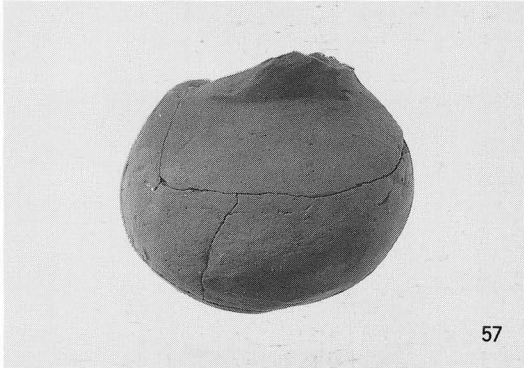
SD1

図版九　出土遺物


52

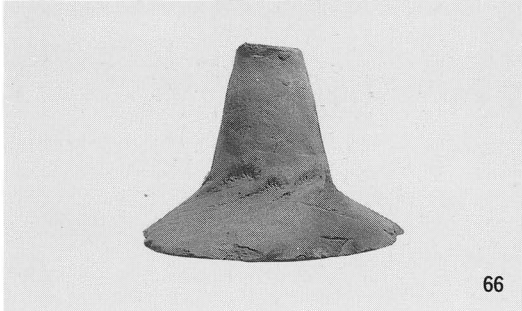

53

55


57

64

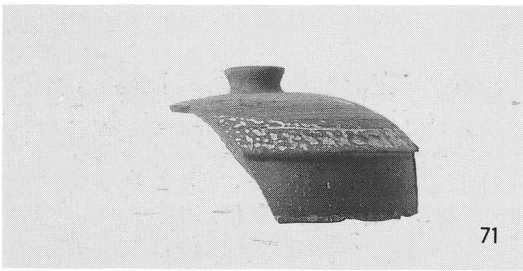
65


66

67

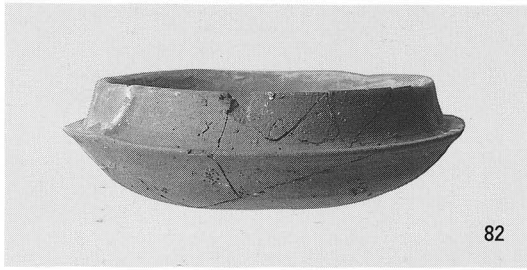
SD1　52・53・55
SD2　57・64～67

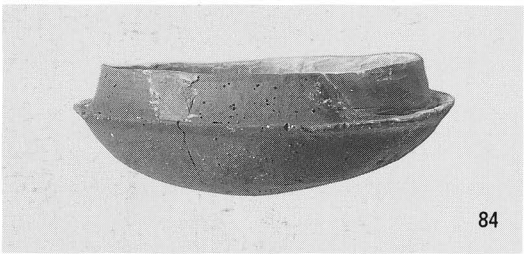
図版一〇　出土遺物


71

74

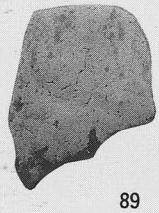
75


82

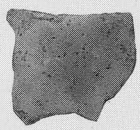

84

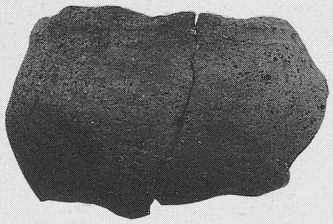
85

88

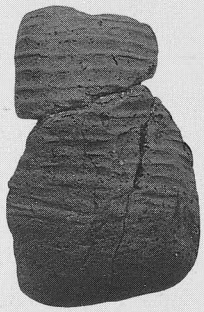

89

90

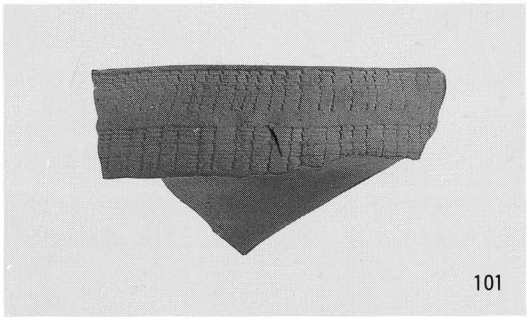

91

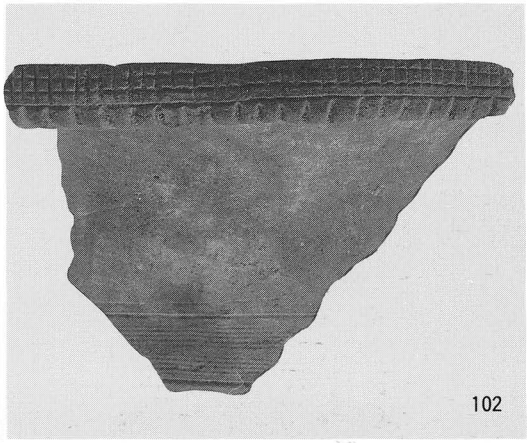

92

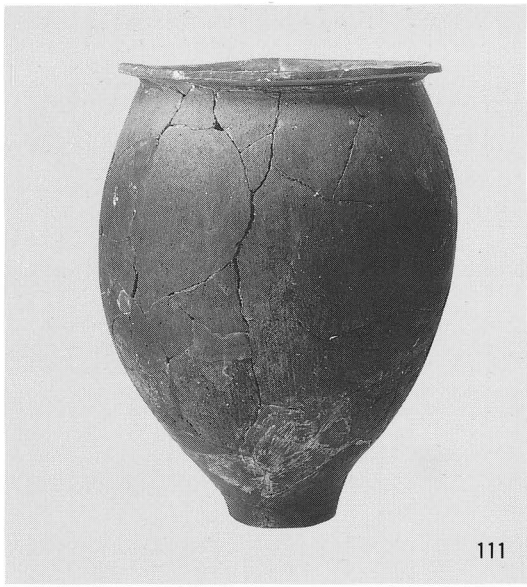
93

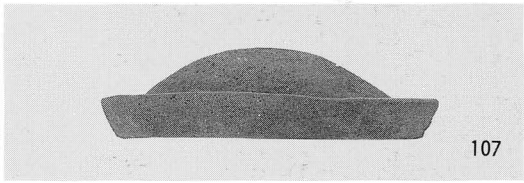

94

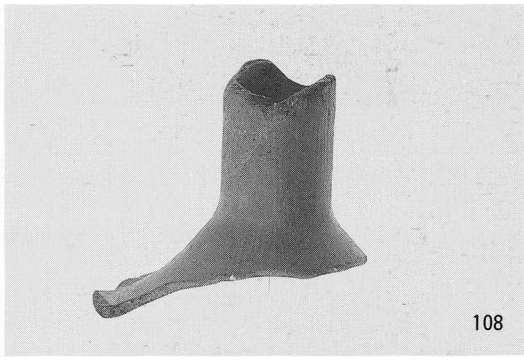
SD2

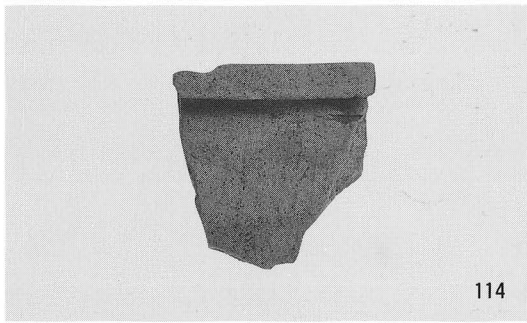


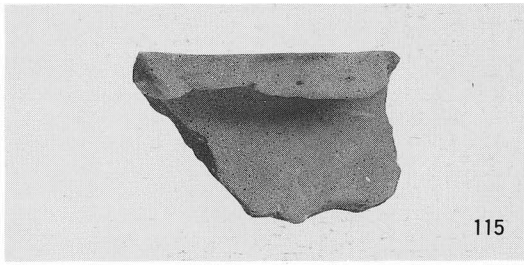


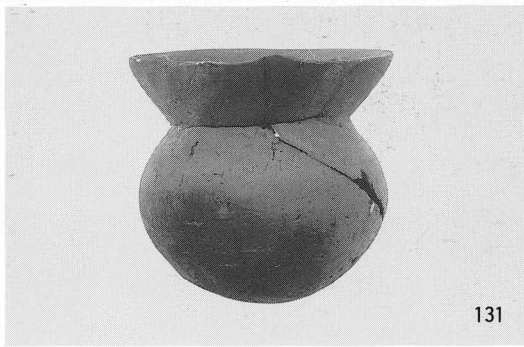




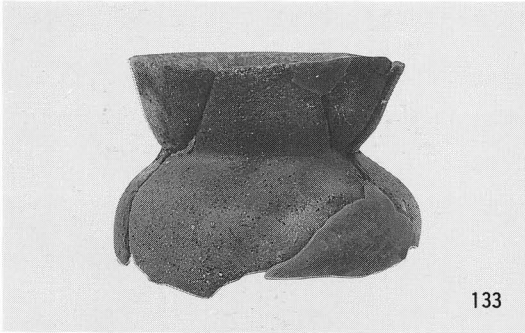


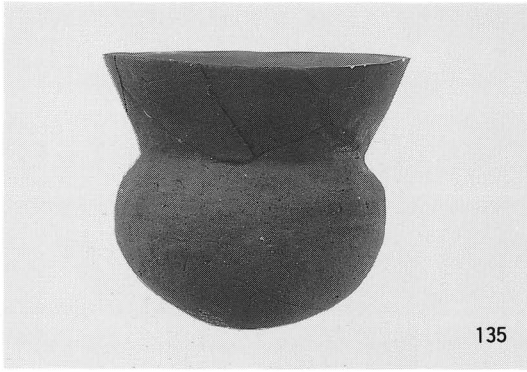


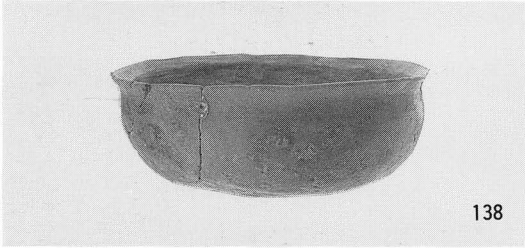


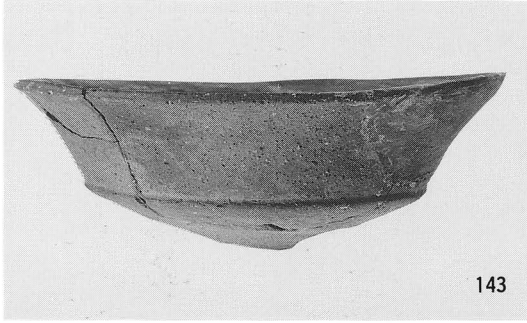


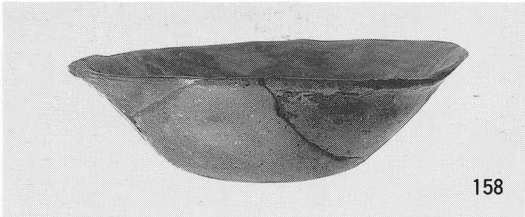
遺構に伴わない出土遺物

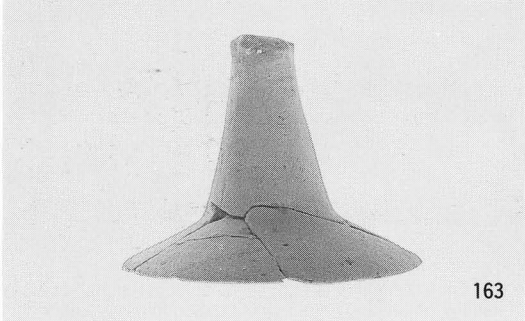


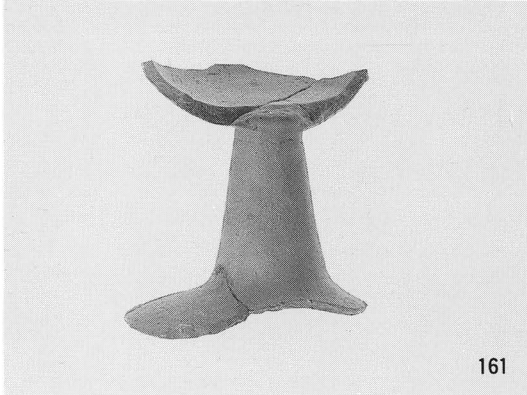




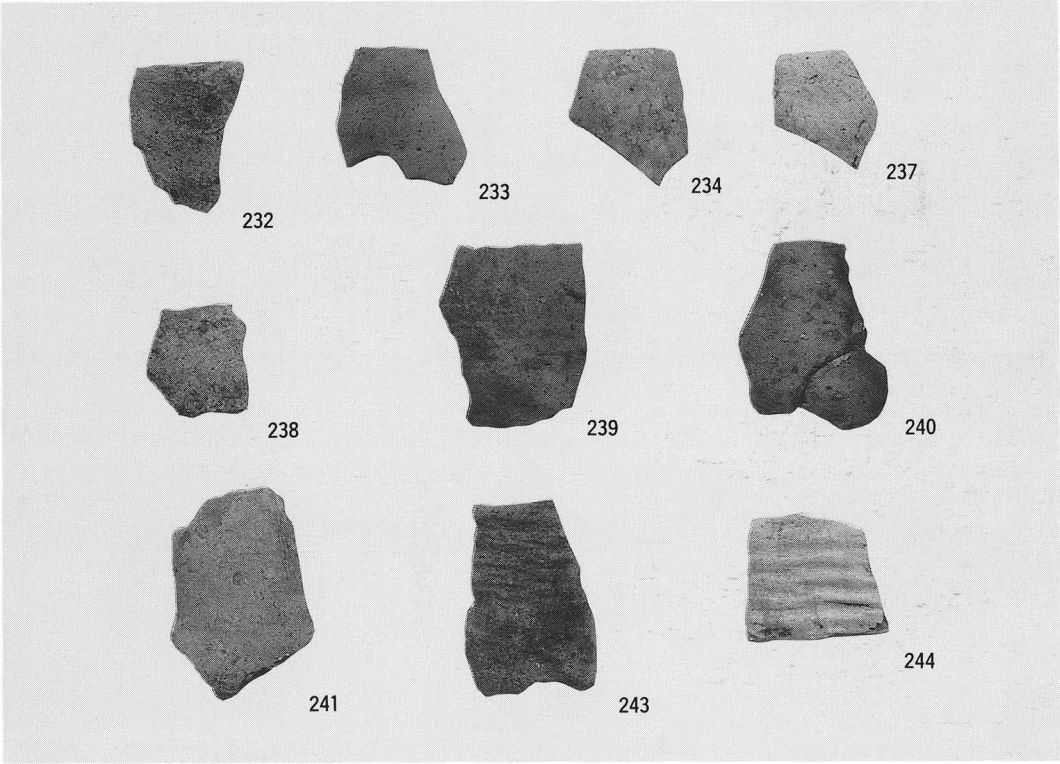


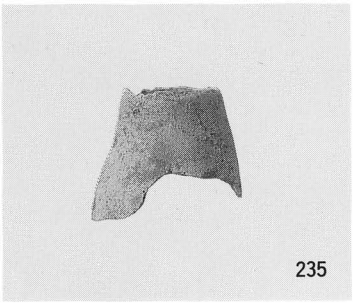


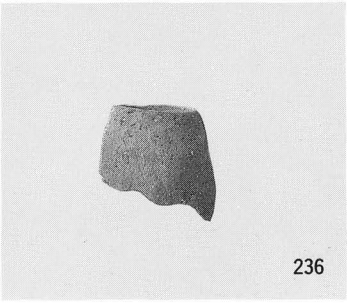


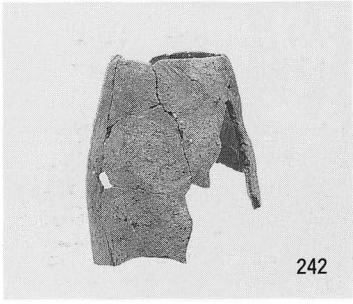


遺構に伴わない出土遺物



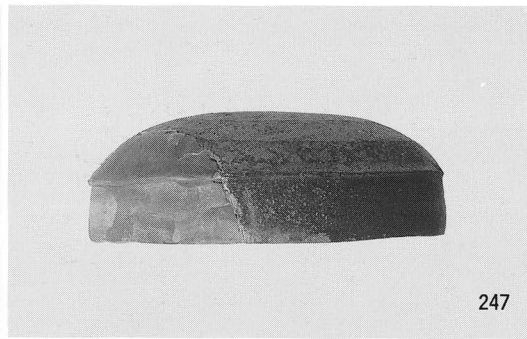


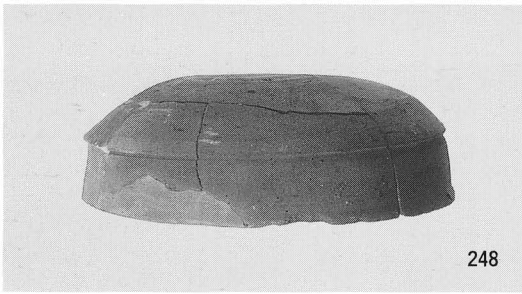


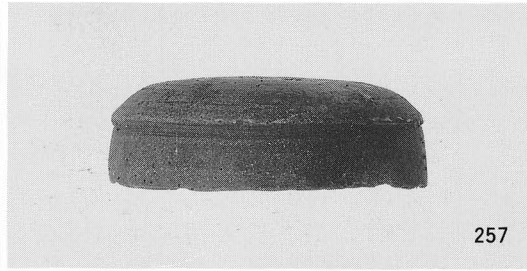


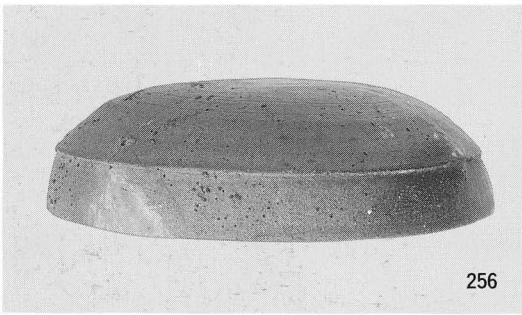
遺構に伴わない出土遺物

245


247


248


257

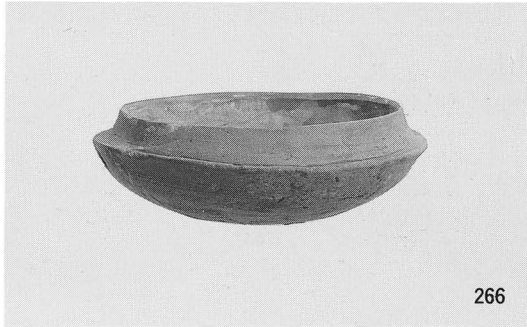

256

259

261

262

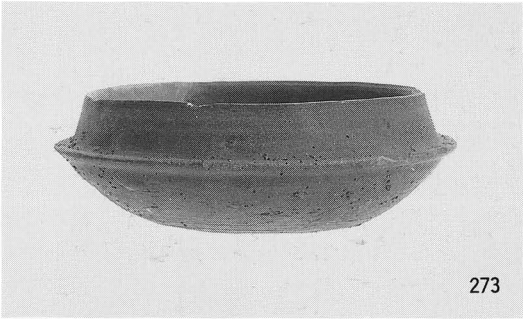
263

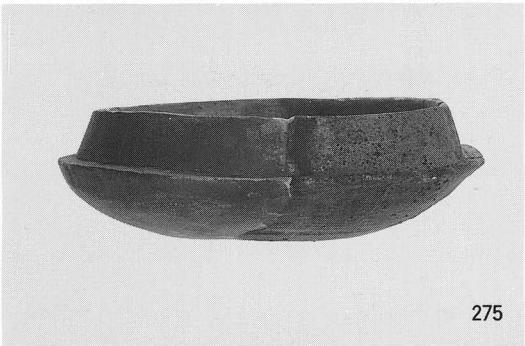

266

遺構に伴わない出土遺物

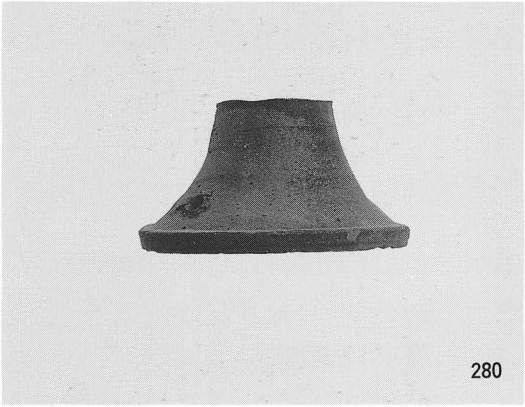
図版一五　出土遺物

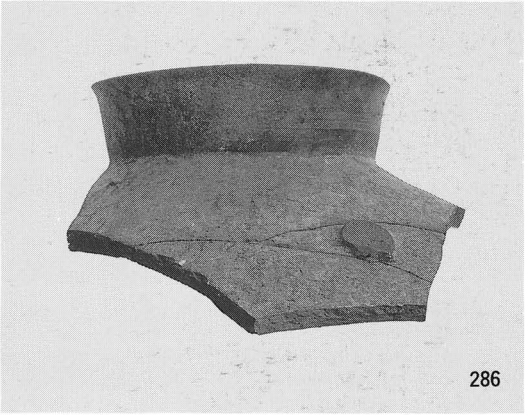
267

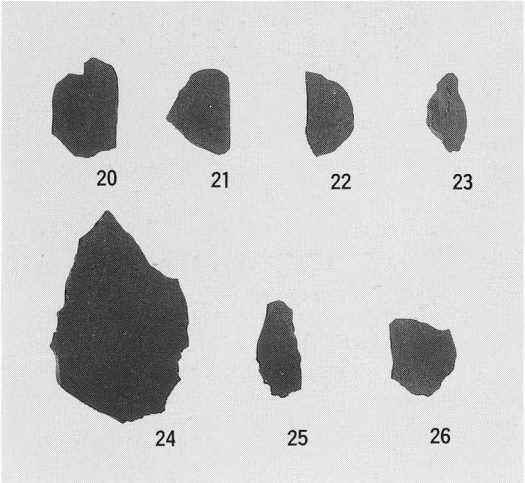

273


275

279


280

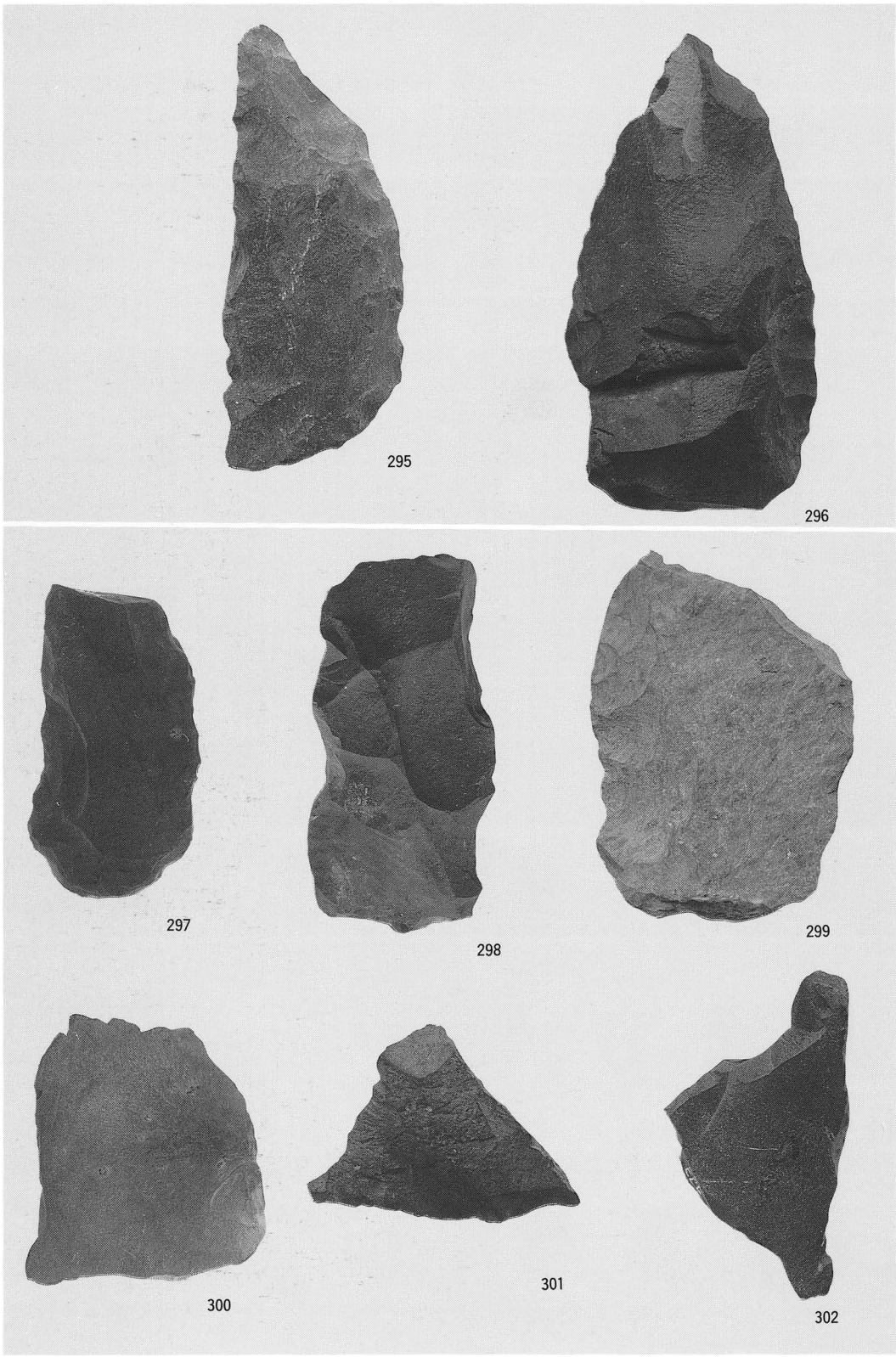

286



294

遺構に伴わない出土遺物

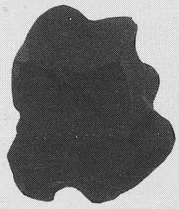
図版一六　出土遺物

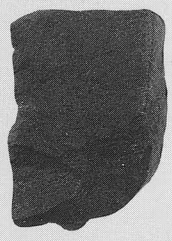


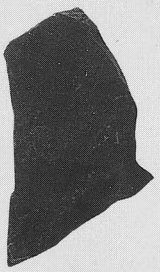
遺構に伴わない出土遺物

303

304


305

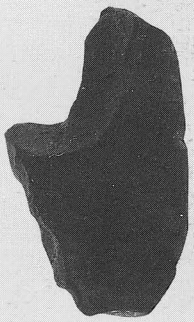

306

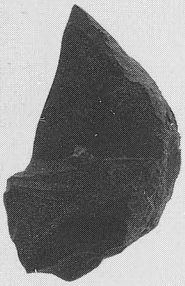

307

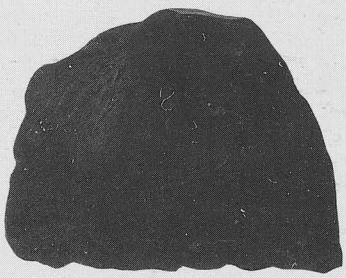
308

309

310

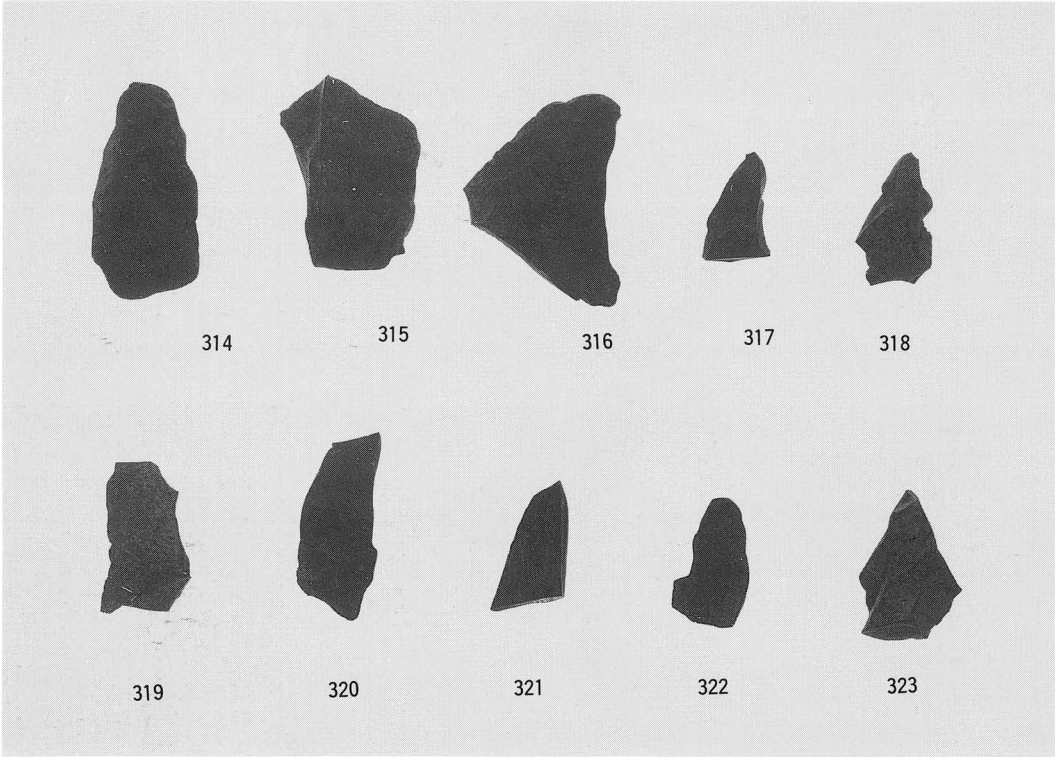

311

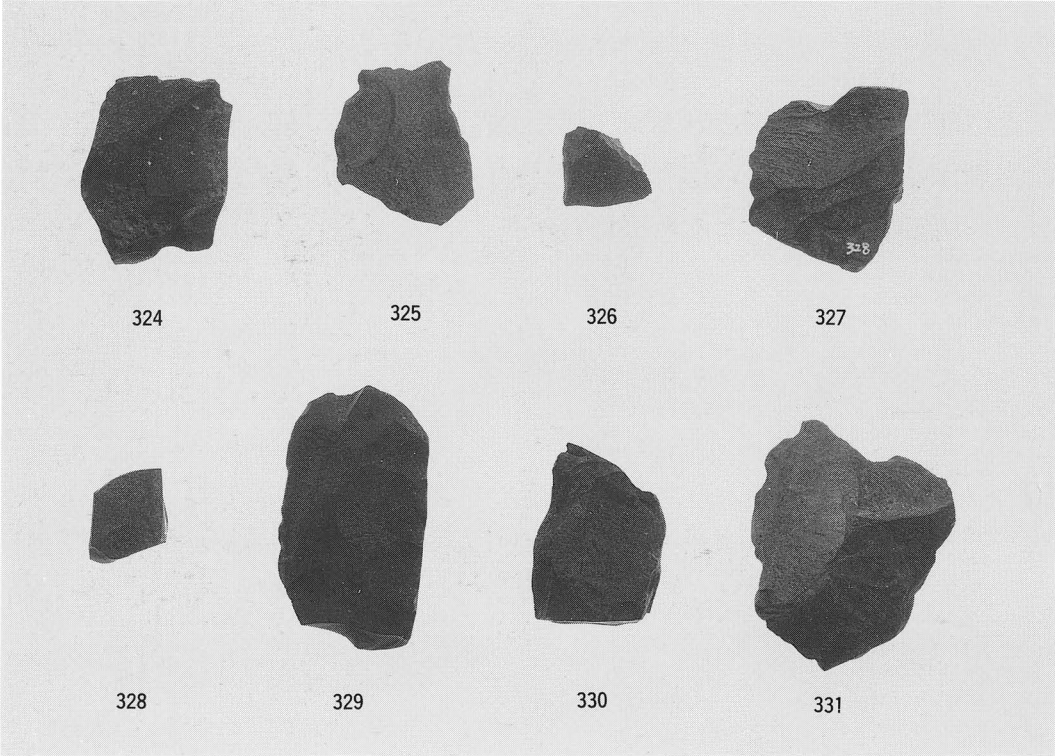

312


313

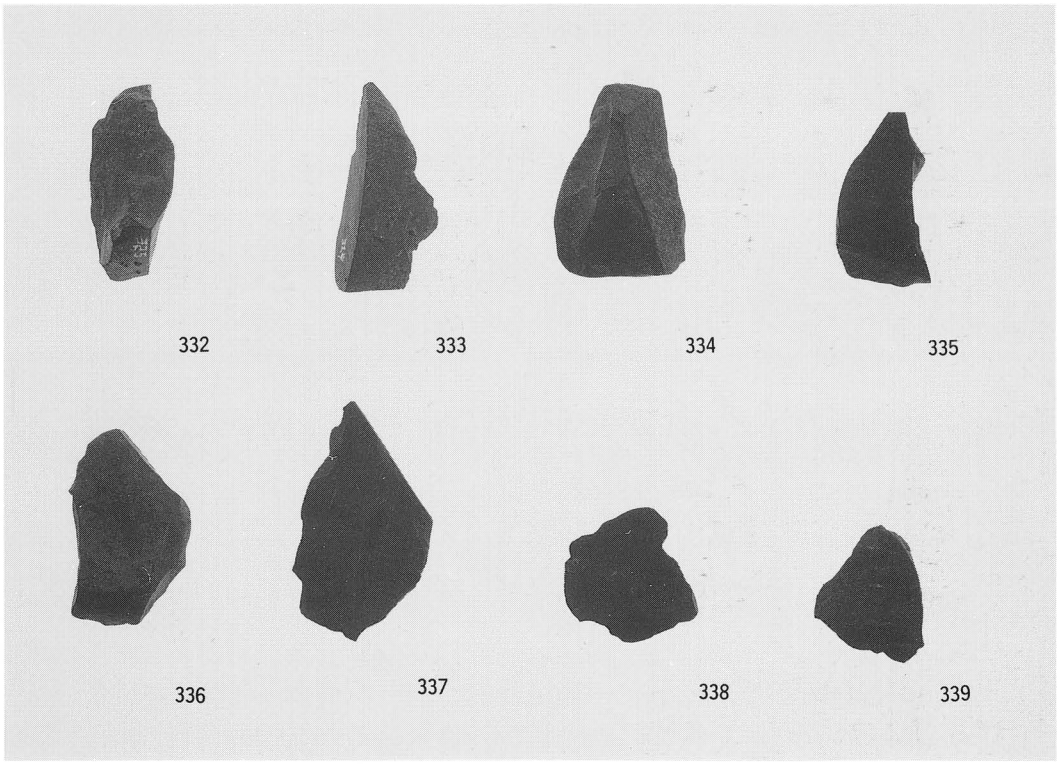
遺構に伴わない出土遺物

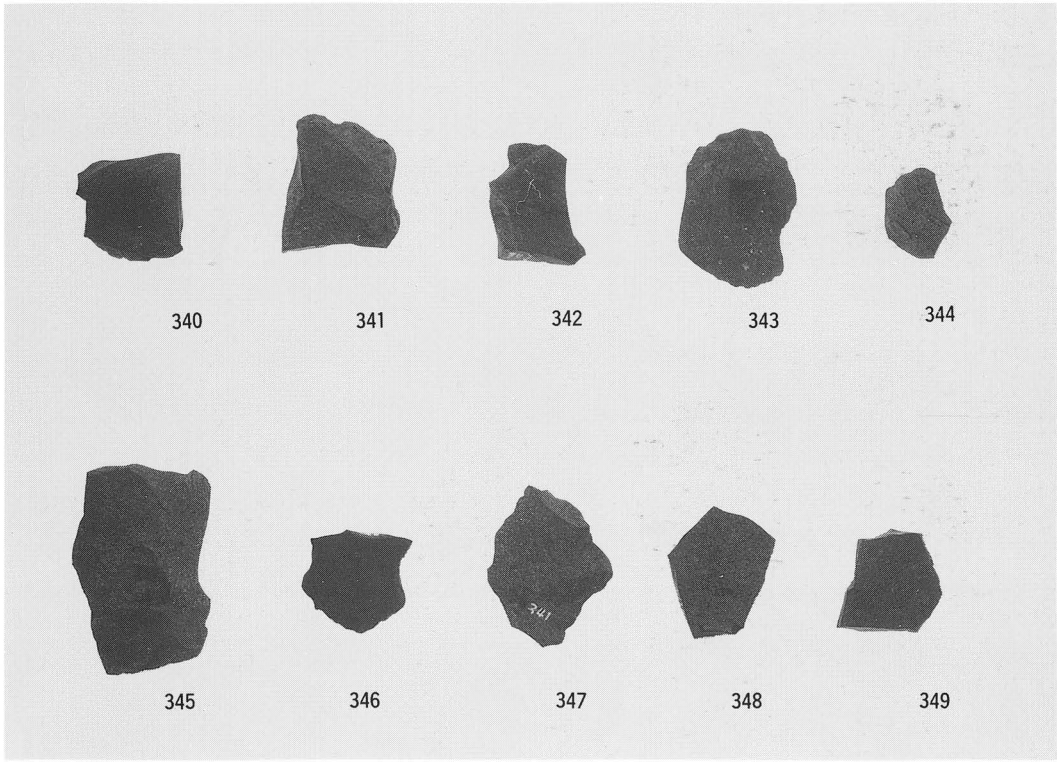
図版一八　出土遺物





遺構に伴わない出土遺物





遺構に伴わない出土遺物

(財)八尾市文化財調査研究会報告 23

Ⅰ 水越遺跡（第1次調査）
Ⅱ 竹渕遺跡（第1次調査）
Ⅲ 恩智遺跡（第1次調査）

発　行　平成元年9月

編　集　財団法人 八尾市文化財調査研究会
〒581 大阪府八尾市清水町1丁目2番1号
TEL (0729)94—4700

印　刷　近畿印刷センター
〒582 大阪府柏原市本郷5丁目6番25号
TEL (0729)72—5918

表　紙　レザック66　〈260 kg〉
本　文　書籍用紙　〈70 kg〉
図　版　マットアート　〈135 kg〉

033